

# **諸田遺跡・諸田南遺跡発掘調査報告書(遺構編)**

**中津市文化財調査報告 第88集**

**2018**

**中津市教育委員会**

## 例　　言

- 一、本書は中津市教育委員会が平成 16 年度、17 年度、18 年度、19 年度、20 年度、21 年度に実施した諸田遺跡、諸田南遺跡の発掘調査報告書である。
- 一、調査は県営農村振興総合整備事業にともなうもので、大分県北部振興局の依頼を受け実施した。
- 一、発掘調査は花崎徹、服部真和が担当した。
- 一、現場の遺構実測は平成 18 年度、花崎、服部、浦井直幸、黒川みゆき、掛布玲子が、平成 19 年度は花崎、服部、平田由美、高瀬真矢、水本章江、東真由美、塙谷ゆみ子、高橋ちあき、相良美佐、宮田ゆみ子、東みどり、東海アーナス株式会社が、平成 20 年度は花崎、服部、有限会社九州文化財リサーチが、平成 21 年度は花崎、服部、株式会社九州文化財総合研究所がおこなった。
- 一、現場の写真撮影は花崎、服部、長谷川雅美がおこなった。
- 一、空中写真撮影は九州航空株式会社がおこなった。
- 一、出土遺物の実測、トレース、写真撮影は平成 18 年度、女郎屋敷地区、二反田地区を雅企画有限会社が、平成 19 年度、戸入道地区を九州文化財リサーチが、古池地区を埋蔵文化財サポートシステム大分支店が、平成 20 年度、南方地区、寺野地区、平成 21 年度、池ノ上地区、市夜原地区を雅企画有限会社がおこなった。
- 一、本文中の堅穴住居 SH、掘立柱建物 SB、土坑 SK、溝 SD、柵列 SA、道 SF、墓 ST、ピット PIT、不明 SX で表記した。
- 一、遺構図の赤は被熱、焼土、青は炭化物、緑は白色粘土を表記した。
- 一、本書の執筆は第 1 章～2 章、4 章を花崎が 3 章をパリノサーベイがおこなった。
- 一、調査期間中、多くの方にご教授をいただいた。以下敬称略。奈良文化財研究所、山中敏文、別府大学教授、後藤宗俊、岡山理科大学教授、亀田修一、大分県教育庁文化課、村上久和、後藤一重、小柳和宏、田中裕介、大分市、坪根伸也、五十川雄也、長直信、財団法人北九州埋蔵文化財センター、佐藤浩司、記して感謝申し上げます。

## 調査体制

一、 調査団の構成は下記のとおりである。

### 一、 調査主体、中津市教育委員会

#### 平成 16 年度

調査責任者、	影木 莊一郎	中津市教育委員会 教育長
	尾畠 豊彦	中津市教育委員会 市民文化センター課 館長 ～平成 17 年 2 月 28 日
調査事務、	國分 重喜	中津市教育委員会 文化振興課長 平成 17 年 3 月 1 日～
	田中 布由彦	中津市教育委員会 市民文化センター課 文化財係長 ～平成 16 年 12 月 31 日
	保科 真	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係長 平成 17 年 1 月 1 日～
	富田 修司	中津市教育委員会 市民文化センター課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 市民文化センター課 文化財係

#### 平成 17 年度

調査責任者、	影木 莊一郎	中津市教育委員会 教育長
調査事務、	國分 重喜	中津市教育委員会 文化振興課長
	保科 真	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係長
	富田 修司	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係

#### 平成 18 年度

調査責任者、	影木 莊一郎	中津市教育委員会 教育長 平成 18 年 4 月 1 日～
	北山 一彦	中津市教育委員会 教育長 平成 18 年
調査事務、	國分 重喜	中津市教育委員会 文化振興課長
	保科 真	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係長
	富田 修司	中津市教育委員会 文化振興課
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係
	浦井 直幸	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係
	服部 真和	中津市教育委員会 文化振興課 嘴託

平成 19 年度

調査責任者、	北山 一彦	中津市教育委員会	教育長
調査事務、	國分 重喜	中津市教育委員会	文化振興課長
	保科 真	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係長
	富田 修司	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
	服部 真和	中津市教育委員会	文化振興課 嘴託

平成 20 年度

調査責任者、	北山 一彦	中津市教育委員会	教育長
調査事務、	荒川 節幸	中津市教育委員会	文化振興課長
	保科 真	中津市教育委員会	文化振興課 文化財参事
	平田 由美	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
	服部 真和	中津市教育委員会	文化振興課 嘴託

平成 21 年度

調査責任者、	北山 一彦	中津市教育委員会	教育長
調査事務、	荒川 節幸	中津市教育委員会	文化振興課長
	酒井 英二	中津市教育委員会	文化振興課 文化財参事
	平田 由美	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
	服部 真和	中津市教育委員会	文化振興課 嘴託

平成 22 年度

調査責任者、	北山 一彦	中津市教育委員会	教育長
調査事務、	尾家 勝彦	中津市教育委員会	文化振興課長
	田中布由彦	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係長
	平田 由美	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
	岸田 裕一	中津市教育委員会	文化振興課 嘴託

平成 23 年度

調査責任者、	北山 一彦	中津市教育委員会	教育長
調査事務、	藤原 義郎	中津市教育委員会	文化振興課長
	平田 由美	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会	文化振興課 文化財係

平成 24 年度

調査責任者、	廣 煙 功	中津市教育委員会 教育長
	藤原 義郎	中津市教育委員会 文化振興課長
	平田 由美	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 文化振興課 文化財係

平成 25 年度

調査責任者、	廣 煙 功	中津市教育委員会 教育長
	川西 州作	中津市教育委員会 文化財課長
	平田 由美	中津市教育委員会 文化財課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 文化財課 文化財係

平成 26 年度

調査責任者、	廣 煙 功	中津市教育委員会 教育長
	今津 時夫	中津市教育委員会 文化財課長
	河野さくら	中津市教育委員会 文化財課 文化財係
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 文化財課 文化財係

平成 27 年度

調査責任者、	廣 煙 功	中津市教育委員会 教育長
	平原 潤	中津市教育委員会 文化財課長
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 文化財課 文化財係

平成 28 年度

調査責任者、	廣 煙 功	中津市教育委員会 教育長
	高崎 章子	中津市教育委員会 文化財室長
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 文化財室 文化財主幹

平成 29 年度

調査責任者、	廣 煙 功	中津市教育委員会 教育長
	高崎 章子	中津市教育委員会 文化財室長
調査担当、	花崎 徹	中津市教育委員会 文化財室 文化財主幹

発掘作業、整理作業は下記のみなさんの協力による。(順不同)

今永キク子、植山京子、植山ヨシカ、植山加奈江、江口義興、大塚昇一、岡田由美恵、小畠京子、掛布玲子、片桐千鶴、辛島雅美、黒川洋美、黒川みゆき、角美枝子、寺本紀一、寺本利子、徳水賀子、長岡早苗、中西哲夫、橋山美智子、西尾ミエ子、西本幸子、新田秀勝、橋田初美、橋内ヒロコ、福永美佐子、藤井道子、松下純子、松本勲、松本貞子、宮久君子、若木和美、渡辺和雄、巣野典子、中野重支、広津トシ子、山懸信夫、田原文子、石塔美代子、中村香代子、瀬口礼子、阿部恵子、川口政代、森山勝城、渡邊啓次、中川英喜、中野シゲノ、前田千恵子、上永紀代子、清城玉美、神一子、羽立加代、羽立由利子、羽立国廣、岩本慶子、田城芳美、岸原一巳、松吉修一、高瀬真矢、水本章江、東真由美、塙谷ゆみ子、高橋ちあき、相良美佐、宮田ゆみ子、東みどり、宮田喜澄、井上一行、田島律子、西村威、田辺さつき、小池淳司、田中政恵、岩崎弘子、土橋厚子、佐藤幸美、乙咩里美、高野ツギ子、小野のり子、門脇和恵、武吉久美子、小野知恵、金丸孝子、浅田くるみ、栗田真弥、吉上かおり

第1章 地理的歴史的環境	1
第2章 調査の概要と遺構図	3
第3章 自然科学分析	193
第4章 小結	206



# 第1章 地理と歴史的環境

## 地理的環境

中津市は大分県の北東部に位置する。平成17年3月に1市3町1村の合併で、人口約8万5千人、市域面積490km<sup>2</sup>を有し、8割弱が山林である。北は周防灘に面し、南は日田市、東は宇佐市、西は山国川を挟み福岡県上毛町に接する。市内では近年、大手自動車会社工場進出にともない急激に開発が進んでいる。諸田遺跡や諸田南遺跡内でも中津日田高規格道路が建設され景観は著しく変化している。諸田遺跡、諸田南遺跡は中津市の北東部、標高約12.5mの丘陵上に位置する。丘陵は豊前海に向かって舌状に延び、東西に谷状の地形が入り込む。谷状地形の南先端部には溜池が形成される。諸田地区の水田は1693年に小笠原によって完成された荒瀬井路により急激に開墾が進んだものと推測される。しかし水路は完全に通水してなく、現在でも田越しに水を入れ水田を営む光景がみられる。

## 歴史的環境

旧石器時代の遺跡は断片的で多くを語る資料はない。才木遺跡、諸田南遺跡、大坪遺跡などで数点出土している。

縄文時代の遺跡は諸田遺跡、棒垣遺跡、入垣貝塚、横野貝塚などが挙げられる。棒垣遺跡は大分県指定の史跡で縄文後期の集落跡が確認されている。入垣貝塚とセットとしてとらえられる。諸田遺跡では陥穴が直線で等間隔に並び検出された。黒水遺跡で同様の例があり計画的な狩猟が推測される。また近年山国町で土偶が出土し注目された。

弥生時代の遺跡は福島遺跡、上ノ原平原遺跡、上万田遺跡などが挙げられる。上ノ原平原遺跡では前期末の貯蔵穴群が調査される。福島遺跡では中期の住居跡や土壙墓が確認されており大規模な集落の展開が期待される。上万田遺跡では終末のカメ棺が出土している。古墳時代の遺跡は亀山古墳、上ノ原横穴墓、野依伊藤田窯跡群、諸田遺跡、定留遺跡などが挙げられる。亀山古墳は昭和39年国道建設の際、未調査で破壊され残る資料はない。野依伊藤田窯跡群は6世紀～9世紀まで須恵器や須恵質瓦を生産した窯跡で近年中津日田道路建設にともなう調査でも3基確認されている。諸田遺跡、定留遺跡では古墳時代後期の集落跡が調査されている。諸田南遺跡ではL字形カマドを有する住居跡が調査された。

古代の遺跡は沖代地区条里跡、長者屋敷遺跡、相原庵寺、諸田南遺跡などが挙げられる。沖代地区条里跡は現在も水田が営まれているが、近年その景観は変わりつつある。長者屋敷遺跡は下毛郡の正倉と推定され大型の礎石建物などが調査される。相原庵寺は百濟系の瓦や塔心礎、礎石が確認されている。諸田南遺跡では掘立柱建物群が調査され、円面鏡や製塙土器など多くの遺物が検出された。

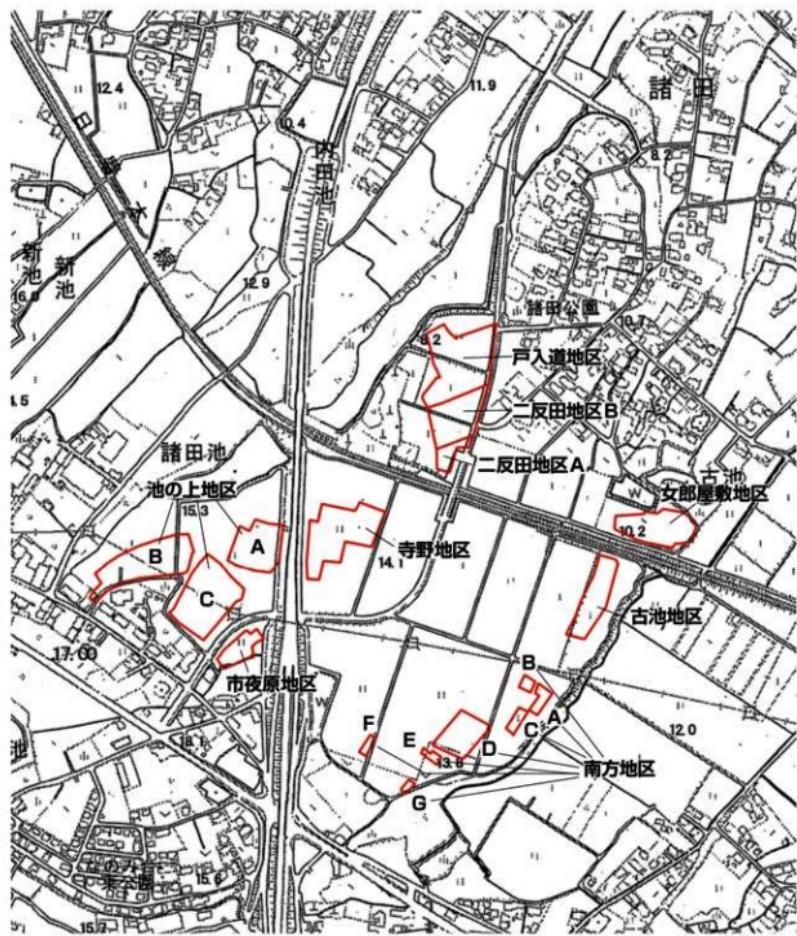


- |              |              |             |             |              |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 中津城       | 13. 上ノ原平原遺跡  | 25. 福島遺跡    | 37. 草場窯跡    | 49. 和間貝塚     |
| 2. 中津城下町遺跡   | 14. 大池南遺跡    | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ越窯跡   | 50. 定留鬼塚遺跡   |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保烟遺跡  | 27. 前田遺跡    | 39. ホヤ池窯跡   | 51. 是能遺跡     |
| 4. 沖代地区条里跡   | 16. 佐知遺跡     | 28. 森山遺跡    | 40. 大谷窯跡    | 52. 田尻大追遺跡   |
| 5. 市場遺跡      | 17. 加来居屋敷遺跡  | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡    | 53. 舞手橋東段上遺跡 |
| 6. 相原庵寺      | 18. 黒水遺跡     | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 是則遺跡     |
| 7. 相原山首遺跡    | 19. 法垣遺跡     | 31. 洞ノ上窯跡   | 43. 上烟成遺跡   | 55. 全徳遺跡     |
| 8. 鶴市神社裏山古墳  | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡    | 44. 諸田南遺跡   | 56. ガラヌノ遺跡   |
| 9. 坂手隈城跡     | 21. ボウガキ遺跡   | 33. 城山横穴墓群  | 45. 諸田遺跡    | 57. 合馬遺跡     |
| 10. 幡旗郵古墳群   | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群   | 46. 天貝川遺跡   | 58. 亀山古墳     |
| 11. 上ノ原横穴墓群  | 23. 原遺跡      | 35. 才木遺跡    | 47. 定留遺跡    | 59. 東浜遺跡     |
| 12. 効助野地遺跡   | 24. 田丸城跡     | 36. 城山窯跡群   | 48. 定留貝塚    | 60. 三口遺跡     |

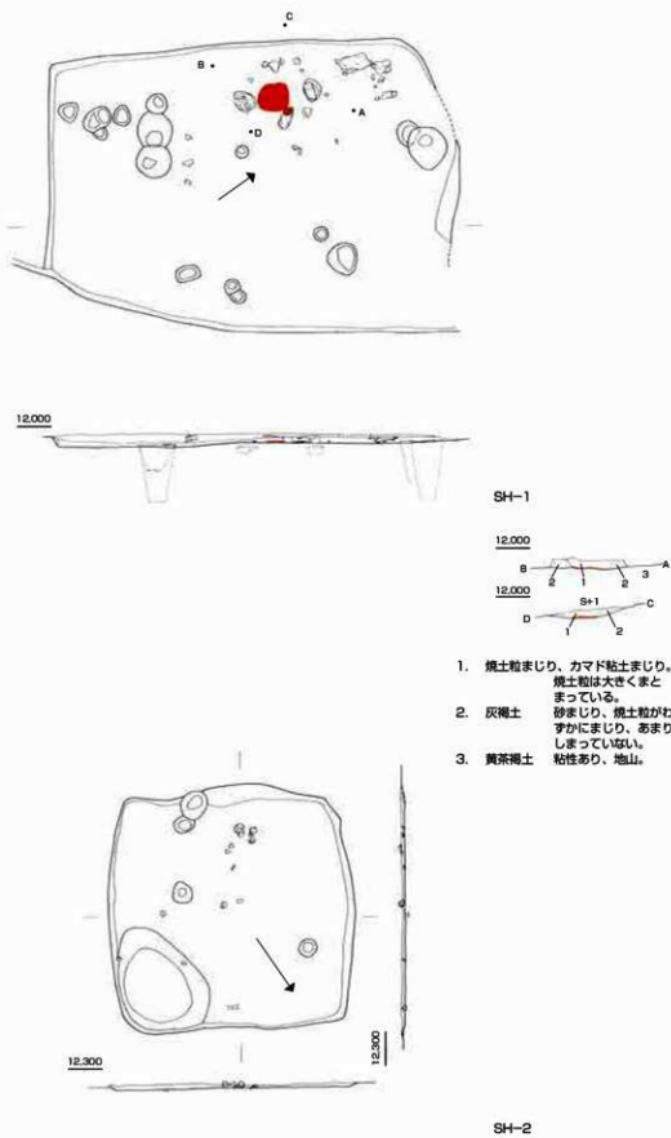
第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S = 1/50,000)

## 第2章 調査の概要と遺構図

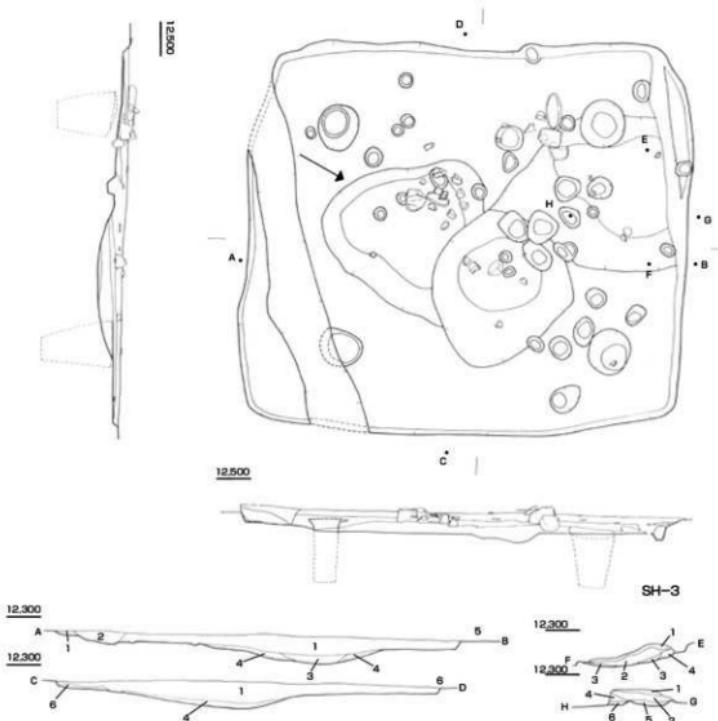
平成 15 年度、大分県中津下毛振興局から中津市教育委員会に中津市諸田において県営圃場整備の照会がなされた。対象面積が 30ha と広大なため工事を複数年に予定し、確認調査を工事の対象年度ごとに分けておこなった。平成 16 年度は周知遺跡外である中津市諸田 57 番地他の試掘調査を実施した。字名から後田地区と命名した。調査地は標高約 7m、東西に標高約 15m の丘陵が豊前海に延び、調査地は谷状の地形にあたる。丘陵上は周知遺跡の定留遺跡、諸田遺跡が立地する。調査前は遺物の流れ込みや水場遺構の検出が期待されたが、成果は得られなかつた。平成 17 年度は 16 年度調査区の東に位置する標高約 15m の丘陵上で確認調査をおこなつた。丘陵は豊前海に舌状に延び、東西に谷状地形が入り込む。丘陵の落ち際で古墳時代の集落が確認された。振興局と協議し、工事において切土される地点を本調査の対象とし、平成 18 年 4 月 1 日～10 月 31 日に女郎屋敷地区、調査面積 6,000 m<sup>2</sup>、平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日に二反田地区、調査面積 6,000 m<sup>2</sup> の本調査を実施した。また隣接する諸田南遺跡の東側の確認調査、面積 8 ha を実施した。女郎屋敷地区では古墳時代後期の集落跡が調査された。また、夏休みを利用した小学生対象の発掘体験を開催し、堅穴住居の発掘をおこなつた。二反田地区でも古墳時代後期の集落跡が調査された。このうち 1 基の堅穴住居から 55 個の鉗壺がほぼ完形の状態で出土し話題となつた。諸田南遺跡の東側の確認調査では古墳時代の集落跡や古代の掘立柱建物群が確認された。振興局と協議を行い本調査の実施が決定した。平成 19 年 4 月 1 日～10 月 31 日に戸入道地区の本調査、面積 7,060 m<sup>2</sup>、平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日に諸田南遺跡の古池地区、面積 5,460 m<sup>2</sup> の本調査を実施した。戸入道地区では古墳時代後期の集落跡や、縄文時代後期の陥穴、中世の道状遺構などが調査された。市内の和田小学校の見学会を実施した。古池地区では古代の掘立柱建物群が検出され、円面鏡、製塙土器なども出土し現地説明会を開催した。平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日に諸田南遺跡の南方地区、面積 9,500 m<sup>2</sup>、平成 20 年 1 月 23 日～3 月 31 日に寺野地区、面積 4,000 m<sup>2</sup> の本調査、平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 1 月 28 日に諸田南遺跡の西側 8 ha の確認調査を実施した。南方地区では古墳時代後期の集落跡が調査され、堅穴住居に造り付けられたオンドル状遺構（L 字形カマド）が大分県内で初めて確認された。夏休みを利用した発掘体験を実施し、堅穴住居の発掘と勾玉作りをおこなつた。諸田南遺跡の西側の確認調査では古墳時代の集落が確認され、振興局と協議し本調査の実施が決定した。寺野地区でも古墳時代の集落跡が調査された。平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日まで寺野地区の本調査が実施され、古墳時代後期の集落跡や、縄文時代の陥穴などが調査された。平成 21 年 7 月～平成 22 年 3 月 31 日まで池の上地区、市夜原地区的本調査が実施され、古墳時代の集落、中世の集落などが調査された。調査面積 16,500 m<sup>2</sup>。平成 22 年度から遺物整理、図面整理、遺物実測委託を実施した。平成 25 年度に図版編、平成 27 年度に遺物編、平成 29 年度に遺構編を刊行した。



第2図 諸田遺跡・諸田南遺跡調査区図



第1図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-1,2 (S = 1/60)

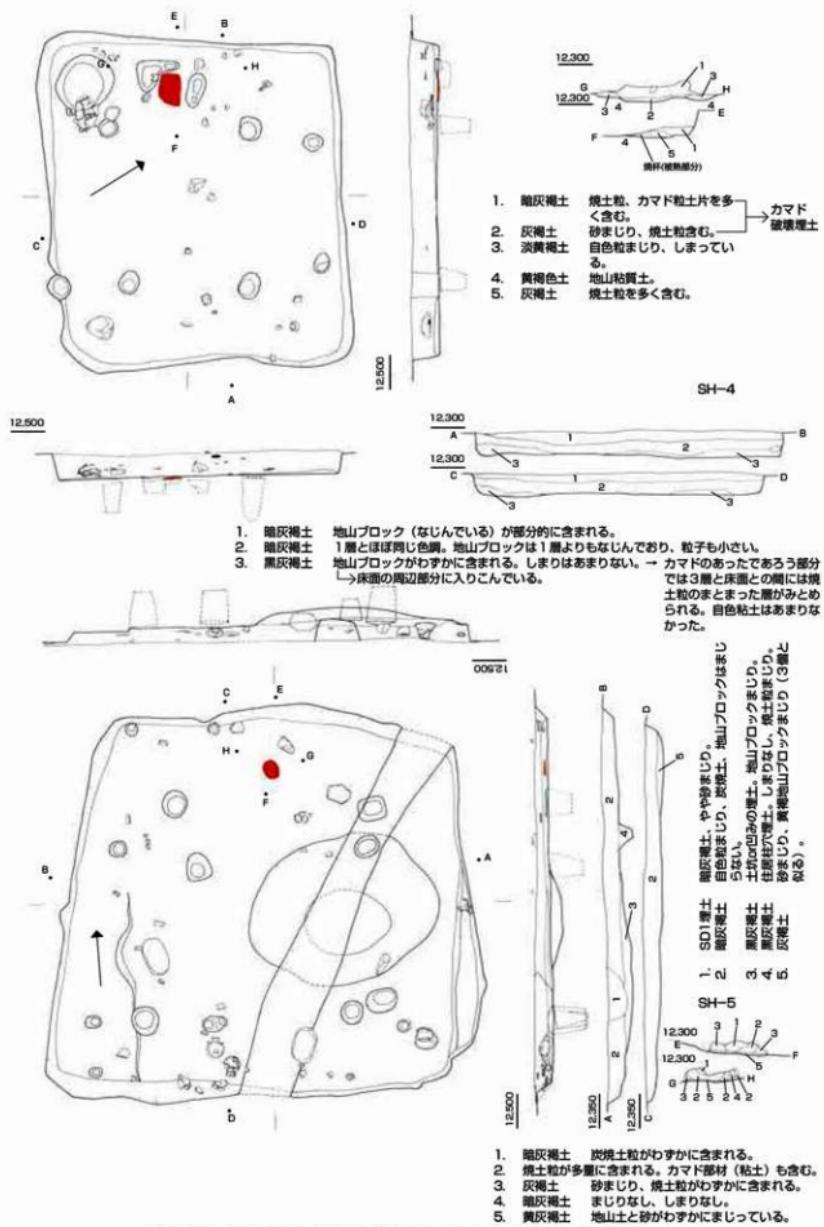


1. 隕灰褐色土 地山ブロック、焼土粒がほとんどまじらない。
2. 暗灰褐色土 SD1埋土。1層と比べやや砂がまじっているような埋土。はっきりとした区別はできない。
3. 黒灰褐色土 土坑?の埋土。全体的に砂まじり。
4. 黄灰褐色土 地山ブロック(なじんでいる)が比較的多くまじっている土坑埋土?炭、焼土のまじり込みはない。(野庭穴か)
5. 烧土粒が多くまじる埋土。
6. 黄褐色地山土

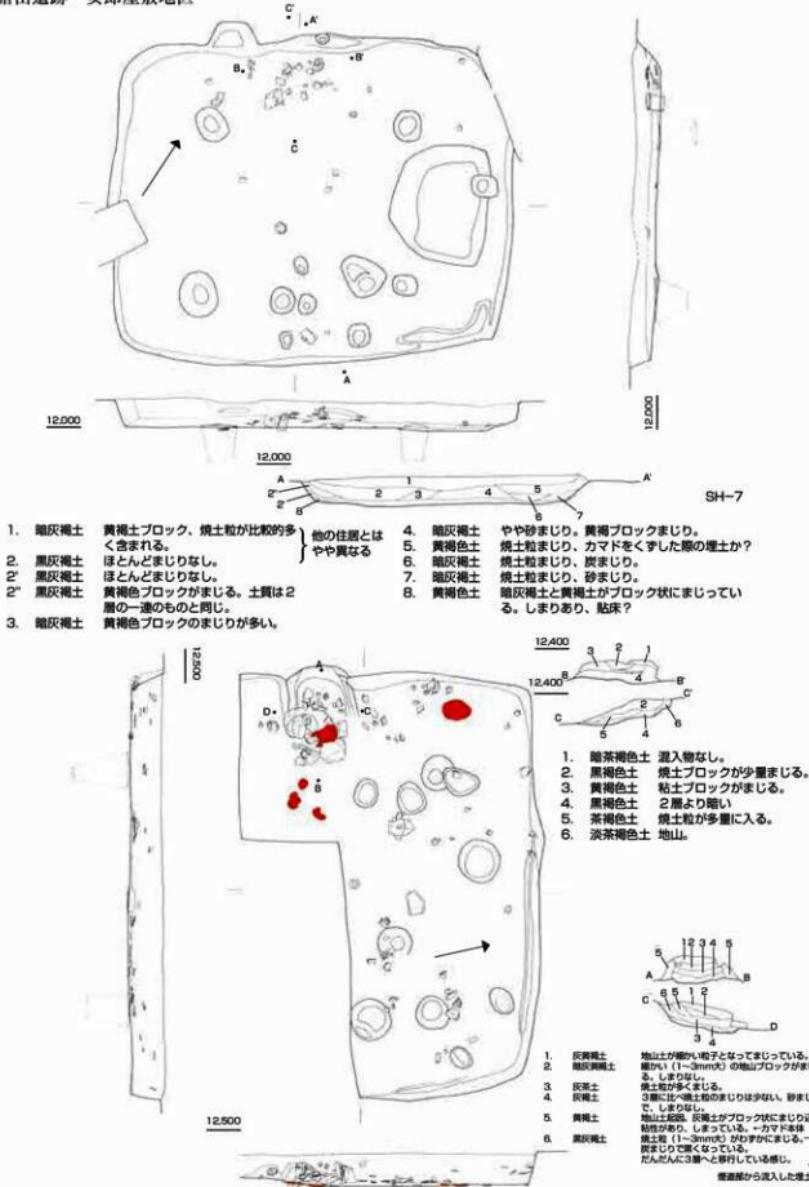
1. 隕灰褐色土 焼土粒がわずかにまじる。
2. 烧土粒が多くまじる炭粒まじり。
3. 黄褐色地山土 砂まじり。黄褐色ブロックがまじる。
4. 淡黄褐色土 しまっている、砂まじり、炭や焼土粒はまじらない—カマド壁部
5. 烧土、カマド部材破片の粘土ブロックまじり。D、E層と一連の埋土。
6. 灰褐色土 黄褐色地山土まじり、カマド基礎づくりの際に盛り込みがなされた本体をつくっている。

第2図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-3 (S = 1 / 60)

諸田遺跡・女郎屋敷地区

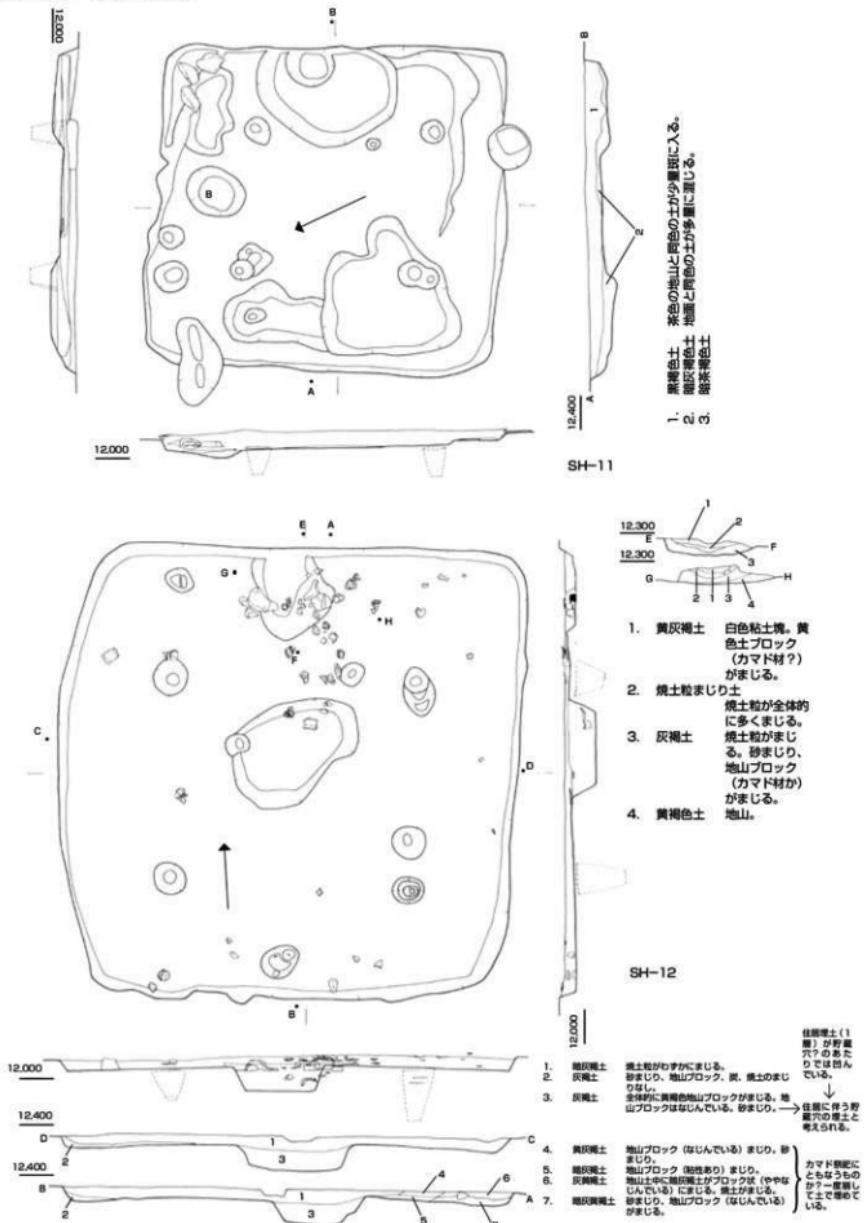


諸田遺跡・女郎屋敷地区

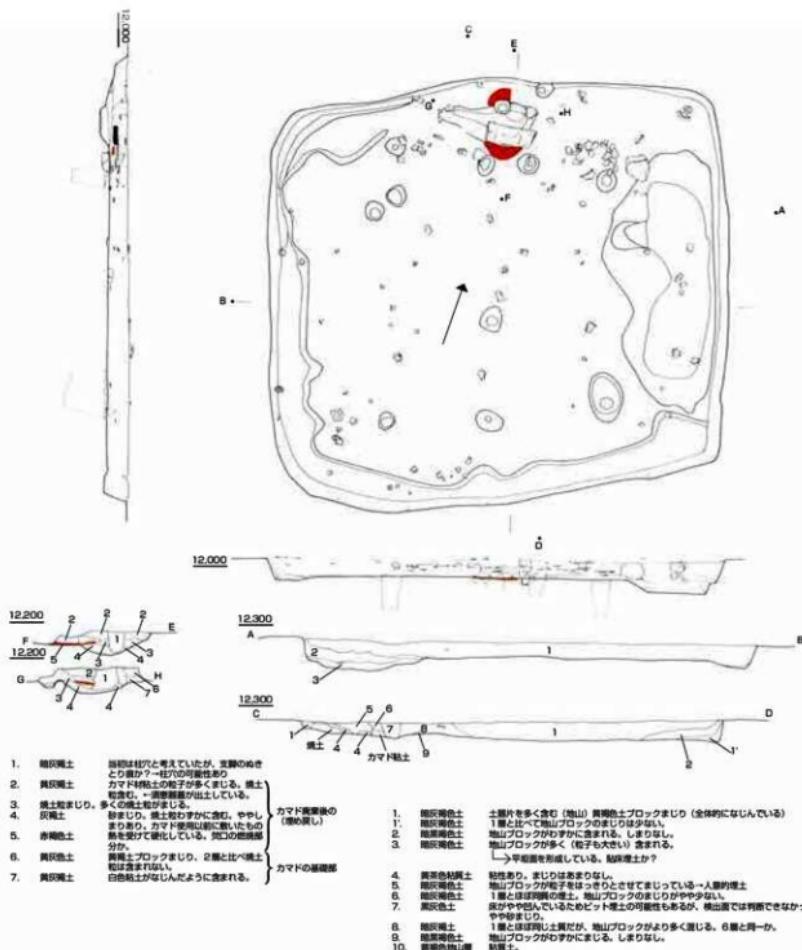


第4図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-7, 10 (S = 1 / 60)

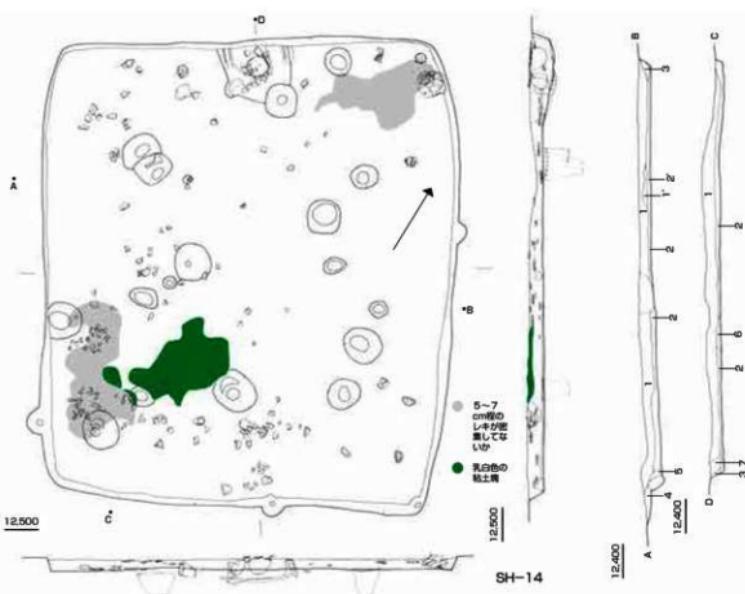
諸田遺跡・女郎屋敷地区



第5図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-11, 12 (S = 1/60)

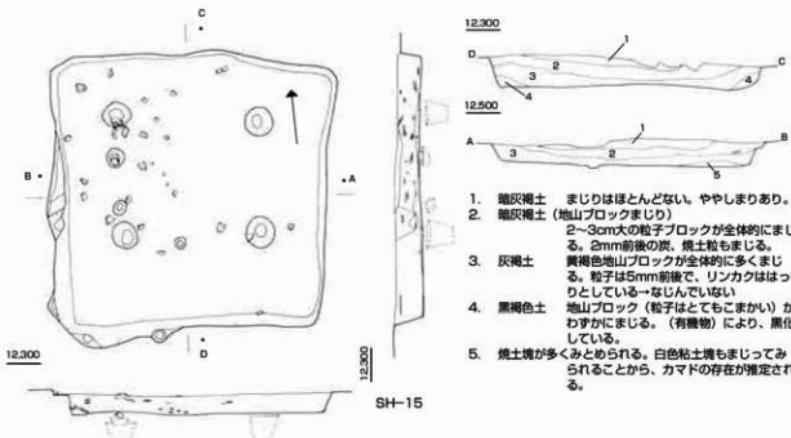


第6図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-13 (S = 1/60)

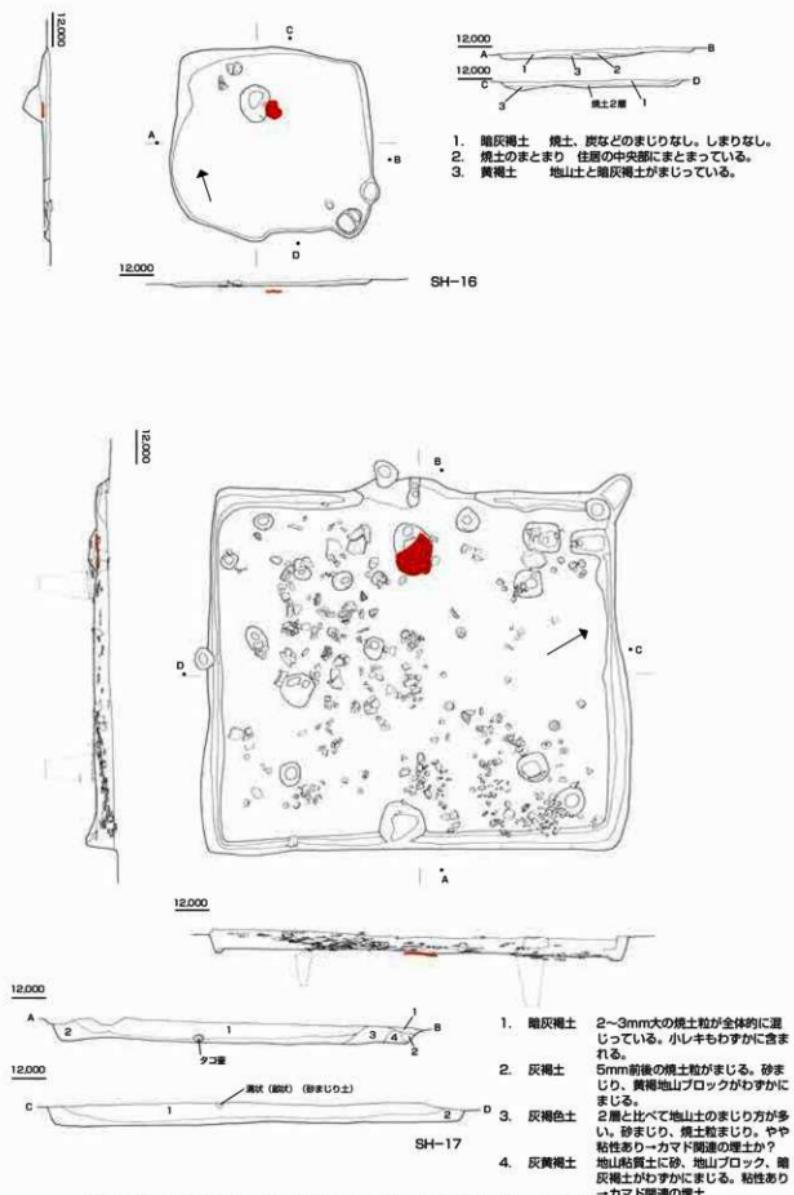


1. 鮎灰褐土 土塊片、焼土粒のまじりあり。砂がまじる。
2. 灰褐土 黄褐色地山ブロック土まじり、砂まじり。
- 2'. 小円レキまじり 2層中に円度の高い小レキ2~5cm大が部分的にまじる。(住居南系部に集中)
3. 鮎灰褐土 まじりはなく、ホクホクとしている。
4. 灰褐土 土塊片がまじる。

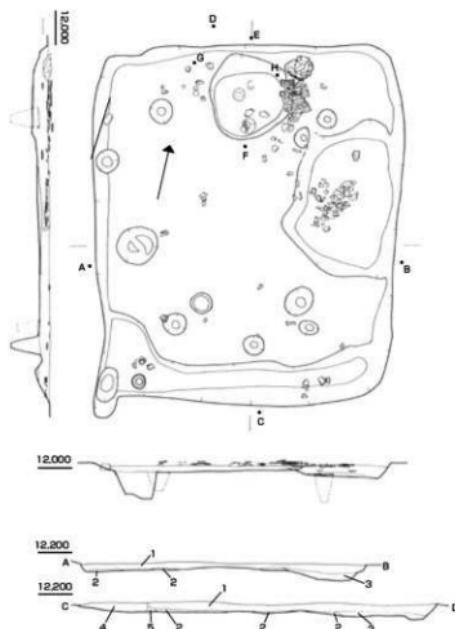
- 1'. 白色粘土層 部分的に白色粘土がみとめられる。
5. 黄灰褐土 焼土粒がわずかにまじる。カマド関連の埋土。
6. 焼土粒のまとまり 2層中にまとまって入っている。
7. 1層中に黄褐色ブロック土が多くまじっている。1層と一連の埋土とみて良い。



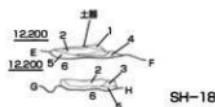
第7図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-14, 15 (S = 1/60)



第8図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-16, 17 (S = 1/60)



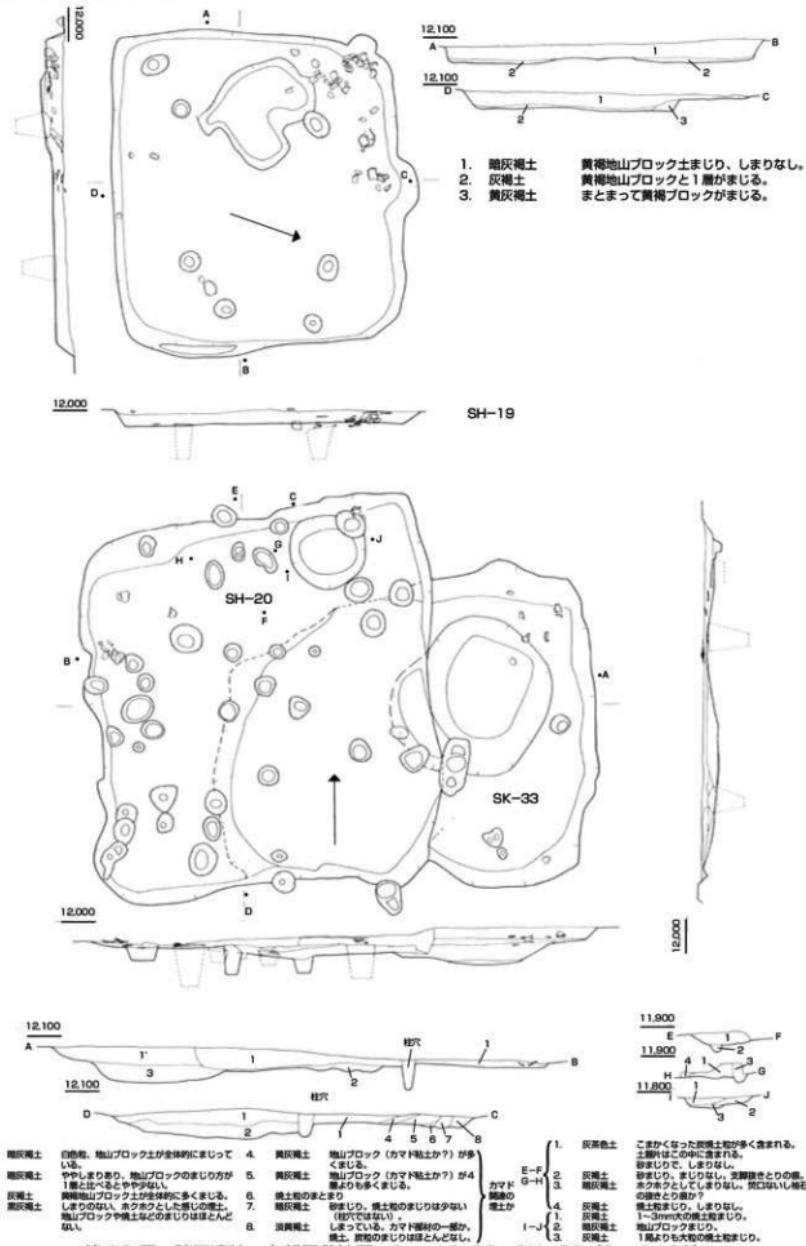
1. 鮎灰褐色 土 わずかに地山ブロックまじり（なじんでいる）。炭、焼土のまじりなし。
2. 黄褐色 地山ブロック主体層、一度振り込まれ、すぐに埋められたため、ブロックを土全体で、鮎灰褐色がわずかにまじる土質。
3. 灰褐色 地山ブロック（なじんでいる）まじり。砂まじり、住居床の凹に堆積している埋土。
4. 烧土まじり土 5mm大の燒土粒が全般的に多くまじる。カマド施設の崩された際の埋土（カマド間連埋土）
5. カマド埋土か2層埋土かの判断がむずかしい。黄褐色（地山土）ブロック（2層の黄褐色のまとまりか？）

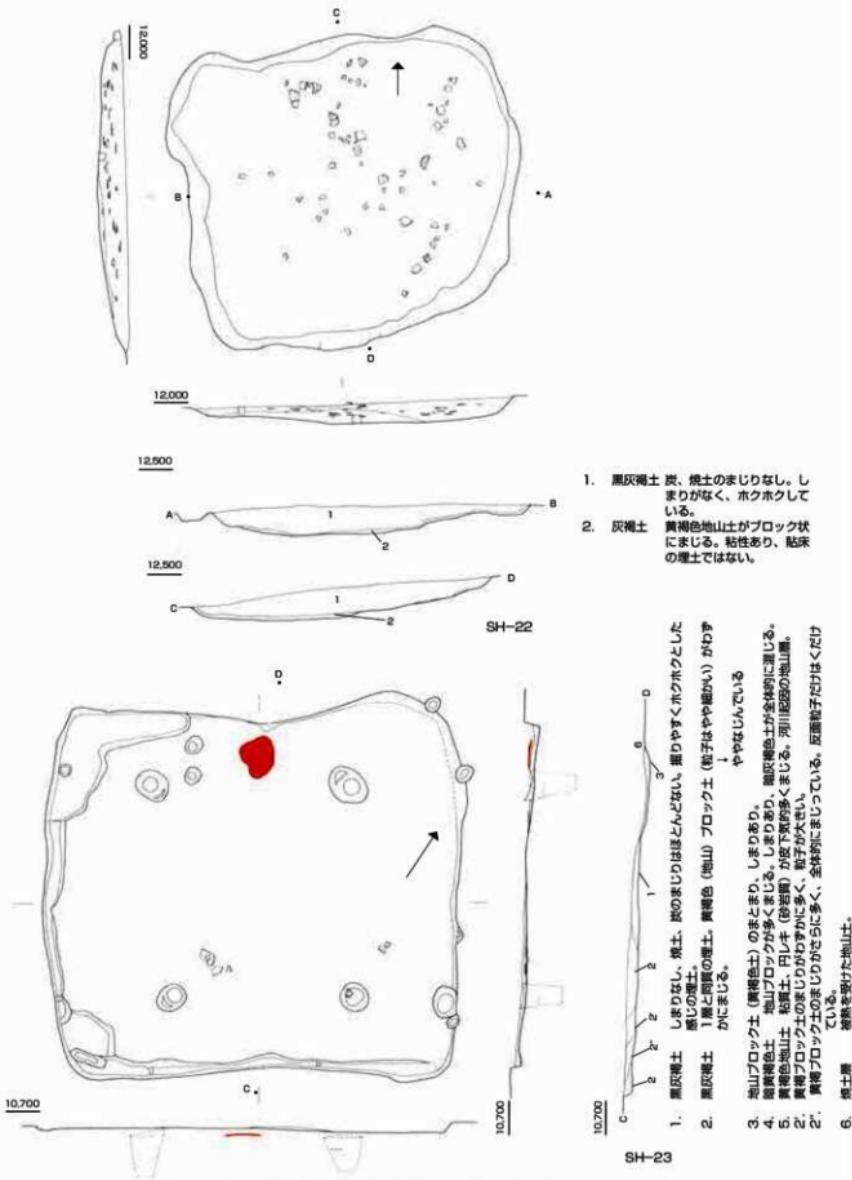


1. 鮎灰褐色 土 炭、焼土粒がわずかにまじる。パンカメは1層。
2. 灰褐色 大粒の焼土ブロックが多くまじる。カマド粘土、炭粒も比較的多くまじる。須恵器蓋は2層の上部にある。
3. 鮎灰褐色 土 2層よりもや焼土のまじりが少ないが、2層と一連の埋土。
4. 赤褐色 熱を受けてやや硬化ぎみになっている。燃焼歴か。
5. 灰褐色 わずかに砂まじり、粘土粒もわずかしか含まれていない。ややしまりあり。
6. 黄褐色 しまりあり。白色粘土まじる。カマドの基礎部。周りの地山土と比べ明らかに硬くしまっており、ボロボロとまとまってとれる。

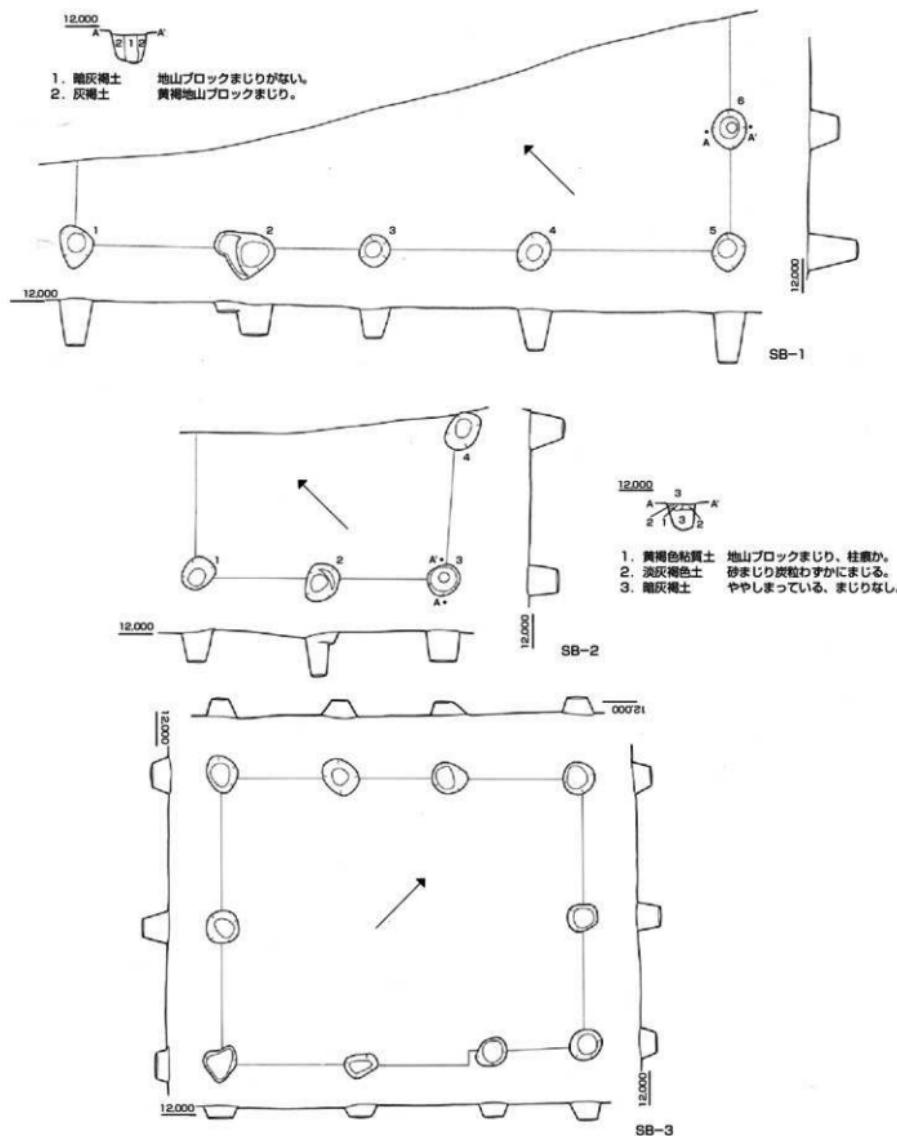
第9図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-18 (S = 1 / 60)

諸田遺跡・女郎屋敷地区

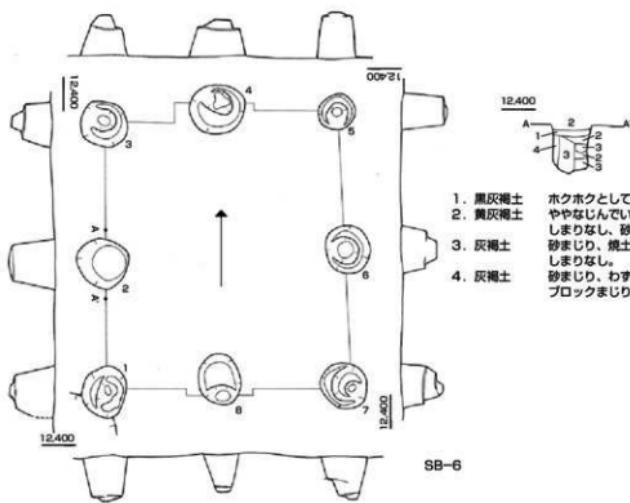
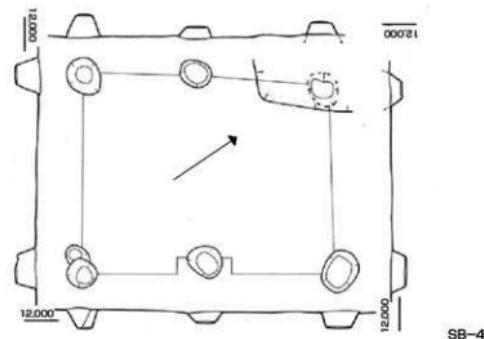




第11図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SH-22, 23 (S = 1 / 60)

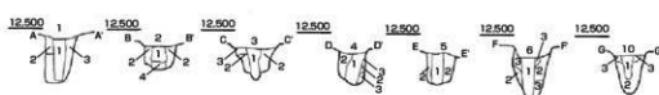
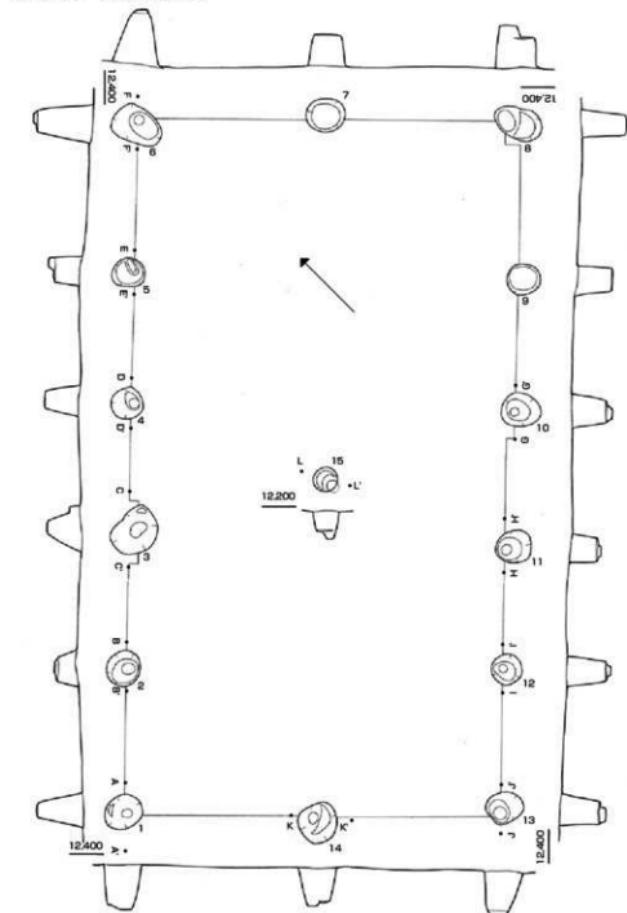


第12図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-1, 2, 3 (S = 1/60)



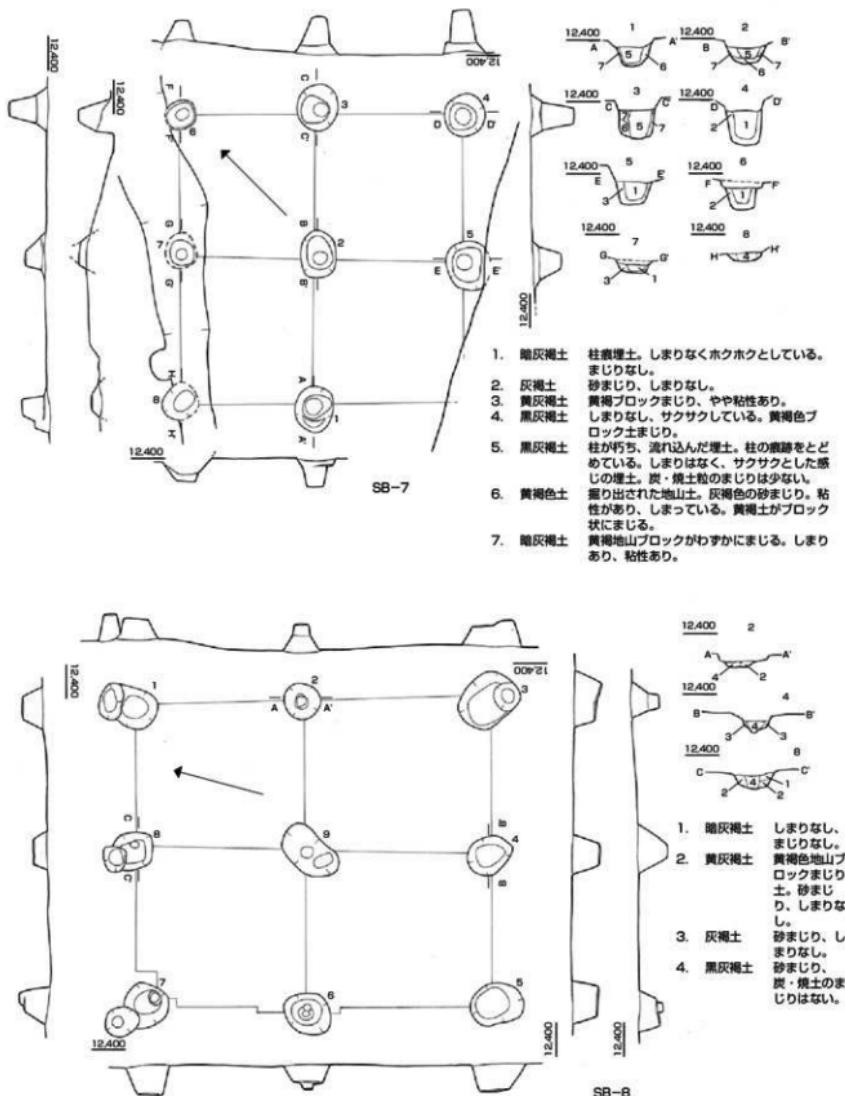
第13図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-4, 6 (S = 1/60)

諸田遺跡・女郎屋敷地区

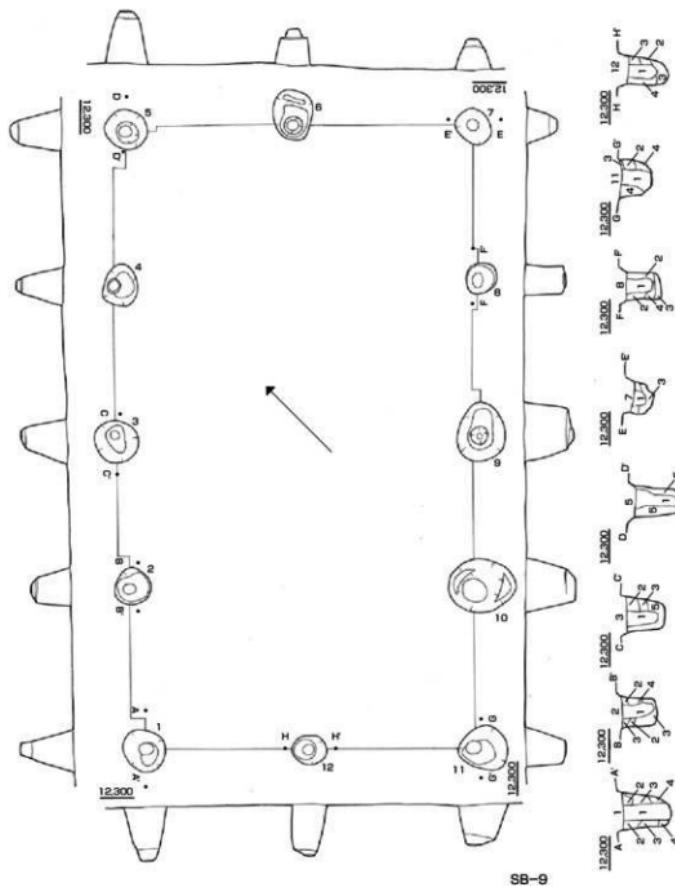


1. 黒灰褐色 土柱が打ち、流れ込んだ埋土。柱の痕跡をとどめている。しまりではなく、サクサクとした感じの埋土。炭、燒土粒のまじりは少ない。
2. 黄褐色 土掘り出された地山土。黄褐色の砂まじり。粘性があり、しまっている。黄褐色がブロック状にまじる。
3. 離灰褐色 黄褐色地山ブロックがわずかにまじる。しまりあり、粘性あり。
- 3'. 離灰褐色 黄褐色地山ブロックのまじりが多い。
4. 灰褐色 土焼土粒、珍まじり、しまりなし。地山ブロックがまじる。
5. 灰褐色 地方埋土。砂まじり、地山ブロックのまじりはない。

第14図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-5 (S = 1/60)

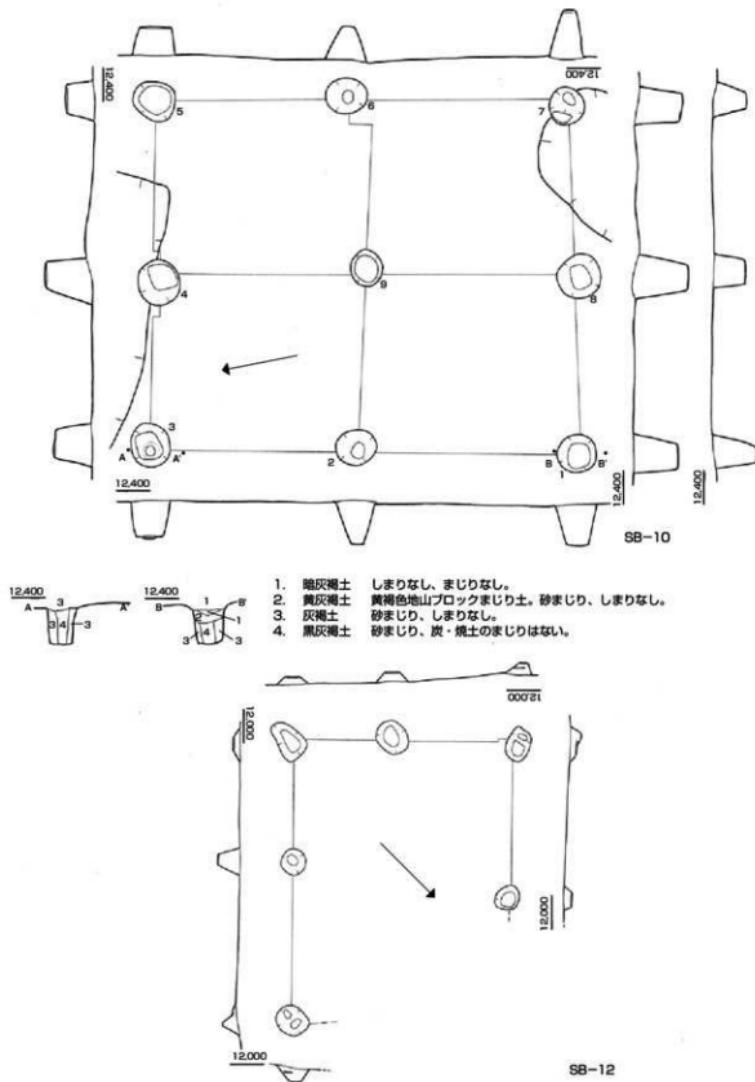


第15図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-7,8 (S = 1/60)

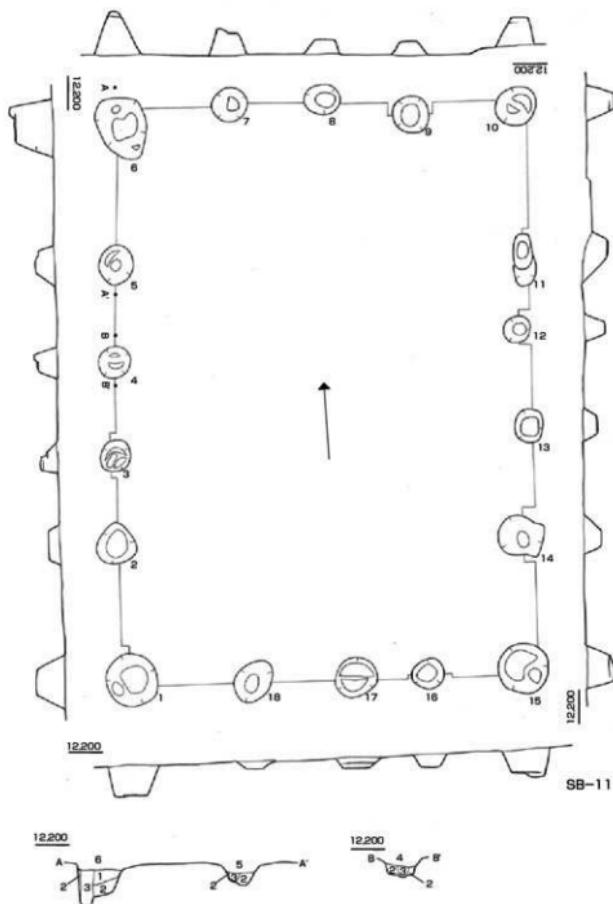


1. 雜灰褐色土 黄褐色ブロック土まじり。
2. 雜灰褐色土 ブロック土・燒土・炭などとのまじりなし。
3. 黄褐色土 粘性のある地山土。暗灰褐色土がわざわざにまじる。
4. 灰黄褐色土 しまり、粘性はない。地山土にやや粒子の粗い砂まじり。
5. 雜灰褐色土 粒子の小さい地山ブロックがまじる。

第16図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-9 (S = 1/60)

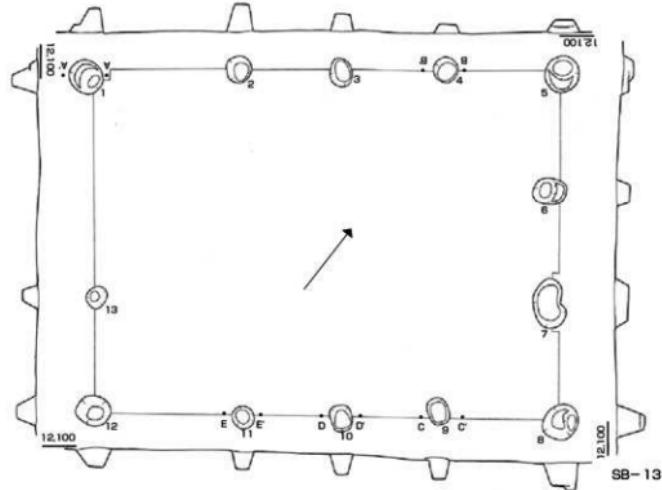


第17図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-10, 12 (S = 1/60)

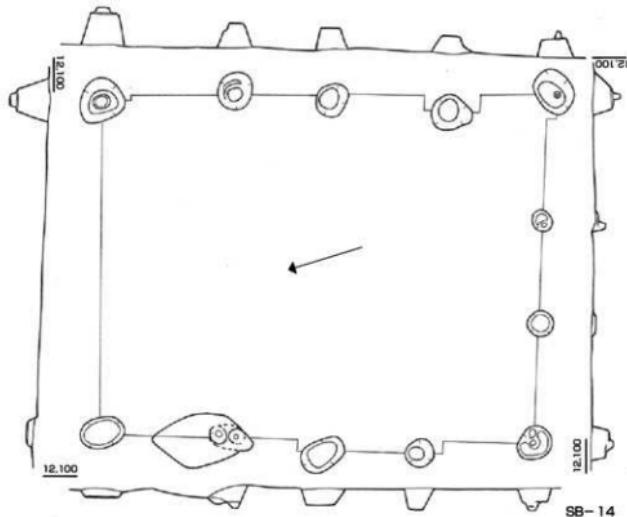


1. 黒灰褐色 地山ブロックまじり、しまりなく、ホクホクしている。
2. 灰褐色 地山まじり、砂まじり、しまりなし。
3. 暗灰褐色 地山土のまじりなし、ホクホクしている。

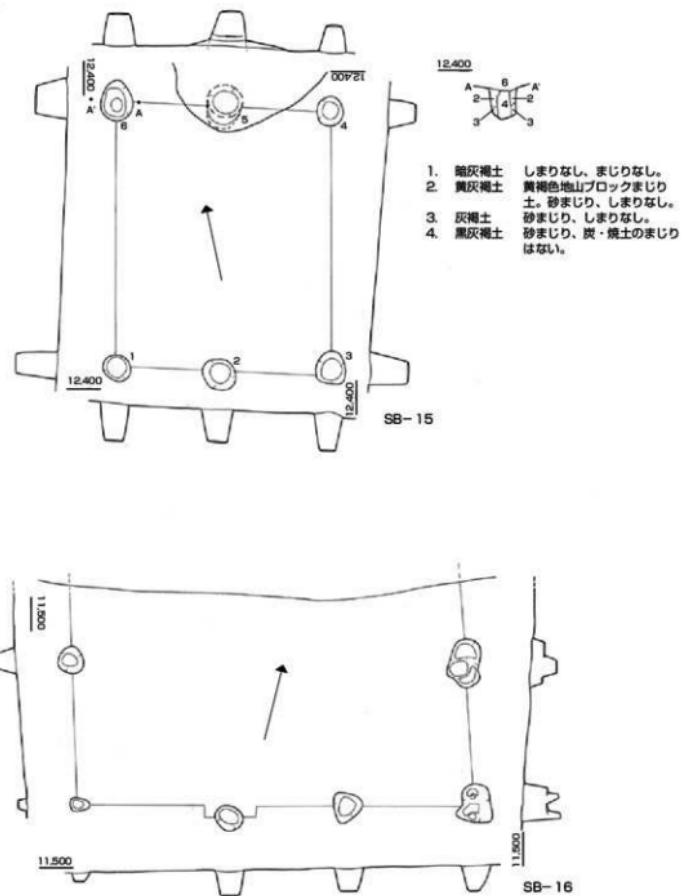
第18図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-11 (S = 1/60)



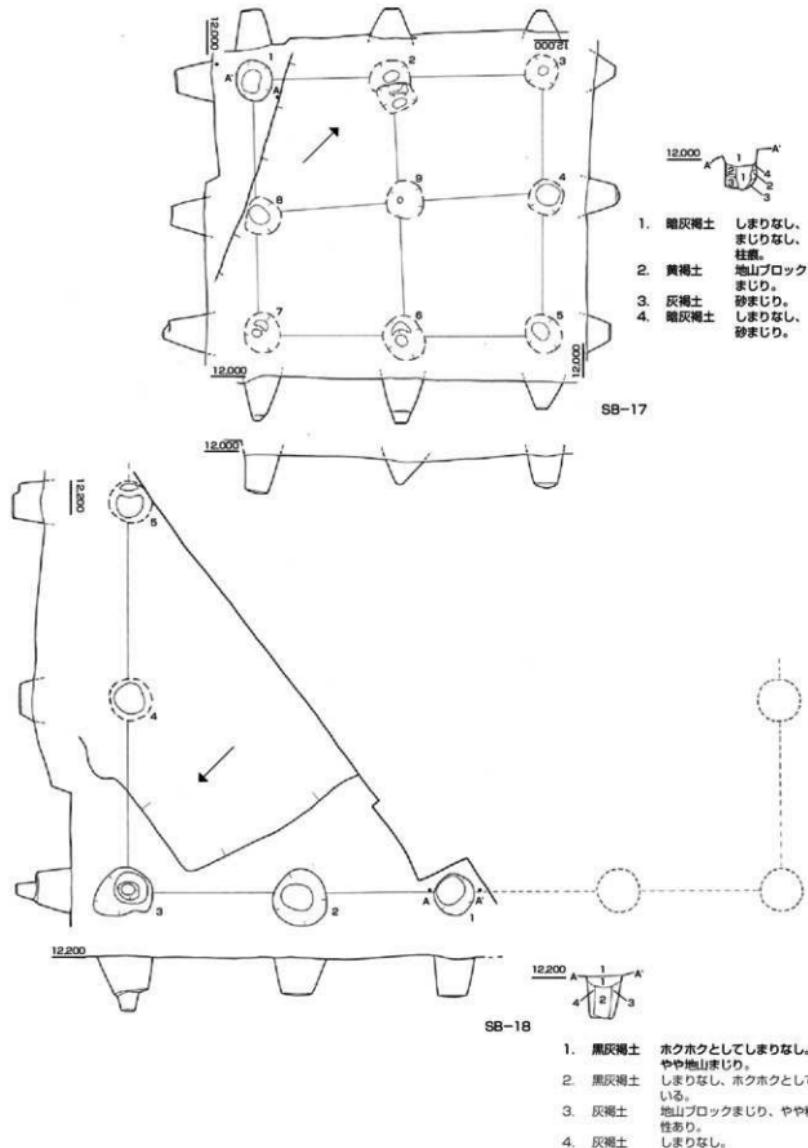
1. 雰灰褐色  
しまりなし、まじりなし。  
2. 灰褐色  
地山土まじり。  
3. 雰灰褐色  
しまりなし、地山土まじり。  
4. 灰褐色  
地山土まじり、粘性あり。



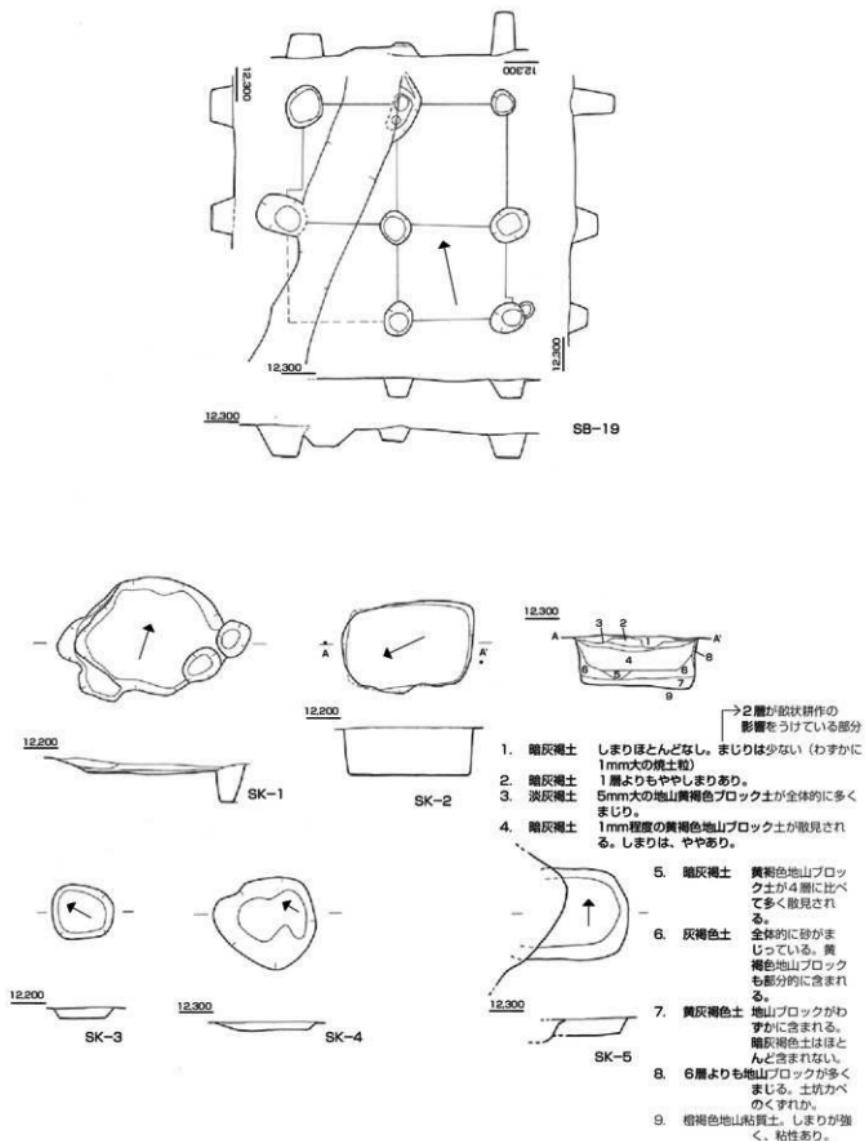
第19図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-13, 14 (S = 1/60)



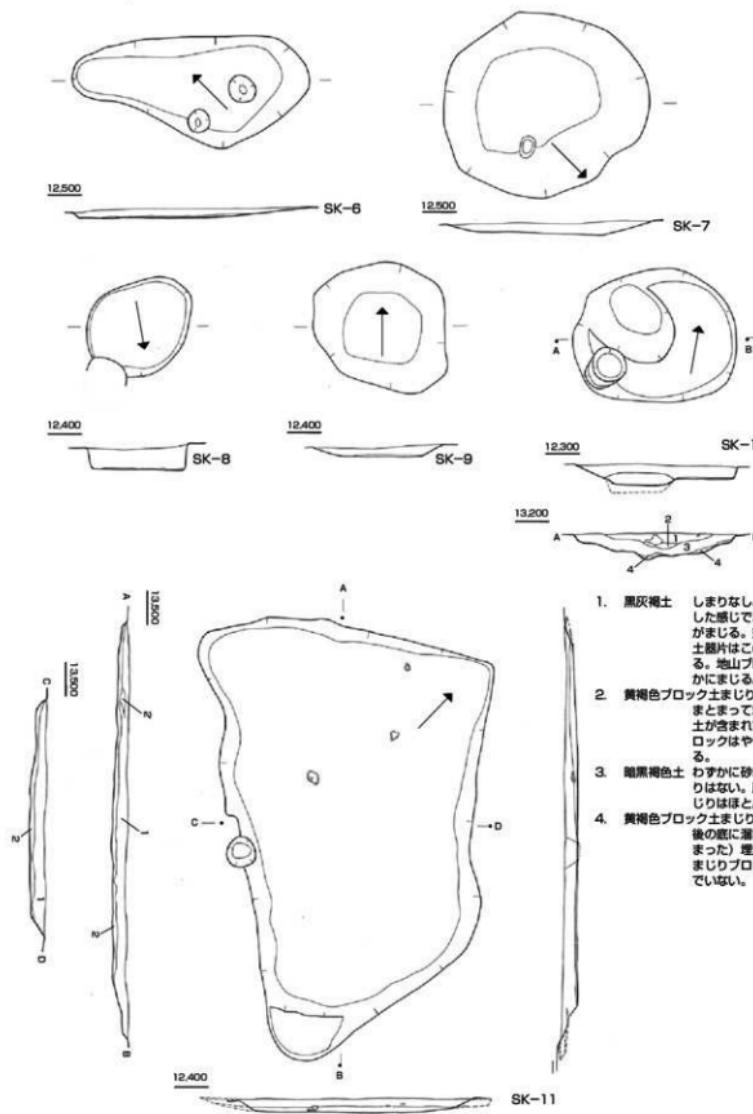
第20図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-15, 16 (S = 1/60)



第21図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-17, 18 (S = 1 / 60)

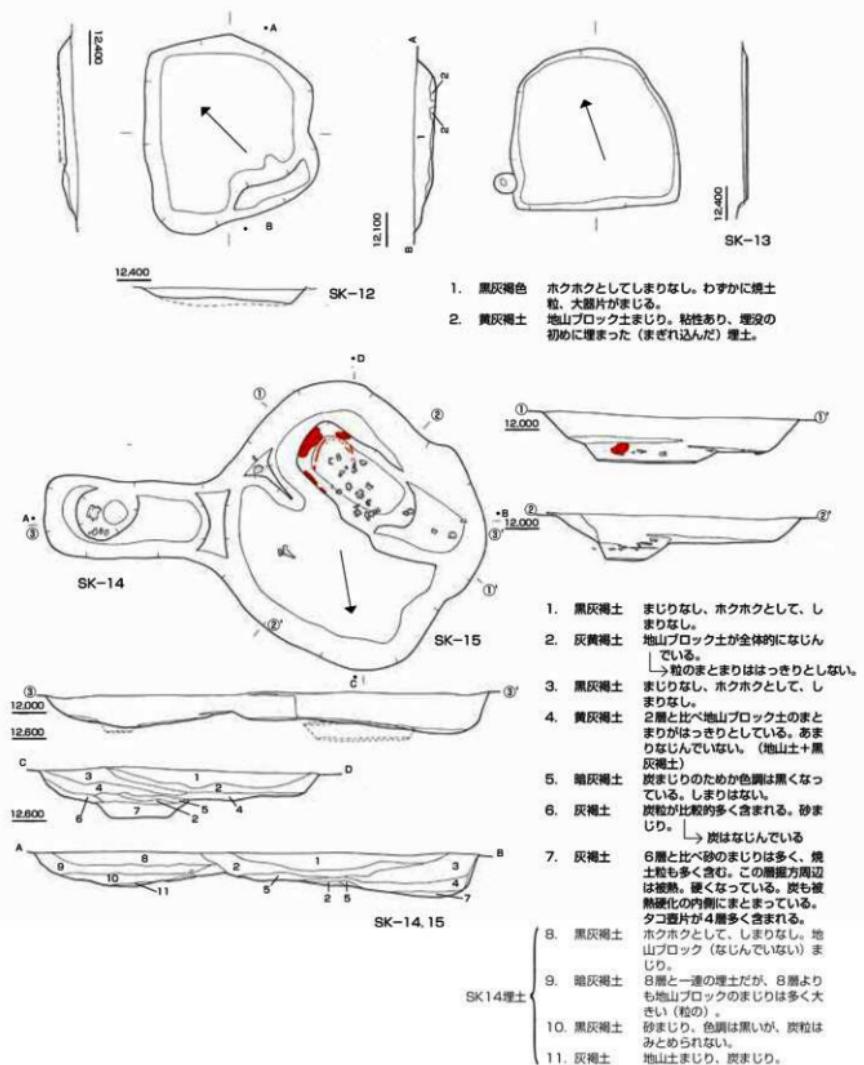


第22図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-19 SK-1, 2, 3, 4, 5 (S = 1/60)



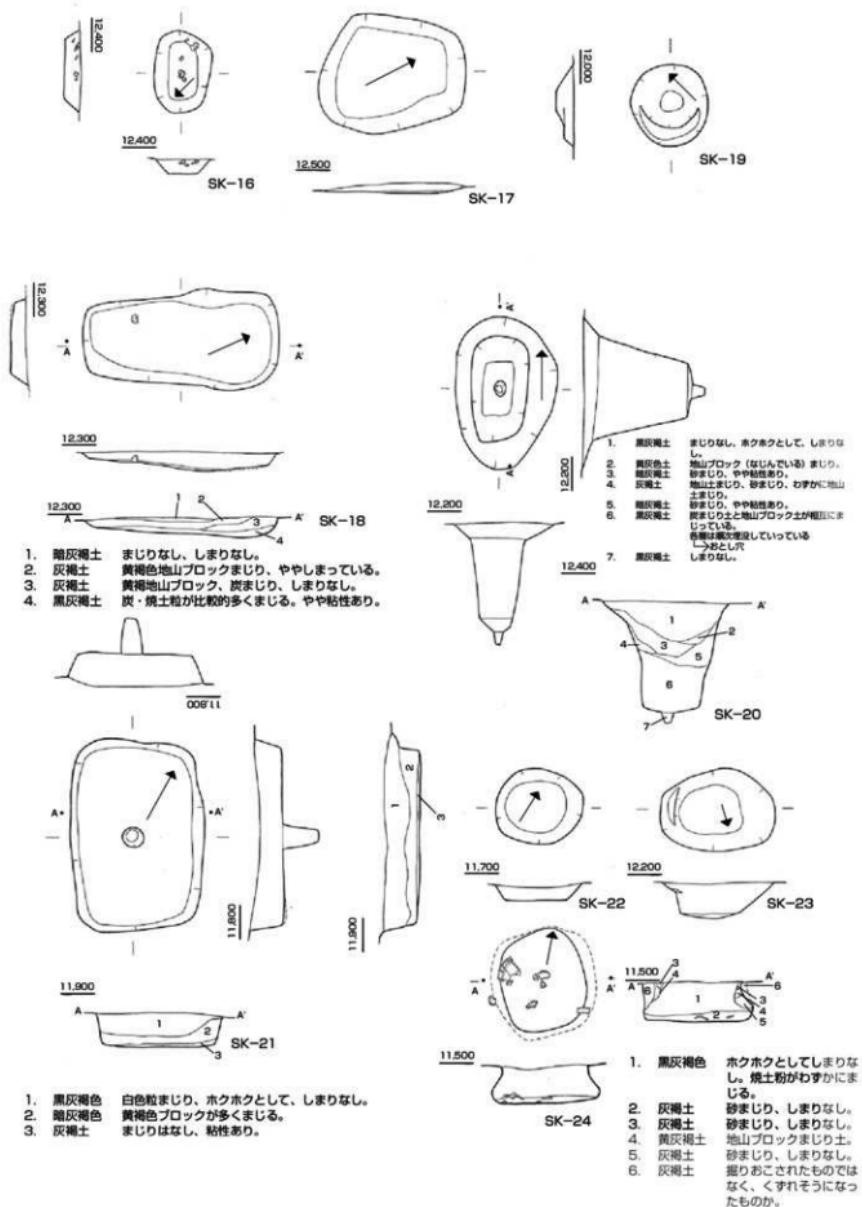
1. 黒灰褐色土 しまりなし、まじりなし。ホクホクとしている。
2. 灰褐色土 地山ブロックまじり、ややしまりあり。
2. 灰褐色土 地山ブロックまじり土のまとまり。

第23図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SK-6, 7, 8, 9, 10, 11 (S = 1/60)



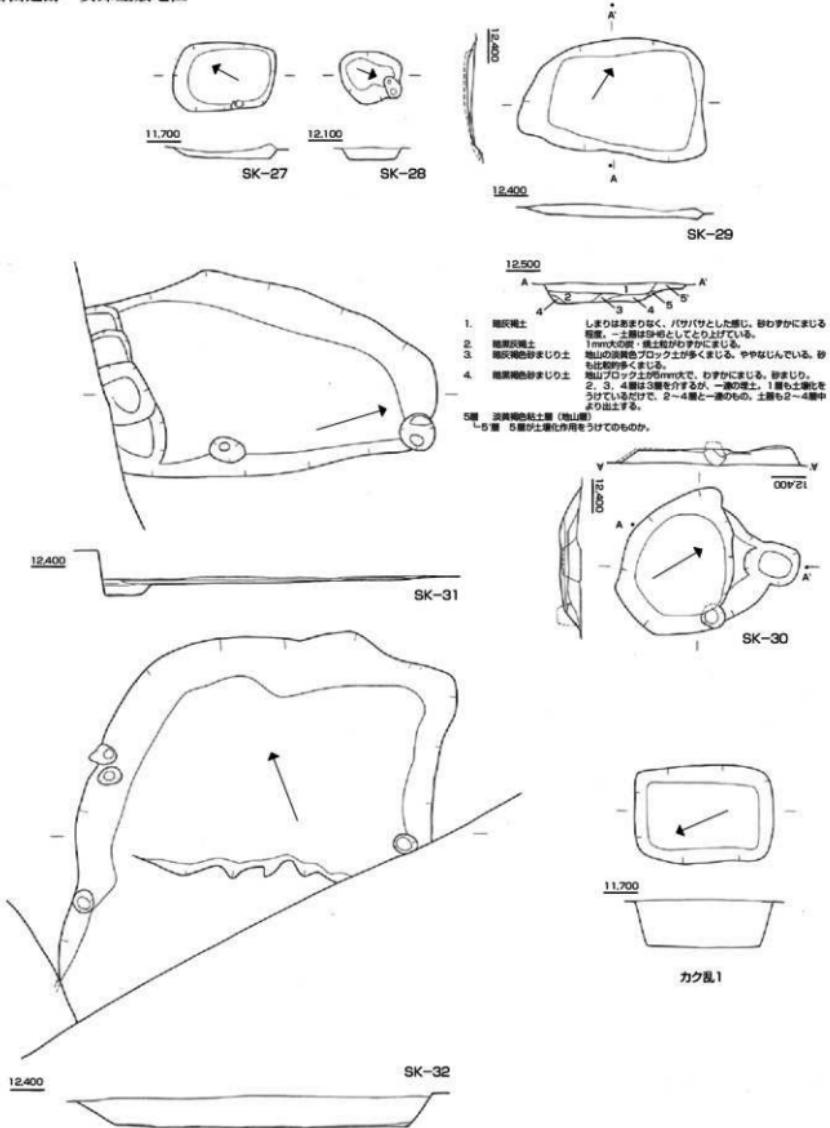
第24図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SK-12, 13, 14, 15 (S = 1/60)

諸田遺跡・女郎屋敷地区

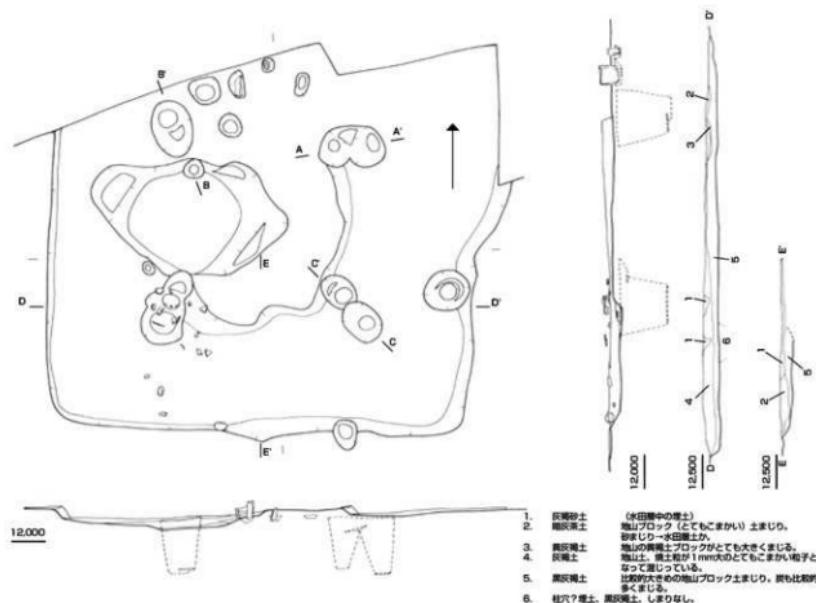


第25図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SK-16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24 (S = 1/60)

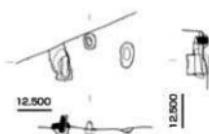
諸田遺跡・女郎屋敷地区



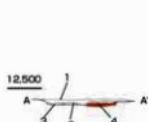
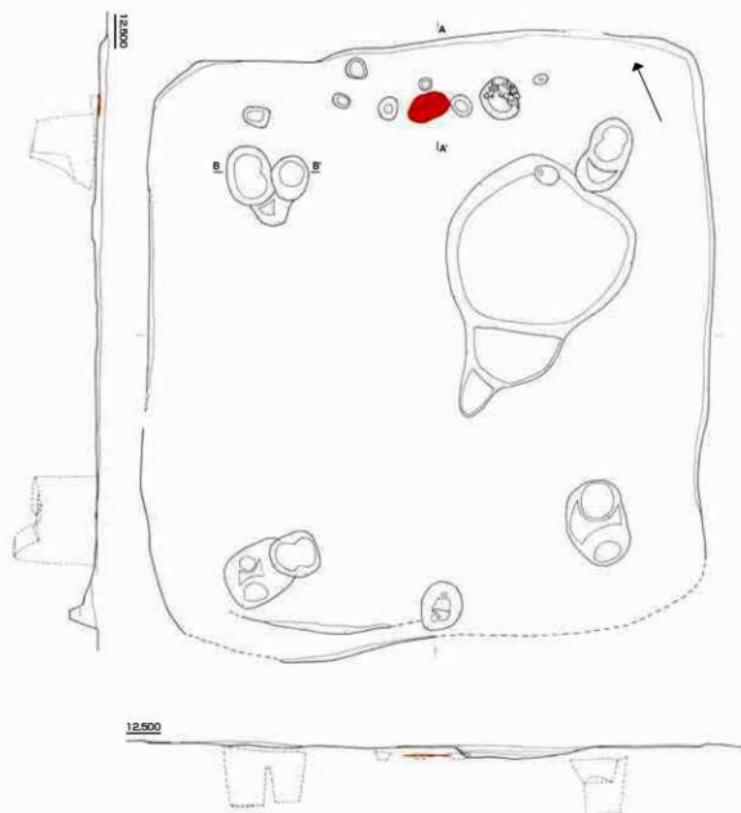
第26図 諸田遺跡 女郎屋敷地区 SB-27, 28, 29, 30, 31, 32, カク乱1 (S = 1/60)



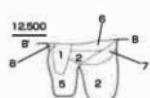
1. 黒褐色 土 ホクホクとして、しまりなし、クロボク質。
2. 雰灰褐色 地山ブロックまじり。
3. 灰褐色 地山土がある程度なじんでまざつている  
土まじり、しまりなし。
4. 灰褐色 地山ブロックまじり。
5. 黄褐色 地山土に黄灰褐色土がわずかにまじる。ボソボソとしてしまりなし。
6. 雰灰褐色 地山ブロック、炭のまとまりまじり、粘性あり。
7. 黑灰褐色 クロボク質土、ブロックまじり、炭、燒土粒まじり。



第1図 諸田遺跡 二反田地区 A区 SH-1 (S = 1/60)

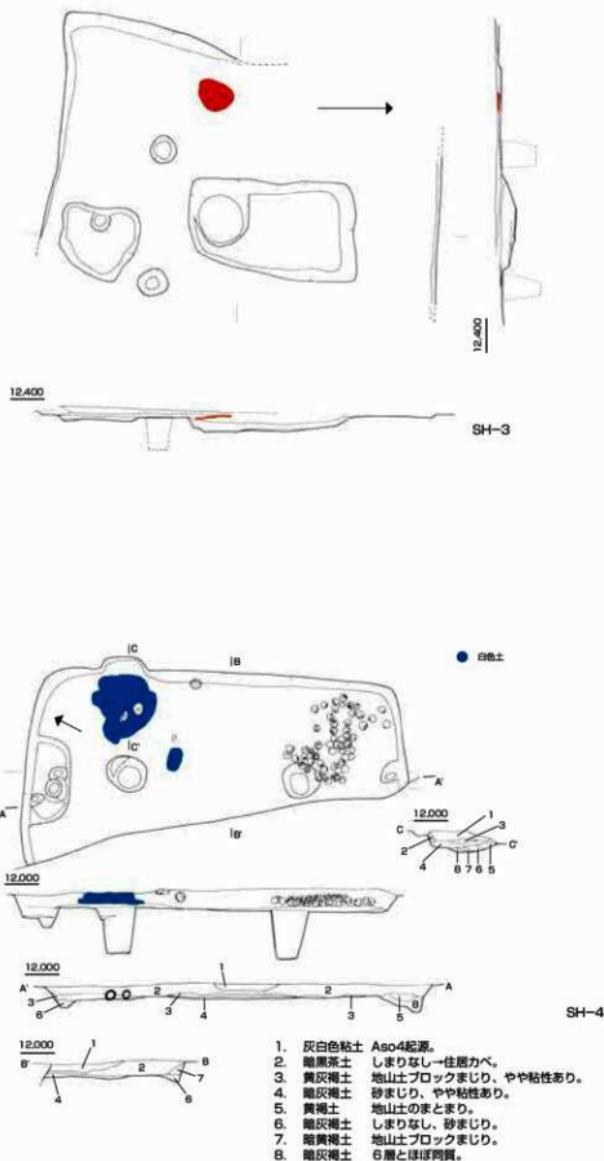


1. 炭、焼土まじり土
2. 茶褐色 土
3. 黄褐色 土
4. 被熱硬化層 カマド部材等は全て焼されている。  
くずした土を積堆させている。

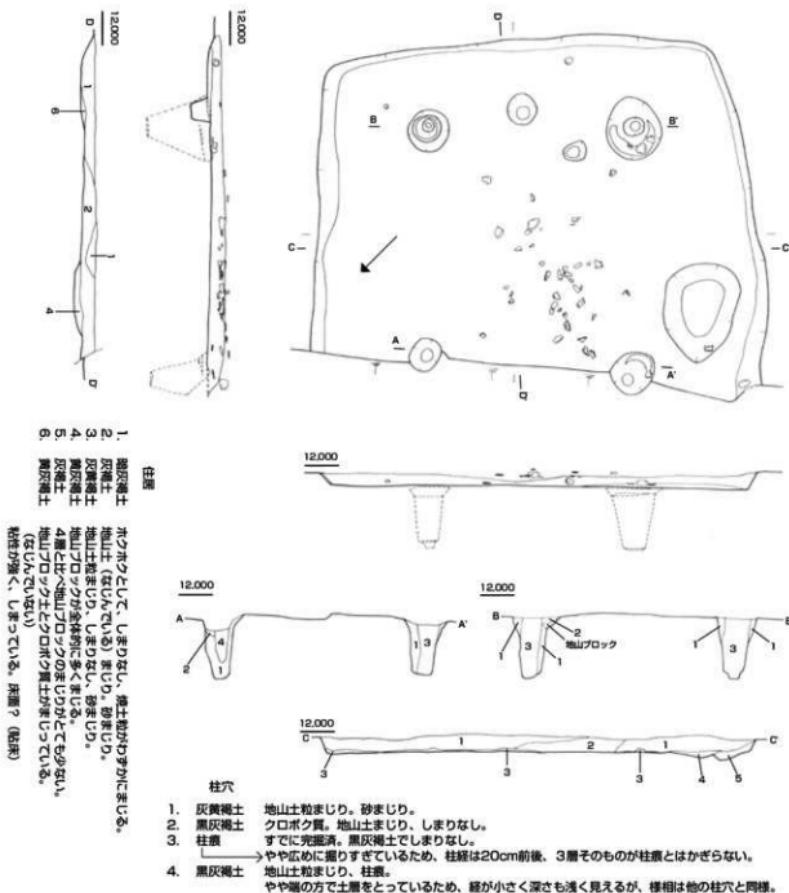


1. 鮎灰褐色 土  
まじりはほとんどなし。しまりなし。
2. 鮎灰褐色 土  
炭まじり、地山ブロック（なじんでない）  
1~2cm大）まじり。  
柱痕か？↑
3. 灰褐色 土  
ボソボソとして、しまりなし。
4. 灰褐色 土  
砂、地山ブロック土まじり、しまりなし。
5. 黄褐色 土  
地山土、灰褐色土が全体的にまじる。
6. 鮎灰褐色 土  
焼土、地山土粒まじり（1~2mm大）
7. 灰褐色 土  
大粒の地山ブロック土まじり、（なじんでない）しまりなし。
8. 黄褐色 土  
地山土ブロック。

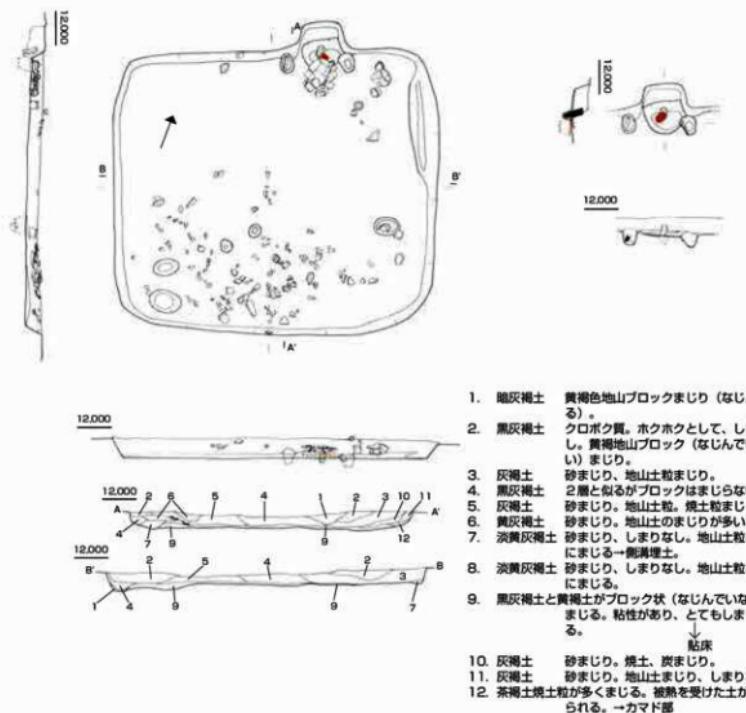
第2図 諸田遺跡 二反田地区 A区 SH-2 (S = 1/60)



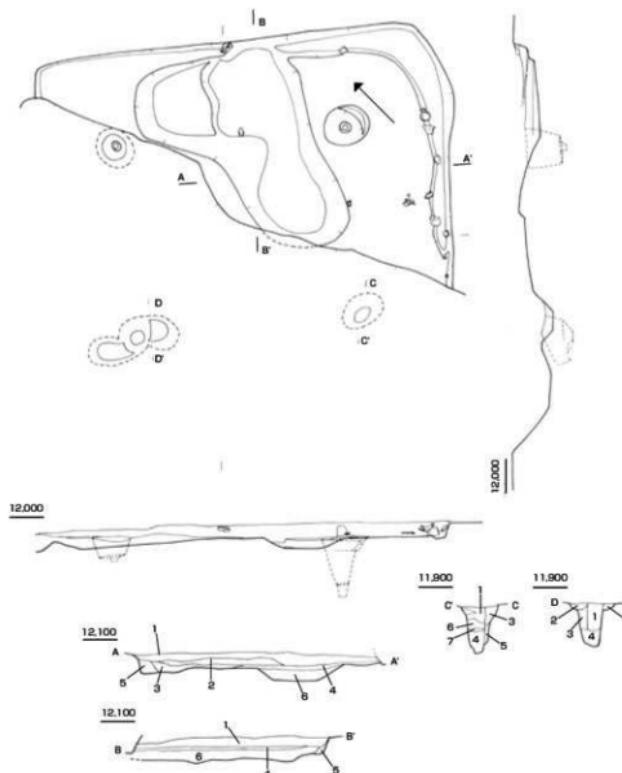
第3図 諸田遺跡 二反田地区 A区 SH-3 B区 SH-4 (S = 1/60)



第4図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SH-5 (S = 1/60)

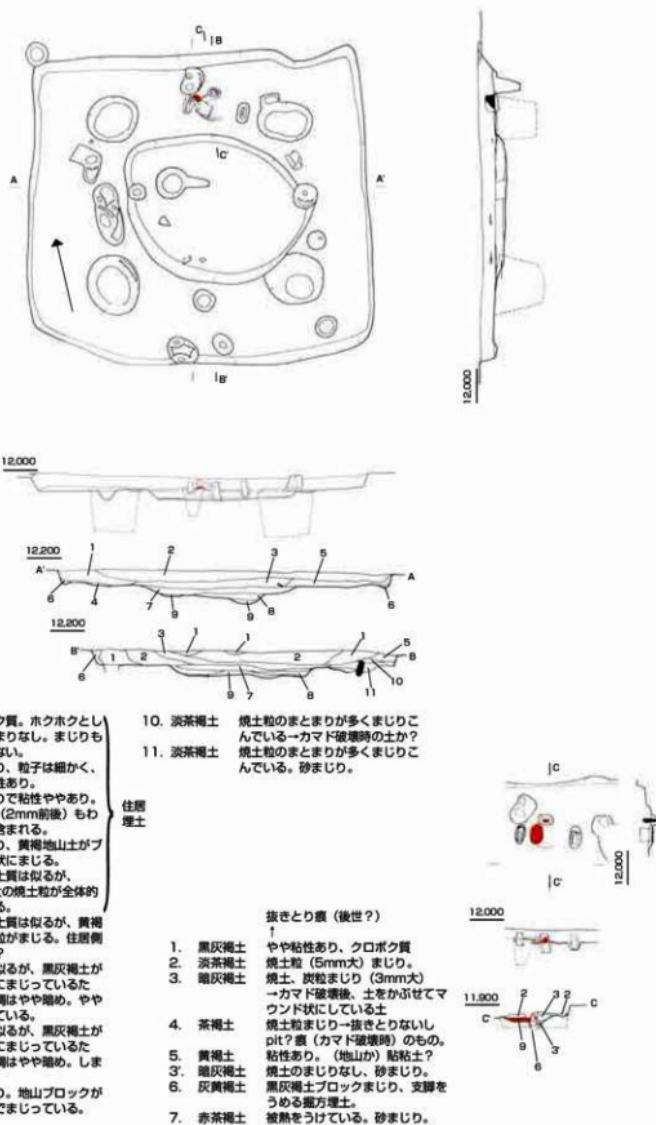


第5図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SH-6 (S = 1/60)

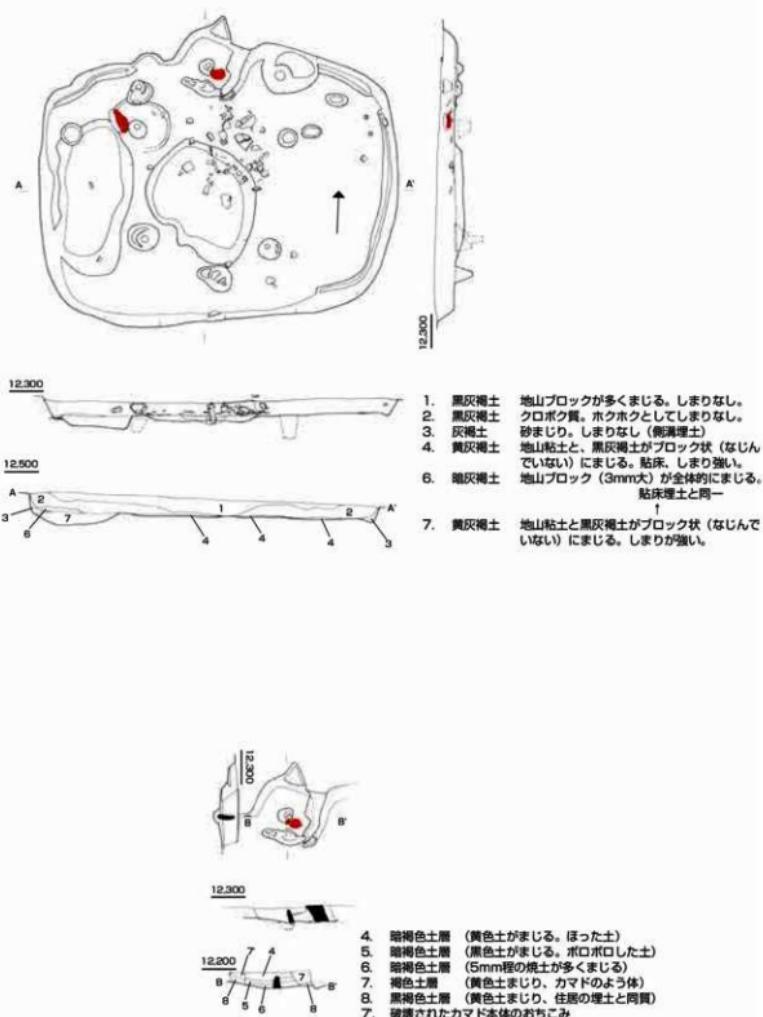


- |   |                                   |                                 |                   |
|---|-----------------------------------|---------------------------------|-------------------|
| 1. 黒灰褐土                                   | クロボク質。ホクホクとして、しまりなし。              | 1. 黒灰褐土                         | 地山土粒はじり、柱痕。       |
| 2. 灰灰褐土                                   | 砂はじり、地山土粒はじり。                     | 2. 灰黄褐土                         | 地山土粒わずかにはじる、砂はじり。 |
| 3. 黄灰褐土                                   | 地山土粒が多くはじる。砂はじりでしまりなし。            | 3. 黄褐土と黒灰褐土ブロックはじり、砂はじり、しまっている。 |                   |
| ↓<br>貼床                                   |                                   | ↓<br>ややなじんでいる<br>↓<br>地盤土       |                   |
| 4. 黄褐土と黒灰褐土ブロックのはじり（なじんでいない）。粘性が強くしまっている。 | 4. 灰褐土                            | 砂が多くはじる。しまりなし。                  |                   |
| 5. 黑褐土                                    | しまりなし、砂はじり。<br>住居中央土坑埋土           | 5. 灰褐土                          | 砂が多くはじる。地山土粒はじる。  |
| 6. 灰黄褐土                                   | 地山土と黒灰褐土はじり。砂はじりで粘性はあるがしまりはあまりない。 | 6. 灰黄褐土                         | 砂はじり、しまりなし。       |
|   |                                   | 7. 黒灰褐土                         | 地山土粒わずかにはじる。      |

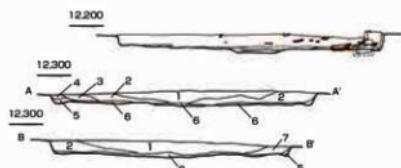
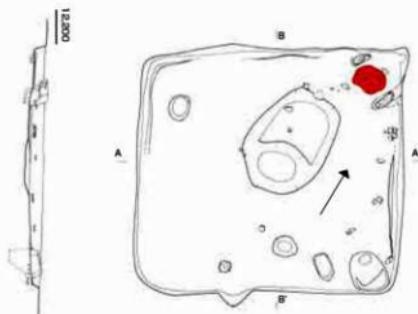
第6図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SH-7 (S = 1/60)



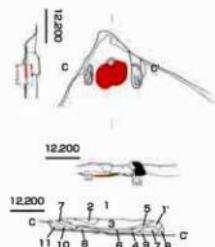
第7図 諸田遺跡 二反田地区 SH-B (S = 1/60)



第8図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SH-9 (S = 1/60)



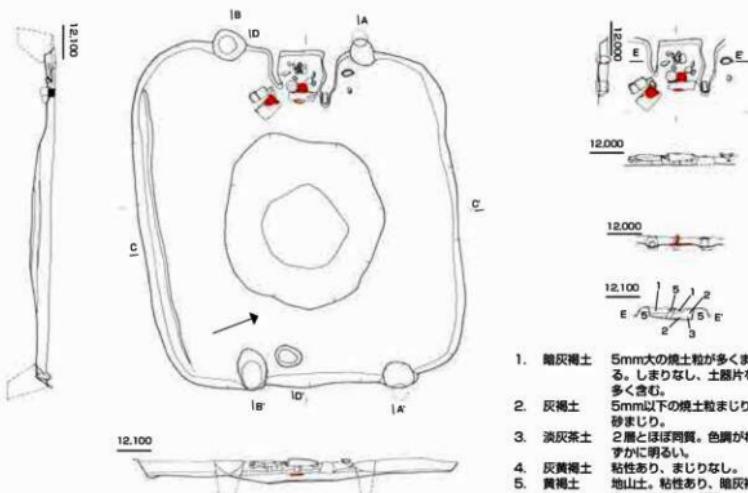
1. 灰褐土 地山にブロックまじり、しまりなし。
2. 黒灰褐土 クロボク質。ホクホクとして、しまりなし。地山ブロックまじり。
3. 黑灰褐土 2層よりなり(粒の小さい)ブロックのまじり方が少ない。
4. 離灰褐土 しまりなし、砂まじり、地山塊(3mm大)わずかにまじる。
5. 灰褐土 砂まじり、しまりなし。
6. 黄灰褐土 地山土とクロボク質土がブロック状にまじる。しまりが強い。粘土の土。
7. 茶褐土 燃土粒が全体的にまじる。ややしまりあり。南側にかたよる。



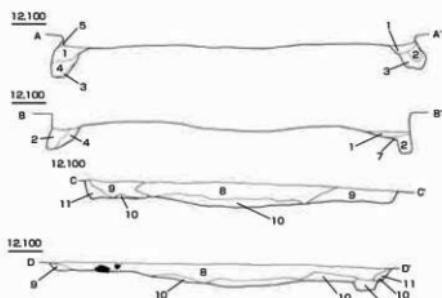
1. 黄灰褐土 燃土etcのまじりなし。地山土ブロック(灰褐土)まじり、しまりあり。
- 1'. 黄灰褐土 燃土etcのまじりなし。地山土ブロック(灰褐土)が多くまじる。しまりあり。
2. 黑灰褐土 ホクホクとしてしまりなし。クロボク質。まじりがほとんどない。
3. 黑灰褐土 1mm大の燃土粒が全体的に多くまじる。
4. 黑灰褐土 クロボク質。砂まじり。
5. 灰褐土 砂まじり。
6. 黑灰褐土 クロボク質。5mm大の燃土粒まじり。
7. 燃土粒 (黑灰褐土中に大粒の燃土がとても多くまじる)

- カマド本体を構成する土
8. 灰褐土 黄褐土地山粒(1mm大)まじり、しまっている。
  9. 黄灰褐土 粘性あり。しまっている→粘床
  10. 離灰褐土 燃土、炭のまじりなし。砂まじりでしまりなし。
  11. 離黄灰褐土 粘性あり、しまっている→煙道部補強の土か。

第9図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SH-11 (S = 1/60)

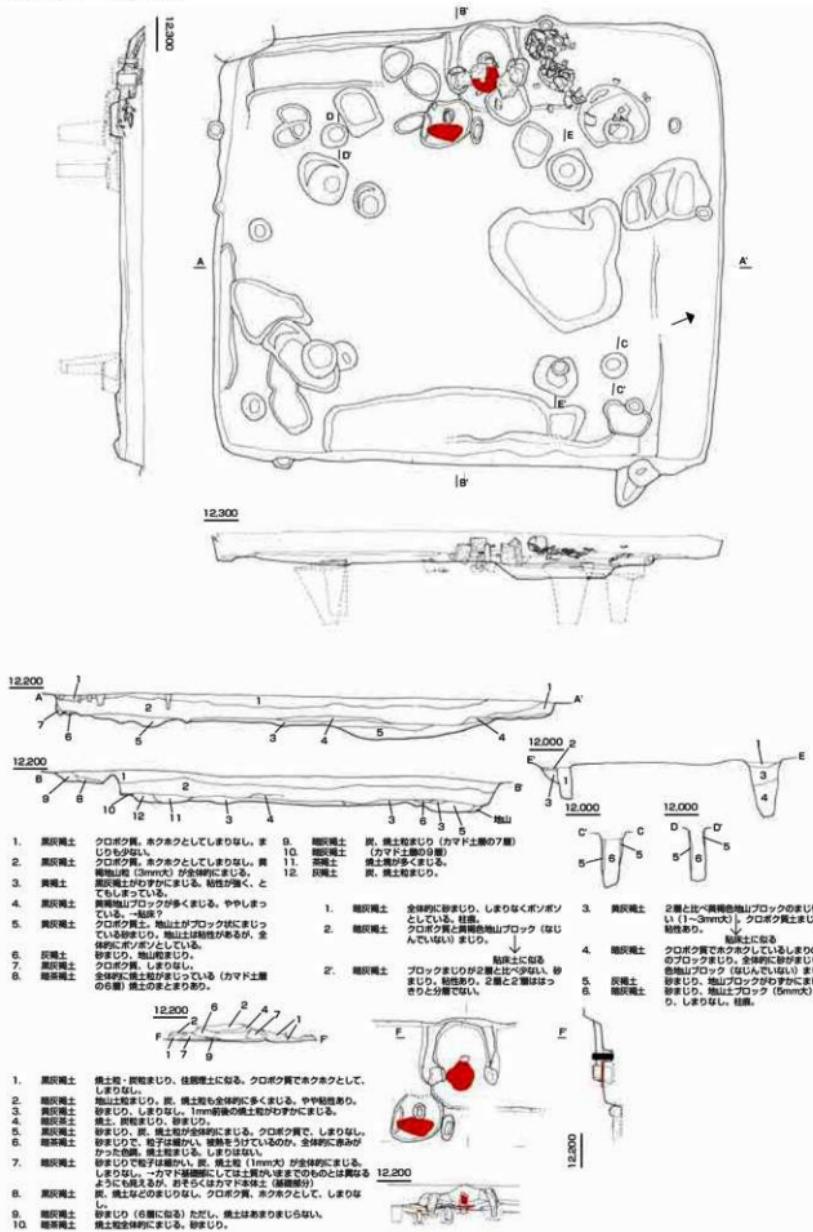


1. 鮎灰褐色  
5mm以上の焼土粒が多くまじる。しまりなし。土器片を多く含む。
2. 反褐色  
5mm以下の焼土粒まじり、砂まじり。
3. 淡灰茶土  
2層とほぼ同質。色調がわずかに明るい。
4. 灰黃褐色  
粘性あり、まじりなし。
5. 黄褐色  
地山土。粘性あり、暗灰褐色まじる。カマド底。

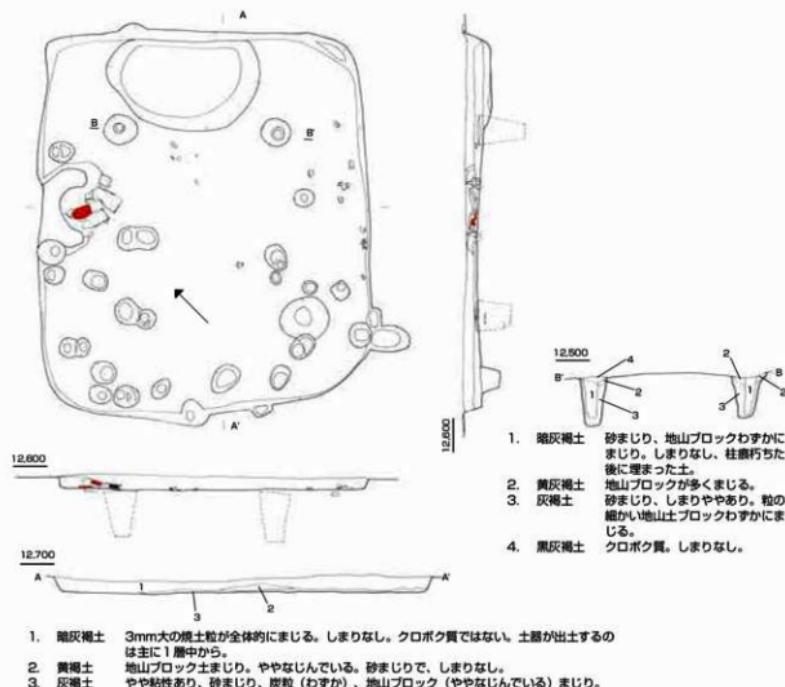


1. 灰褐色  
砂まじり、しまりなし。地山土粒わざかにまじる。黒灰褐色（クロボク質）もわざかにまじる。
2. 鮎灰褐色  
砂まじり、しまりなし。地山土粒がわざかにまじる。柱痕？
3. 灰褐色  
1層に比べ地山土粒のまじりは少ない。ボソボソとして、しまりがあまりない。やや粘性あり。
4. 淡灰褐色  
2層と同質。地山ブロックのまじり方が全体的に（クロボク質）  
↓  
黒灰褐色がわざかにまじる
5. 黄褐色  
砂まじり、地山ブロックまじり。  
しまりなし。
6. 黄褐色（地山土）  
粘性が強い。
7. 黄褐色  
黒灰褐色（クロボク質）ブロック  
がまじる。
8. 鮎灰褐色  
ホクホクとして、しまりなし。焼土粒まじり。
9. 灰褐色  
なじんでいる地山土まじり。（まじる割合は高い）
10. 反褐色  
地山土粒まじり。砂まじり、しまりなし。（ややなじんでいる）
11. 黒灰褐色  
クロボク質、ホクホクとして、しまりなし。地山土ブロックがわざかにまじる。
12. 灰褐色  
砂まじり、しなりなし。3層と比べ、地山土ブロックのまじり方が少ない。

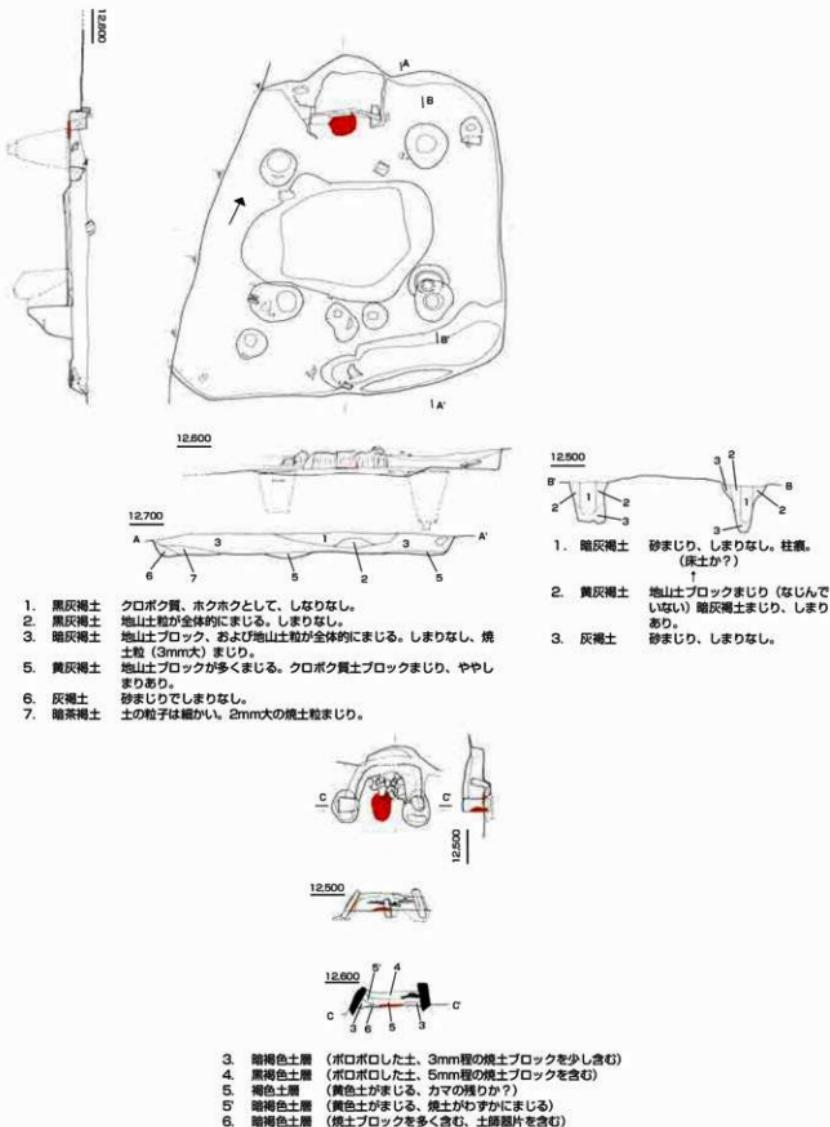
第10図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SH-12 (S = 1/60)



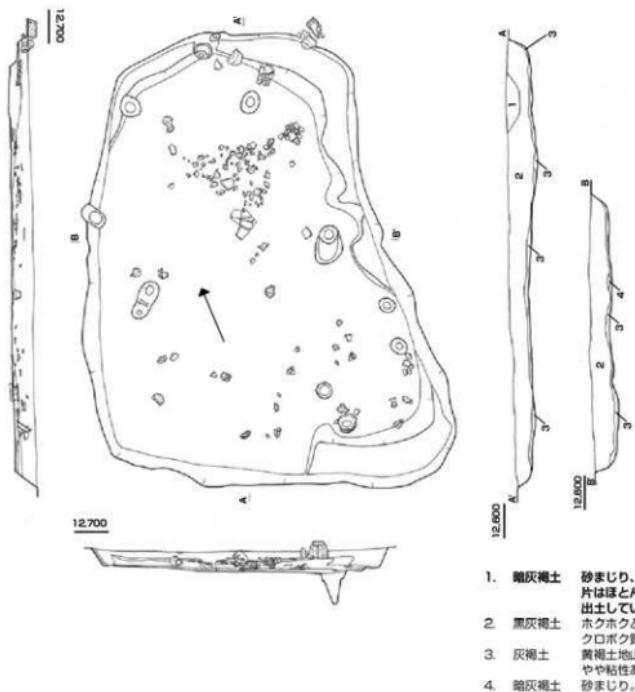
第 11 図 諸田遺跡 二反田地区 B 区 SH-14 (S = 1 / 60)



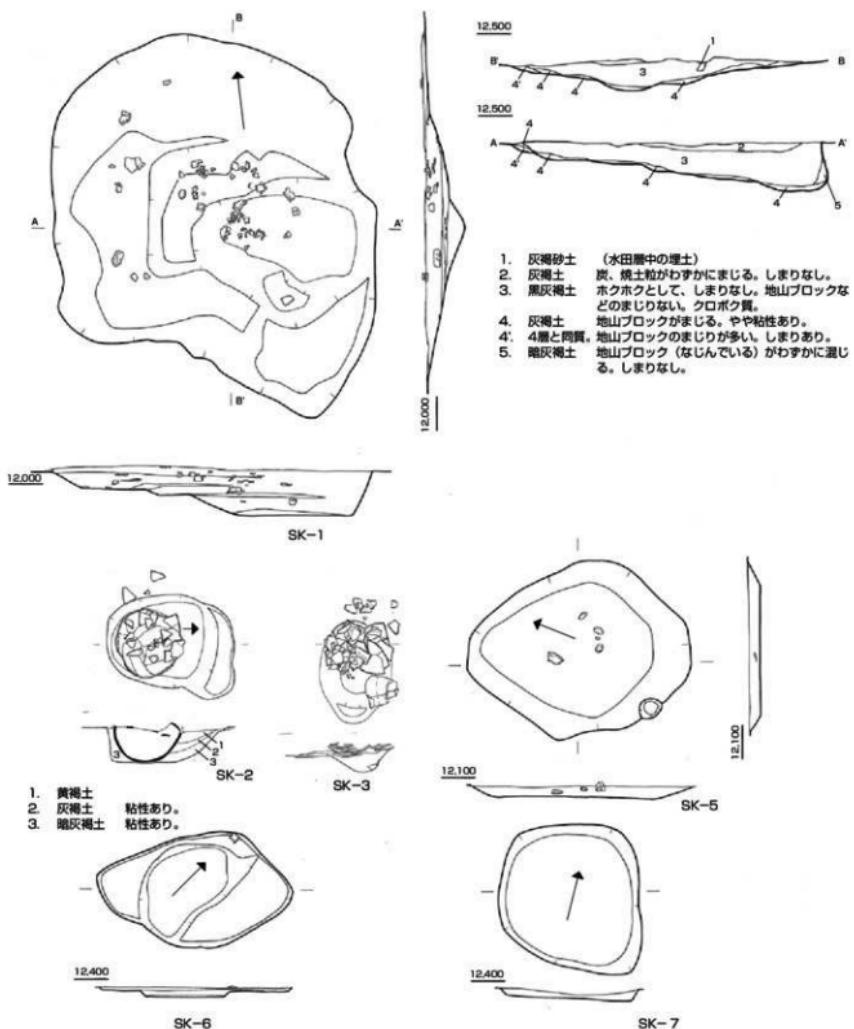
第12図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SH-15 (S = 1 / 60)



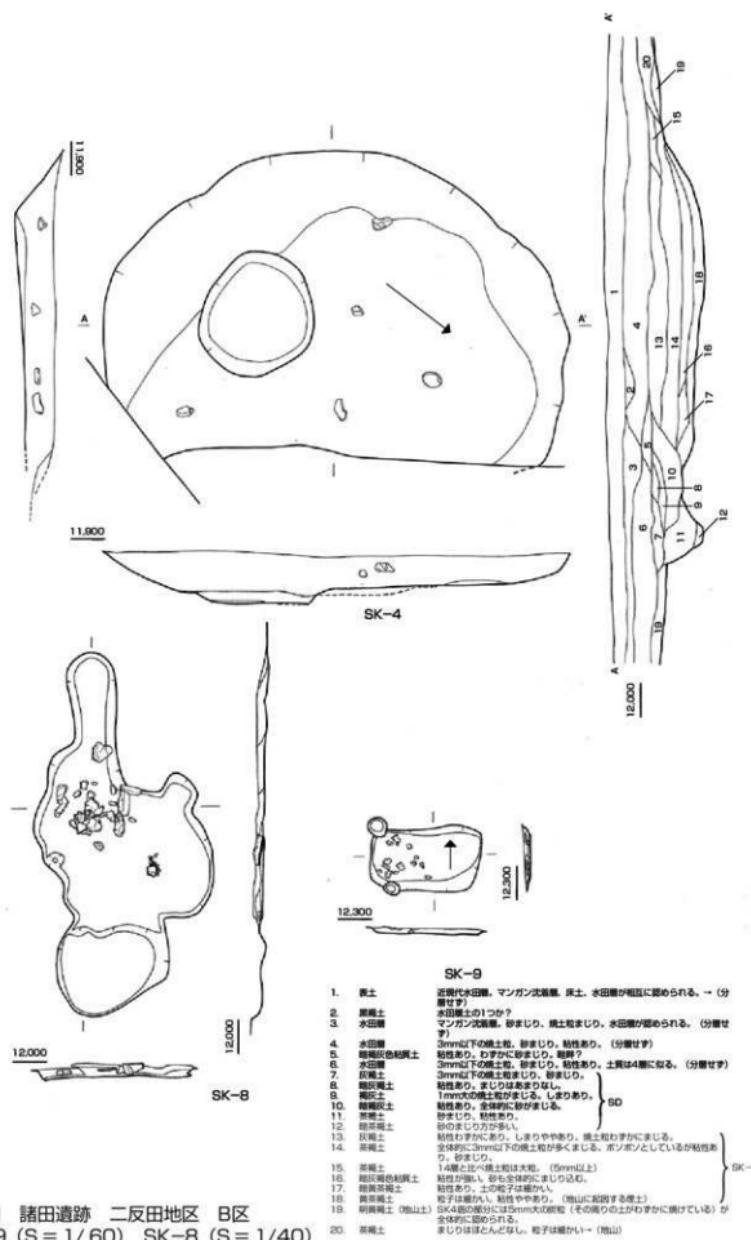
第13図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SH-16 (S = 1/60)



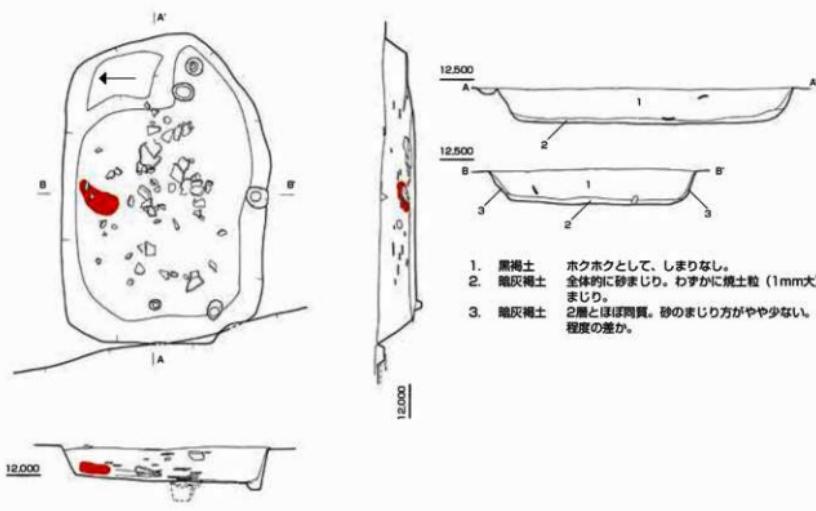
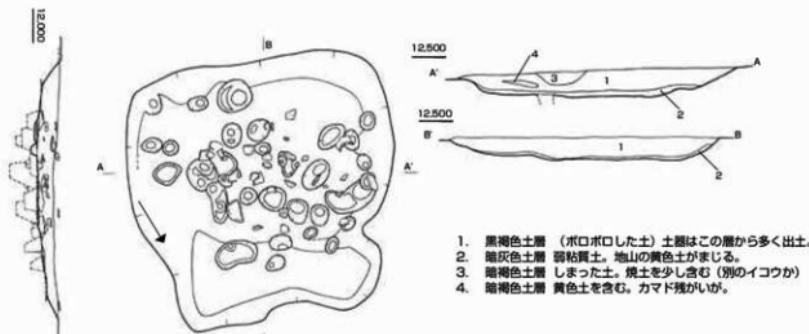
第14図 諸田遺跡 二反田地区 B区SH-17 (S = 1/60)



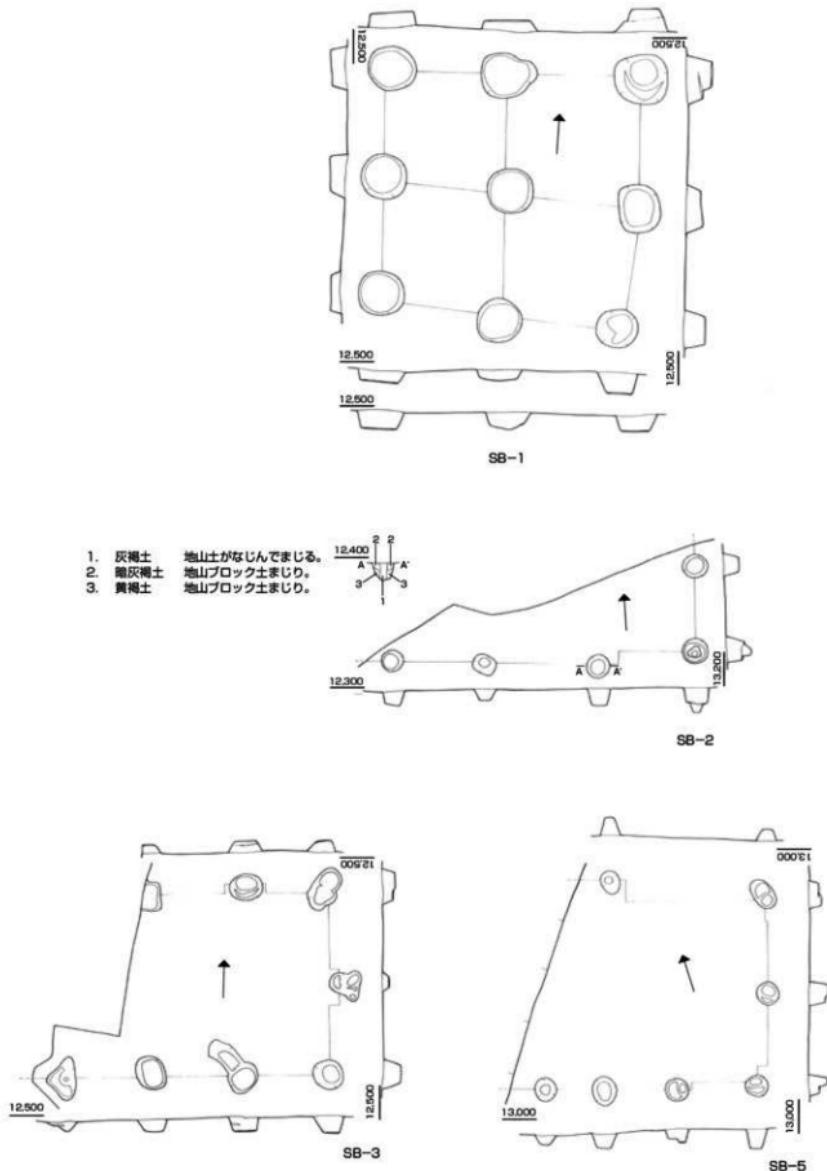
第15図 諸田遺跡 二反田地区  
A区SK-1 ( $S = 1/60$ ) B区SK-2,3 ( $S = 1/40$ ), SK-5,6,7 ( $S = 1/60$ )



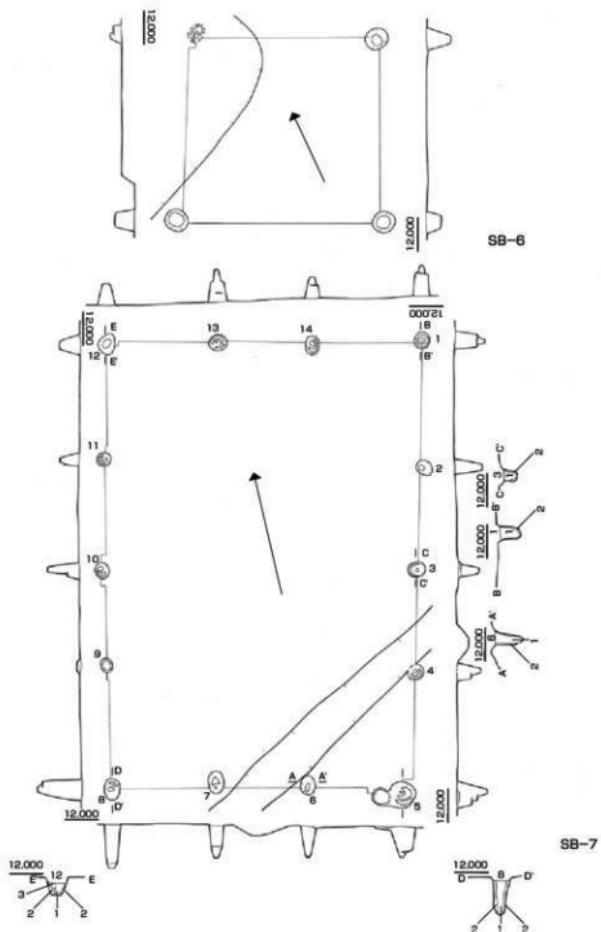
第16図 諸田遺跡 二反田地区 B区  
SK-4, 9 (S = 1/60) SK-8 (S = 1/40)



第 17 図 諸田遺跡 二反田地区 B区SK-10, 11 (S = 1/60)



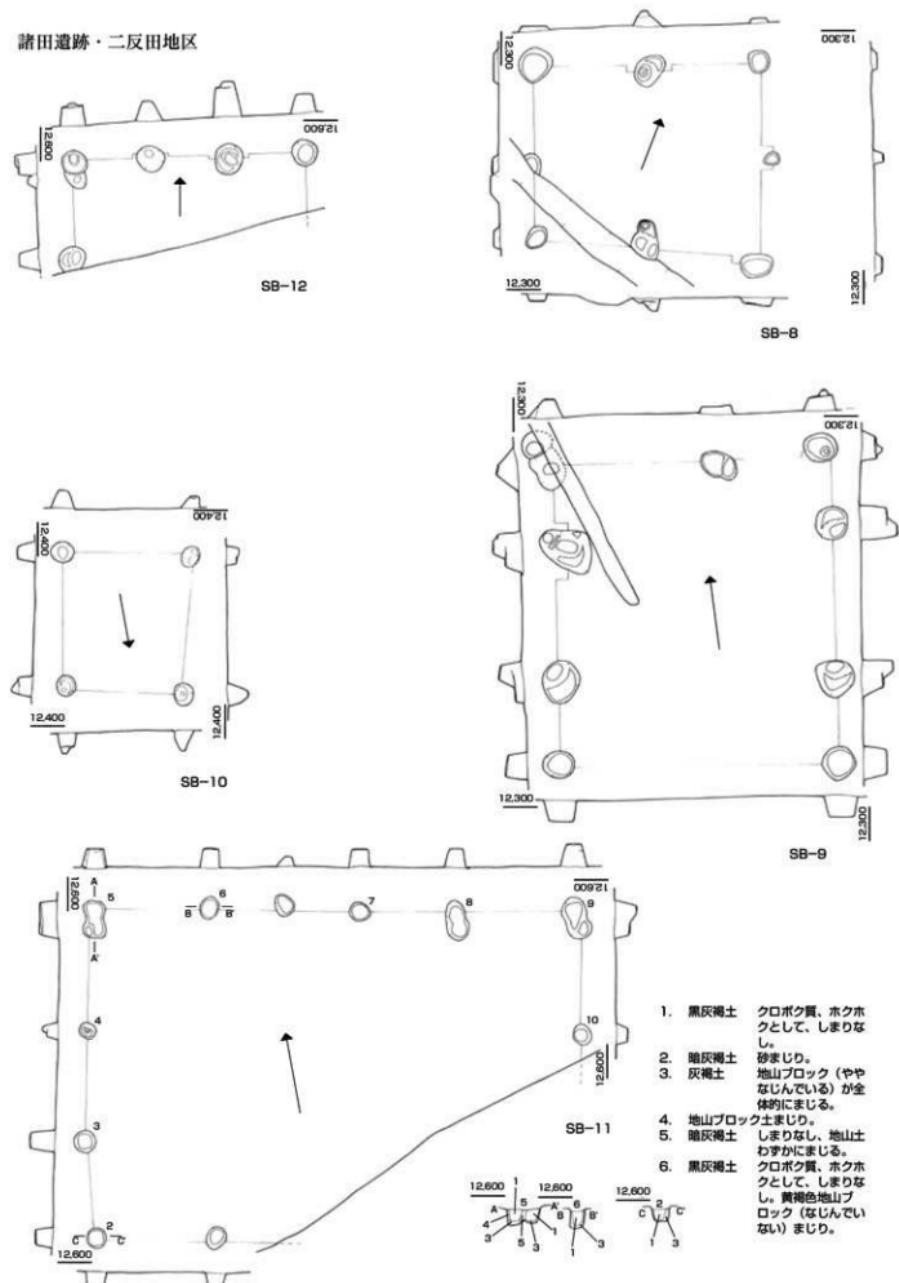
第18図 諸田遺跡 二反田地区 A区 SB-1,2,3 B区 SB-5 (S = 1/80)



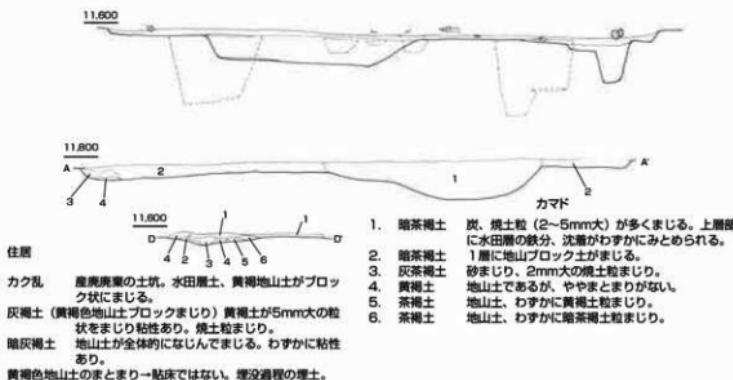
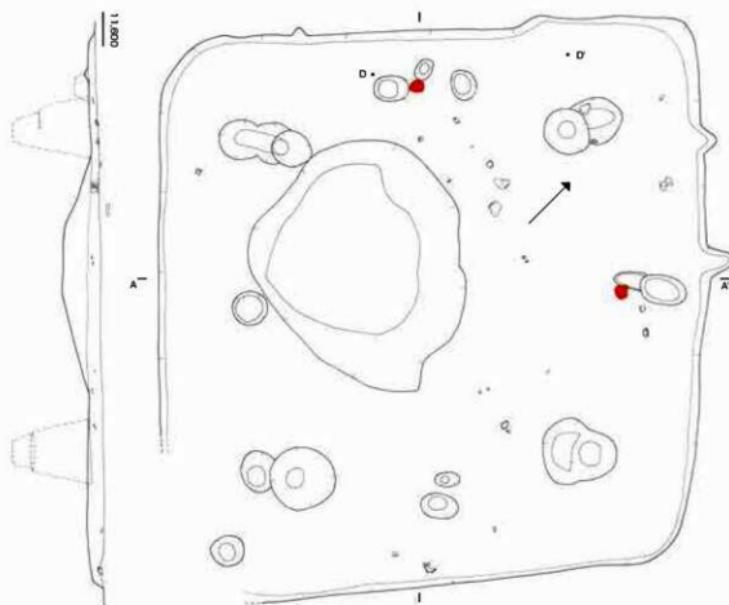
1. 黒灰褐色土 クロボク質。ホクホクとしてしまりなし。
2. 灰褐色土 砂まじり。地山土粒まじり。
3. 黑灰褐色土 クロボク質。地山粒まじり。
4. 黄褐色土 黒灰褐色土ブロックまじり。

第19図 諸田遺跡 二反田地区 B区SB-6, 7 (S = 1/80)

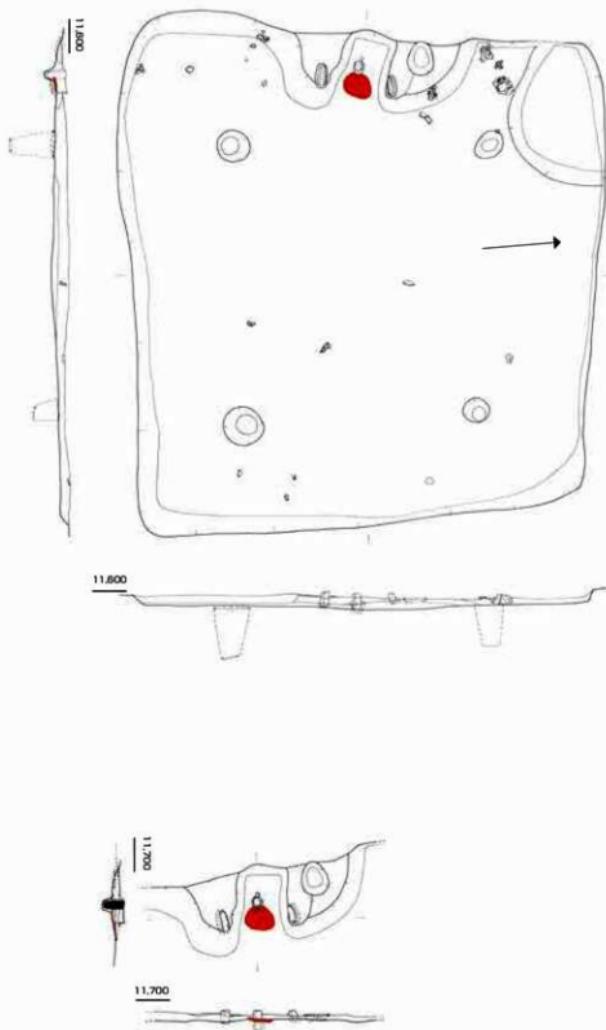
諸田遺跡・二反田地区



第20図 諸田遺跡 二反田地区 B区 SB-8, 9, 10, 11, 12 (S = 1/80)

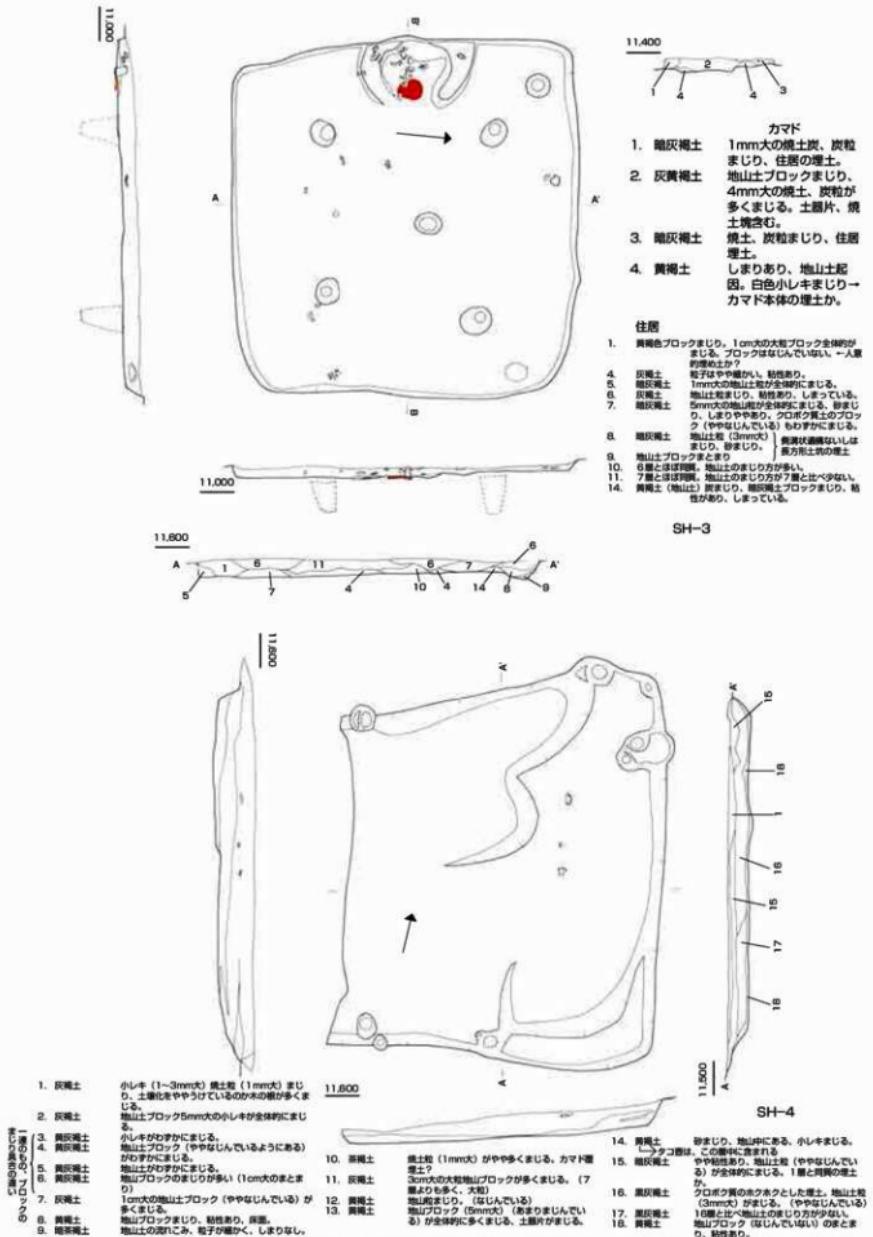


第1図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-1 (S = 1/60)

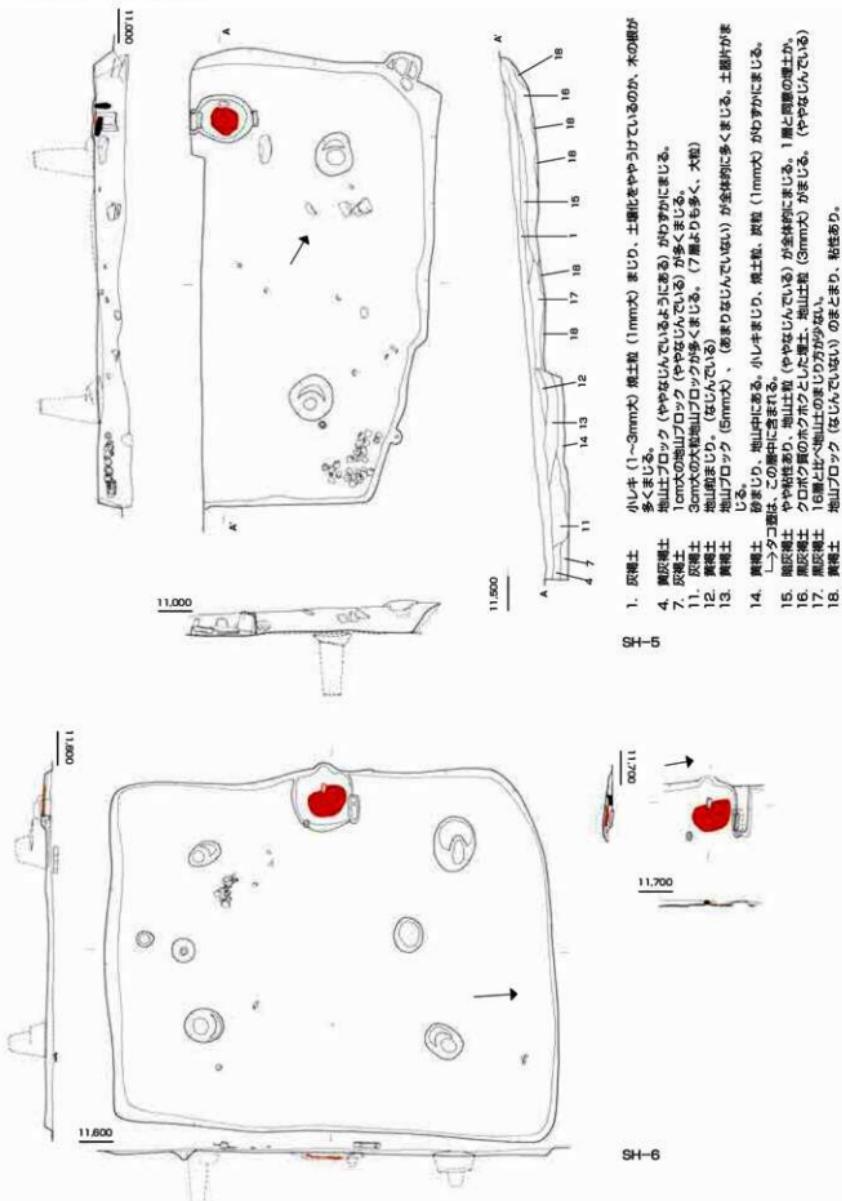


第2図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-2 (S = 1/60)

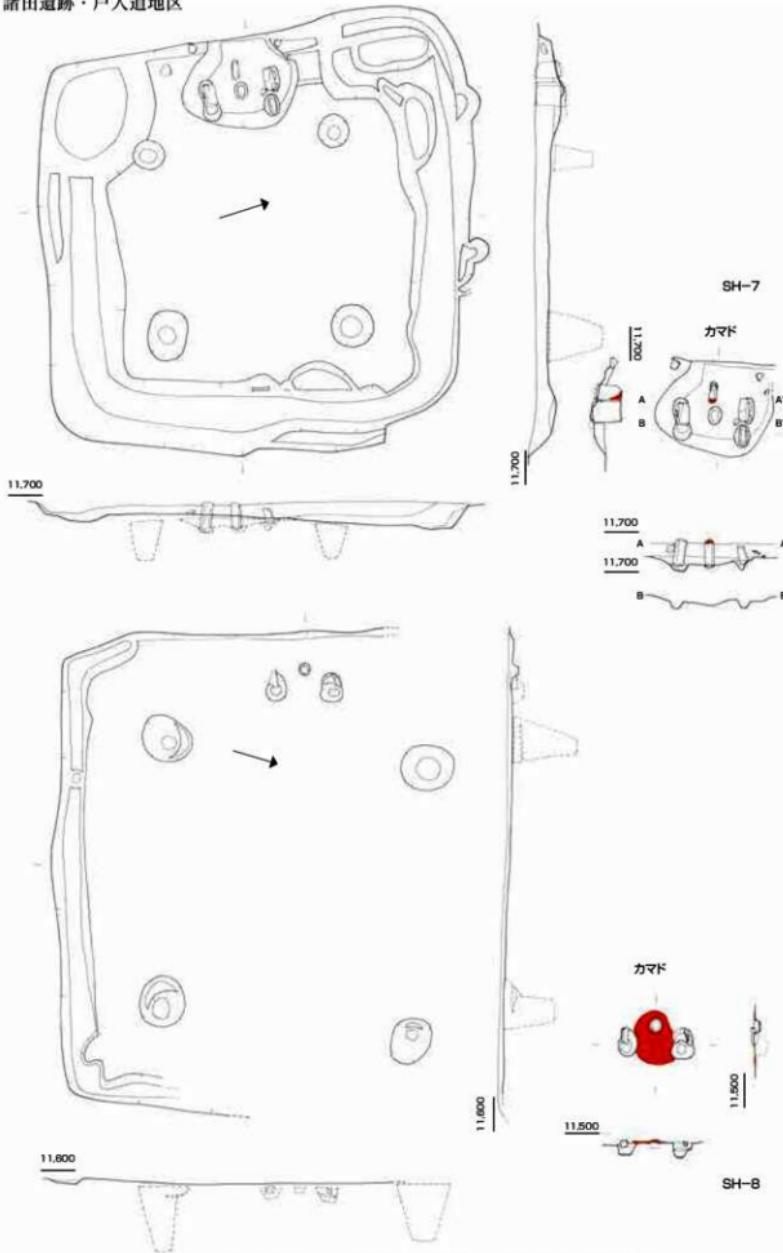
諸田遺跡・戸入道地区



第3図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-3, 4 (S = 1/60)

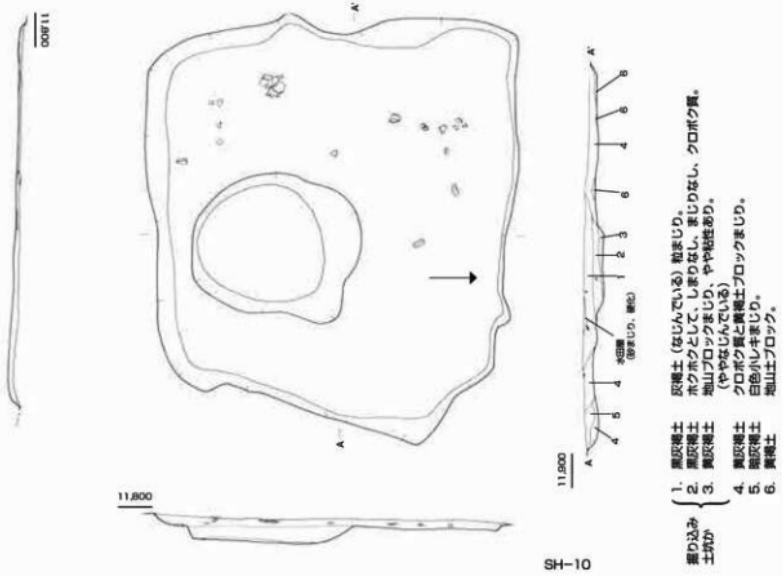


第4図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-5, 6 (S = 1/60)

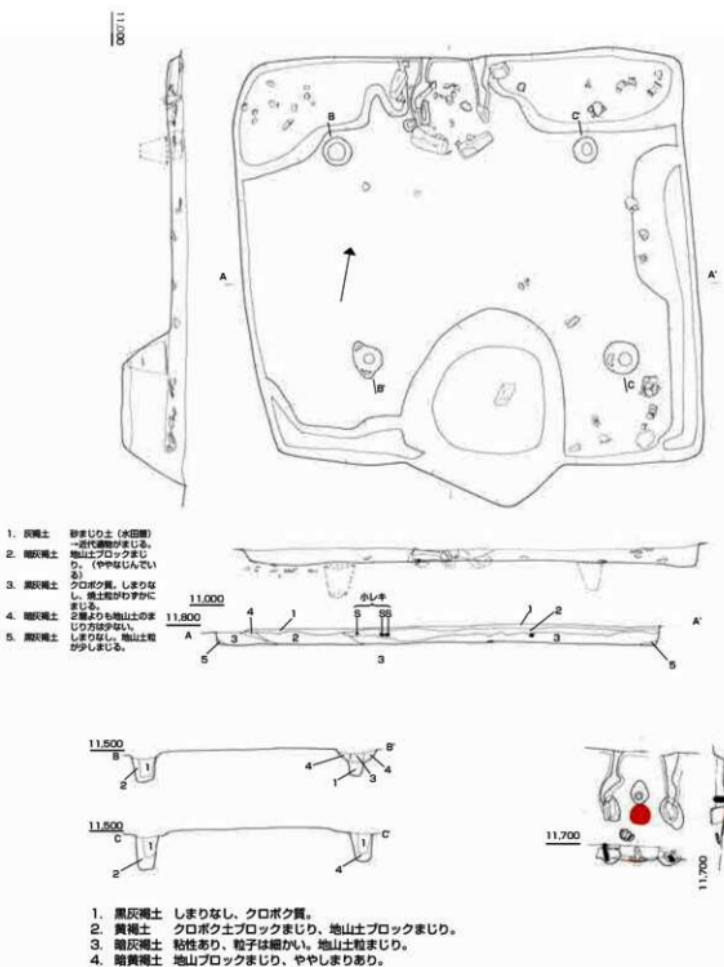


第5図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-7,8 (S = 1/60)

### 諸田遺跡・戸入道地区

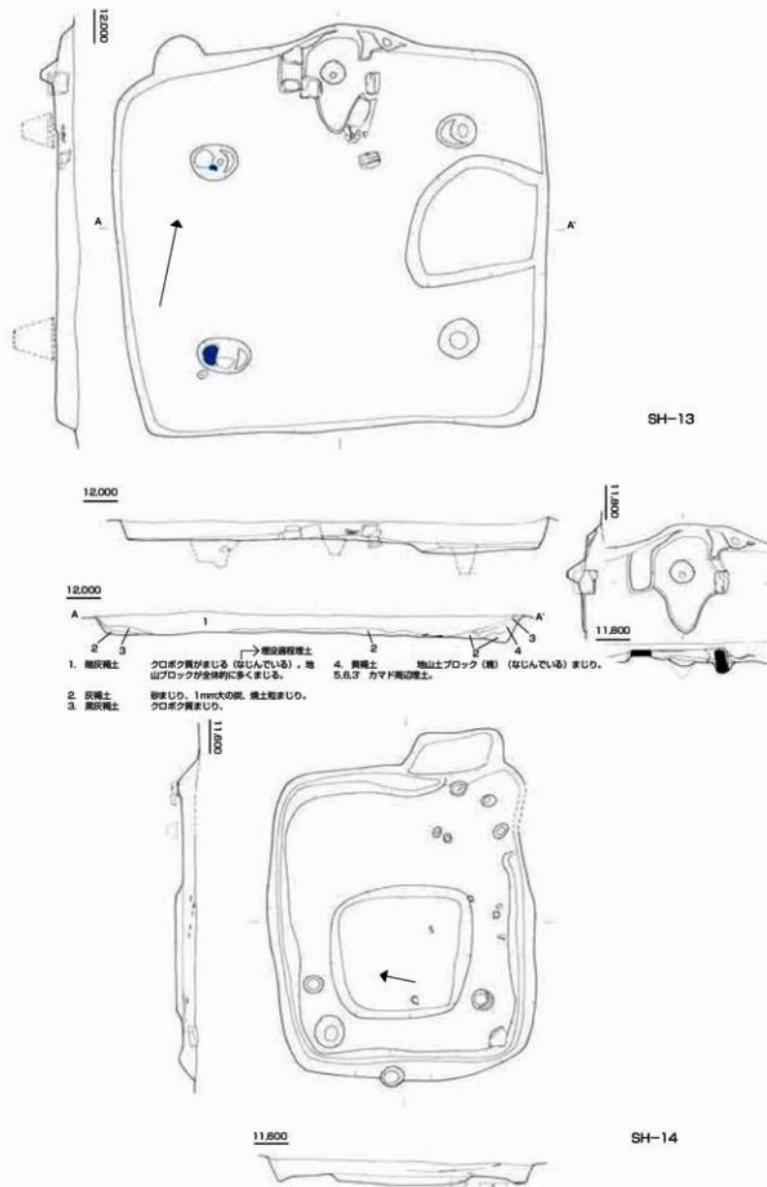


第6図 藤田遺跡 壱入道地区 SH=10-11 (S=1/60)

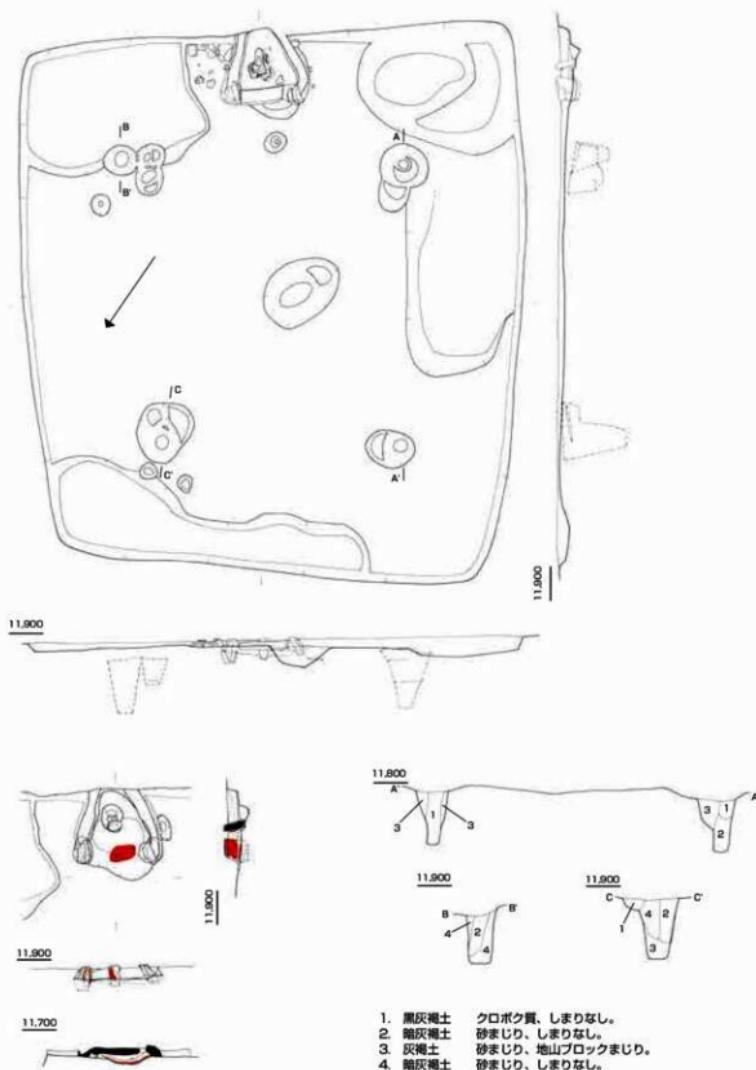


第7図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-12 (S = 1/60)

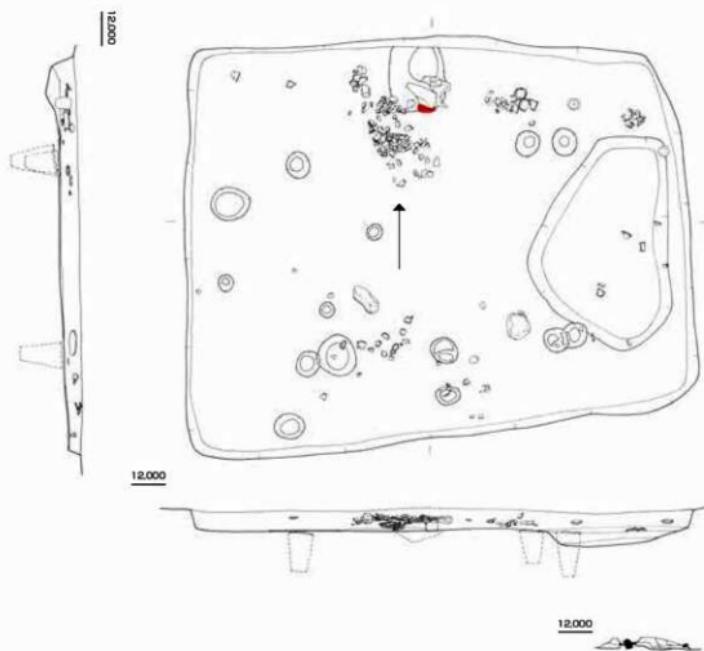
諸田遺跡・戸入道地区



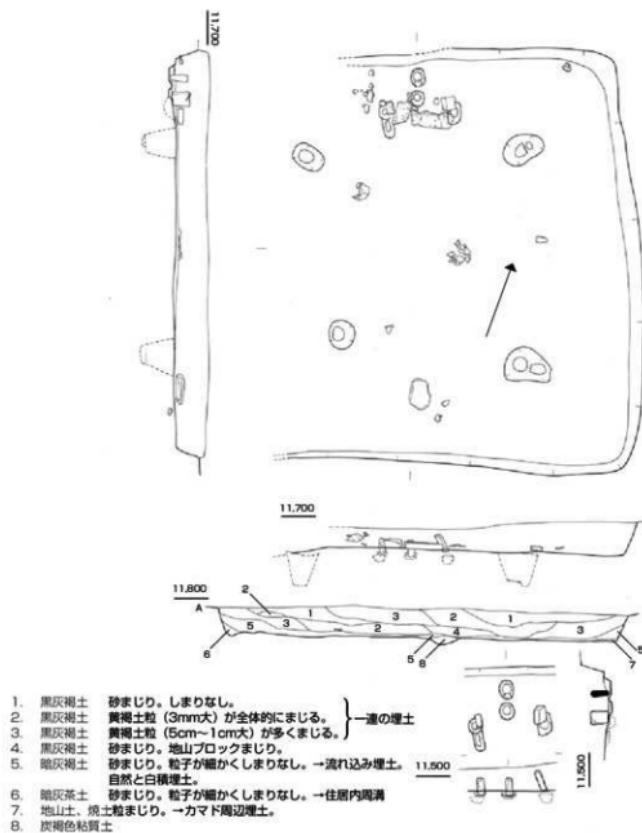
第8図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-13, 14 (S = 1/60)



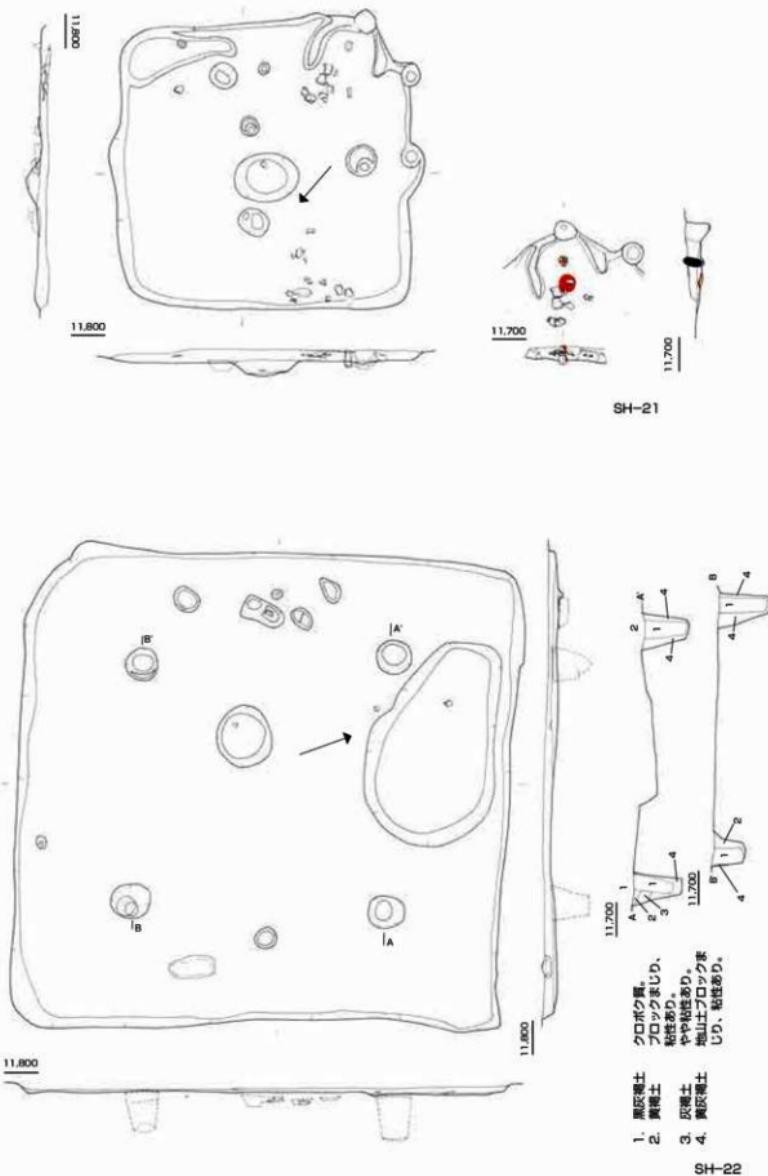
第9図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-15 (S = 1/60)



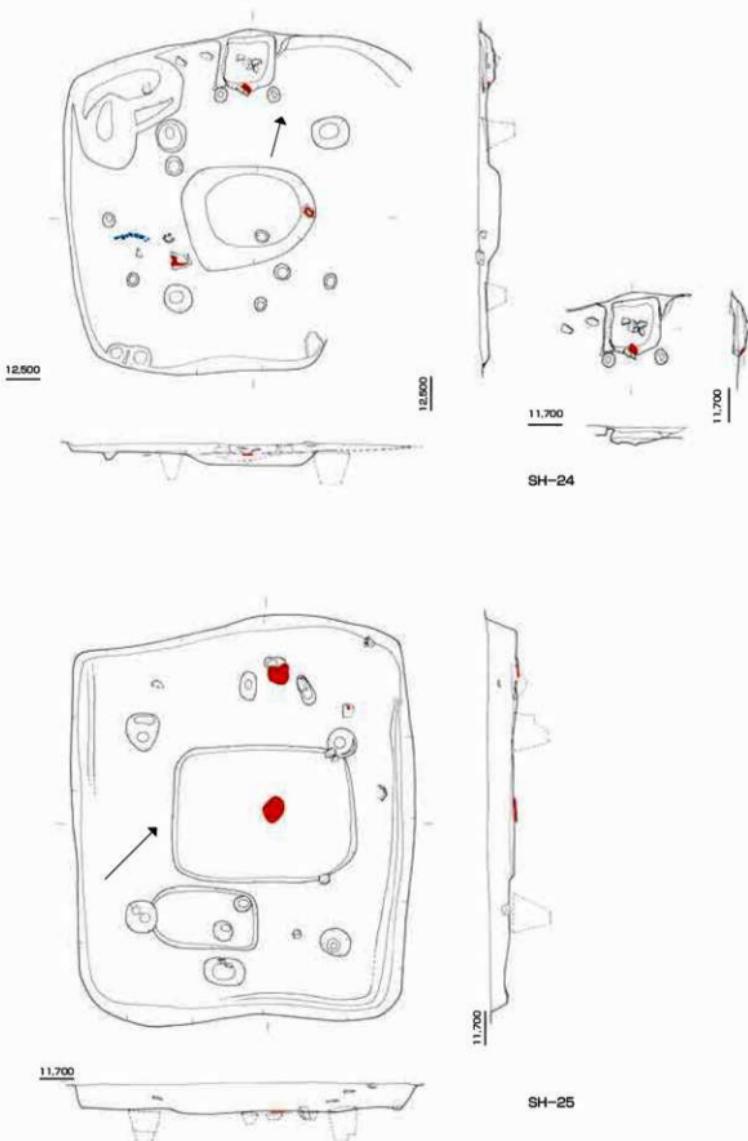
第10図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-18 (S = 1/60)



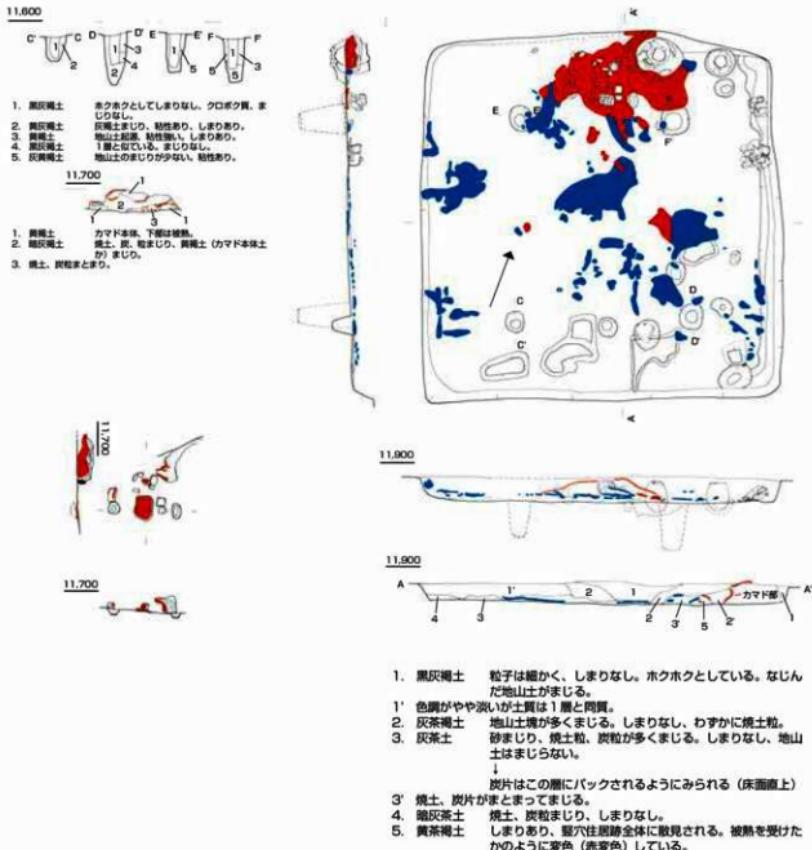
第11図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-19 (S = 1/60)



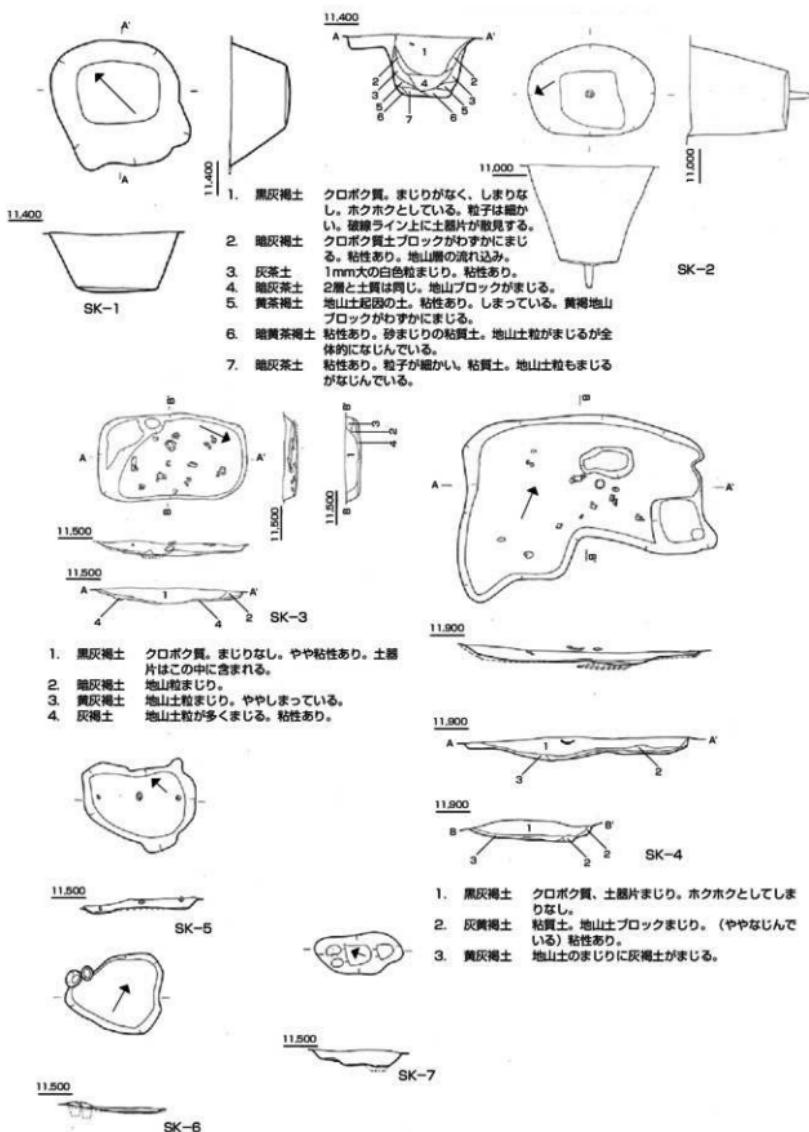
第12図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-21, 22 (S = 1/60)



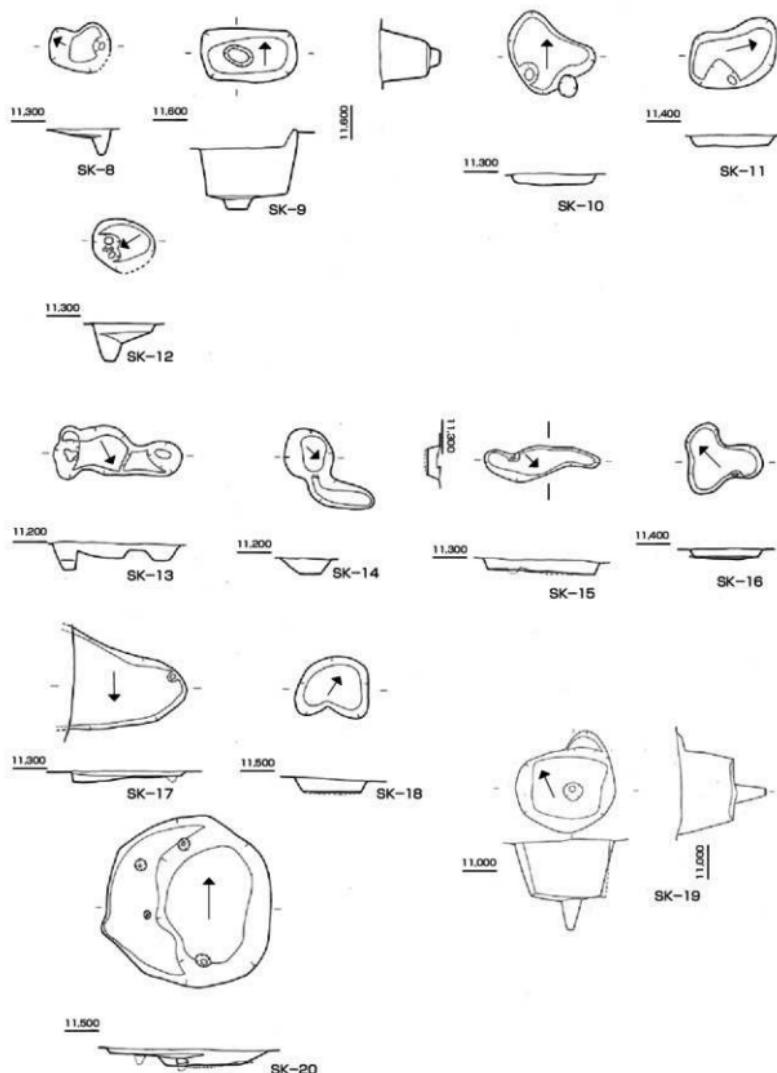
第13図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-24, 25 (S = 1/60)



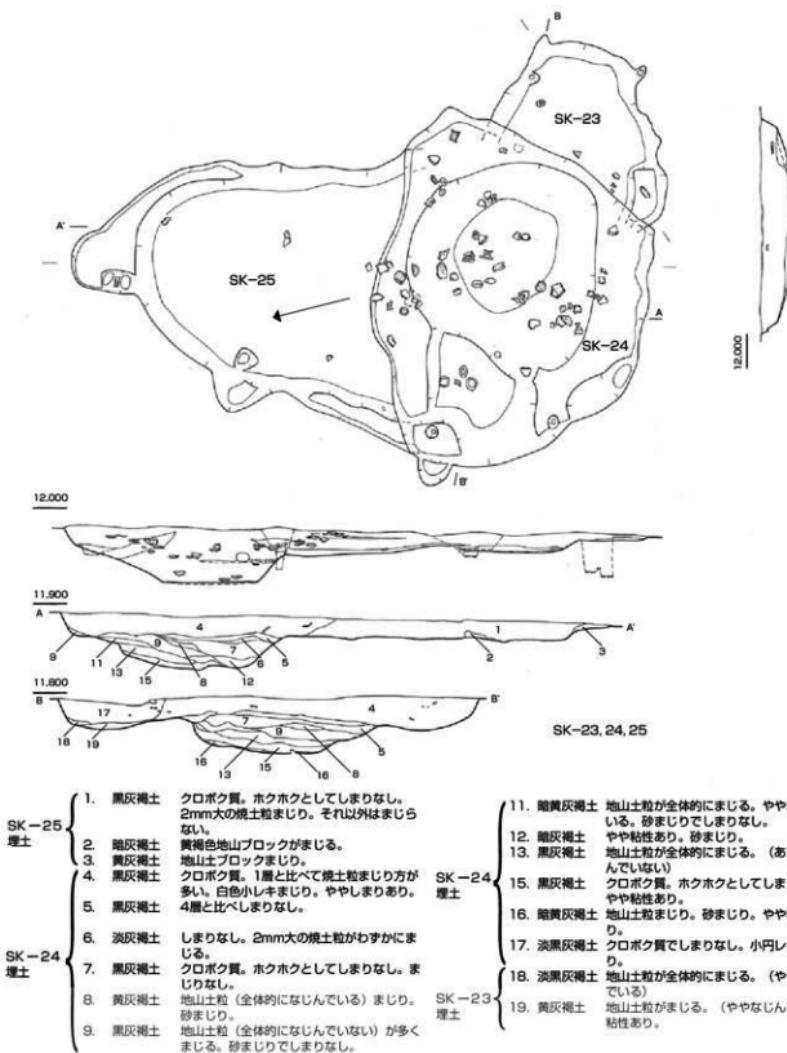
第14図 諸田遺跡 戸入道地区 SH-26 (S = 1 / 60)



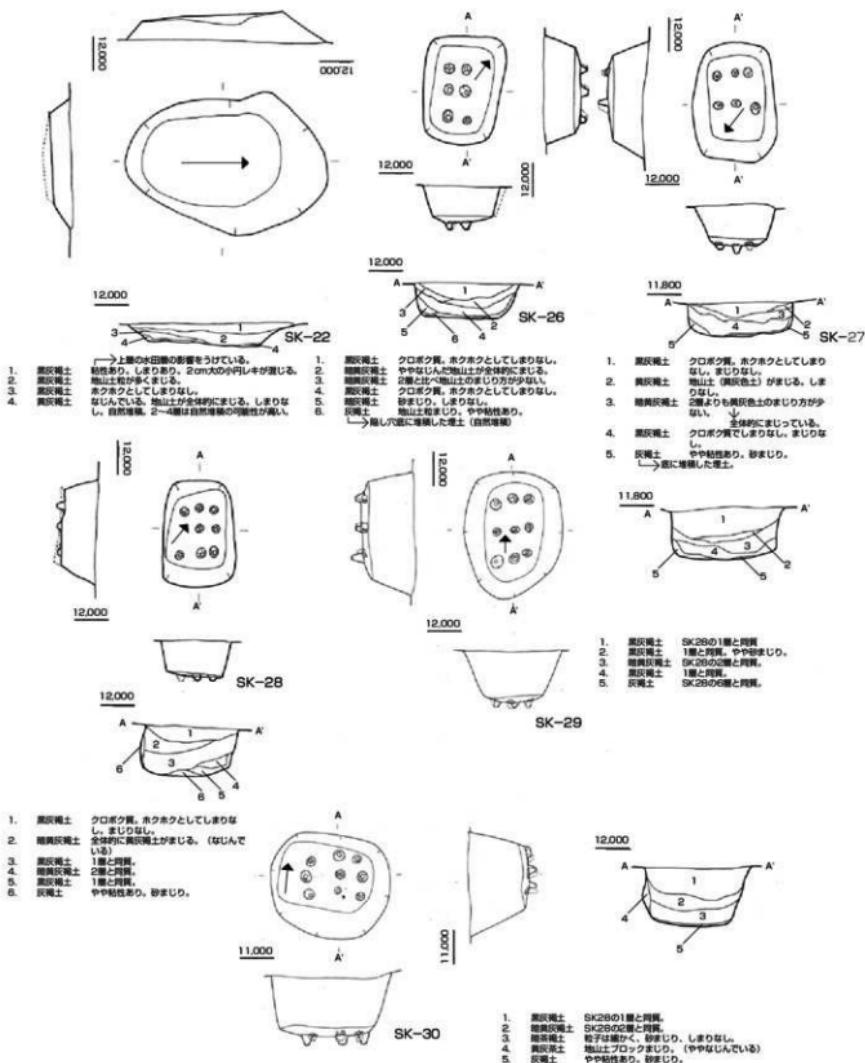
第15図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 (S = 1/60)



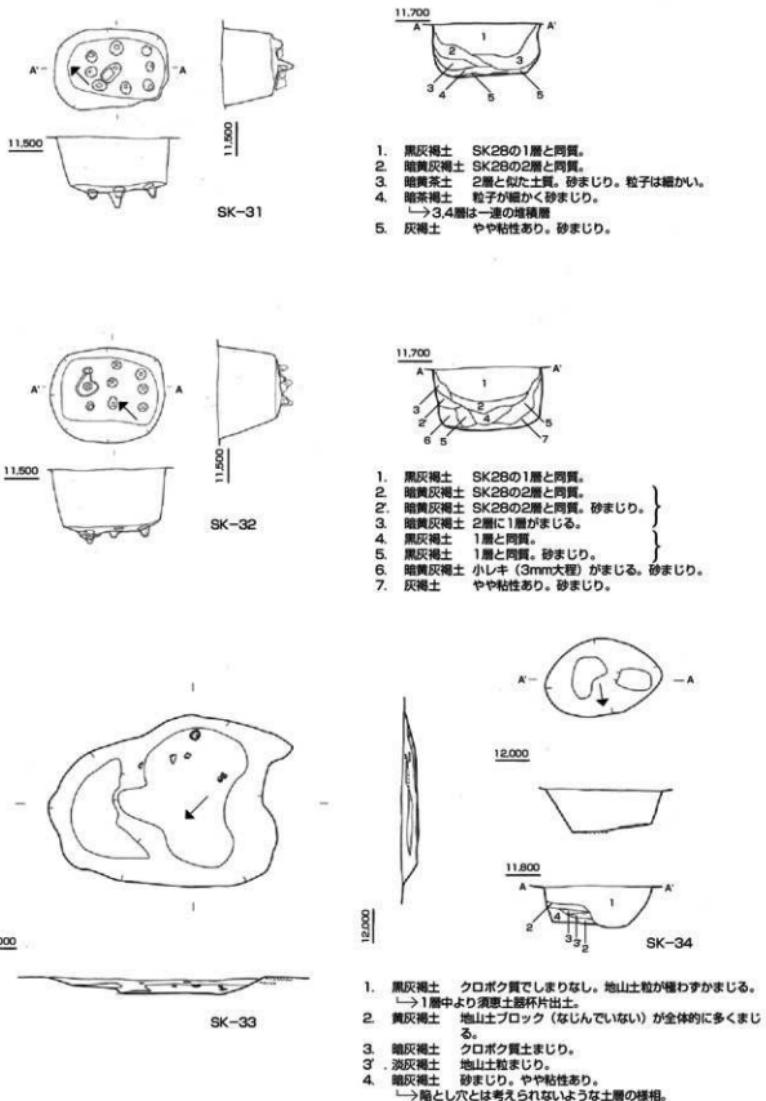
第16図 諸田遺跡 戸入道地区  
SK-8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20 (S = 1/60)



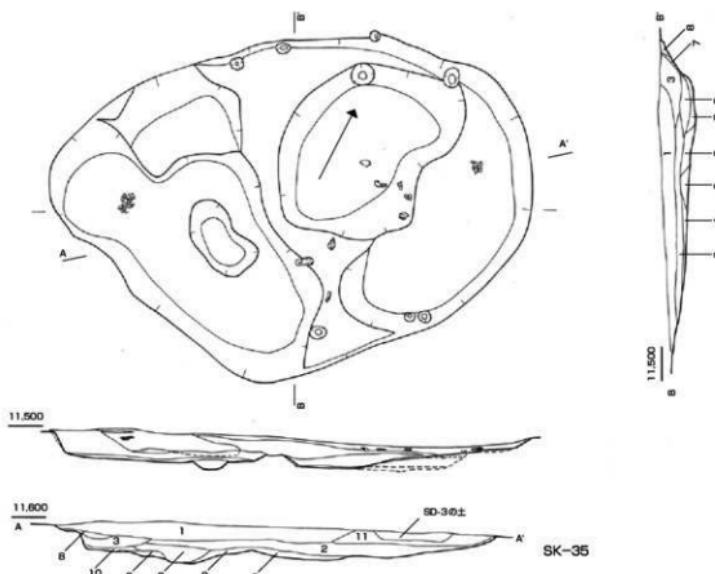
第17図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-23, 24, 25 (S = 1/60)



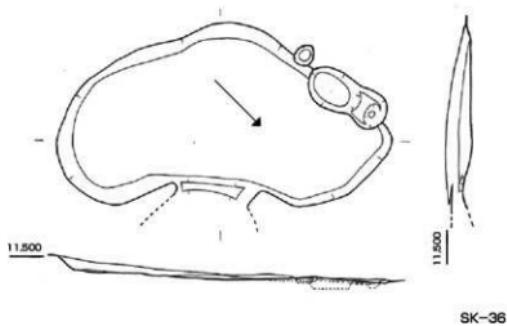
第18図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-22, 26, 27, 28, 29, 30 (S = 1/60)



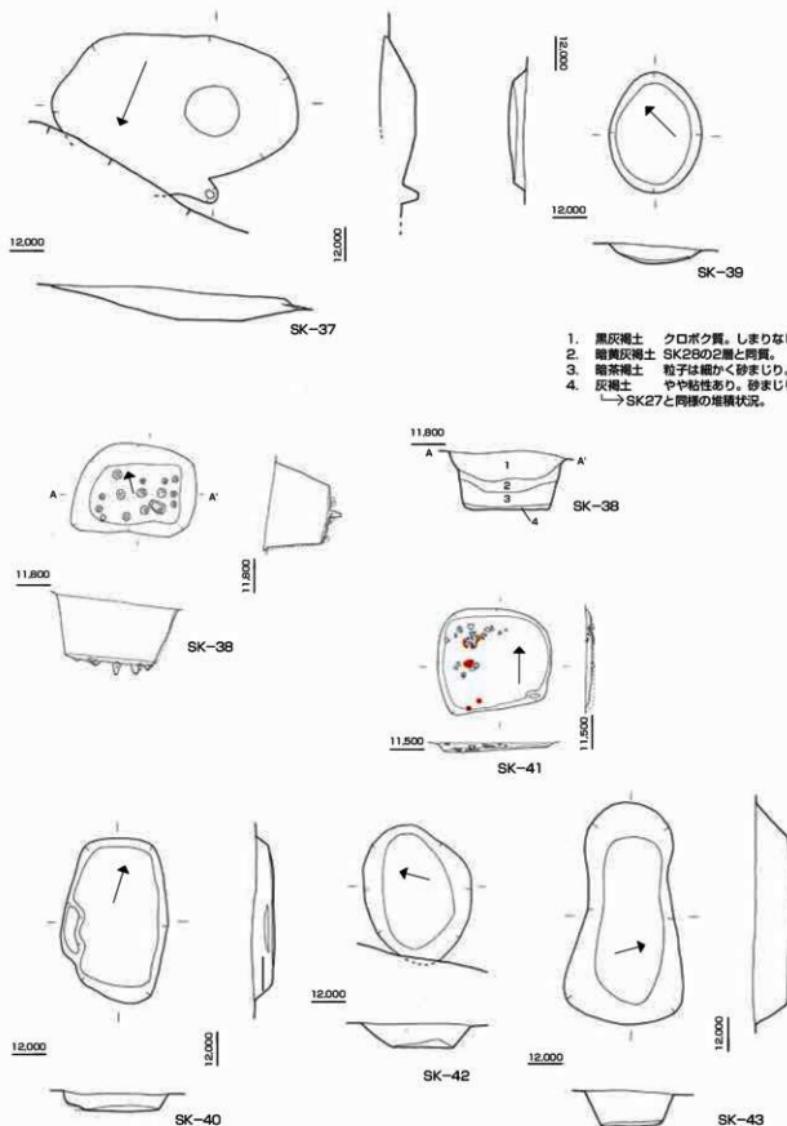
第19図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-31, 32, 33, 34 (S = 1 / 60)



1. 黒灰褐色 地山土粒がまじりなし。クロボク質でホクホクとしている。
2. 灰褐色 3~5mm大の地山土粒が全体的に多くまじる。
3. 灰褐色 2層と同質だが、地山土粒はまじらない。
4. 黑灰褐色 クロボク質土粒がまじる。しまりなし。
5. 灰褐色 クロボク質土粒がまじる。しまりなし。
6. 黄灰褐色 地山土ブロックまじる。(多く)(なじんでいない)
7. 暗黄灰褐色 地山土(なじんでいる)が全体にまじる。
8. 灰褐色 地山土まじらない。砂まじりでしまりなし。
9. 黄褐色 地山土ブロックまじり土。
10. 暗黄灰褐色 地山土がなじんでまじっている。
11. 黑灰褐色 2mm大の燒土粒がまじる。1層と同質。

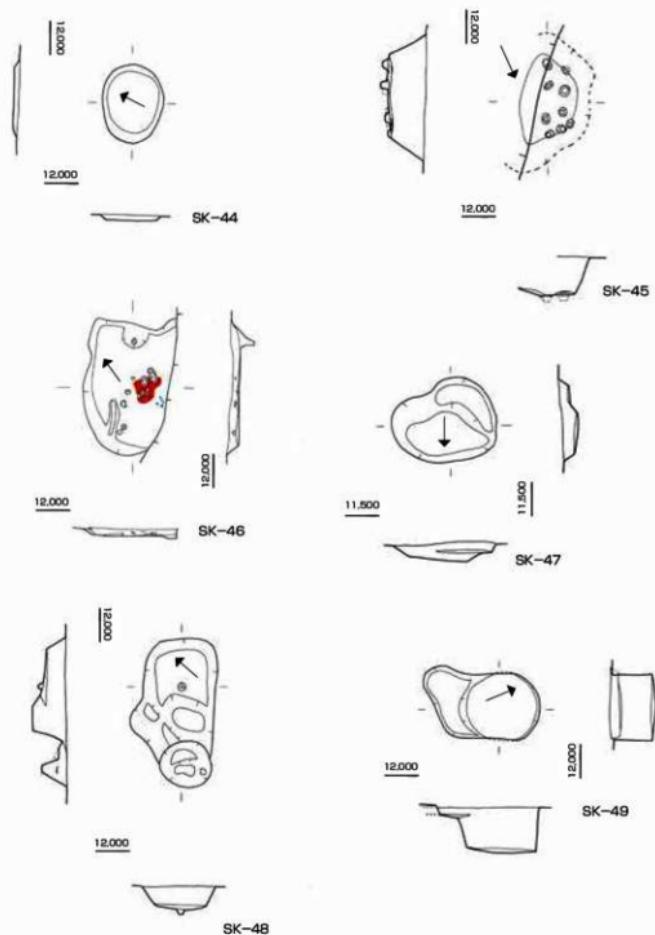


第20図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-35, 36 (S = 1/60)

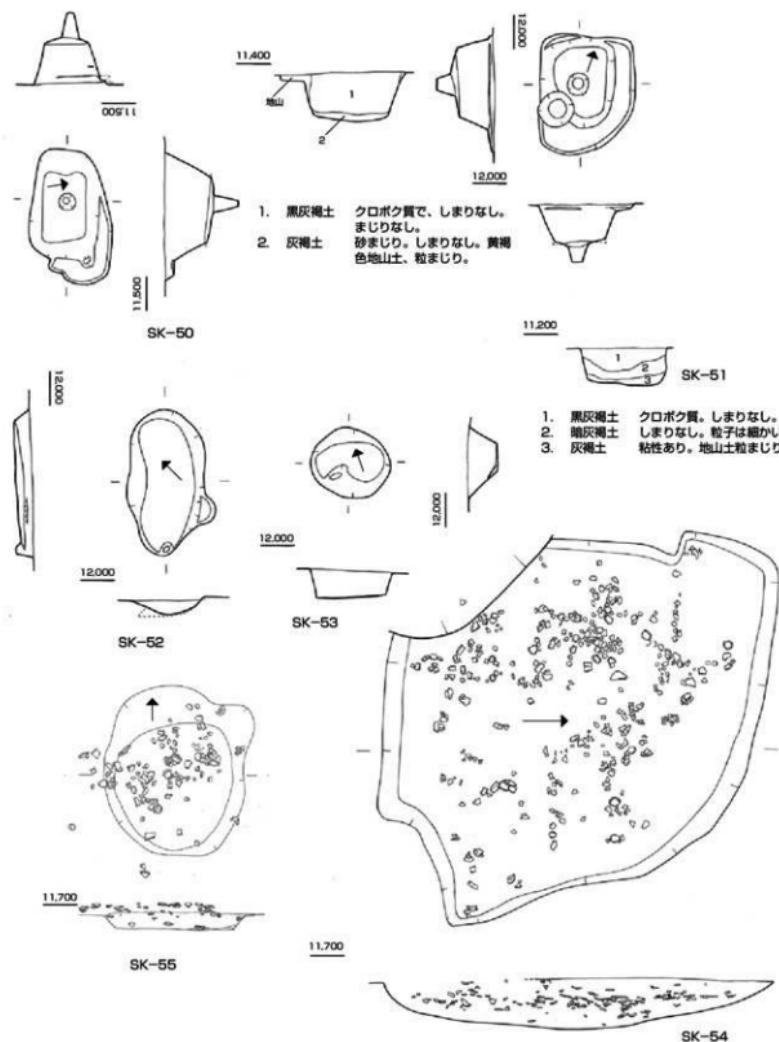


1. 黒灰褐色 クロボク質。しまりなし。
  2. 暗黄灰褐色 SK2802層と同質。
  3. 茶褐色 粒子は細かく砂まじり。
  4. 反褐色 やや粘性あり。砂まじり。
- SK27と同様の堆積状況。

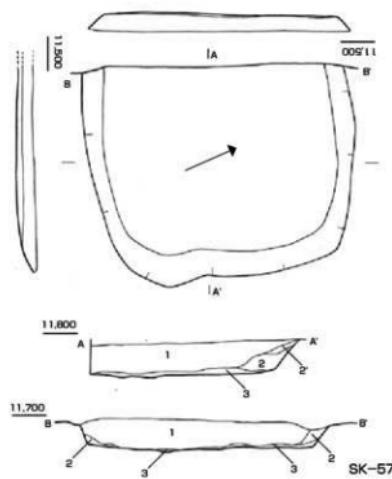
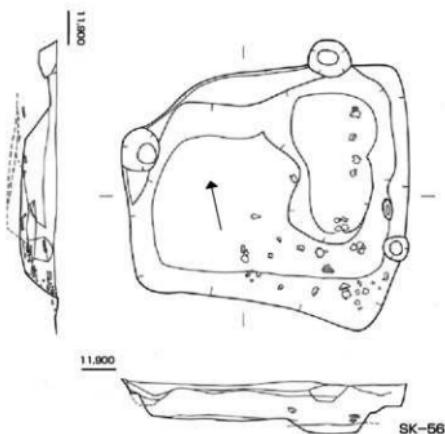
第21図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-37, 38, 39, 40, 41, 42, 43 (S = 1 / 60)



第22図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-44, 45, 46, 47, 48, 49 (S = 1/60)



第23図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-50, 51, 52, 53, 54, 55 (S = 1/60)

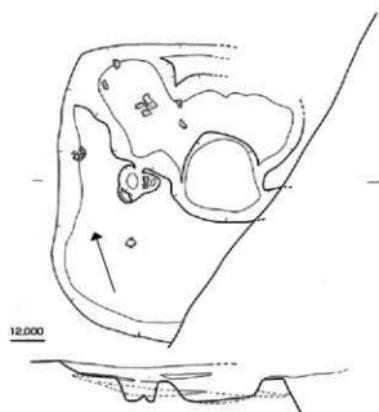


1. 黒灰褐土 クロボク質でホクホクとする。しまりなし。
2. 薄灰褐土 地山土塊がまじる。(なじんでいない) 砂まじり。しまりなし。
- 2'. 薄灰褐土 地山土塊なし。あとは2層と同質。
3. 灰褐土 砂まじり。やや粘性あり。地山土ブロックまじり。

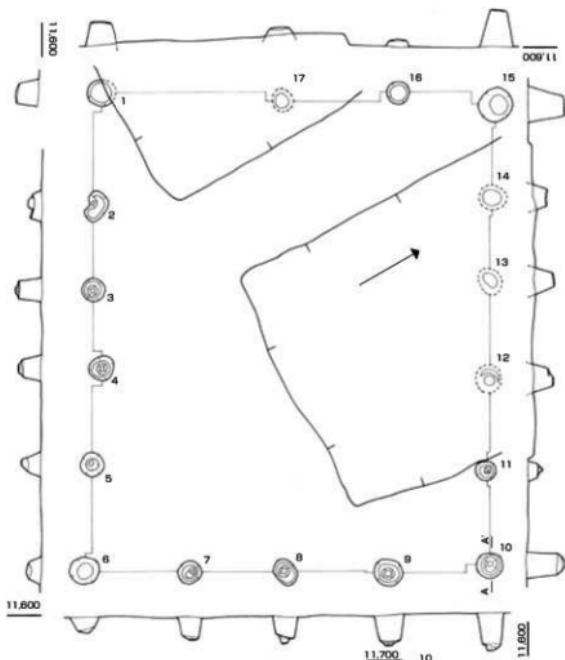
第24図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-56, 57 (S = 1/60)



第25図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-58 (S = 1/40)

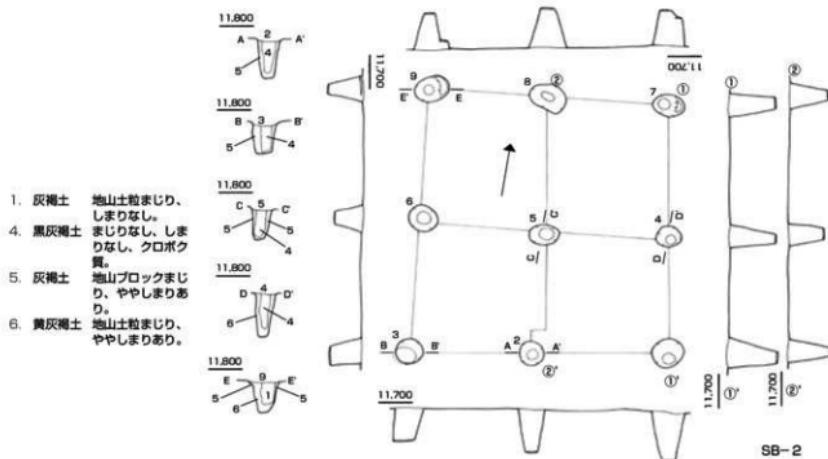


第26図 諸田遺跡 戸入道地区 SK-59 (S = 1/60)

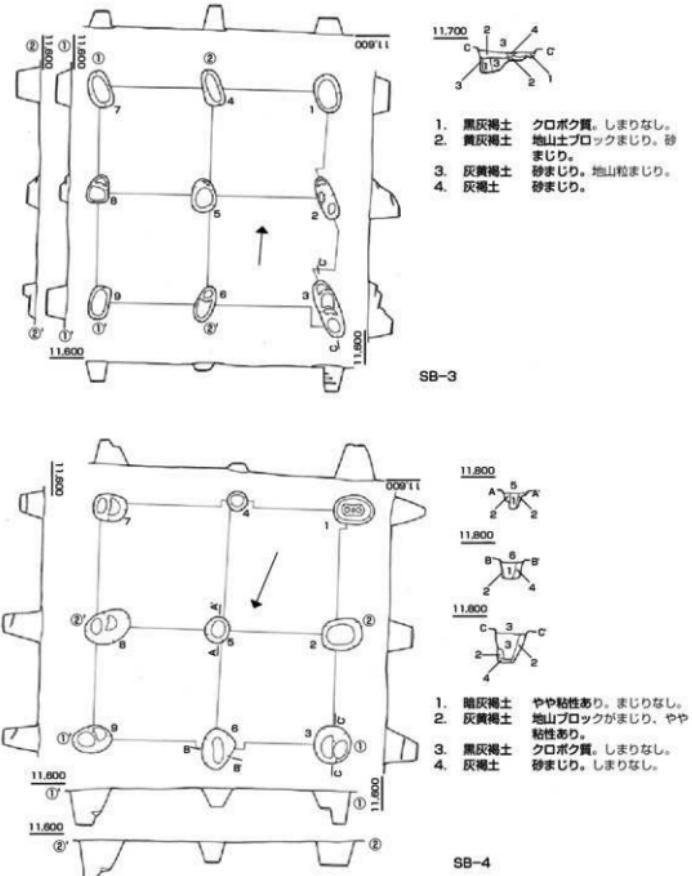


1. 鑿灰褐色 地山土粒1mm大の焼土粒まじり。
2. 黄灰褐色 地山土ブロック(なじんでいない)まじり。しまりあり。
3. 灰黄褐色 地山土ブロック(なじんでいない)まじる。
4. 黄灰褐色 2層よりも地山土のまじりは少ない。しまりあり。
5. 鑿灰褐色 焼土粒まじり、砂まじり。しまりなし。柱痕。

SB-1

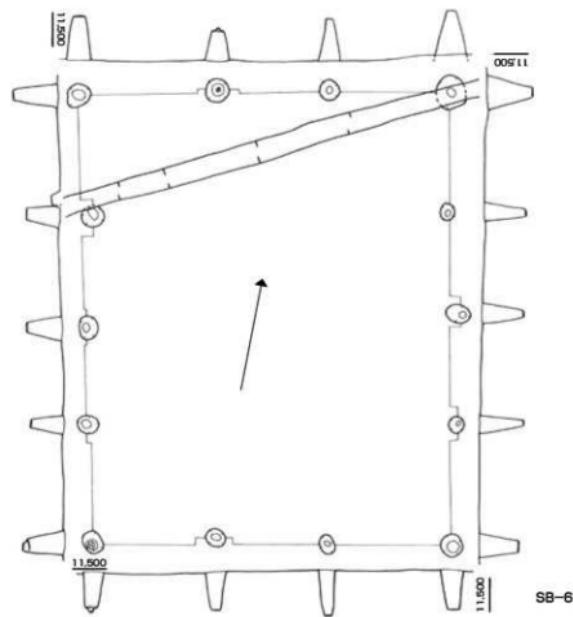
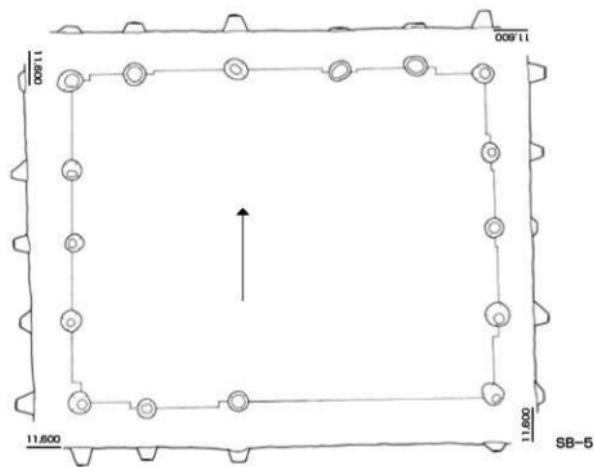


第27図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-1,2 (S = 1/80)

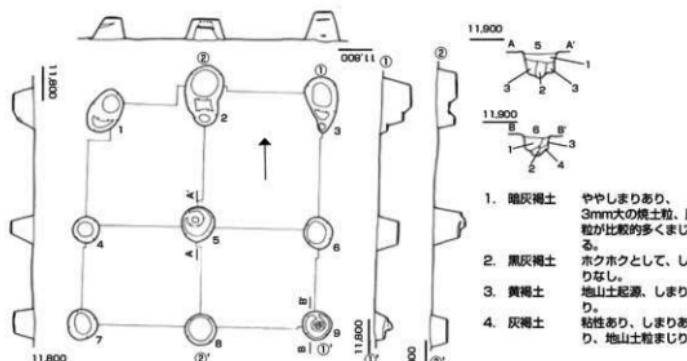


第28図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-3, 4 (S = 1/80)

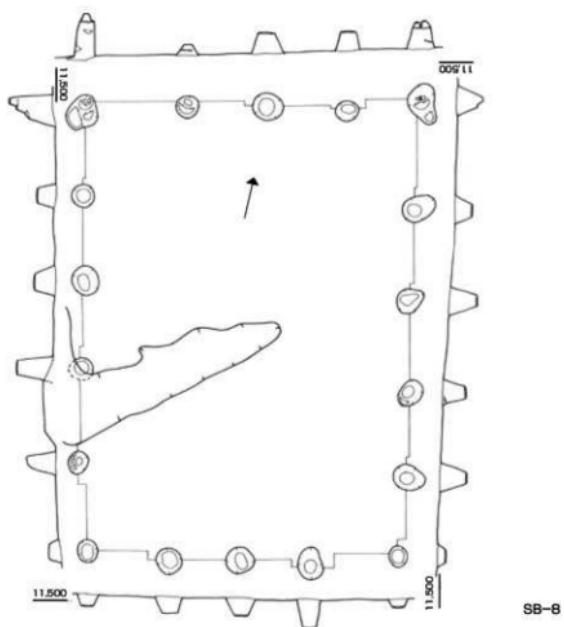
諸田遺跡・戸入道地区



第29図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-5, 6 (S = 1/80)



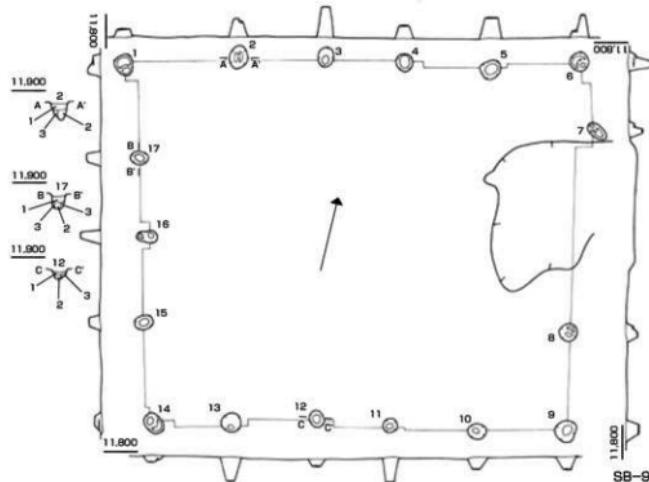
SB-7



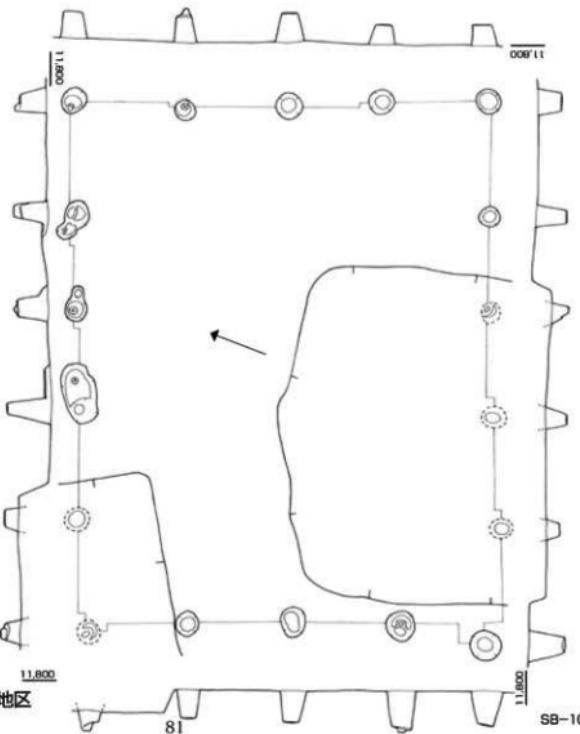
SB-8

第30図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-7,8 (S = 1/80)

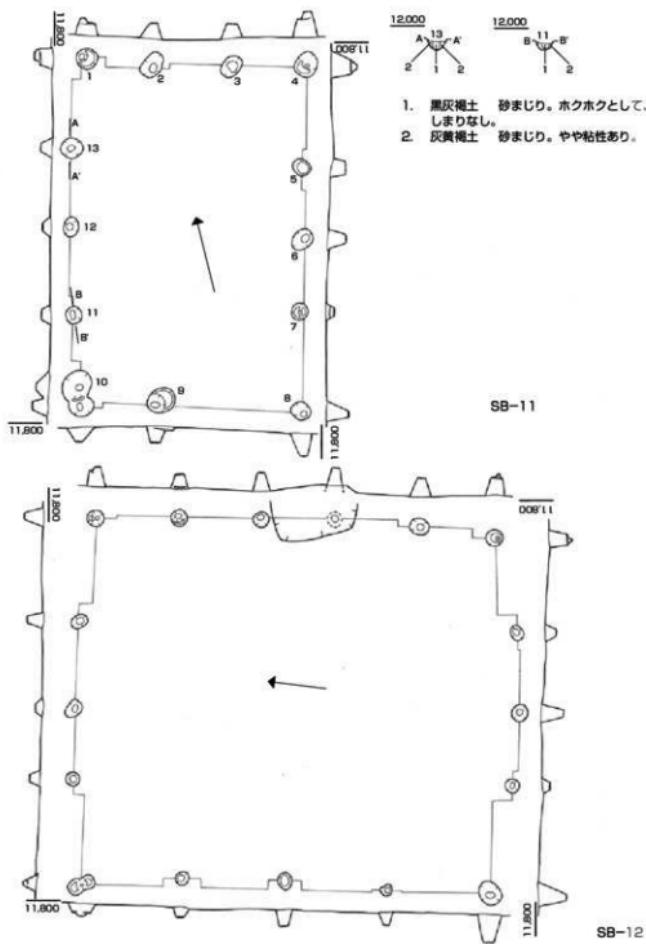
諸田遺跡・戸入道地区



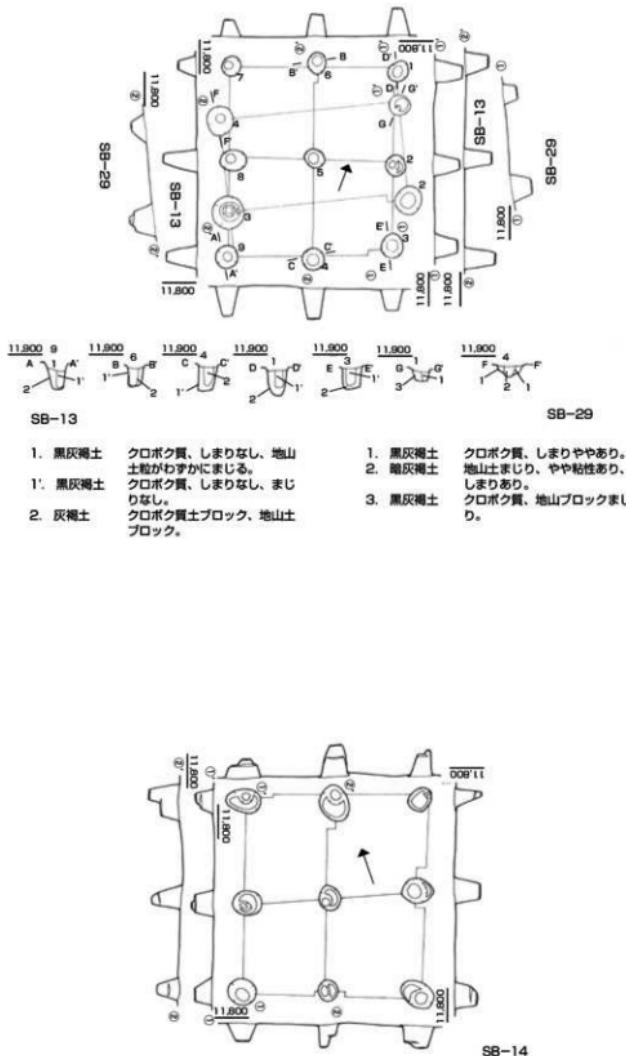
1. 灰褐土 砂まじり、しまりなし。
2. 薄灰褐土 砂まじり、地山土粒まじりでしまりなし。
3. 黄灰褐土 地山土ブロックまじりで、粘性あり。



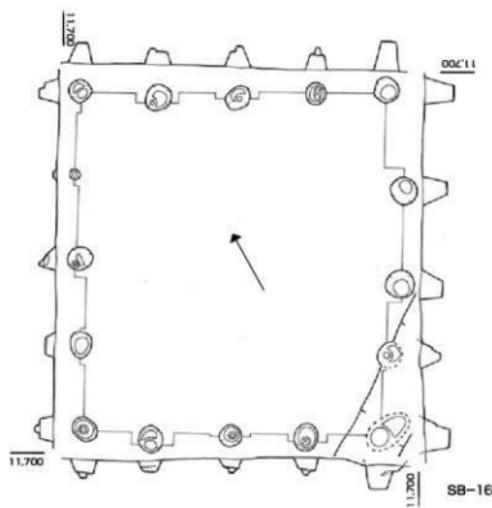
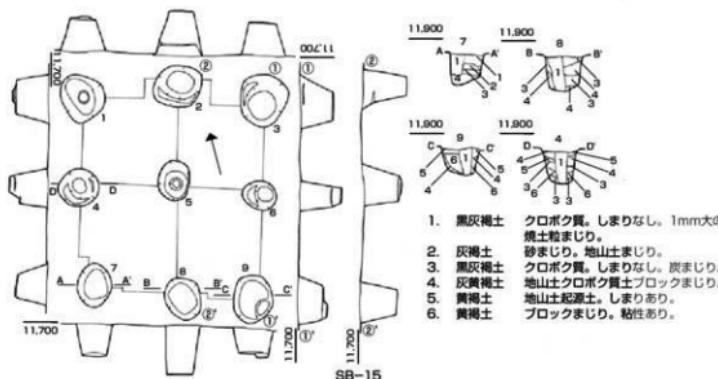
第31図 諸田遺跡 戸入道地区  
SB-9, 10 (S = 1/80)



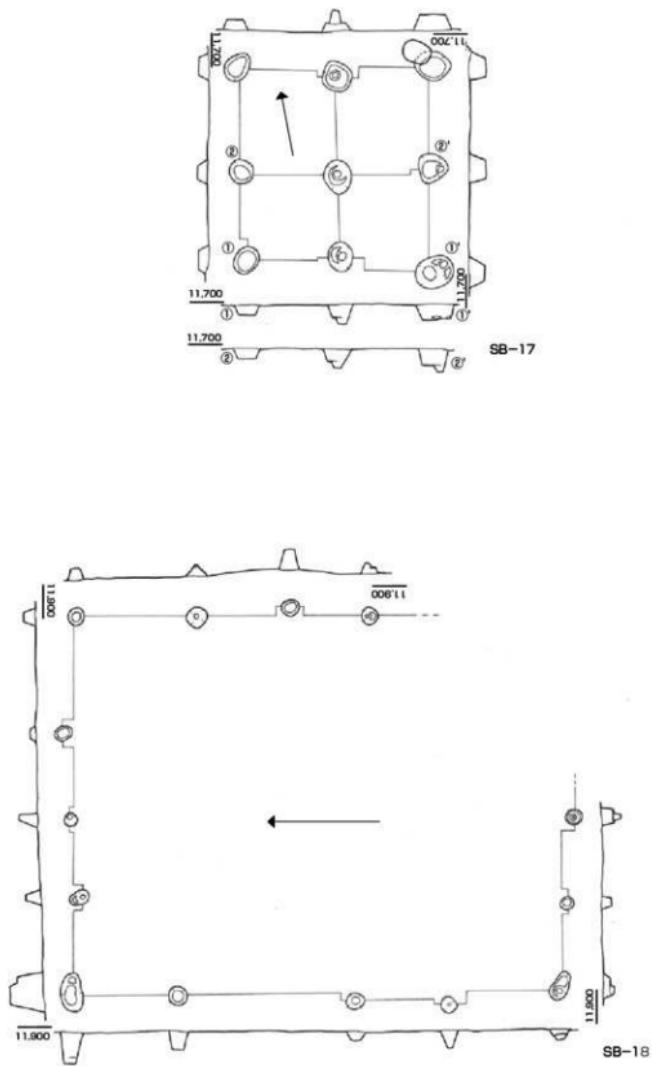
第32図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-11, 12 (S = 1/80)



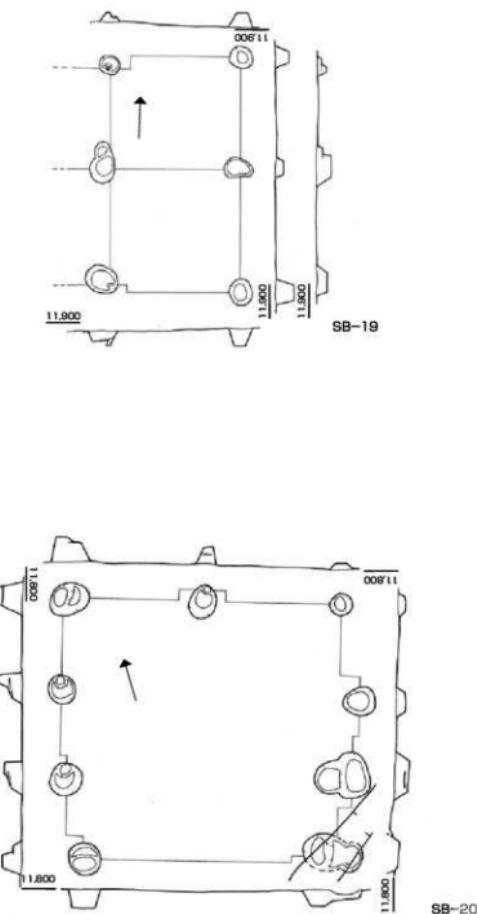
第33図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-13, 29, 14 (S = 1/80)



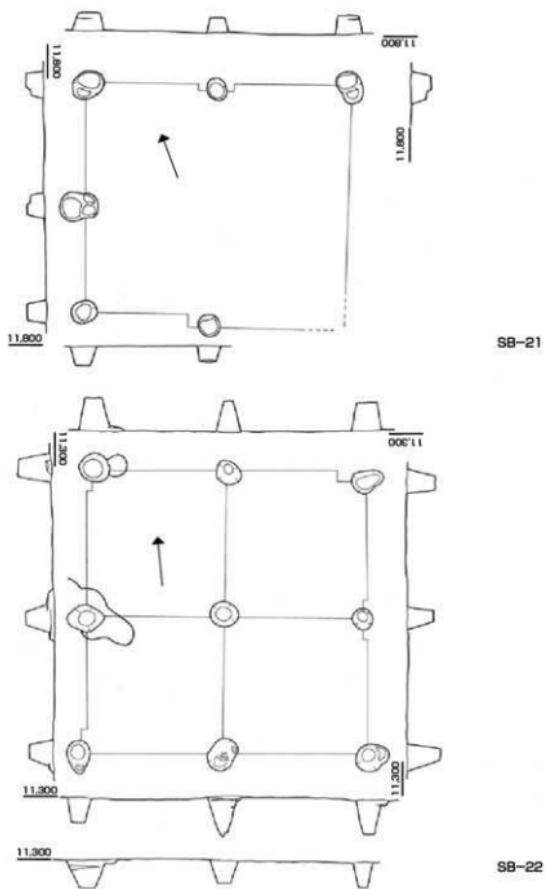
第34図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-15, 16 (S = 1/80)



第35図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-17, 18 (S = 1/80)

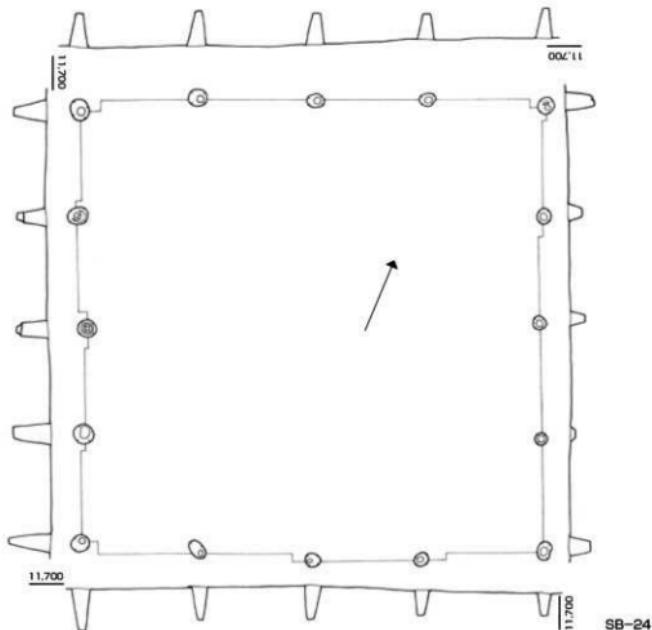
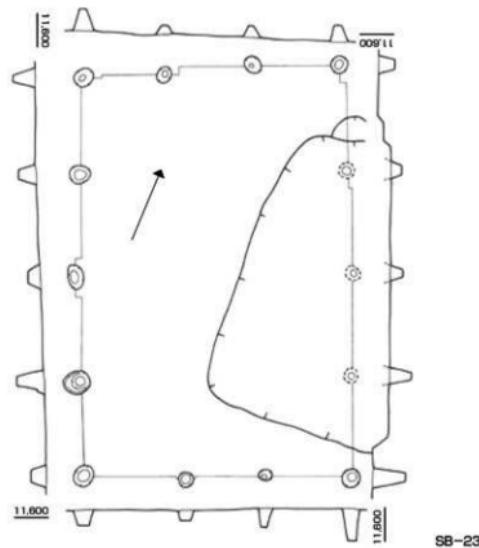


第36図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-19, 20 (S = 1/80)

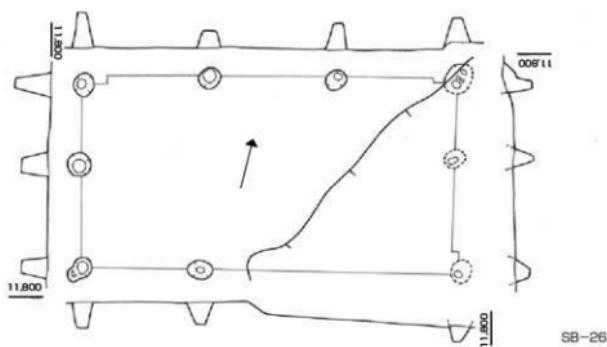
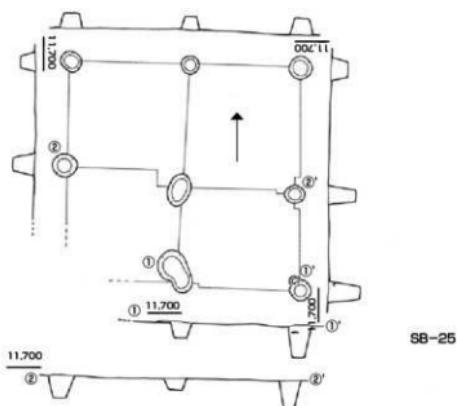


第37図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-21, 22 (S = 1/80)

諸田遺跡・戸入道地区

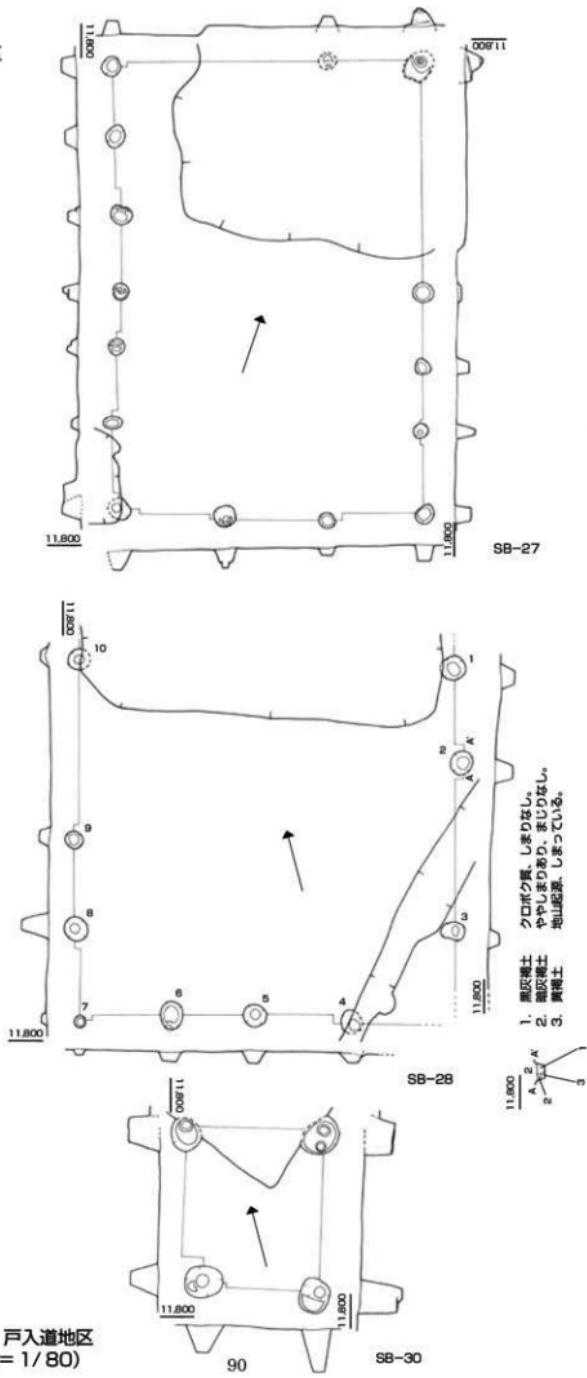


第38図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-23, 24 (S = 1/80)

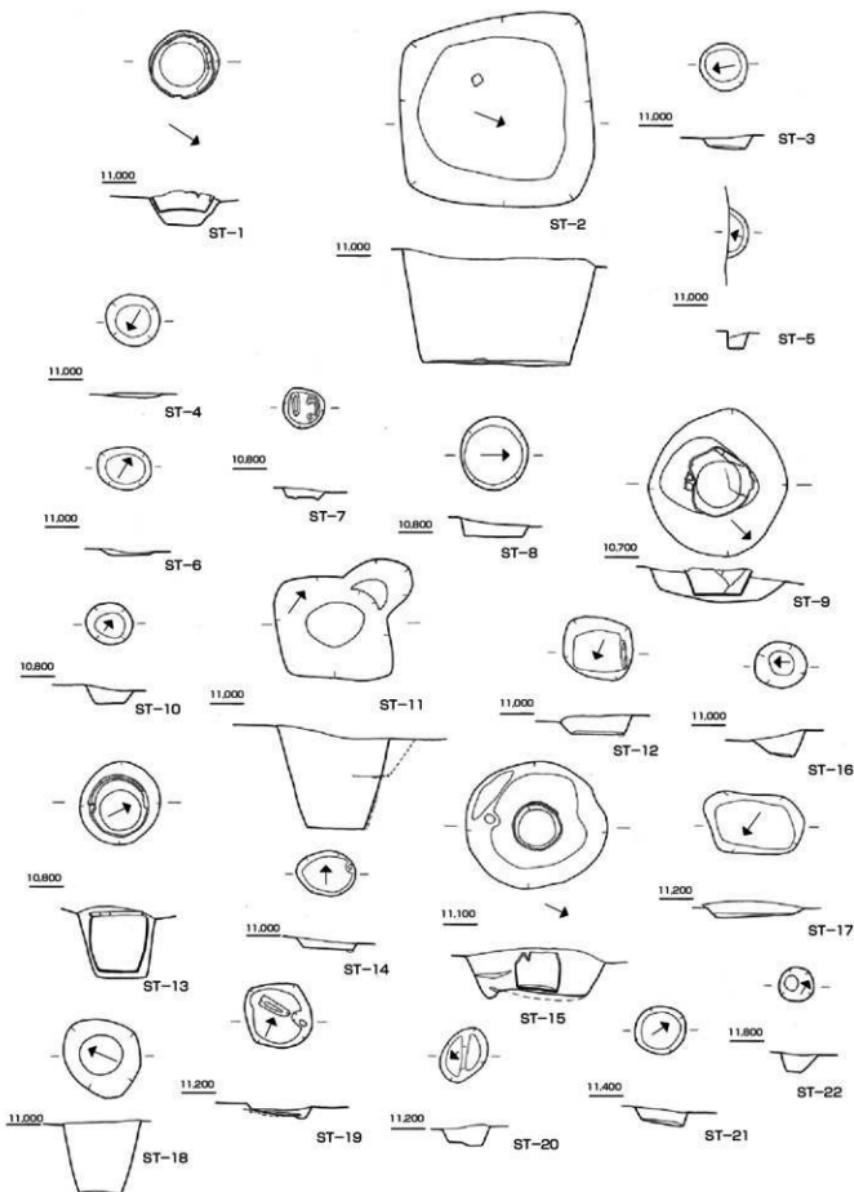


第39図 諸田遺跡 戸入道地区 SB-25, 26 (S = 1/80)

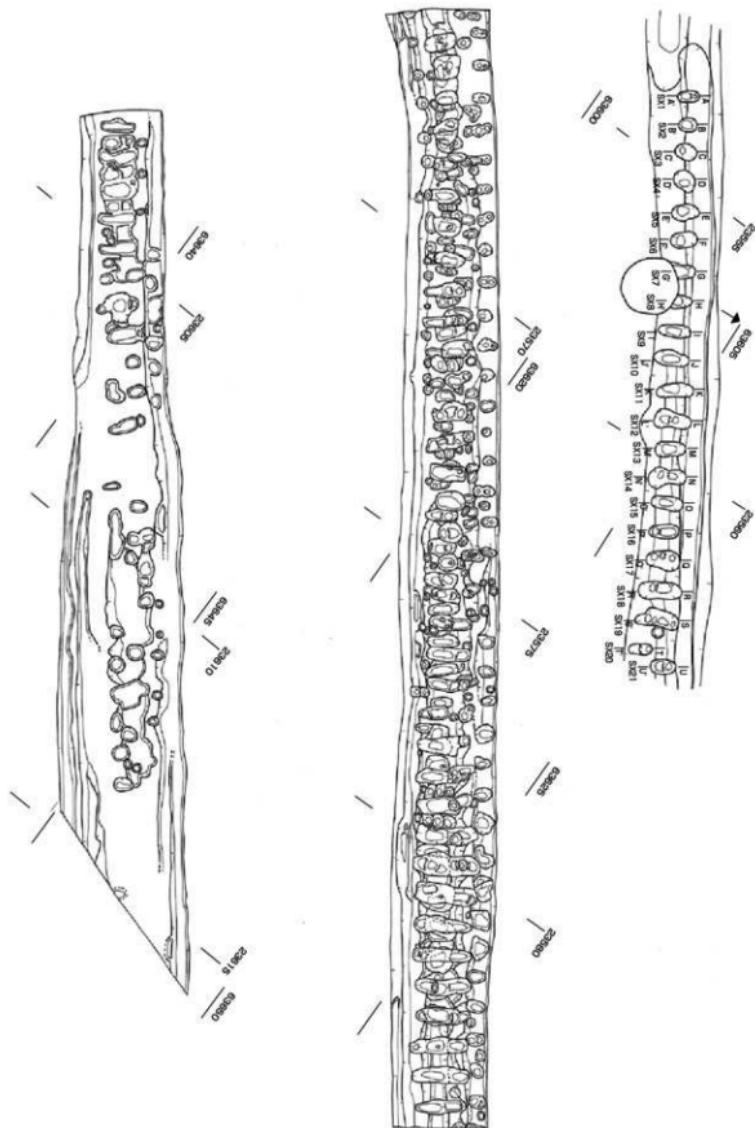
諸田遺跡・戸入道地区



第40図 諸田遺跡 戸入道地区  
SB-27, 28, 30 (S = 1/80)

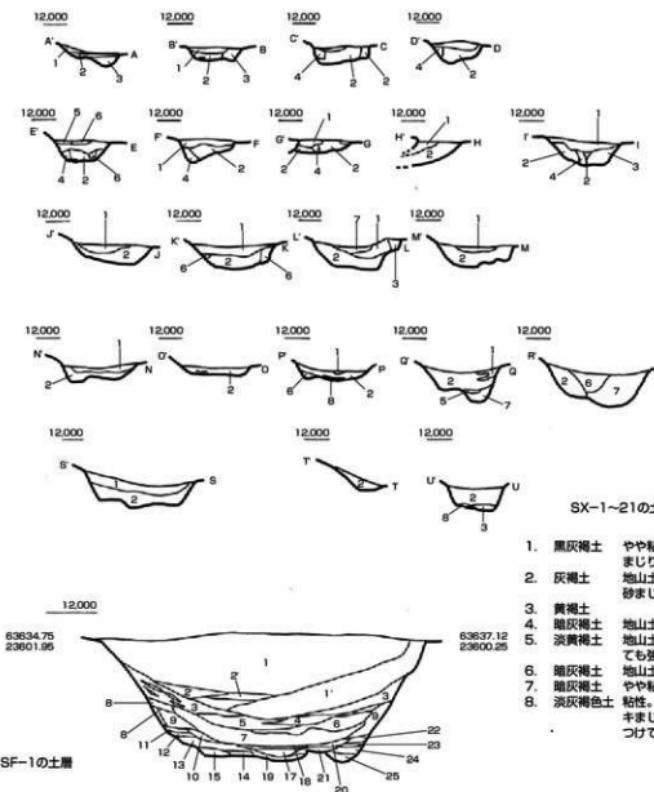


第41図 諸田遺跡 戸入道地区 ST-1, 9, 13, 15 ( $S = 1/20$ ) 以外は ( $S = 1/40$ )



第42図 諸田遺跡 戸入道地区 SF-1 ( $S = 1/100$ )

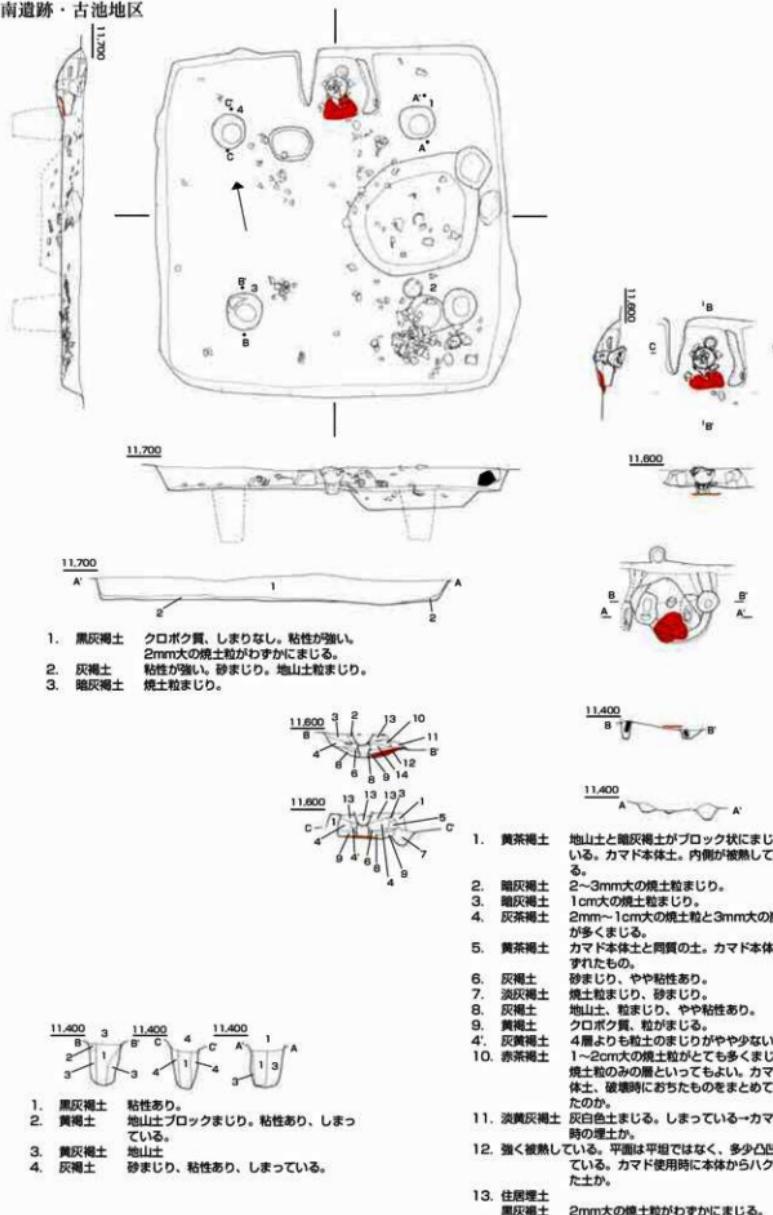
諸田遺跡・戸入道地区



一連のもの	1. 暗灰褐土	10. 反黃褐土	やや粘性あり。
	1'. 黒灰褐土	11. 黄褐土	地山土とクロボク質がブロック状にまじる。
一連のもの	2. 黑灰褐土	12. 反黃褐土	粘性が強い。
	2'. 黑灰褐土	13. 灰褐土	砂まじり。2mm大の黄褐土ブロックまじり。
一連のもの	3. 灰色粘質土	14. 暗灰褐土	砂まじり。しまっている。
	3'. 黄褐土	15. 暗灰褐土	粘性あり。砂まじり。
一連のもの	4. 灰色粘質土	16. 暗灰褐土	→7層と同質。やや多く砂がまじる。
	5. 灰色粘質土	17. 黄茶土	砂がとても多くまじる。しまっている。
一連のもの	6. 暗灰色粘質土	18. 黄茶土	砂はあまりまじらない。粘性あり。
	7. 暗灰色粘質土	19. 暗灰褐土	砂まじり。粘性あり。
一連のもの	8. 暗灰色粘質土	20. 灰褐土	粘性あり。砂まじり。地山土粒まじり。
	9. 黄灰褐土	21. 灰褐土	20層とほぼ同質。地山土のまじり方が多い。
	10. 反黃褐土	22. 黄褐土	粘性あり。
	11. 黄褐土	23. 暗灰褐土	砂まじり。地山土ブロックまじり。粘質土まじり。
	12. 反黃褐土	24. 灰褐土	24層と比べ砂のまじり方が多い。
	13. 灰褐土	25. 灰褐土	

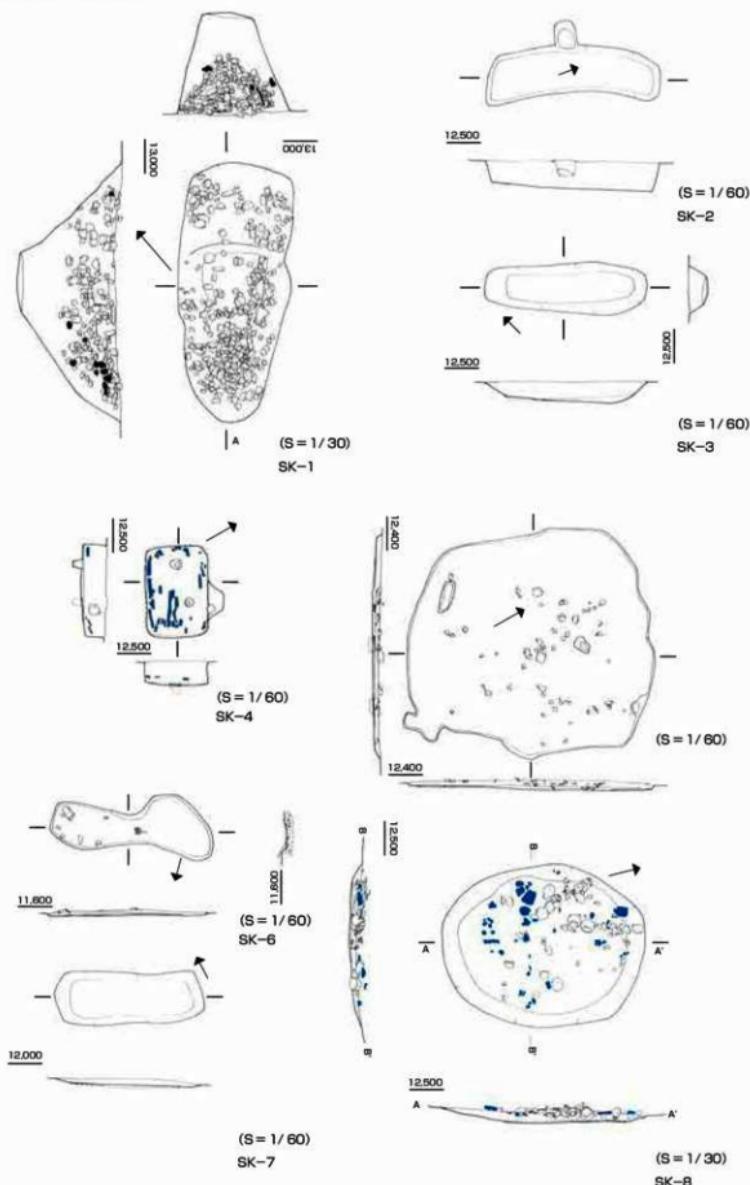
第43図 諸田遺跡 戸入道地区 SF-1 (S = 1/40)

諸田南遺跡・古池地区



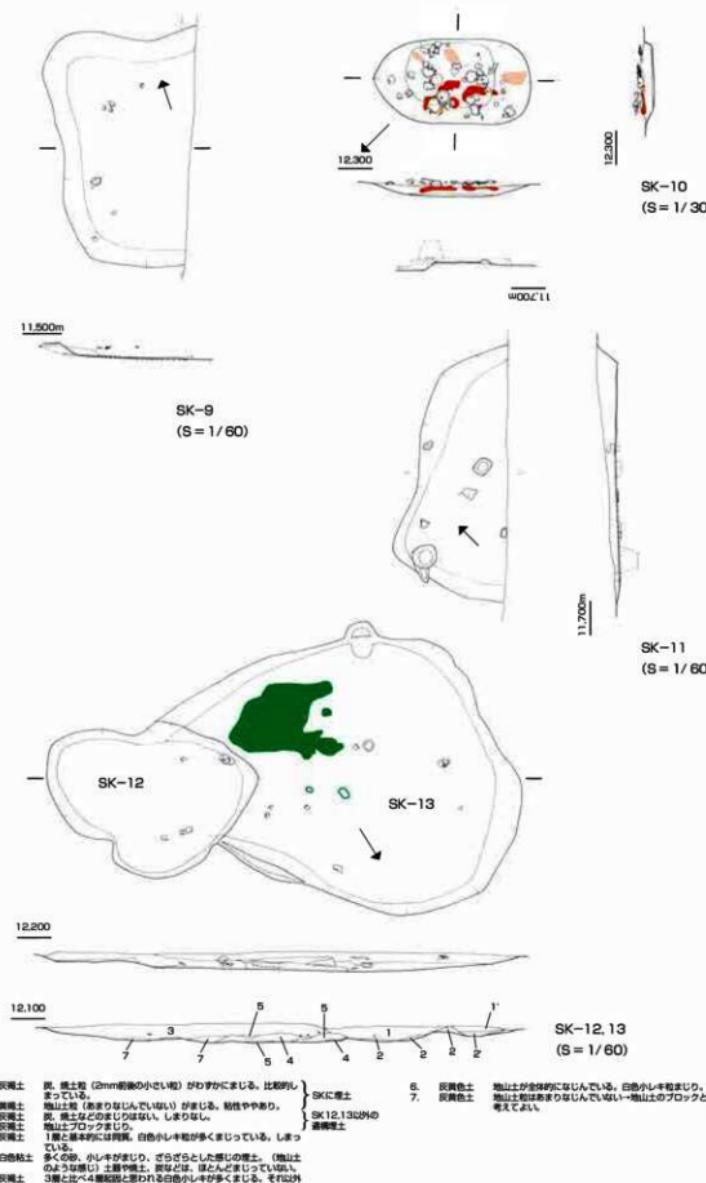
第1図 諸田南遺跡 古池地区 SH-1 (S = 1/60)

諸田南遺跡・古池地区



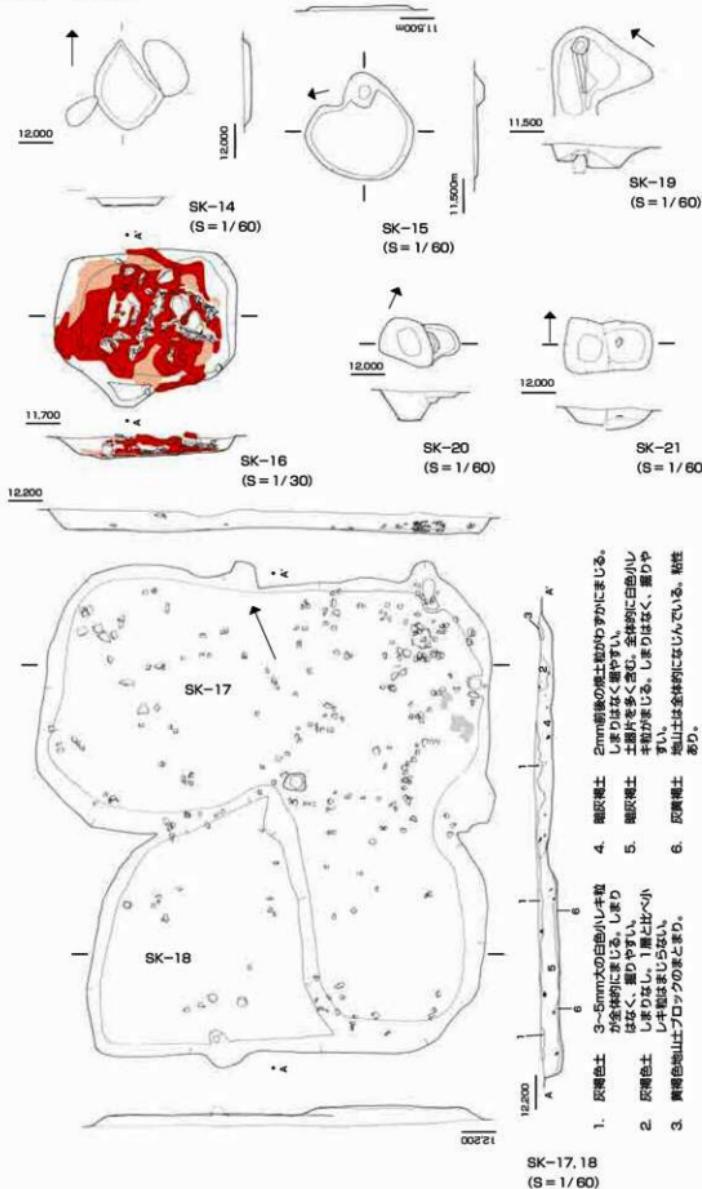
第2図 諸田南遺跡 古池地区 SK-1, 2, 3, 4, 5, 7, 8 (S = 1/60)

諸田南遺跡・古池地区



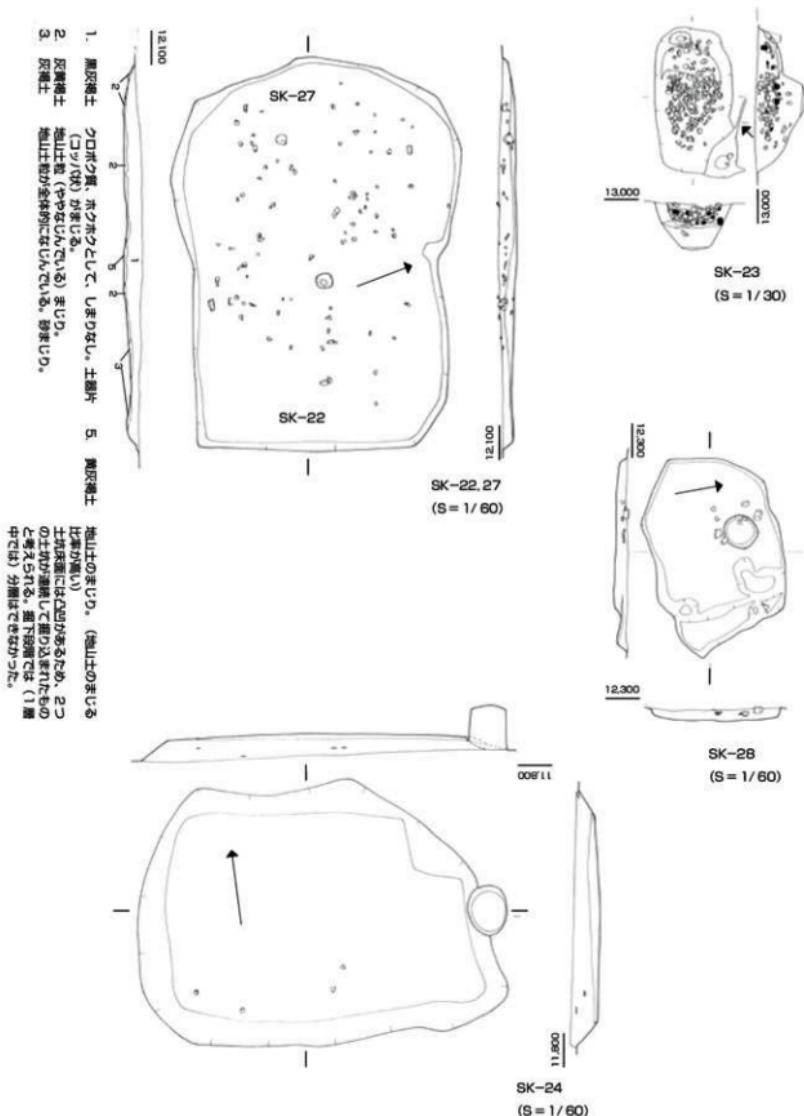
第3図 諸田南遺跡 古池地区 SK-9, 10, 11, 12, 13 (S = 1/60)

諸田南遺跡・古池地区

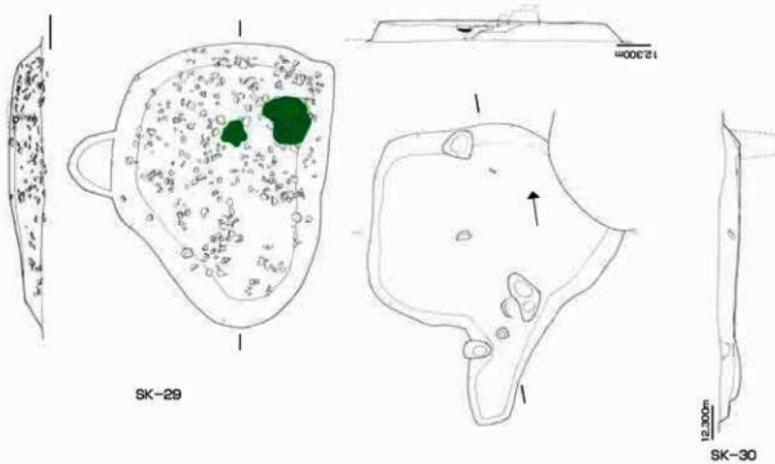
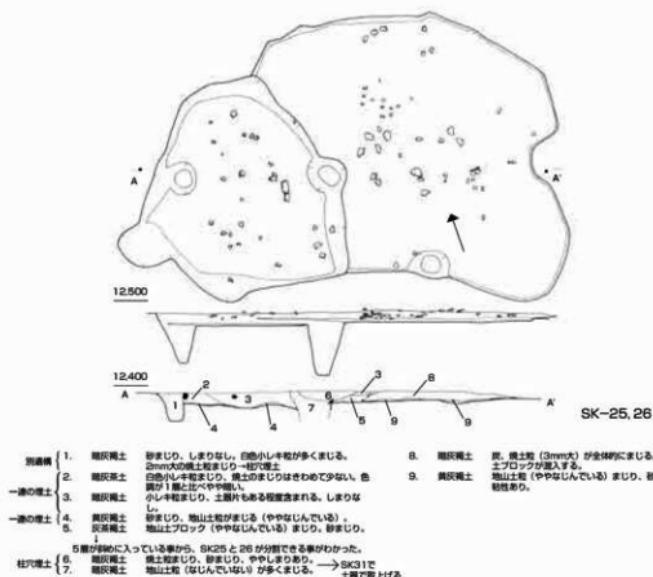


第4図 諸田南遺跡 古池地区 SK-14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21 (S = 1/60)

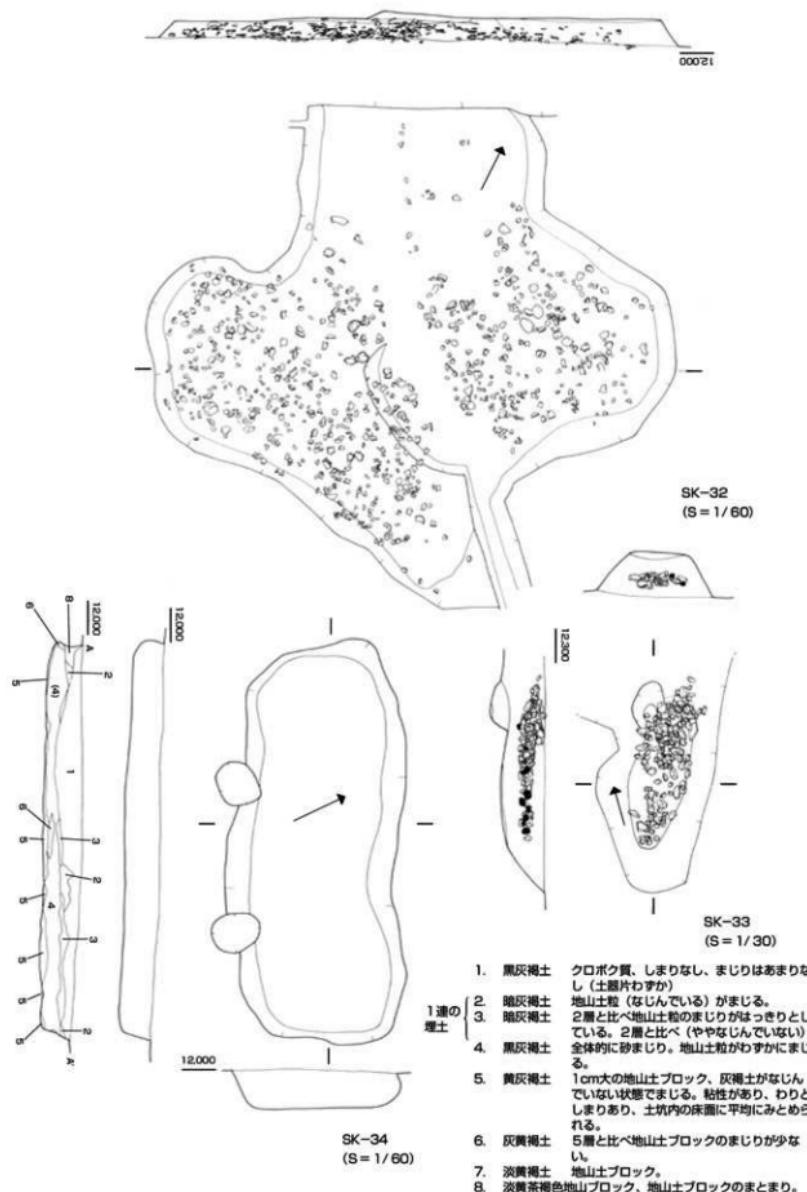
諸田南遺跡・古池地区



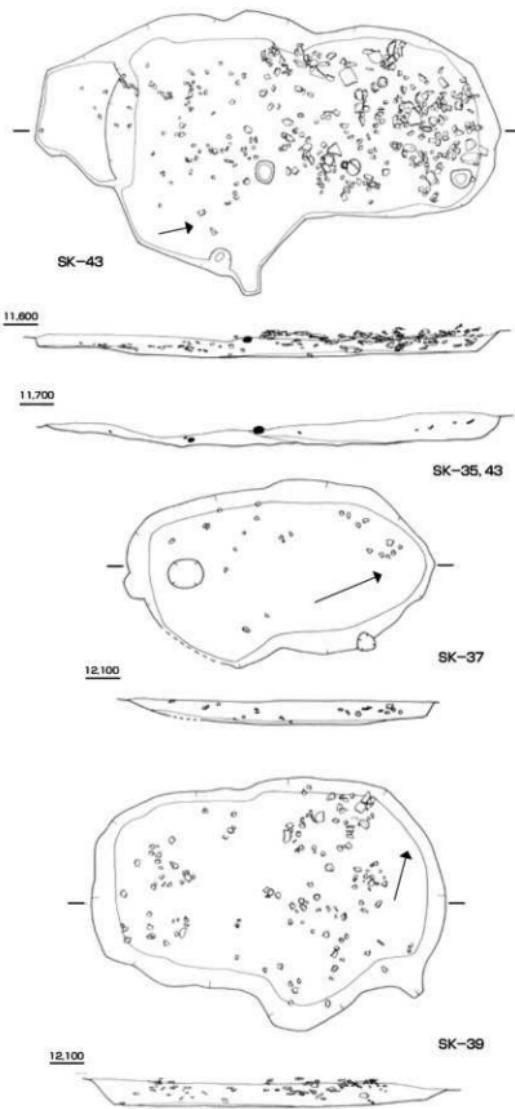
第5図 諸田南遺跡 古池地区 SK-22, 23, 24, 27, 28



第6図 諸田南遺跡 古池地区 SK-25, 26, 29, 30 (S = 1/60)

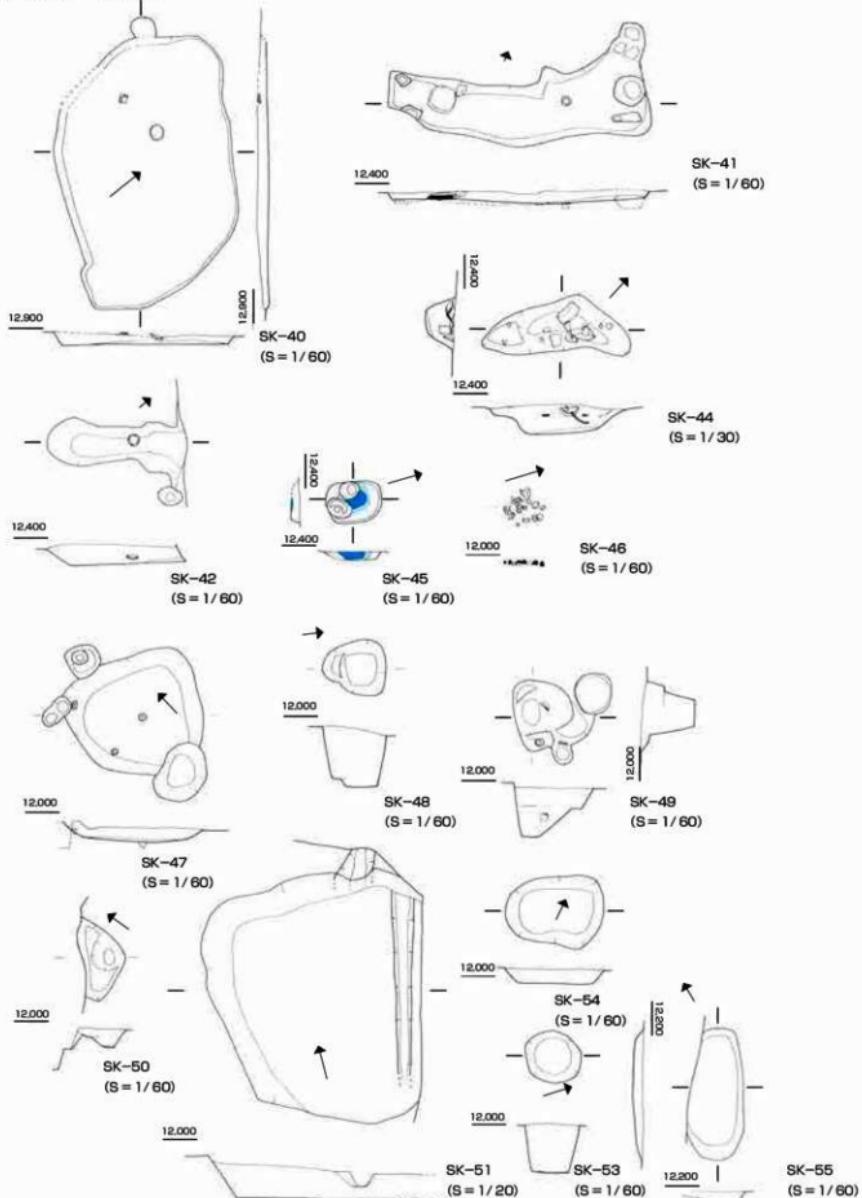


第7図 諸田南遺跡 古池地区 SK-32, 33, 34

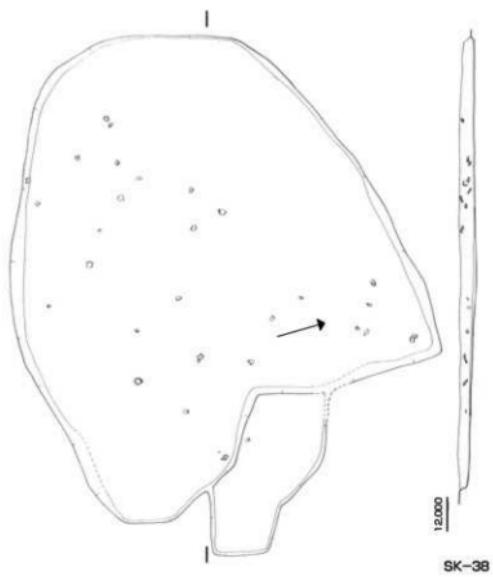
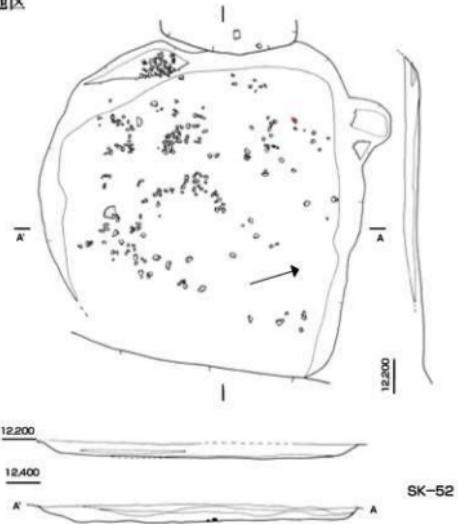


第8図 諸田南遺跡 古池地区 SK-35, 37, 39, 43 (S = 1/60)

諸田南遺跡・古池地区

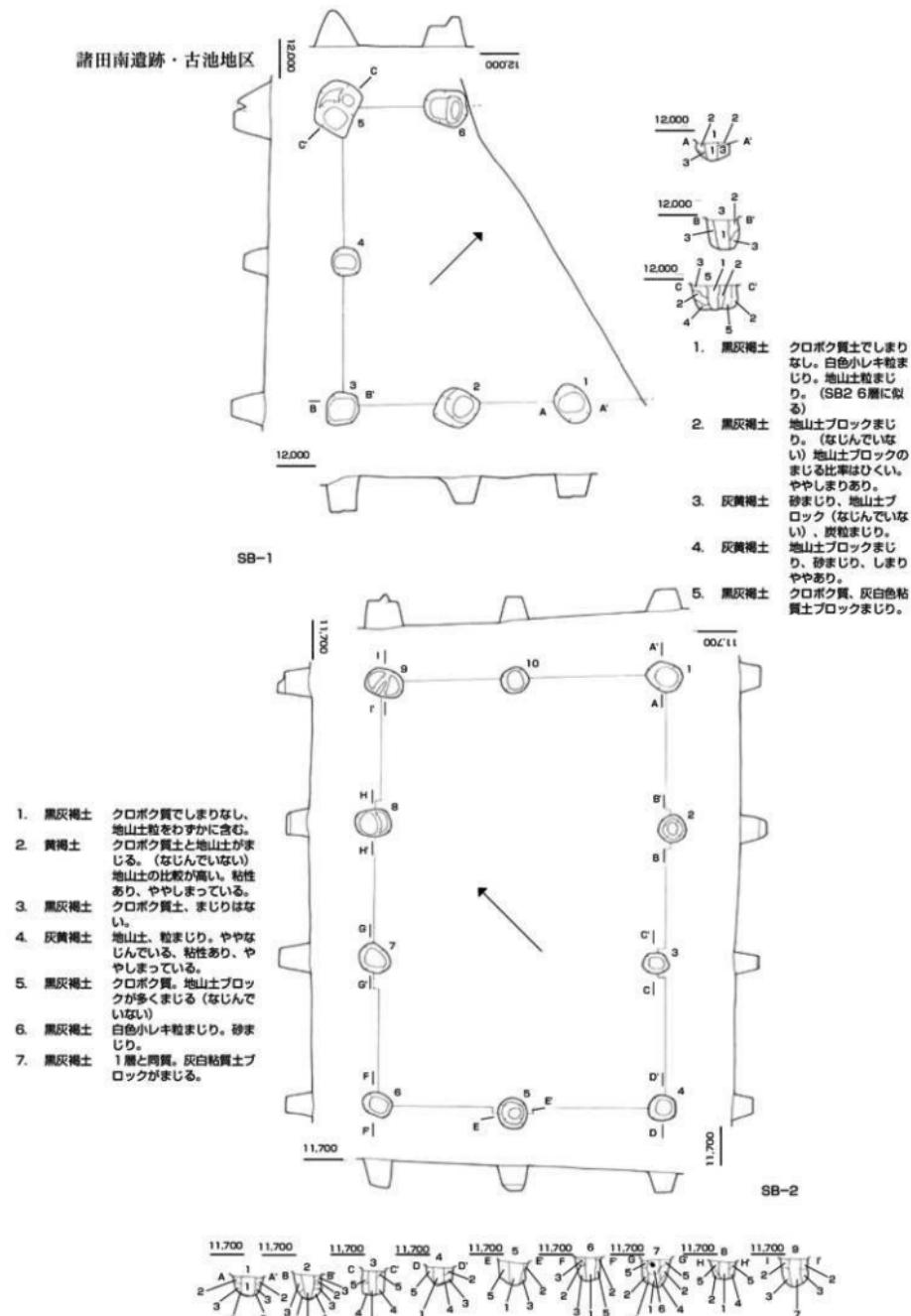


第9図 諸田南遺跡 古池地区  
SK-40, 41, 42, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 53, 54, 55



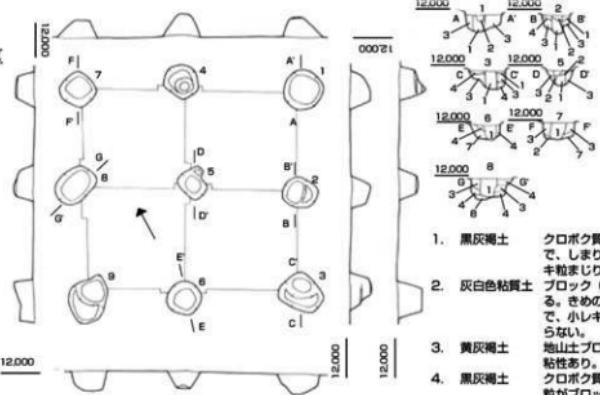
第10図 諸田南遺跡 古池地区 SK-38, 52 (S = 1/60)

諸田南遺跡・古池地区

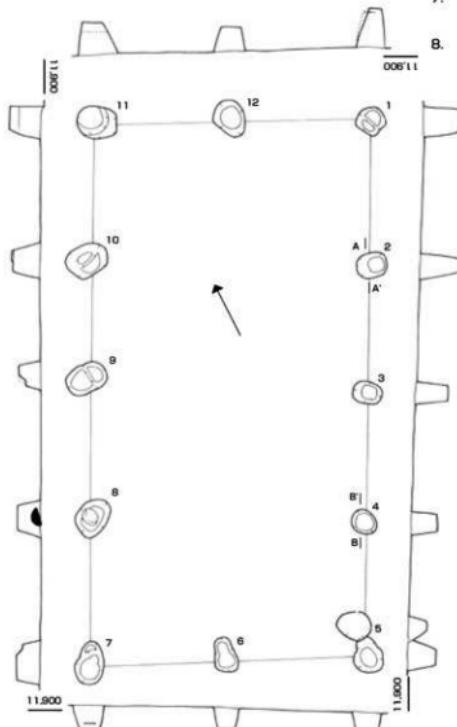


第 11 図 諸田南遺跡 古池地区  
SB-1, 2 (S = 1/80)

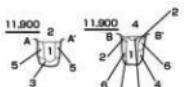
諸田南遺跡・古池地区



1. 黒褐土 黒ロボク質。砂まじりで、しまりなし。白色レキ粒まじり。
2. 灰白色粘質土 ブロック（塊）状でまじる。きめの細かい粘質土で、小石もあまりまじらない。
3. 黄灰褐土 地山土ブロックまじり。粘性あり。
4. 黒灰褐土 クロロボク質で、地山土粒がブロック状（0.5~1cm大）でまじる。
5. 黒褐土 黒ロボク質でしまりなし。白色レキ粒まじり。
6. 灰黄褐土 地山土ブロックがわずかにまじる。砂まじり、ややしまりあり。
7. 黑褐土 黒ロボク質でしまりなし。まじりなし。
8. 暗灰褐土

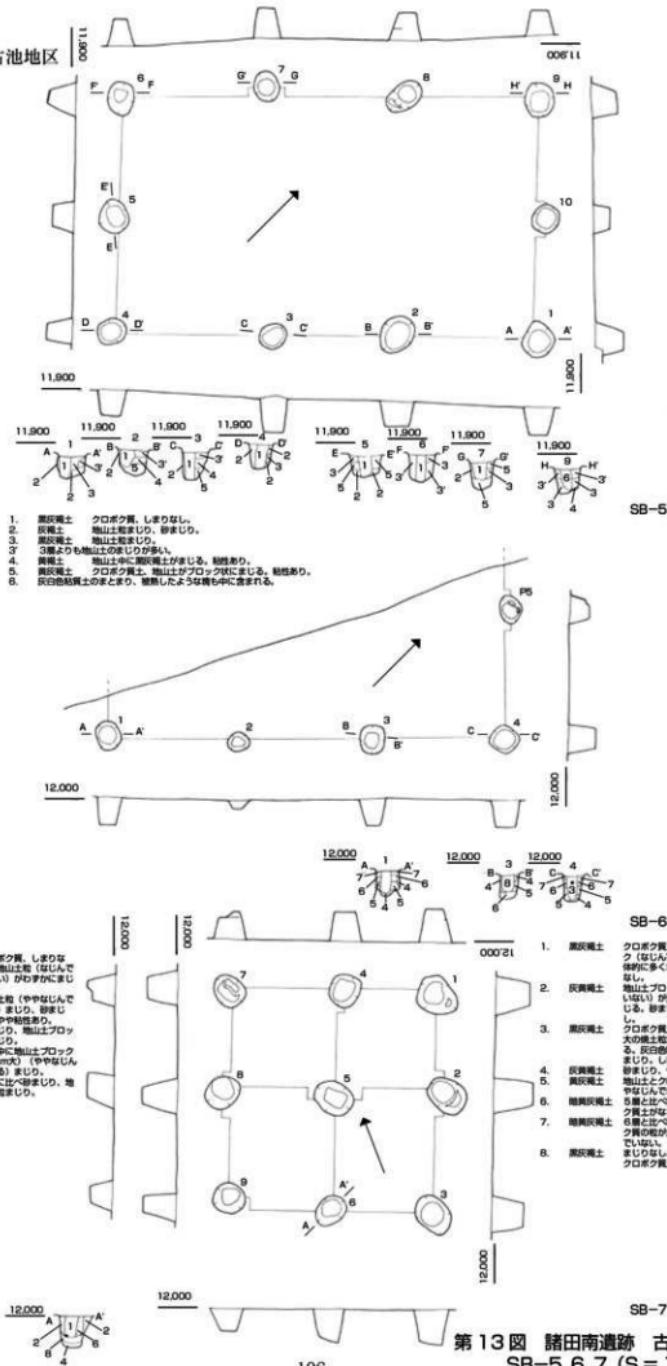


1. 黒褐土 黒ロボク質、しまりなし。
2. 黒灰褐土 クロロボク質中に地山土粒まじり。しまりややあり。
3. 暗黄灰褐土 クロロボク質と地山土ブロックまじり。
4. 灰褐土 砂まじり、地山土粒まじり。
5. 暗灰褐土 砂まじり、ややしまっている。
6. 褐灰褐土 地山土ブロックまじり、粘性あり。
7. 灰白色粘質土塊（1層中にもじる）



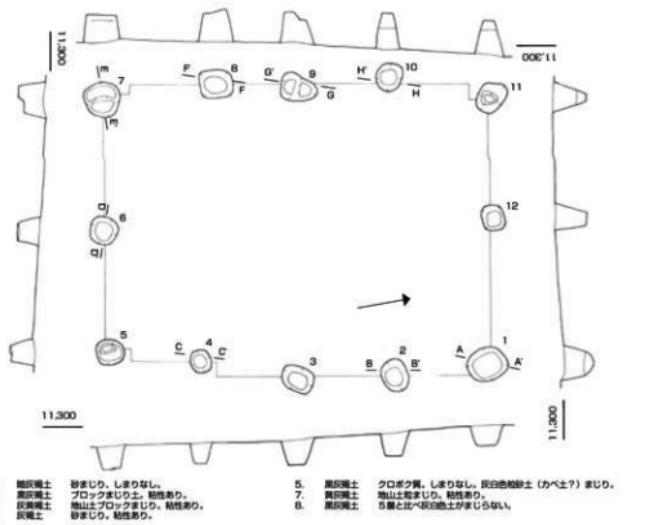
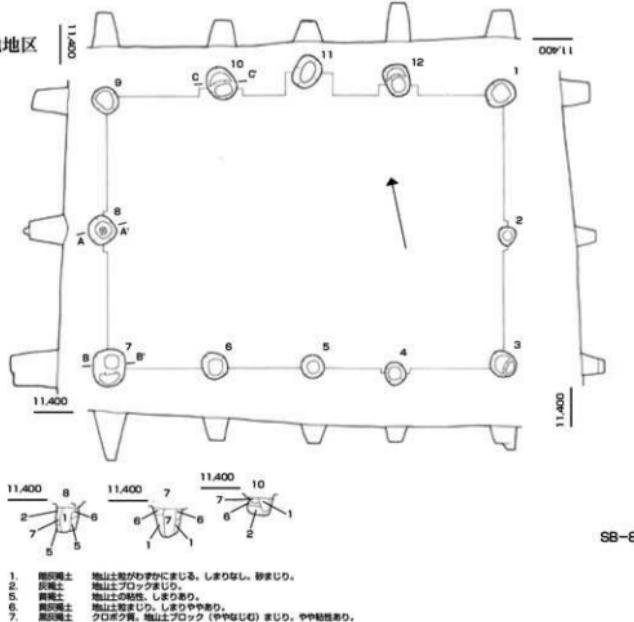
第12図 諸田南遺跡 古池地区  
SB-3, 4 (S=1/80)

諸田南遺跡・古池地区

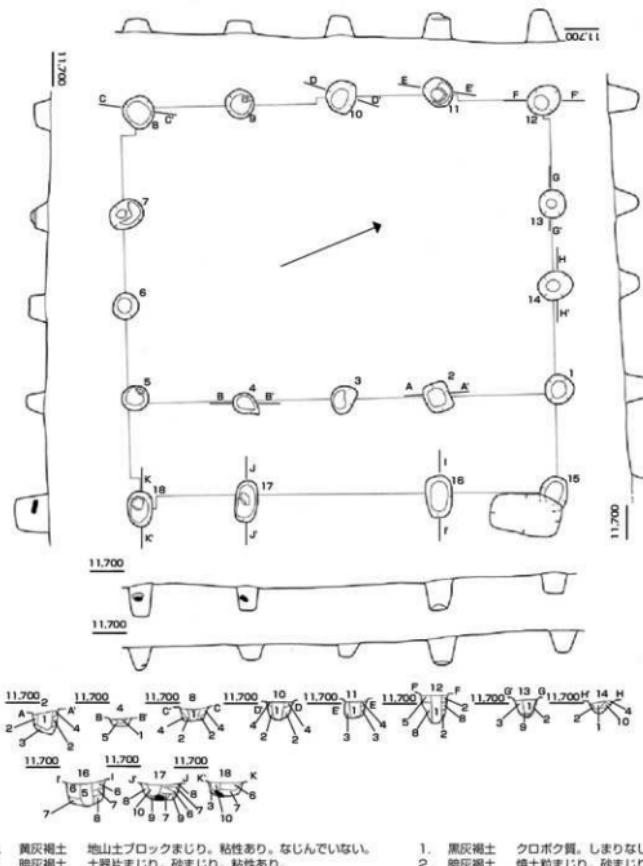


第13図 諸田南遺跡 古池地区  
SB-5, 6, 7 (S = 1 / 80)

諸田南遺跡・古池地区



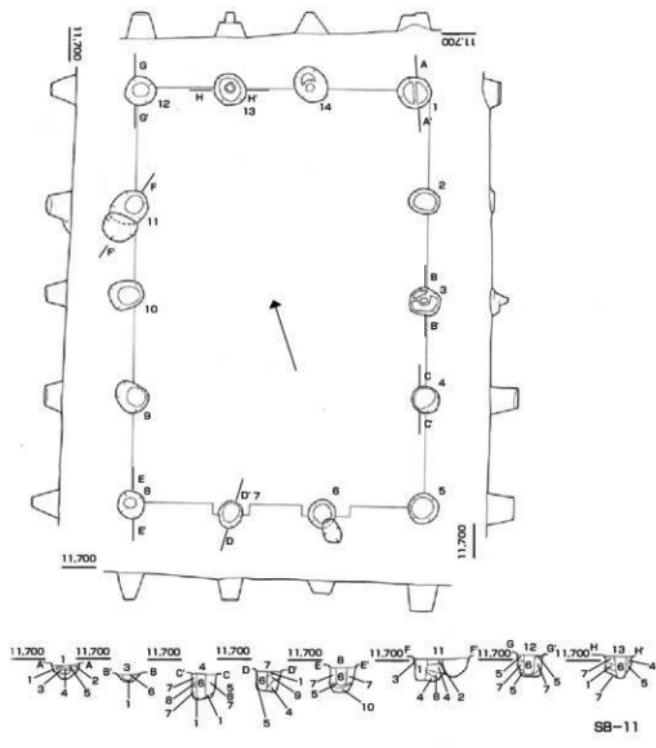
第14図 諸田南遺跡 古池地区  
SB-8,9 (S=1/80)



1. 黄灰褐土 地山土ブロックまじり。粘性あり。なじんでいない。
2. 暗灰褐土 土器片まじり。砂まじり。粘性あり。
3. 灰褐土 地山土粒まじり。粘性あり。
4. 淡灰褐土 砂まじり。粘性あり。
5. 離灰褐土 砂まじり。しまりなし。地山土粒まじり。
6. 黄灰褐土 地山土ブロックまじり。ややなじんでいる。粘性あり。
7. 黑灰褐土 クロボク質。地山土ブロックまじり。ややしまりあり。
8. 灰黄褐土 地山土ブロックまじり。砂まじり。
9. 黄褐土 地山土。粘性あり。しまっている。
10. 灰褐土 烧土粒まじり。砂まじり。しまりなし。

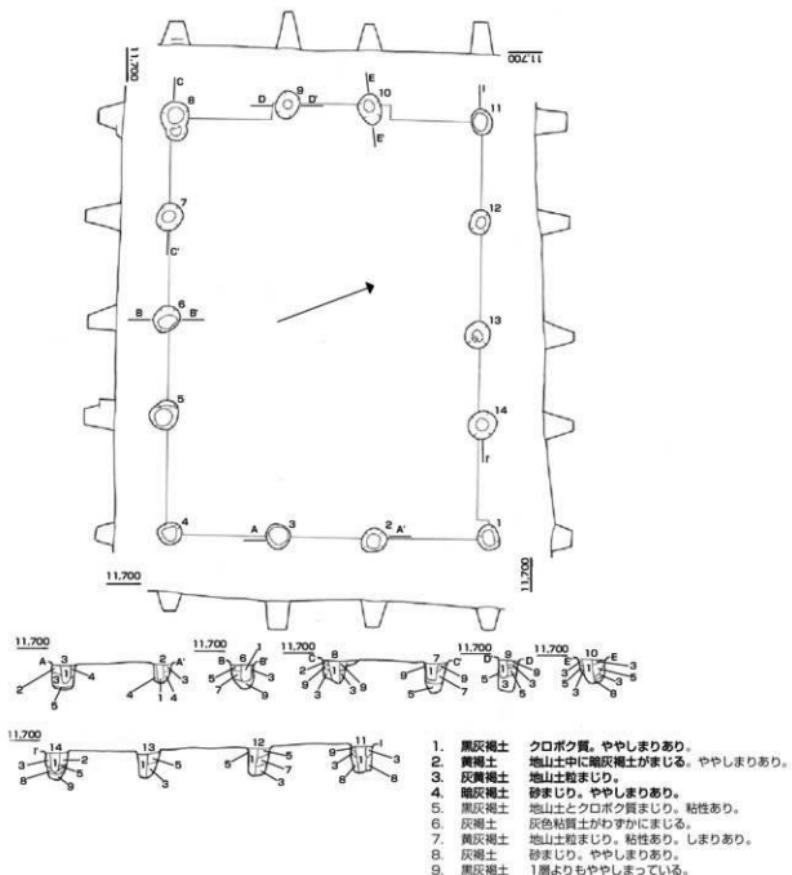
1. 黑灰褐土 クロボク質。しまりなし。砂まじり。
2. 暗灰褐土 烧土粒まじり。砂まじり。ややしまりあり。
3. 灰褐土 砂まじり。ややしまりあり。
4. 黄灰褐土 2層中に地山ブロックが多くまじる。
5. 黄褐土 地山土と暗灰褐土のまじり。粘性が強くしまっている。
6. 黄褐土 クロボク質と地山土が同じ割合でまじっている。(なじんない) 粘性がありまっている。
7. 淡灰褐土 砂まじり。しまりなし。
8. 灰黄褐土 粘性あり。クロボク質土がややなじんでまる。焼土粒まじり。
9. 黑灰褐土 クロボク質。ややしまっている。
10. 暗灰褐土 砂まじり。灰白粘質土まじり。

第15図 諸田遺跡 古池地区 SB-10 (S = 1/80)



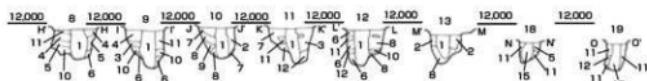
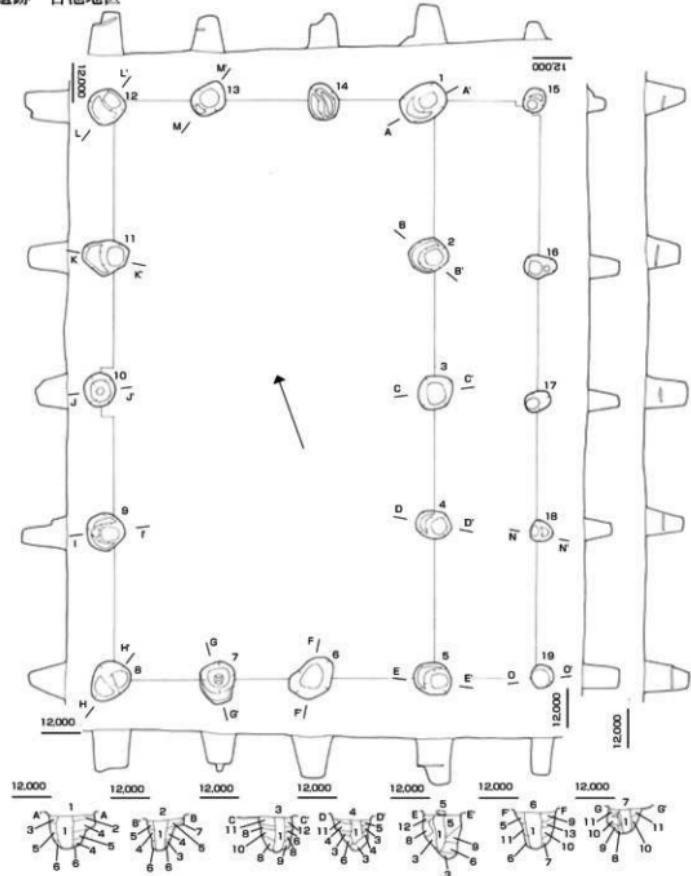
1. 灰黄褐土 地山土ブロックまじり。粘性あり。しまっている。
2. 灰黄褐土 地山土ブロック。クロボク質土まじり。粘性あり。しまっている。
3. クロボク質土中に地山土ブロックまじり。粘性あり。
4. 灰黄褐土 地山土粒わざかにまじり。
5. 砂ぼり。しまりやなし。
6. 黒灰褐土 クロボク質。しまりなし。砂ぼり。
7. 黑灰褐土 クロボク質土。地山土粒まじり。
8. 黄褐土 地山土ブロックまじり。
9. 黑灰褐土 クロボク質。焼土粒まじり。
10. 黄褐土 地山土。粘性あり。しまりあり。

第 16 図 諸田遺跡 古池地区 SB-11 (S = 1/80)



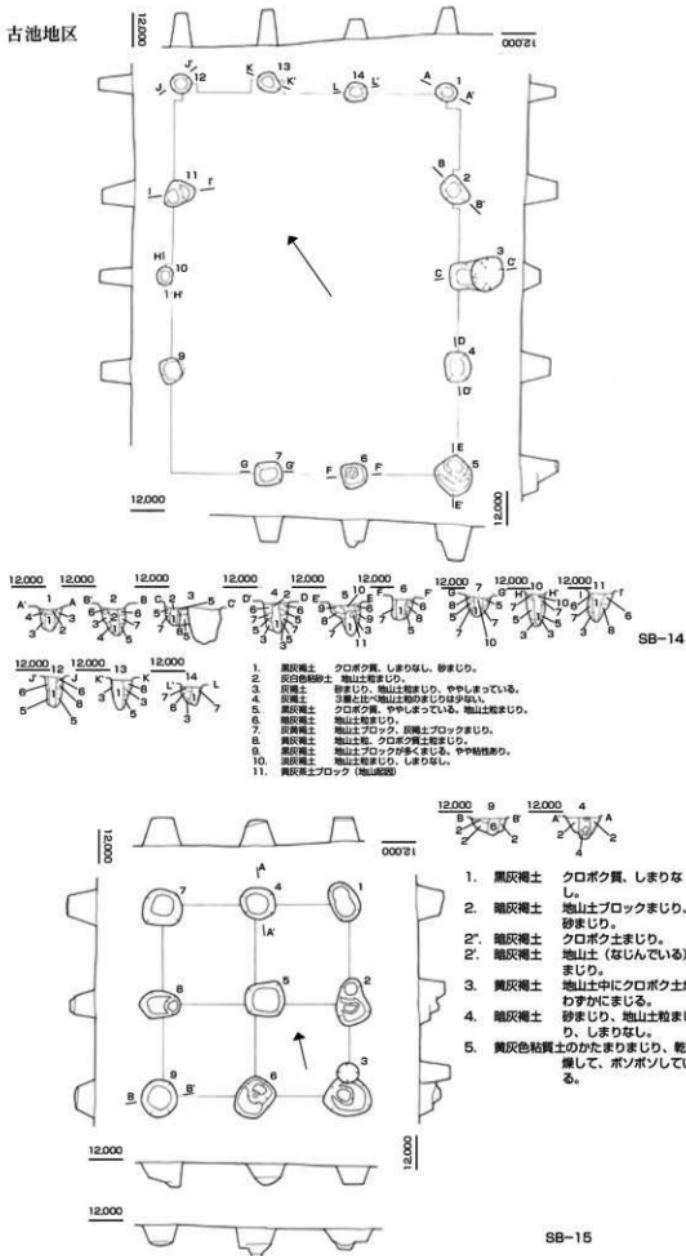
第17図 諸田遺跡 古池地区 SB-12 (S = 1/80)

諸田南遺跡・古池地区

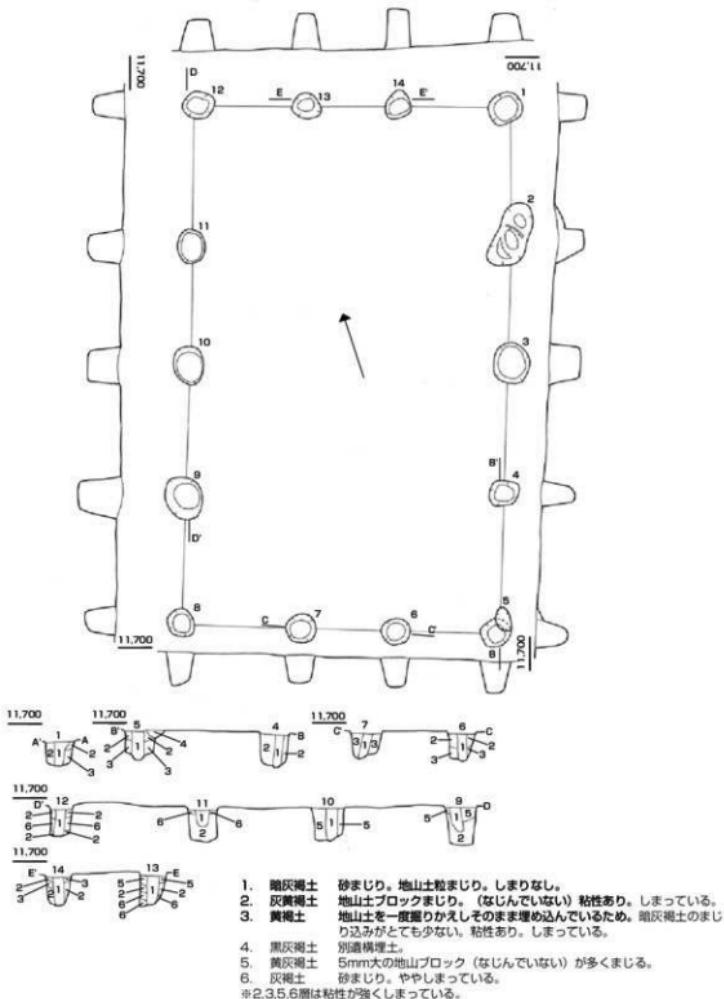


1. 黒灰褐土 クロボク質。砂まさじり。しまりなし。地山土粒がまじる。
2. 喜灰褐土 地山土粒まさじり(なじんでない)。
3. 黄灰褐土 地山土ブロック、灰褐土ブロックまさじり。しまっている。
4. 灰黄褐土 地山土ブロック、クロボク質土ブロックまさじり、しまっている。
5. 灰黄褐土 地山土粒、灰褐色土まさじり。しまっている。
6. 灰褐土 砂まさじり。しまっている。
7. 淡黄褐土 地山土粒と砂まさじり、粘性あり。しまっている。
8. 黑灰褐土 クロボク質土、灰褐土粒まさじり。ややしまっている。
9. 黄灰褐土 地山土粒、灰褐土粒まさじり。
10. 黄褐土 地山土粒中に地山土粒まさじり。
11. 灰褐土 地山土粒まさじり、しまっている。
12. 灰褐土 クロボク質土ブロックがわずかにまじる。
13. 黄褐土 地山土をつきしめている。
14. 灰褐土 砂まさじり、しまりなし。

第18図 諸田南遺跡 古池地区 SB-13 (S = 1/80)

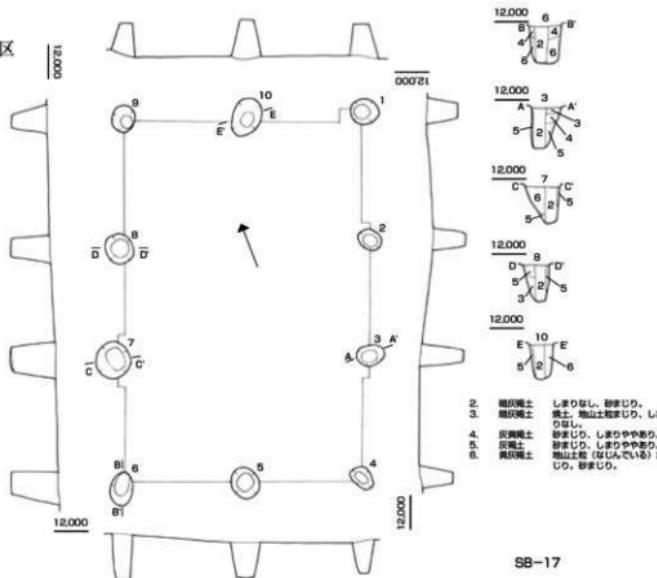


第19図 諸田南遺跡 古池地区 SB-14, 15 (S = 1/80)

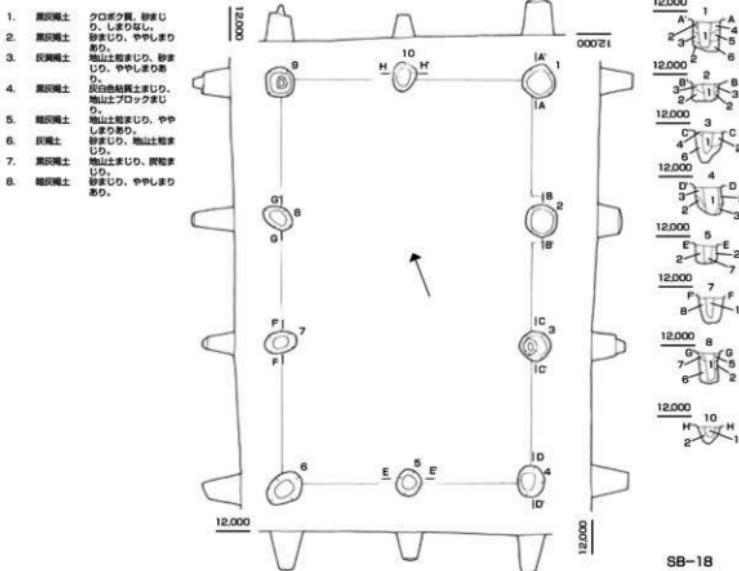


第20図 諸田遺跡 古池地区 SB-16 (S=1/80)

諸田南遺跡・古池地区



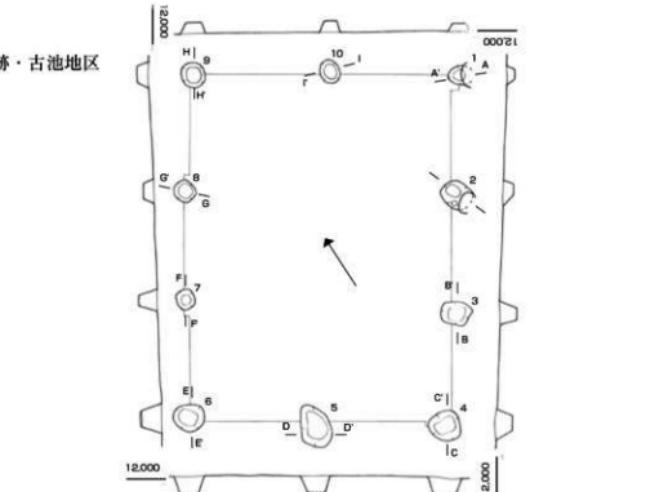
SB-17



SB-18

第21図 諸田南遺跡 古池地区 SB-17, 18 (S = 1/80)

諸田南遺跡・古池地区



- SB-19
1. 黒灰褐色 クロボク質、砂まじり、しまりなし。
  2. 黒灰褐色 砂まじり、ややしまりあり。
  3. 灰褐色 地山土粒まじり、砂まじり。ややしまりあり。
  4. 灰褐色 砂まじり、地山土粒まじり。
  5. 黑灰褐色 地山土粒まじり、灰粒まじり。
  6. 黑灰褐色 砂まじり、ややしまりあり。
  7. 黄褐色 地山土ブロックまじり。
  8. 黑灰褐色 ややなじんだ地山土、粒まじり、粘性あり。
  9. 黄褐色 地山土粒がわずかにまじる。ややしまりあり。
  10. 黑灰褐色 地山土ブロック（なじんでいない）が多くまじる。粘性あり、しまっている。
  11. 黑灰褐色 地山土ブロック（なじんでいない）が多くまじる。粘性あり、しまっている。

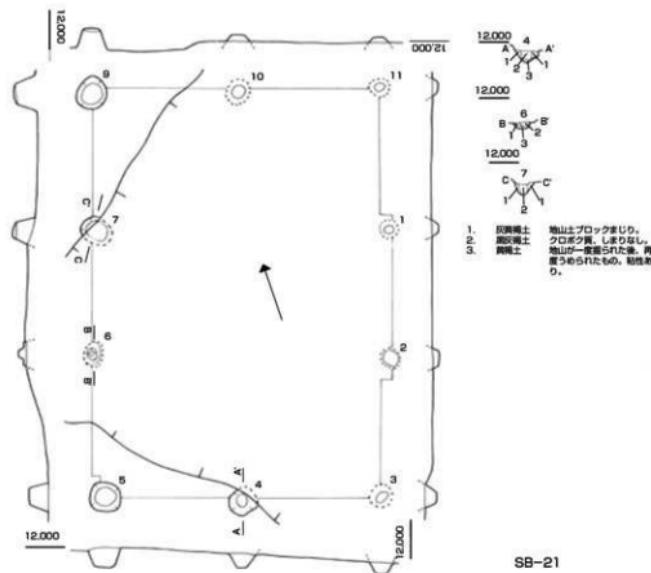
1. 黒灰褐色 クロボク質、砂まじり、しまりなし。
2. 黒灰褐色 砂まじり、ややしまりあり。
4. 黑灰褐色 灰白色粘質土まじり、地山土ブロックまじり。
6. 灰褐色 砂まじり、地山土粒まじり。
9. 黄褐色 地山土ブロックまじり。
10. 黄褐色 ややなじんだ地山土、粒まじり。粘性あり。
12. 黑灰褐色 地山土粒がわずかにまじる。ややしまりあり。
13. 黑灰褐色 地山土ブロック（なじんでいない）が多くまじる。粘性あり、しまっている。



SB-20

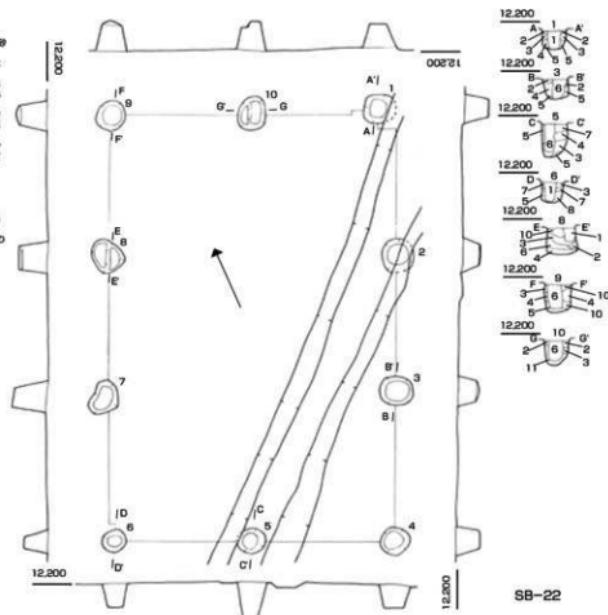
第 22 図 諸田南遺跡 古池地区  
SB-19, 20 (S = 1/80)

諸田南遺跡・古池地区



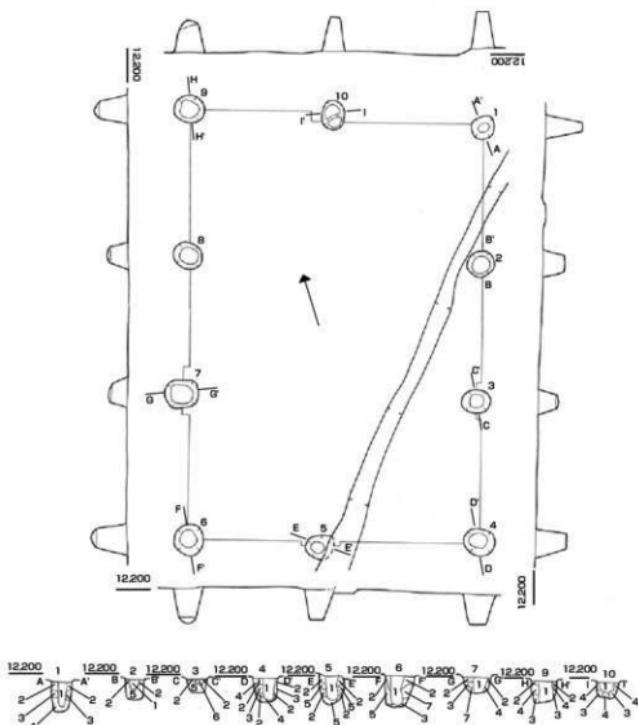
SB-21

1. 開拓面土 1mm未満の粘土粒まじり、砂まじり。しまりなし。
2. 開拓面土 ややしまりあり。しまりなし。
3. 灰灰面土 灰はまじり(ややなじみない)。ややしまりあり。
4. 黄灰面土 地山はブロック(なじんでいた)状のもの多くまじる。粘粒あり。
5. 灰面土 砂まじり。地山土粒がわずかにまじる。ややしまってなし。
6. 開拓面土 クロボク質。しまりなし。地山はまじり。
7. 開拓面土 地山は全般的にまじり。砂まじり。しまりなし。
8. 灰面土 クロボク質。地山土粒まじり。ややしまりあり。
10. 開拓面土 10mmと比較地山土のまじり方がとても少ない。
11. 開拓面土



SB-22

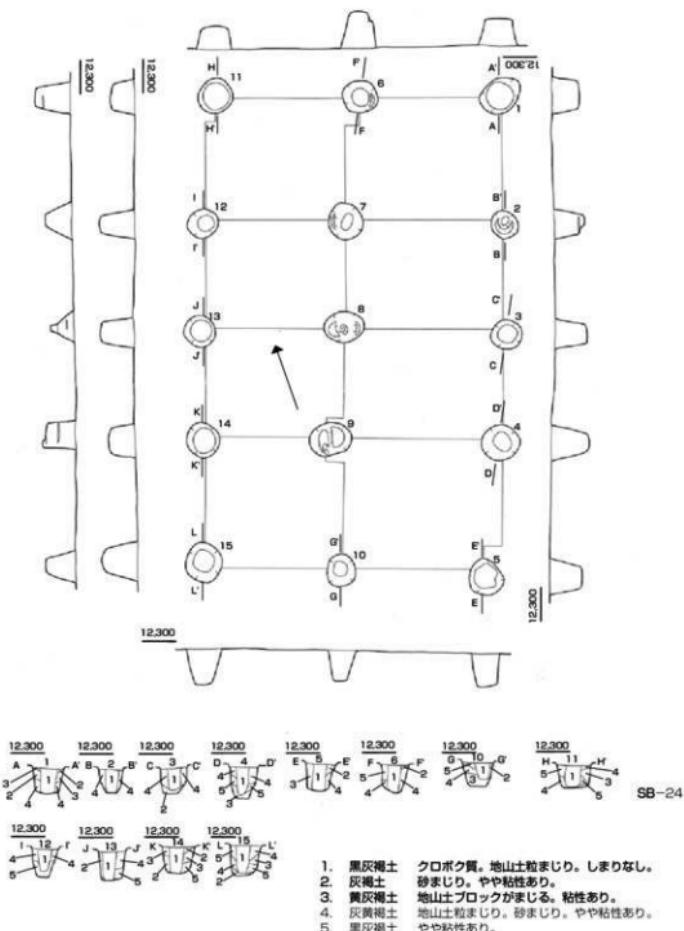
第23図 諸田南遺跡 古池地区 SB-21, 22 (S = 1/80)



SB-23

1. 黒灰褐色土 クロボク質。地山土粒わずかにまじり。しまりなし。砂まじり。
2. 緩灰褐色土 ややしまっている。地山土粒まじり。
3. 黄灰褐色土 地山土ブロックまじり。粘性あり。
4. 灰褐色土 砂まじり。地山土粒が全体的に多くまじる。やや粘性あり。
5. 灰黄褐色土 なじんでいない。地山土のまことにまじりがまじる。粘性があり、しまっている。
6. 黑灰褐色土 1層とほぼ同質。地山土のまじりが多い。
7. 黄褐色土 地山土が埋られた後、埋められたもの、まじりはほとんどなく、粘性あり。

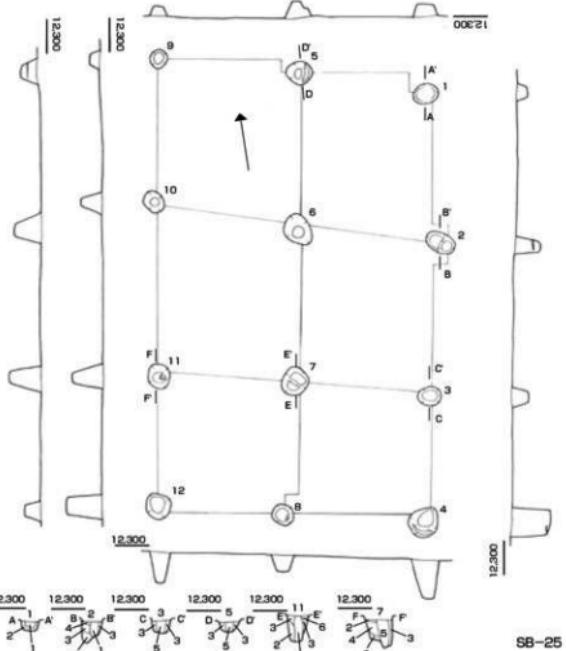
第24図 諸田遺跡 古池地区 SB-23 (S = 1/80)



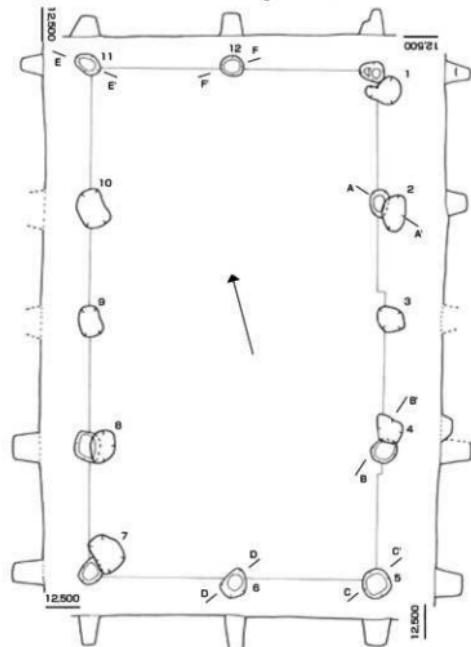
第25図 諸田遺跡 古池地区 SB-24 (S = 1/80)

諸田南遺跡・古池地区

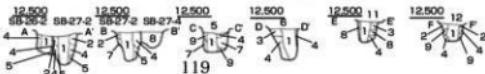
1. 鑑灰褐土 砂まじり、まじりなし。  
しまりなし。
2. 灰黄褐土 地山土粒まじり、粘性あり。  
しまりあり。
3. 灰褐土 砂まじり、地山土粒まじり、やししまっている。  
地山土ブロックまじり、  
粘性あり。
4. 黄灰褐土
5. 黑灰褐土 クロボク質土。しまりなし。
6. 黑灰褐土 クロボク質、ややしまつ  
ている。



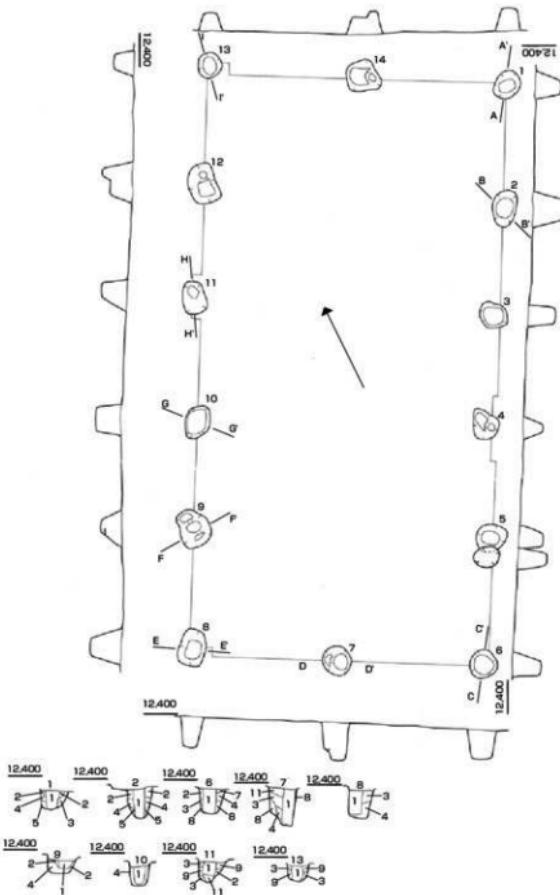
1. 黑灰褐土 砂まじり、しまりなし。
2. 淡灰褐土 砂まじり、ややしまりあり。
3. 黄灰褐土 地山土ブロックまじり、ややしま  
りあり。
4. 灰黄褐土 砂まじり、地山土粒まじり。  
しまりあり。
5. 灰褐土 砂まじり、ややしまりあり。
6. 淡黄褐土 砂まじり、ややしまりあり。
7. 黑褐土 地山土粒、砂まじり。
9. 黑灰褐土 クロボク質、ややしまつ  
ている。



第 26 図 諸田南遺跡 古池地区  
SB-25, 26 (S = 1/80)



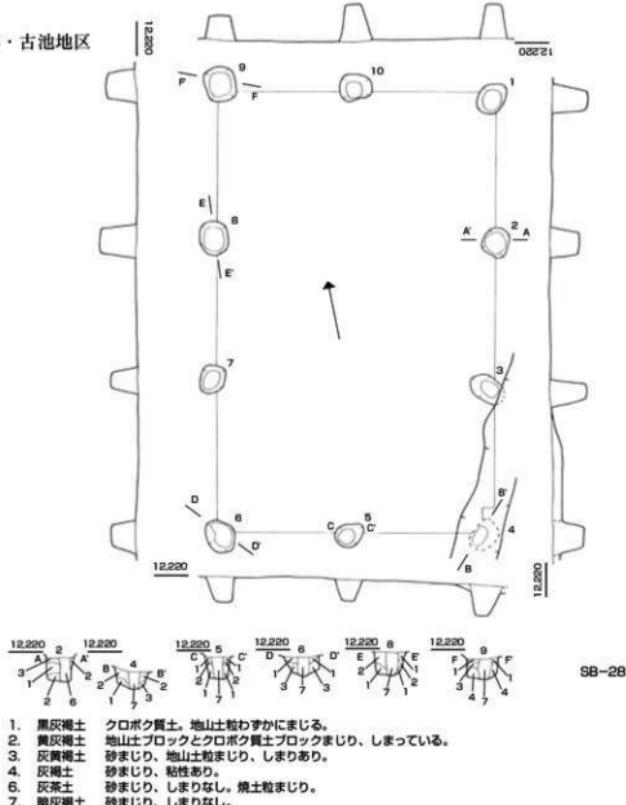
SB-26



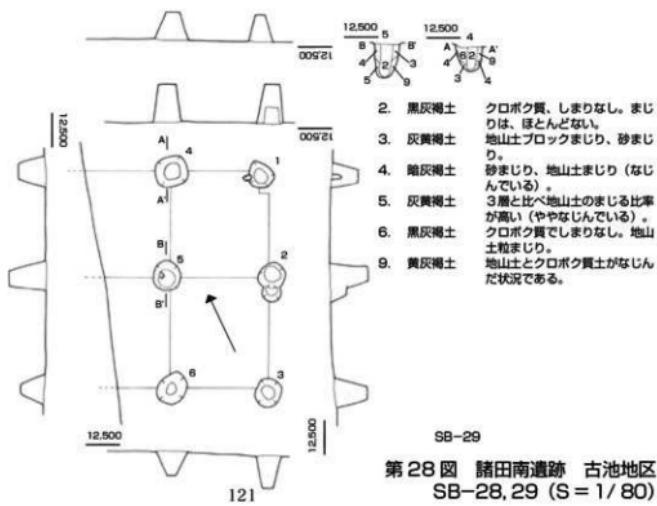
1. 黒灰褐色 土 砂まじり。しまりなし。
2. 薄灰褐色 土 砂まじり。ややしまりあり。
3. 黄灰褐色 土 地山土ブロックまじり。ややしまりあり。
4. 灰黄褐色 土 砂まじり。地山土粒まじり。
5. 灰褐色 土 砂まじり。ややしまりあり。
7. 淡黄褐色 土 砂まじり。ややしまりあり。
8. 灰褐色 土 地山土粒。砂まじり。
9. 黑灰褐色 土 クロボク質。ややしまっている。
11. 黑灰褐色 土 1層と同質。同色地山土ブロックまじり。(なじんでいない)

第 27 図 諸田遺跡 古池地区 SB-27 (S = 1/80)

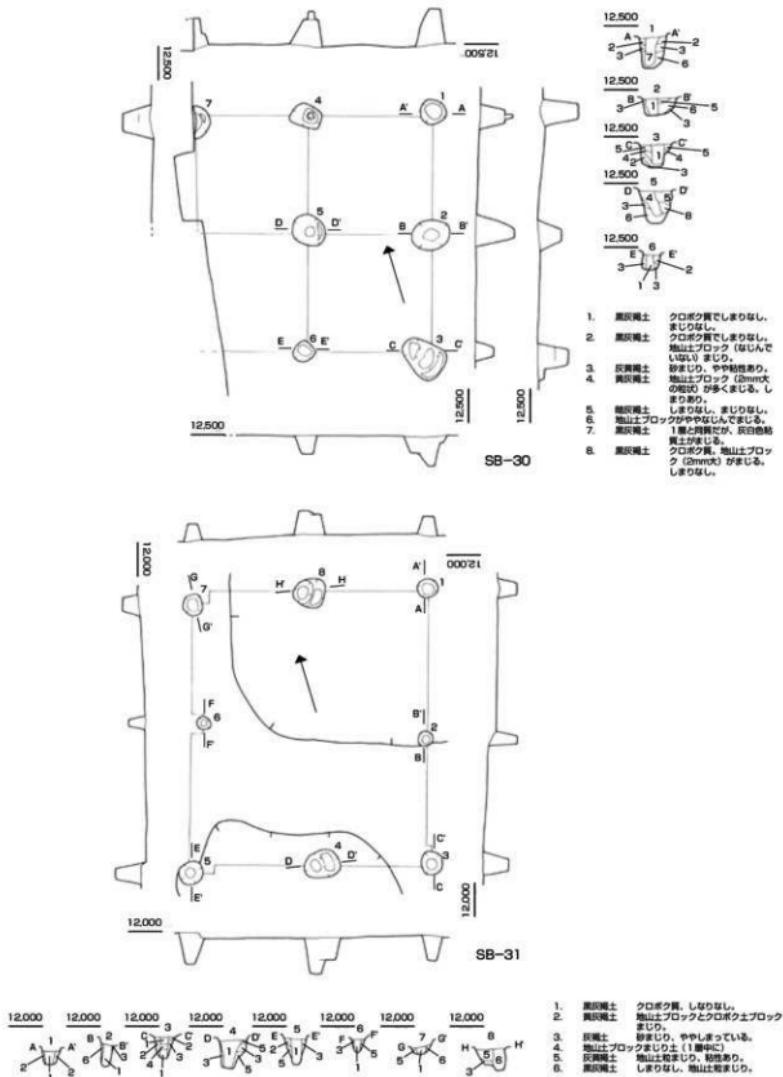
諸田南遺跡・古池地区



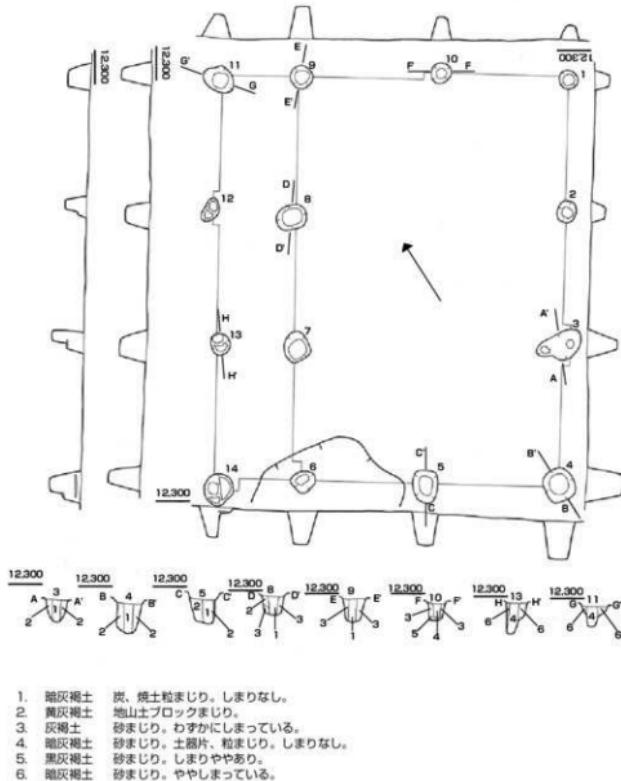
- 黒灰褐土 クロボク質土。地山土粒わずかにまじる。
- 黄灰褐土 地山土ブロックとクロボク質土ブロックまじり、しまっている。
- 灰黄褐土 砂まじり、地山土粒まじり、しまりあり。
- 灰褐土 砂まじり、粘性あり。
- 灰茶土 砂まじり、しまりなし。焼土粒まじり。
- 暗灰褐土 砂まじり、しまりなし。



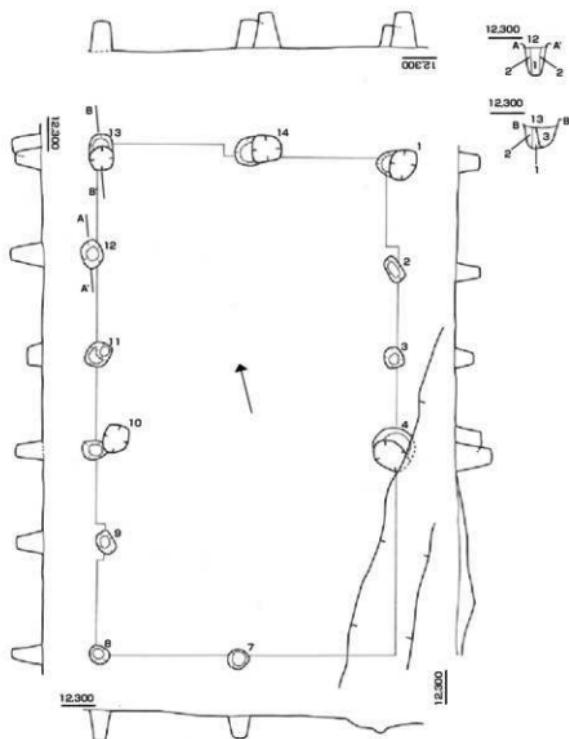
第28図 諸田南遺跡 古池地区  
SB-28, 29 (S = 1 / 80)



第29図 諸田南遺跡 古池地区 SB-30, 31 (S = 1/80)

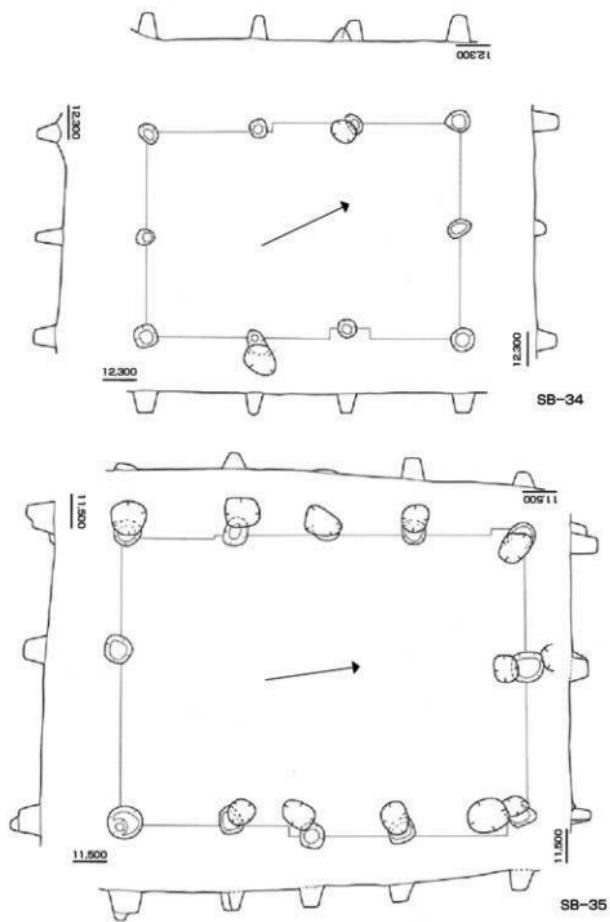


第30図 諸田遺跡 古池地区 SB-32 (S = 1/80)

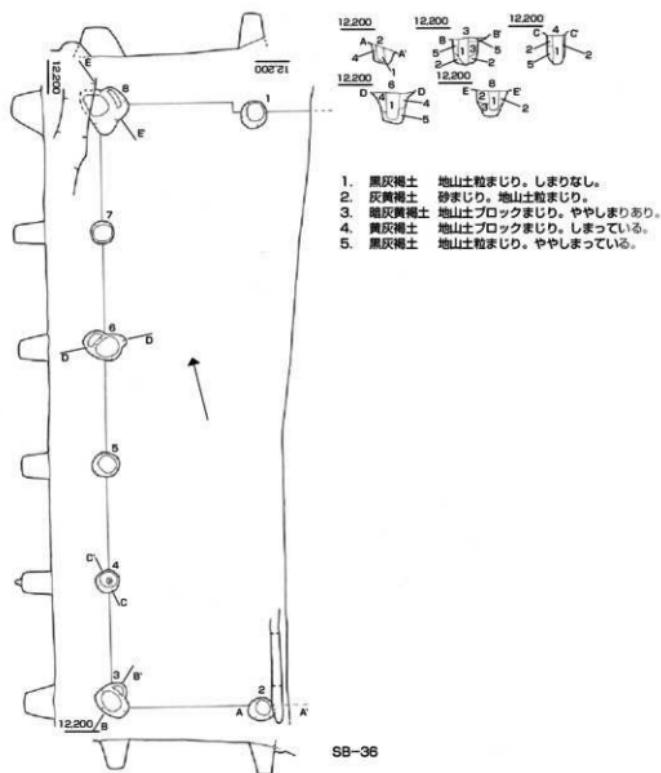


1. 黒灰褐色土 クロボク質。しまりなし。砂まじり。
2. 黄灰褐色土 地山土とクロボク質土ブロックまじり。粘性。しまりあり。
3. 黑灰褐色土 やや粘性あり。地山土粒まじり。→別splitの埋土。

第31図 諸田遺跡 古池地区 SB-33 (S = 1/80)

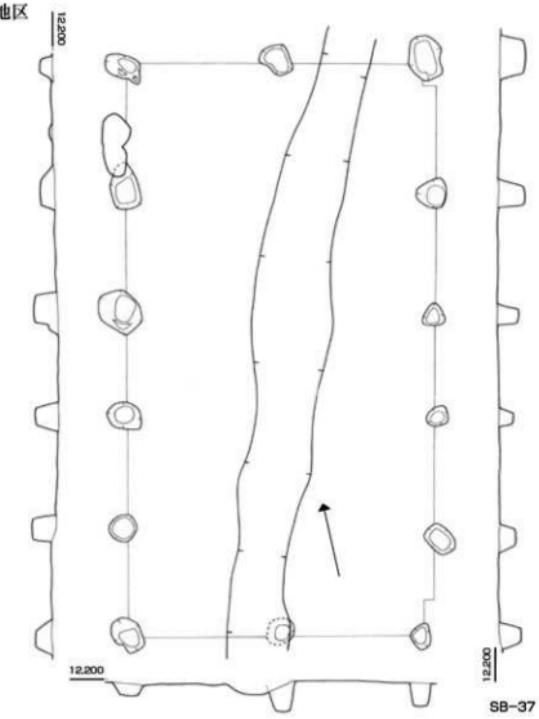


第32図 諸田遺跡 古池地区 SB-34, 35 (S = 1/80)

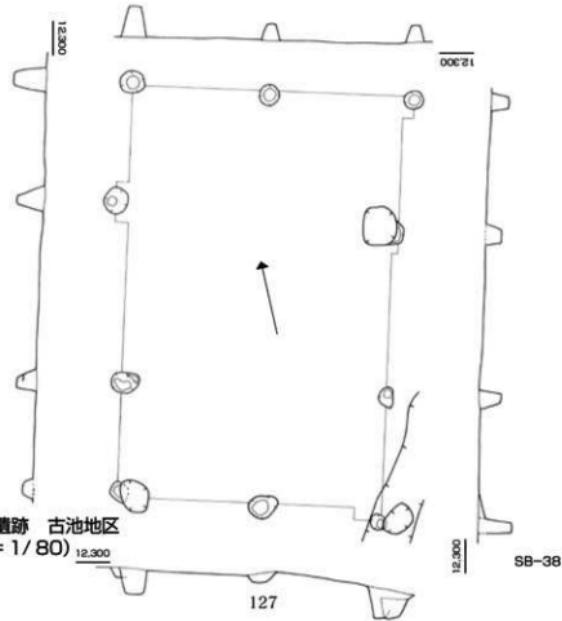


第33図 諸田遺跡 古池地区 SB-36 (S = 1/80)

諸田南遺跡・古池地区

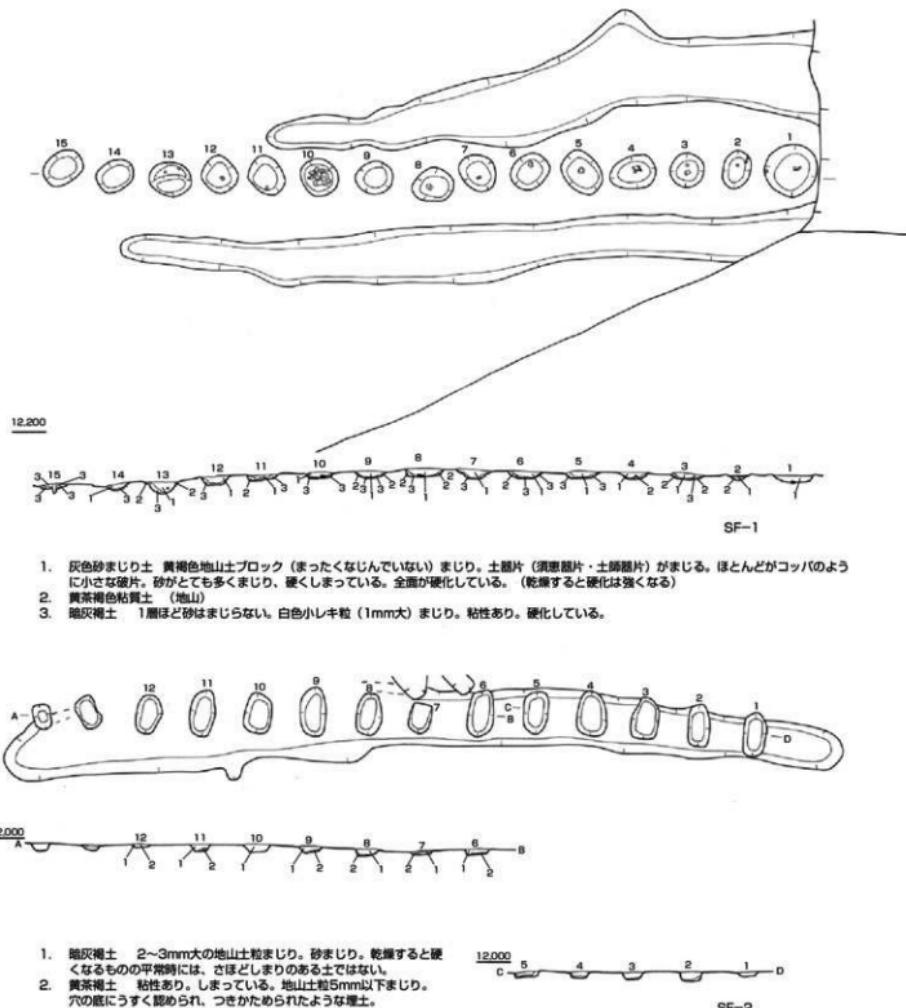


SB-37

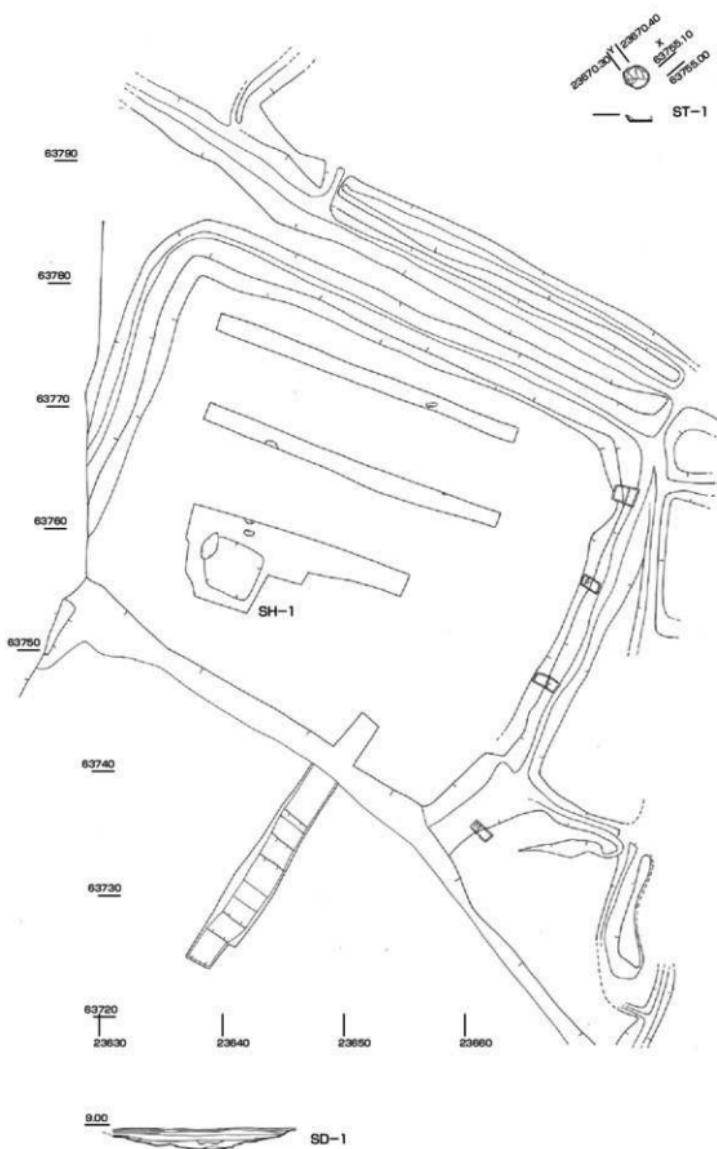


SB-38

第34図 諸田南遺跡 古池地区  
SB-37, 38 (S = 1/80)

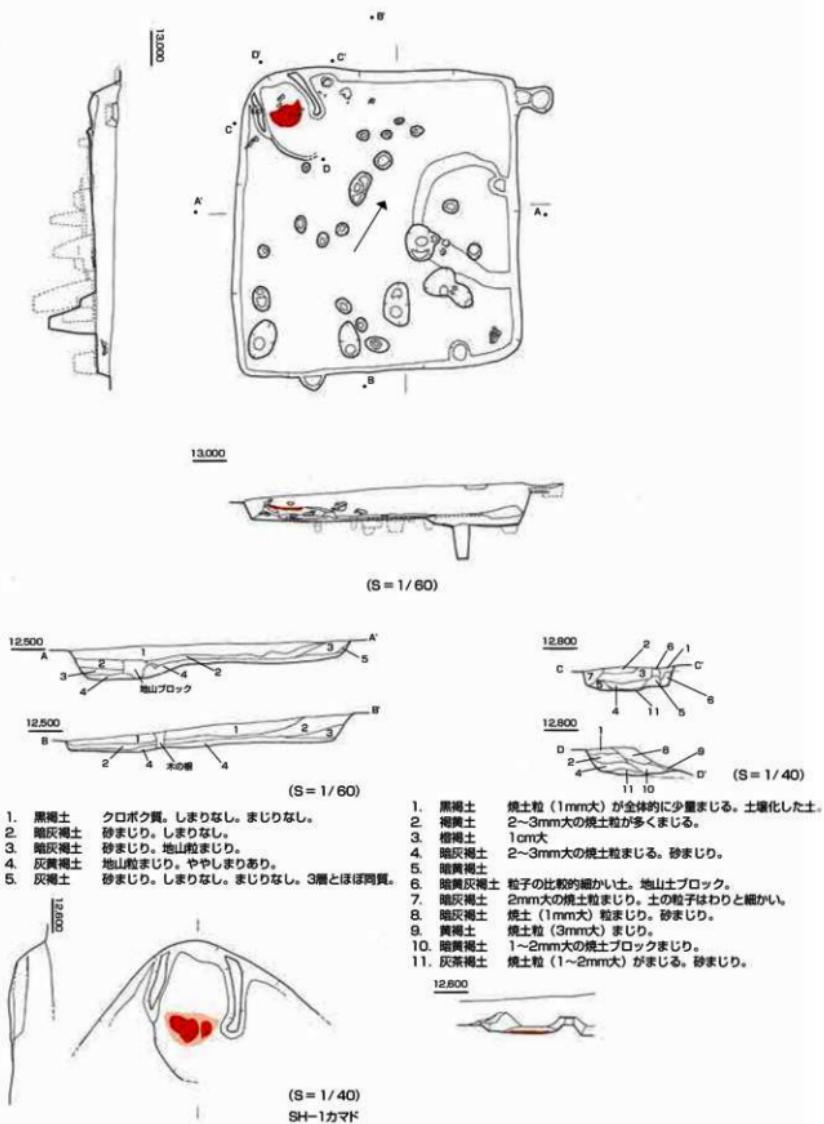


第35図 諸田遺跡 古池地区 SF-1,2 (S = 1/60)

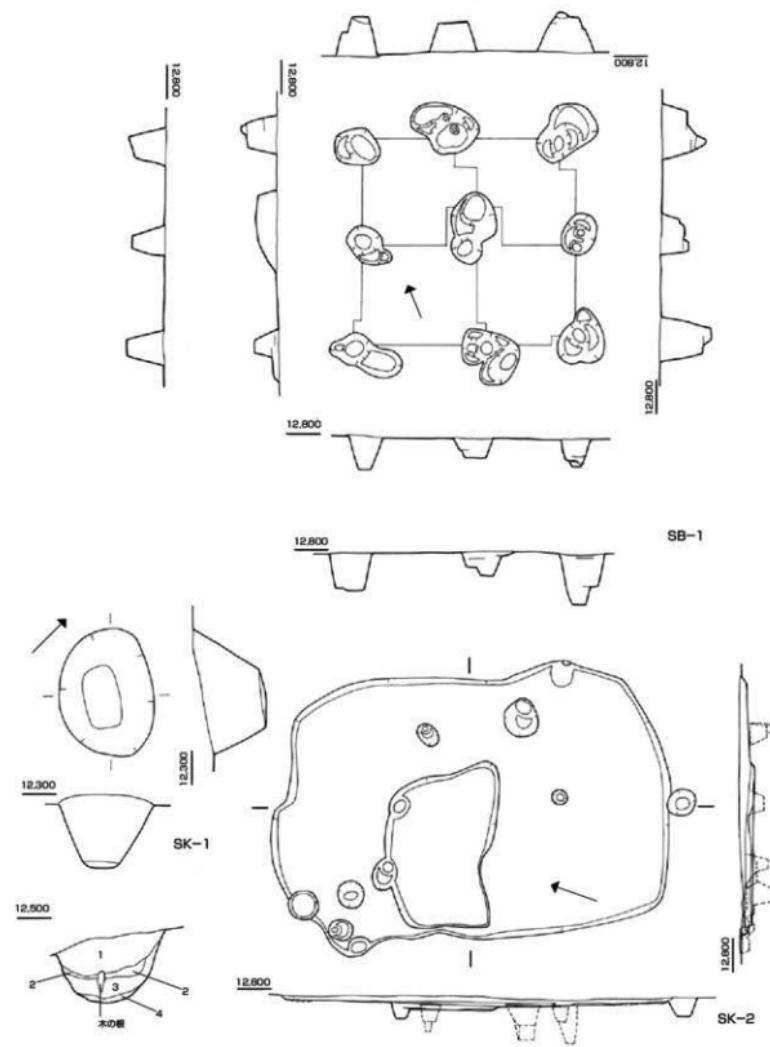


第1図 諸田遺跡 南立地区 SH-1, ST-1, SD-1 (S = 1/400)

諸田南遺跡・南方地区

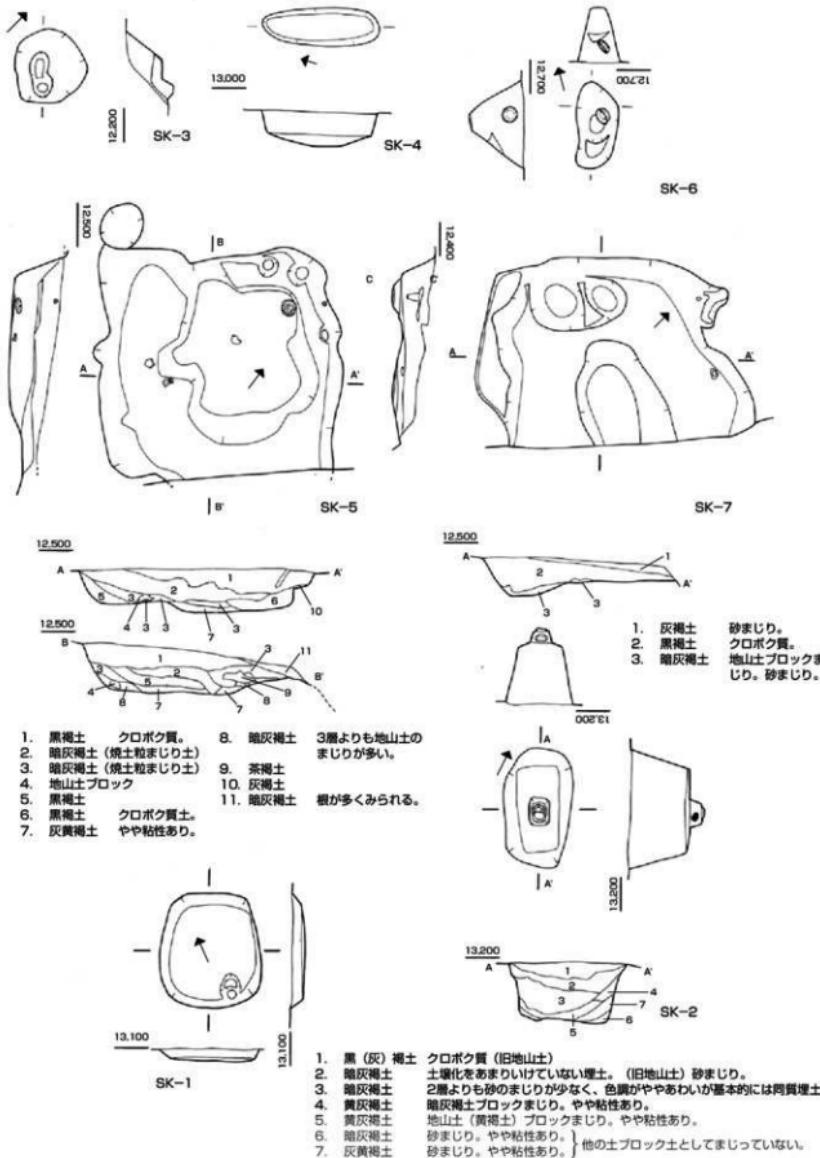


第1図 諸田南遺跡 南方地区 A区 SH-1

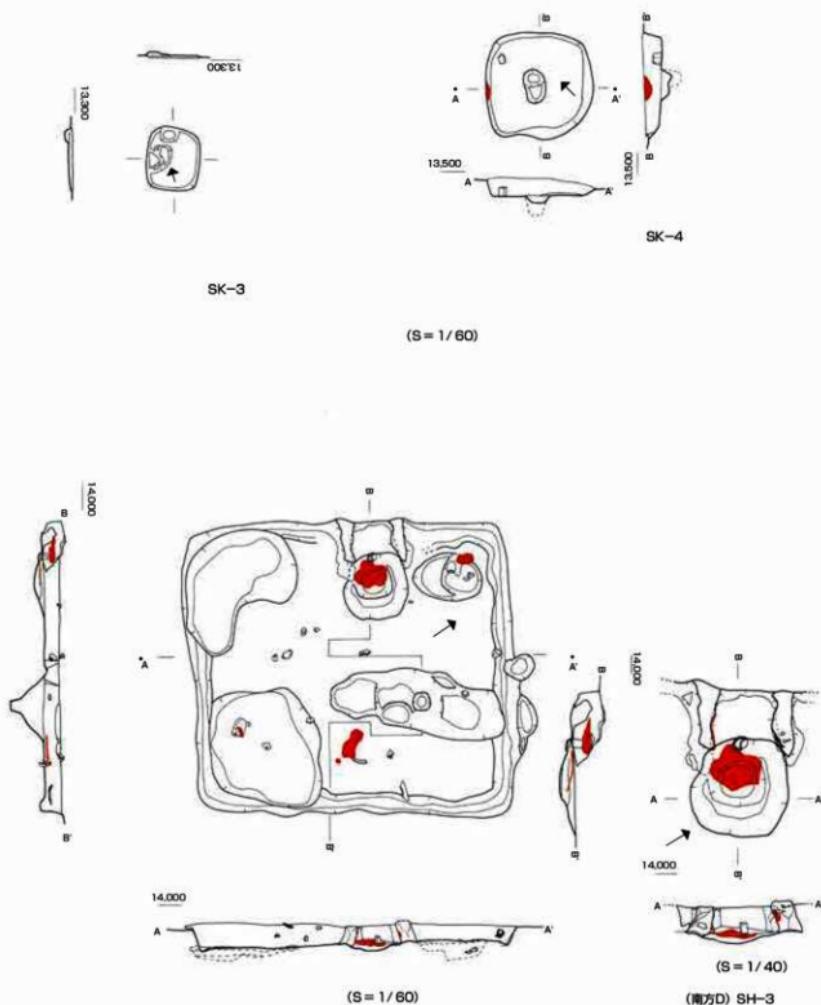


1. 黒(灰)褐土 クロボク質。しまりなし。(旧地山土)
2. 暗灰褐土 ややしまりあり。(旧地山土)
3. 灰褐土 ややしまりあり。(旧地山土)
4. 灰褐色 土質土、粘性あり。砂まじり。小レキまじり。土坑が掘られた後、短期間のうちに堆積した(自然に)埋土か。

第2図 諸田南遺跡 南方地区 A区 SB-1 SK-1,2 (S = 1/60)

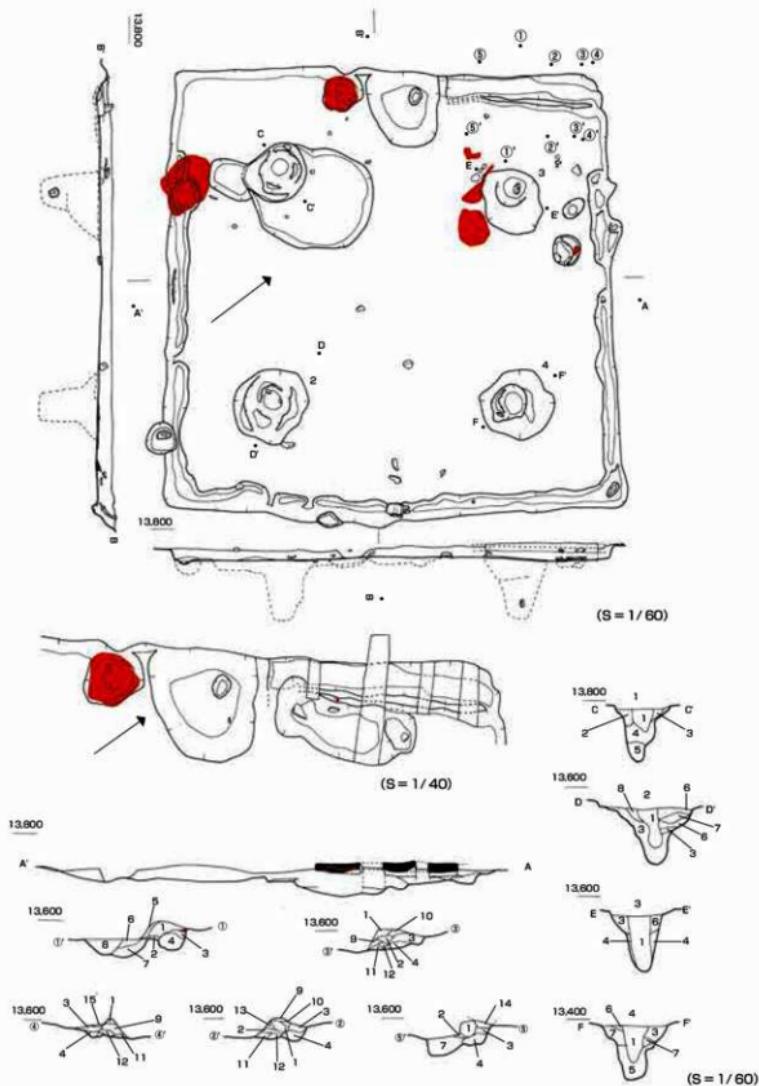


第3図 諸田南遺跡 南方地区 A区 SK-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 (S = 1/60)  
C区 SK-1, 2



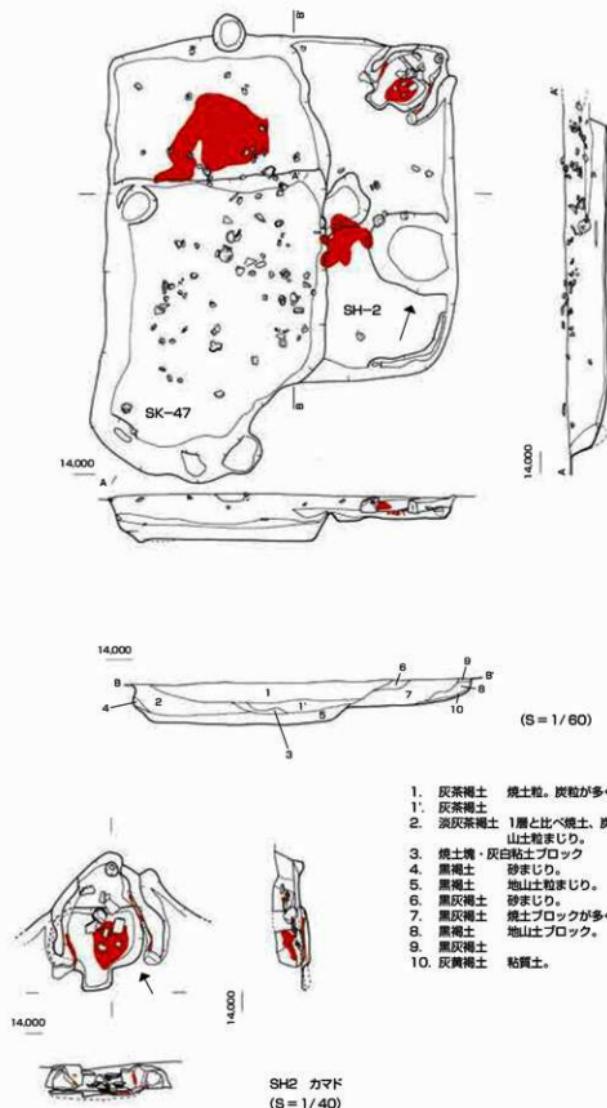
第4図 諸田南遺跡 南方地区 C区 SK-3,4  
D区 SH-1

諸田南遺跡・南方地区

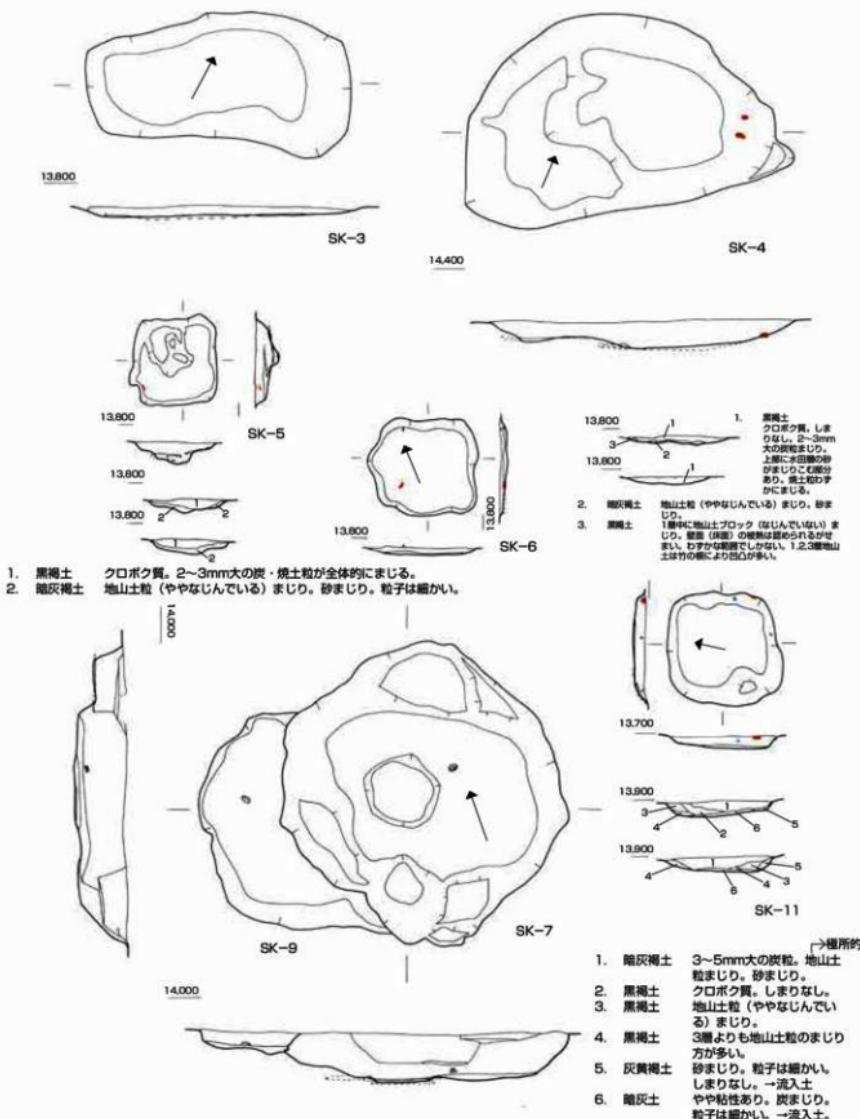


- |             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 1. 黄褐色 地山土粒 | 7. 茶褐色 やや多めの焼土粒まじり。砂まじり。 |
| 1'. 黄褐色     | 8. 茶褐色 7層とほとんど同質。        |
| 2. 暗灰褐色     | 9. 暗黄褐色                  |
| 3. 黑灰褐色     | 10. 淡灰黄褐色 砂まじりは少ない。粘性あり。 |
| 4. 暗灰褐色     | 11. 淡灰黄褐色 粘性あり。          |
| 5. 黑灰褐色     | 12. 淡灰黄褐色                |
| 6. 褐黃褐色     | 13. 暗黄褐色 地山土粒まじり。        |
|             | 14. 暗黄褐色 地山土粒まじり。        |

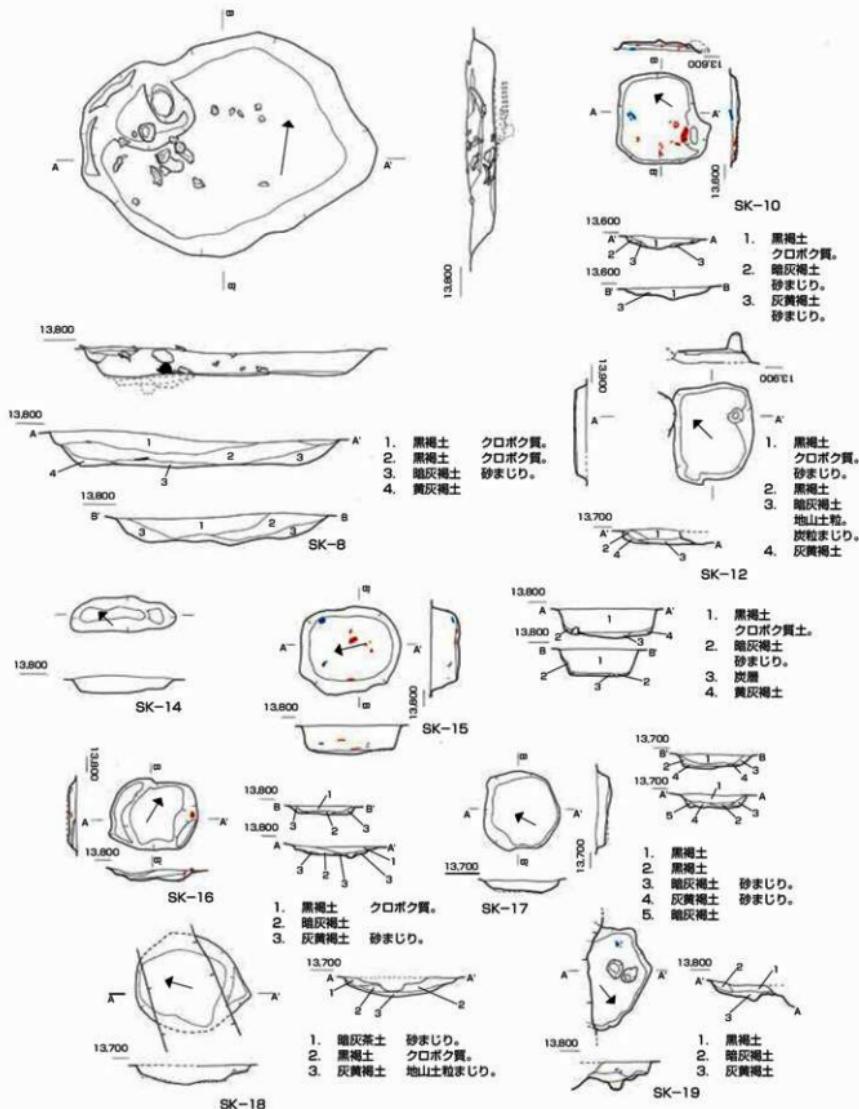
第5図 諸田南遺跡 南方地区 口区 SH-1



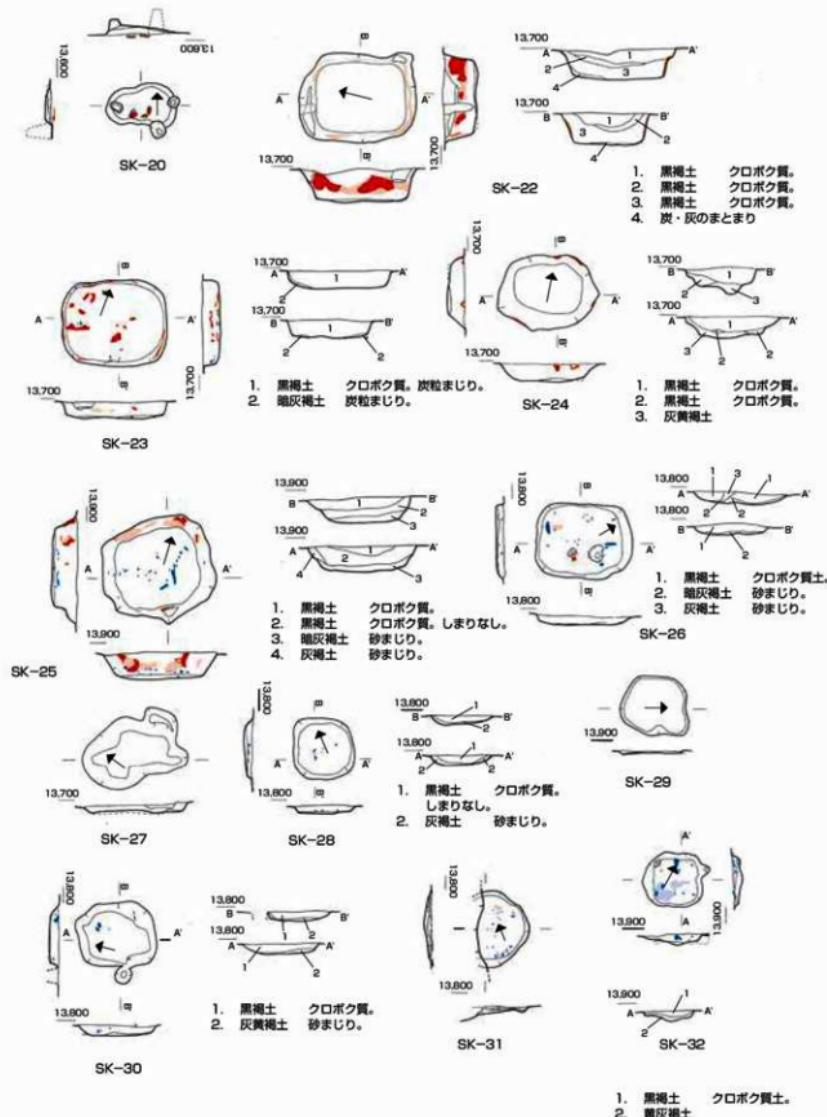
第6図 諸田南遺跡 南方地区 D区 SH-2 SK-47



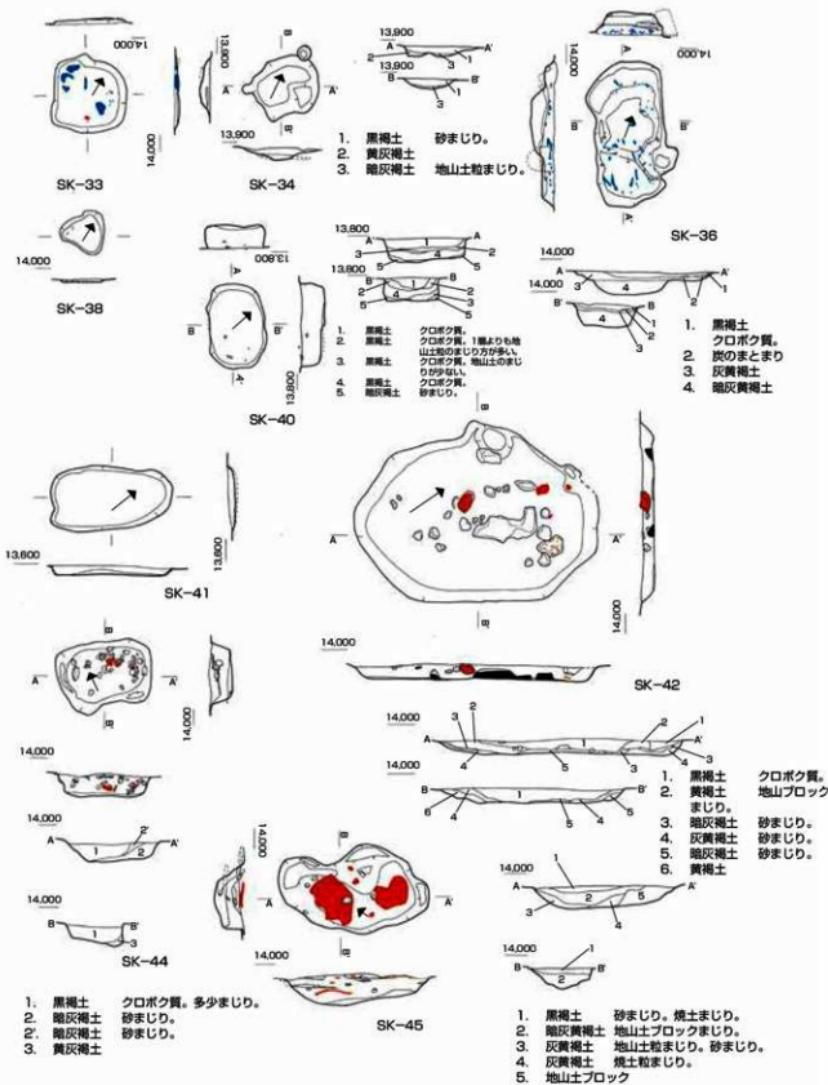
第7図 諸田南遺跡 南方地区 D区 SK-3, 4, 5, 6, 7, 9, 11 (S = 1 / 60)



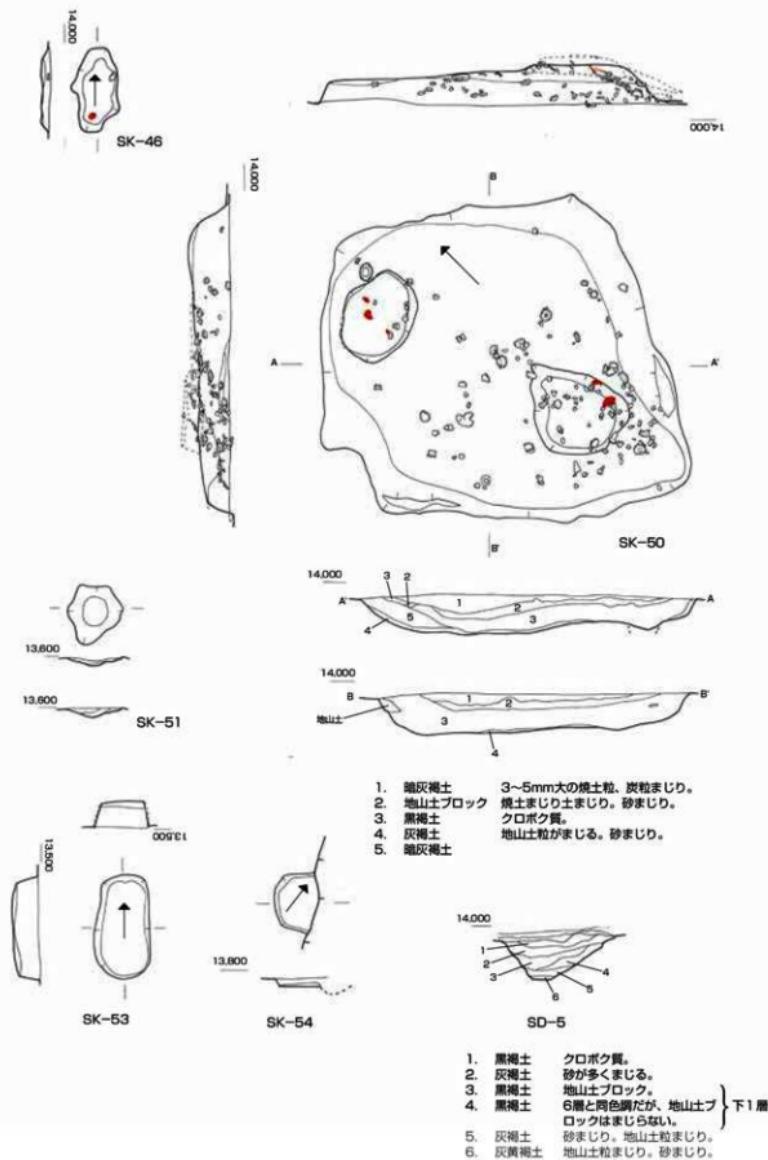
第8図 諸田南遺跡 南方地区 D区 SK-8, 10, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19 (S = 1/60)



第9図 諸田南遺跡 南方地区 D区  
SK-20, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32 (S = 1 / 60)

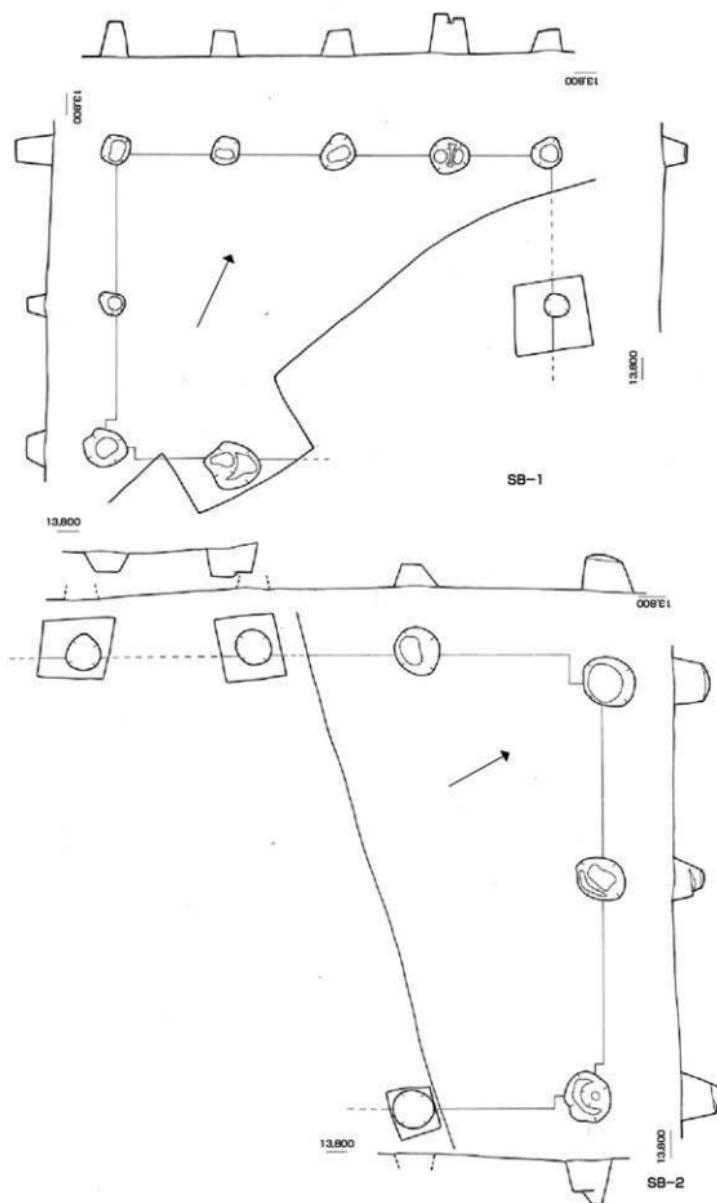


第10図 諸田南遺跡 南方地区 D区  
SK-33, 34, 36, 38, 40, 41, 42, 44, 45 (S = 1 / 60)

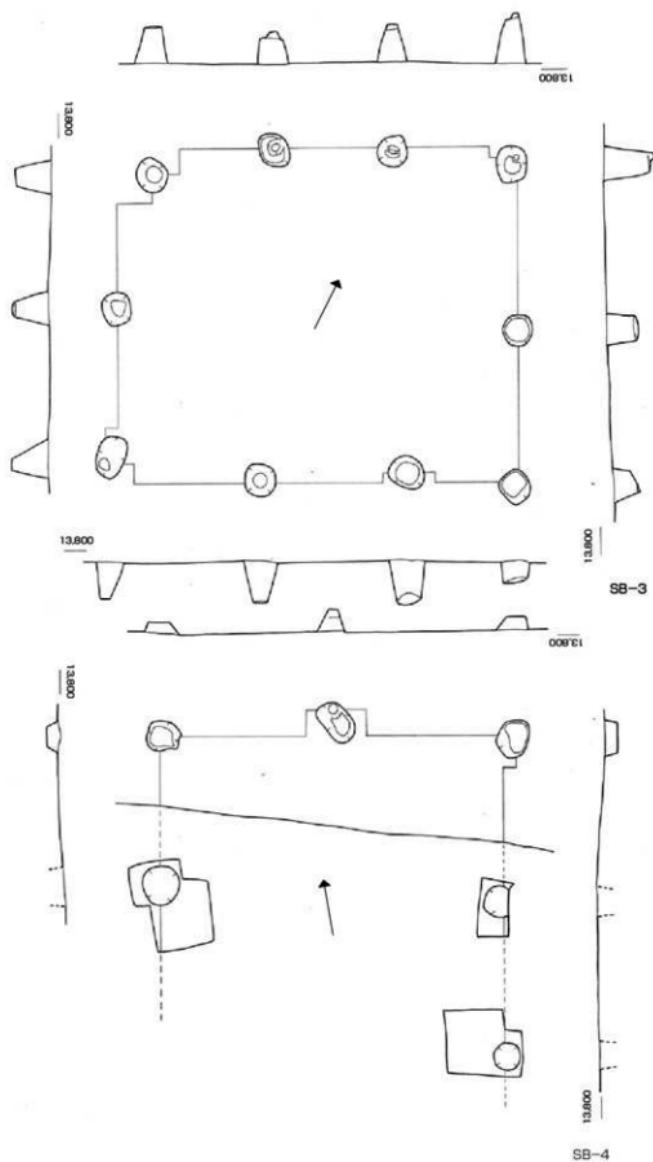


第 11 図 諸田南遺跡 南方地区 D区 SK-46, 50, 51, 53, 54 SD-5 (S = 1 / 60)

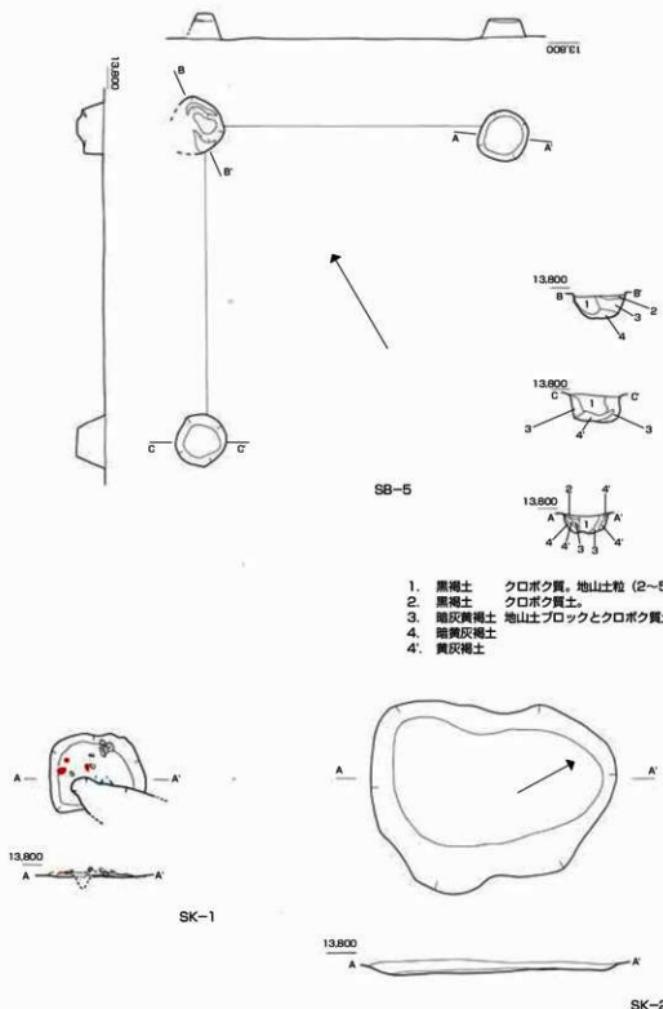
諸田南遺跡・南方地区



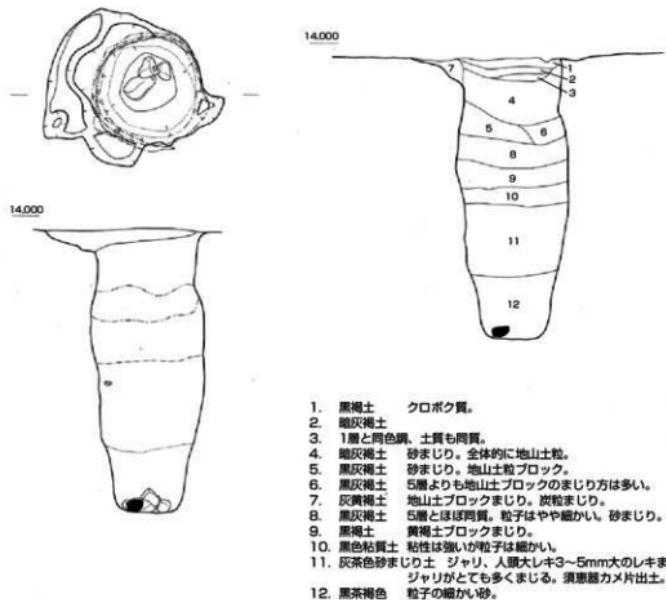
第12図 諸田南遺跡 南方地区 D区 SB-1,2 (S = 1/60)



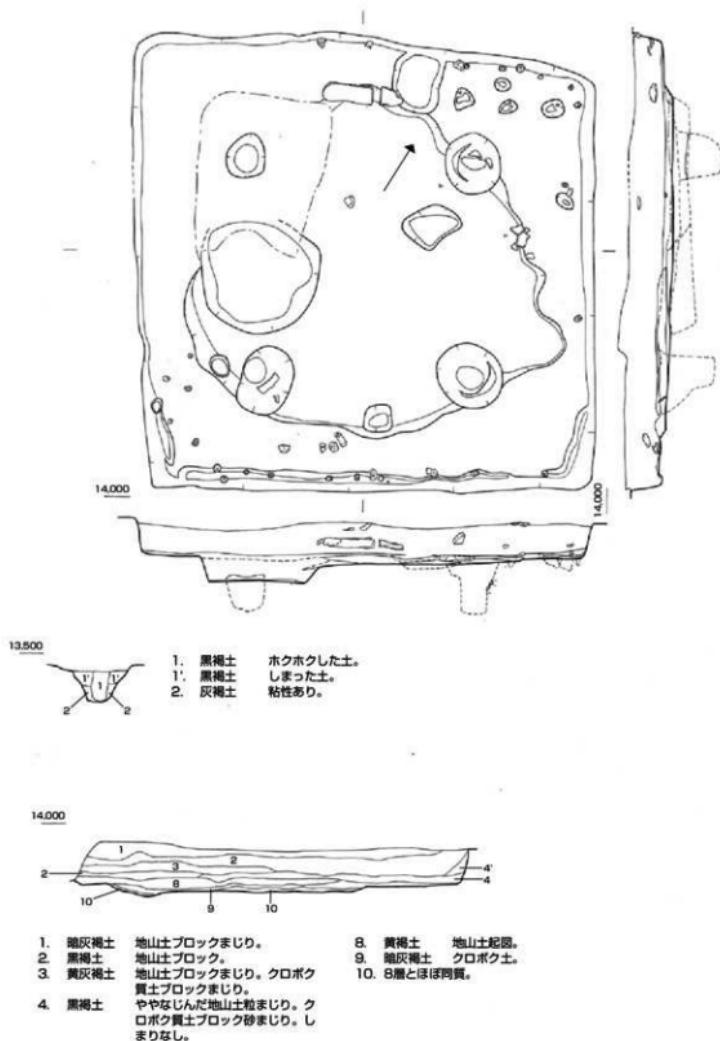
第13図 諸田南遺跡 南方地区 D区 SB-3,4 (S = 1/60)



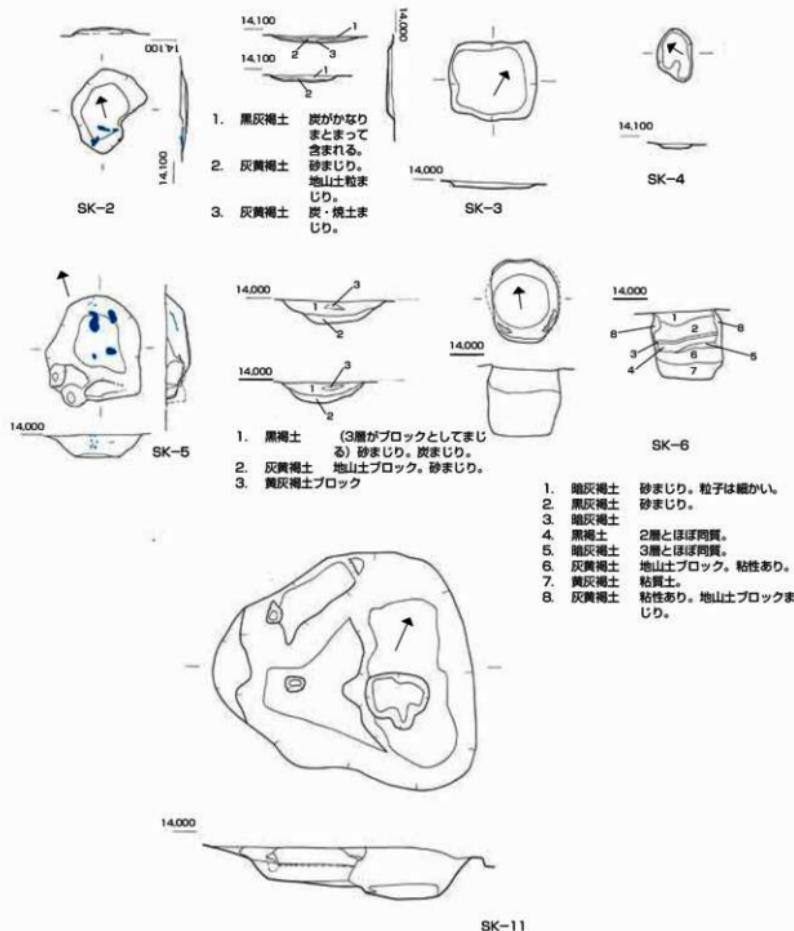
第14図 諸田南遺跡 南方地区 D区 SB-5, SK-1,2 (S = 1/60)



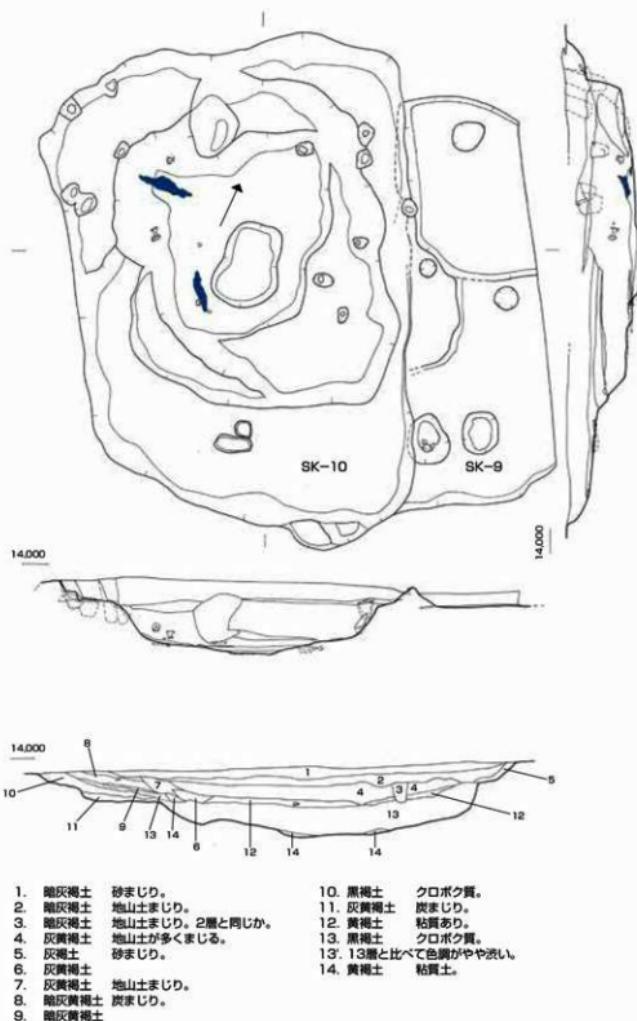
第15図 諸田南遺跡 南方地区 D区 SE-1 (S = 1/60)



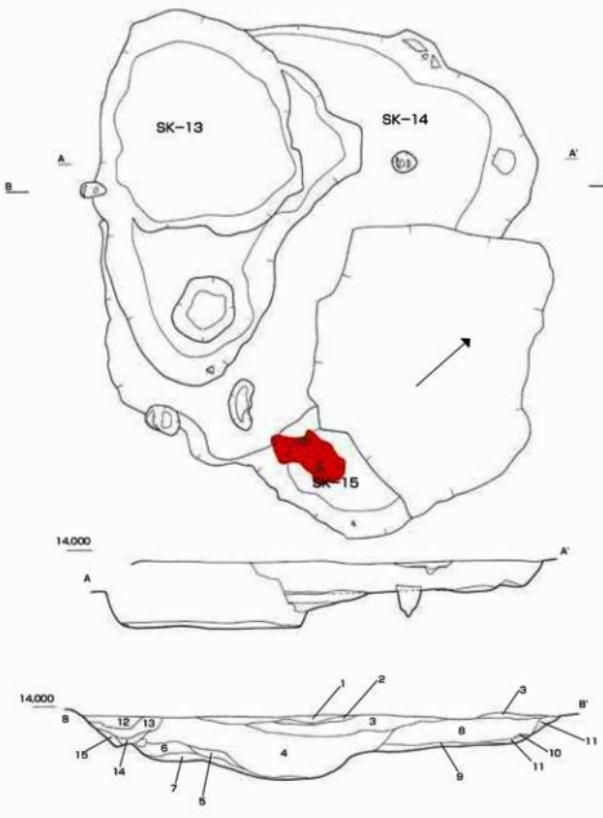
第16図 諸田南遺跡 南方地区 E区 SH-1 (S = 1/60)



第17図 諸田南遺跡 南方地区 E区 SK-2, 3, 4, 5, 6, 11 (S = 1 / 60)

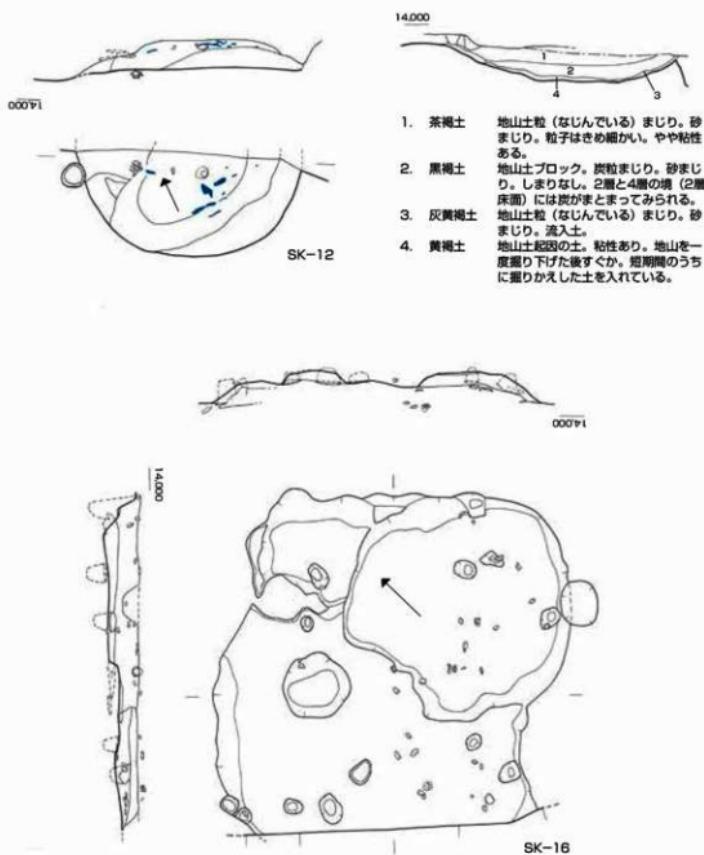


第18図 諸田南遺跡 南方地区 E区 SK-9, 10 (S = 1/60)

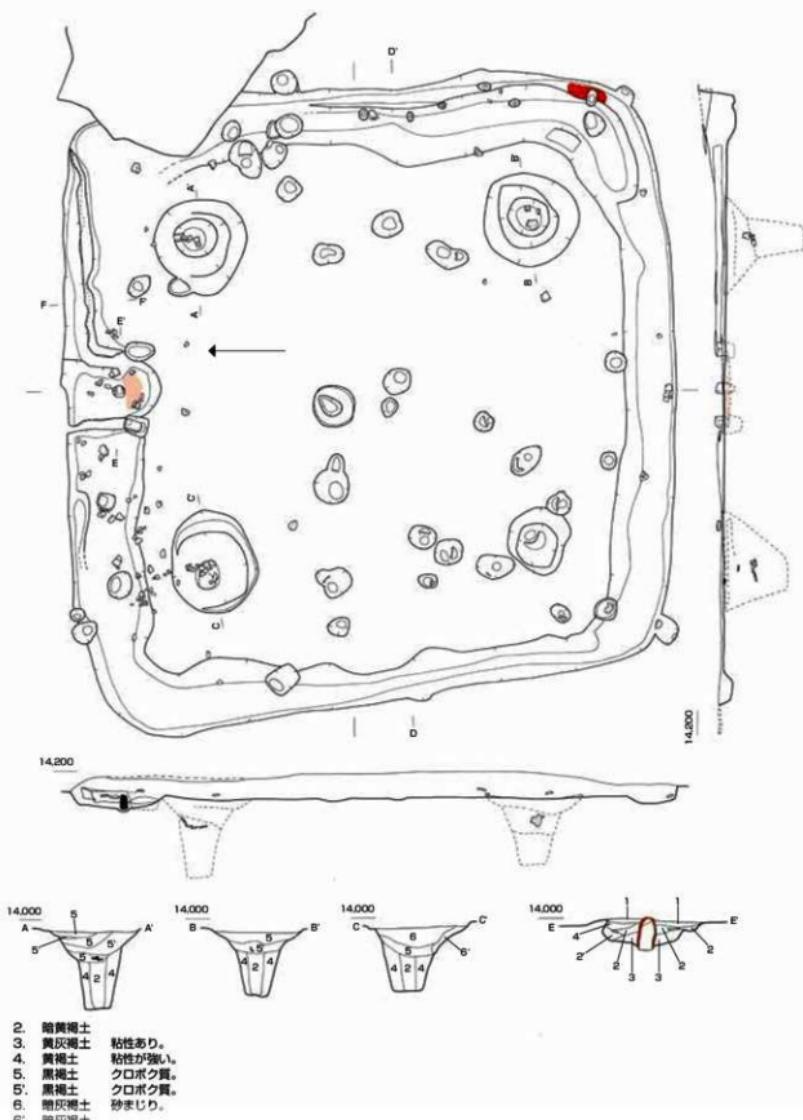


- 別土坑  
埋土? {
- 1. 黒灰褐土 クロボク質。砂まじり。
  - 2. 黄灰褐土 ややしまりのある粘質土ブロックまじり。
  - 3. 黑褐土 1層と比べ地山土粒。
  - 4. 黑褐土 クロボク質。地山土粒。砂まじり。
  - 5. 黑褐土 クロボク質。砂まじり。
  - 6. 黑灰褐土 砂まじり。地山土ブロックが多くまじる。
  - 7. 暗灰褐土 地山土ブロックまじり。やや粘性あり。
  - 8. 黄灰褐土 地山土ブロックまじり。粘性あり。砂まじり。
- SD-5  
埋土 {
- 9. 淡黄灰褐土 クロボク土ブロックが地山土中にまじる。
  - 10. 黑灰褐土 砂まじり。
  - 11. 暗灰褐土 地山土粒まじり。
  - 12. 黑褐土 クロボク質。砂まじり。
  - 13. 黑褐土 砂まじり。
  - 14. 灰褐土 砂まじり。粘性あり。
  - 15. 暗灰黄褐土 砂まじり。
- } 1段階目の堆積土

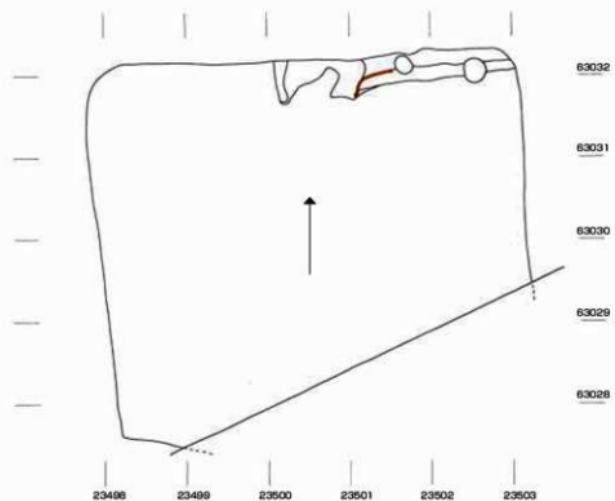
第19図 諸田南遺跡 南方地区 E区 SK-13, 14, 15 (S = 1/60)



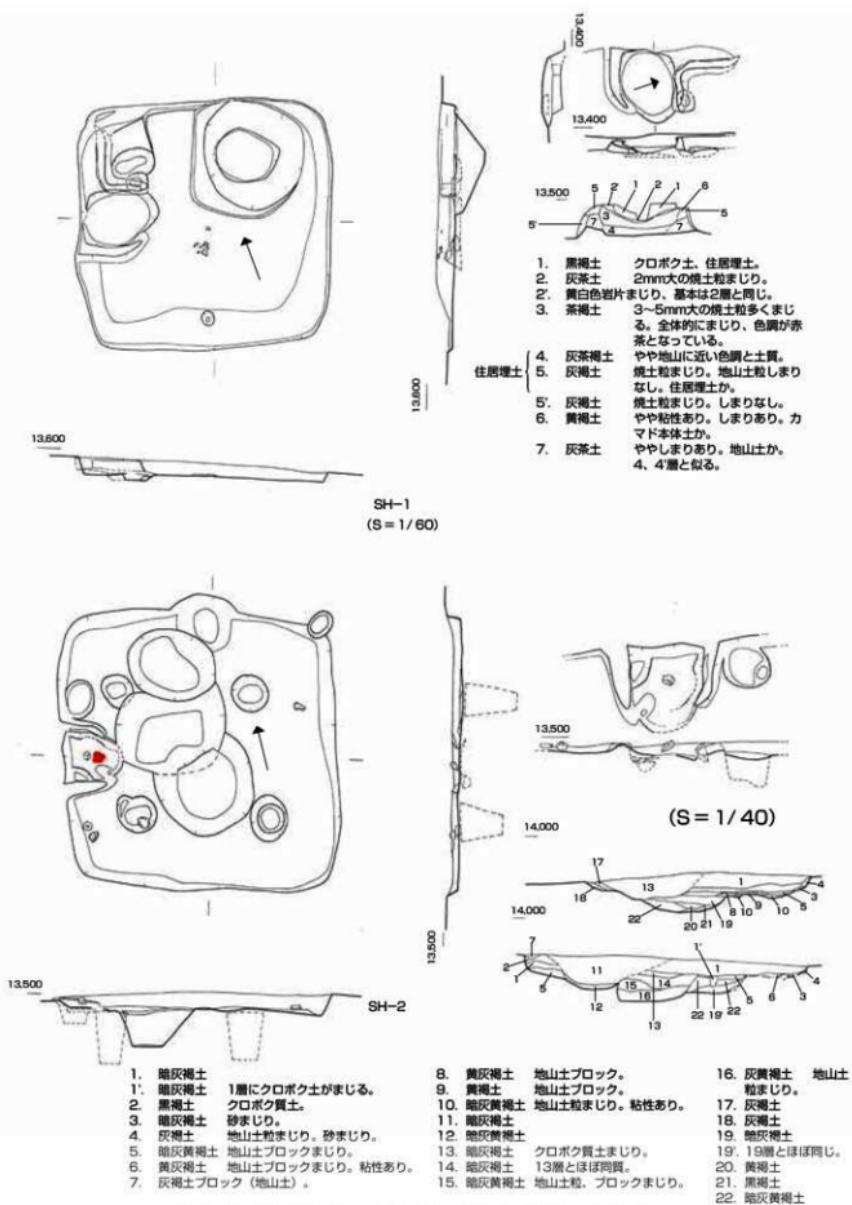
第20図 諸田南遺跡 南方地区 E区 SK-12, 16 (S = 1/60)



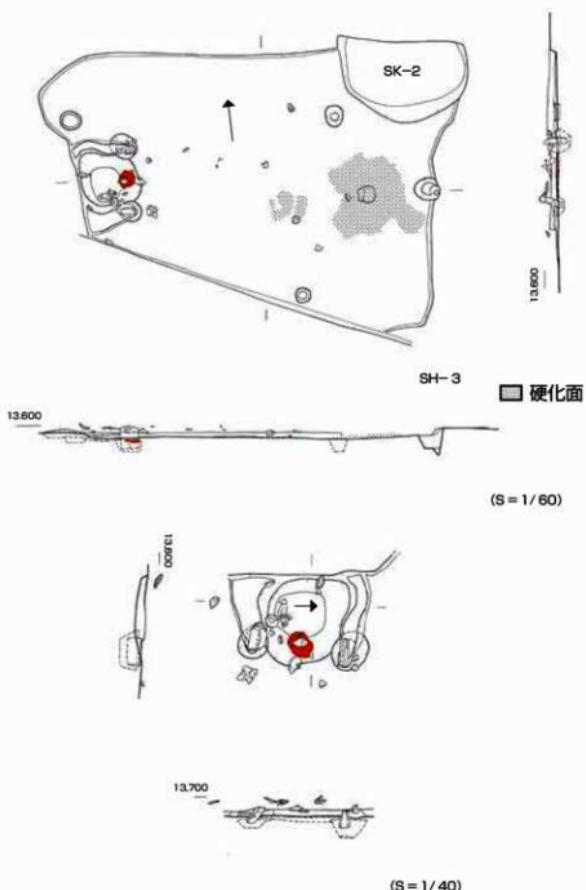
第21図 諸田南遺跡 南方地区 G区 SH-1 (S = 1/60)



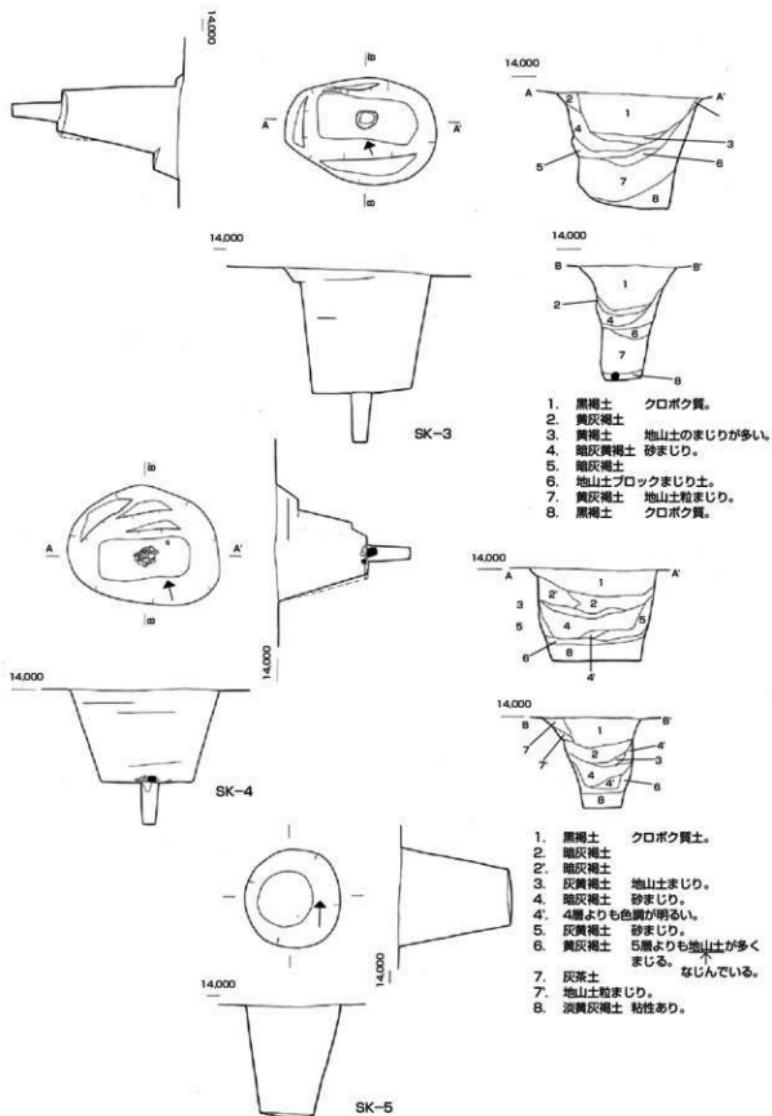
第22図 諸田南遺跡 南方地区 G区 SH-2 (S = 1/60)



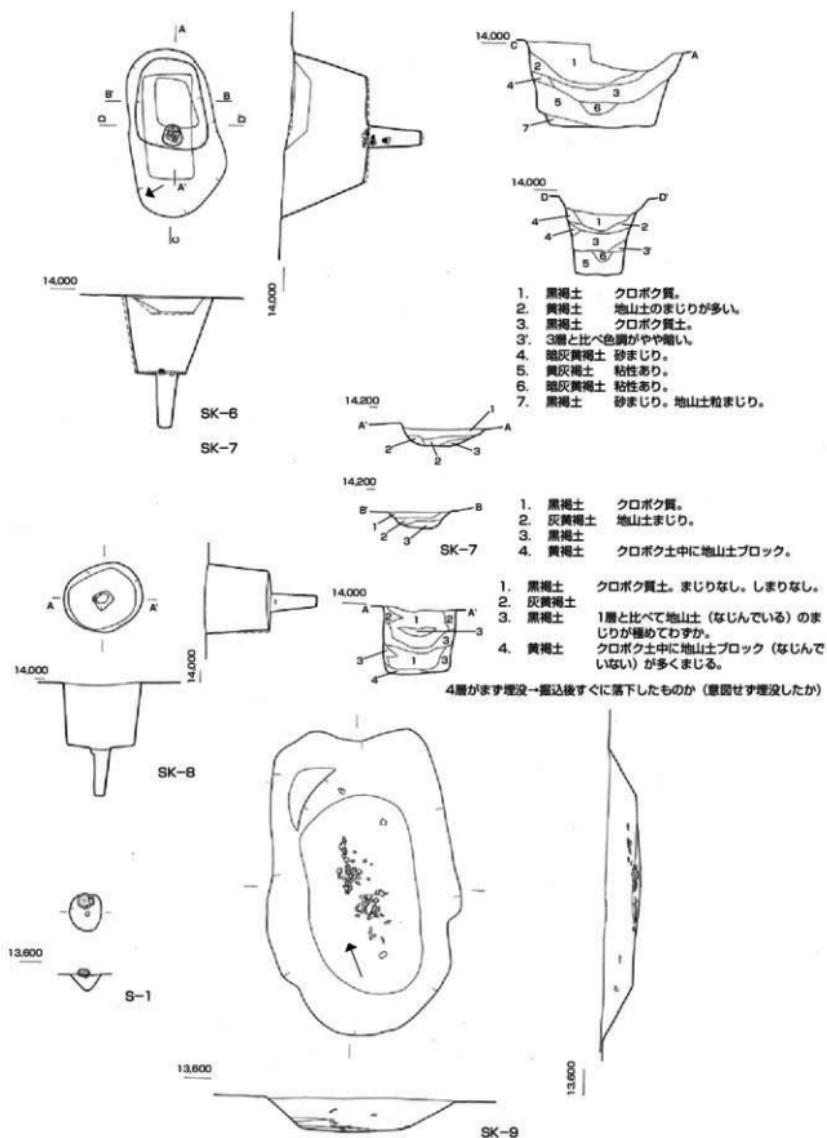
第1図 諸田南遺跡 寺野地区 SH-1,2 (S = 1/60)



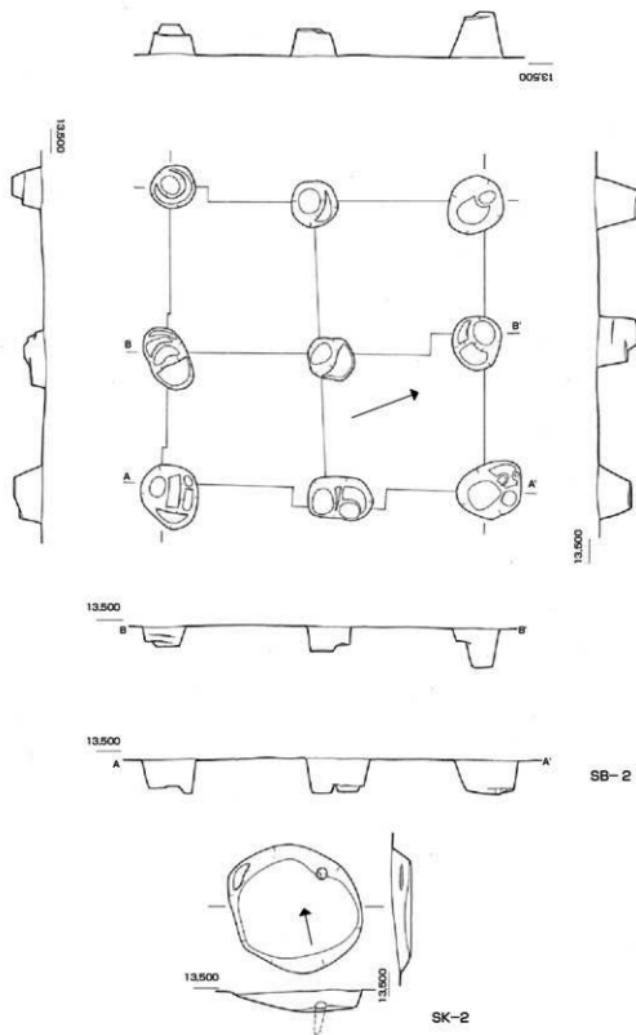
第2図 諸田南遺跡 寺野地区 SH-3 SK-2



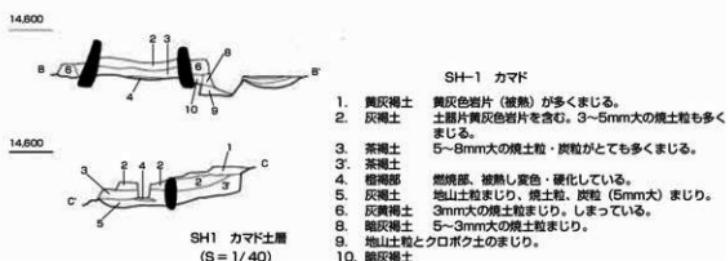
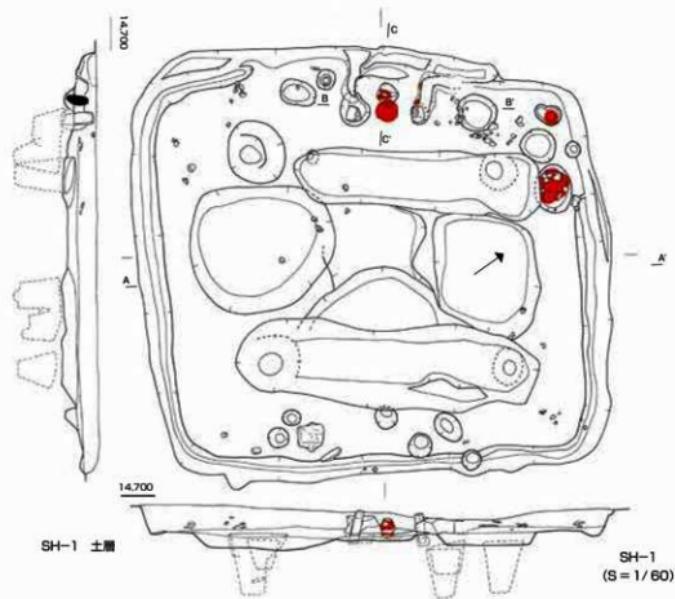
第3図 諸田南遺跡 寺野地区 SK-3, 4, 5 (S = 1/60)



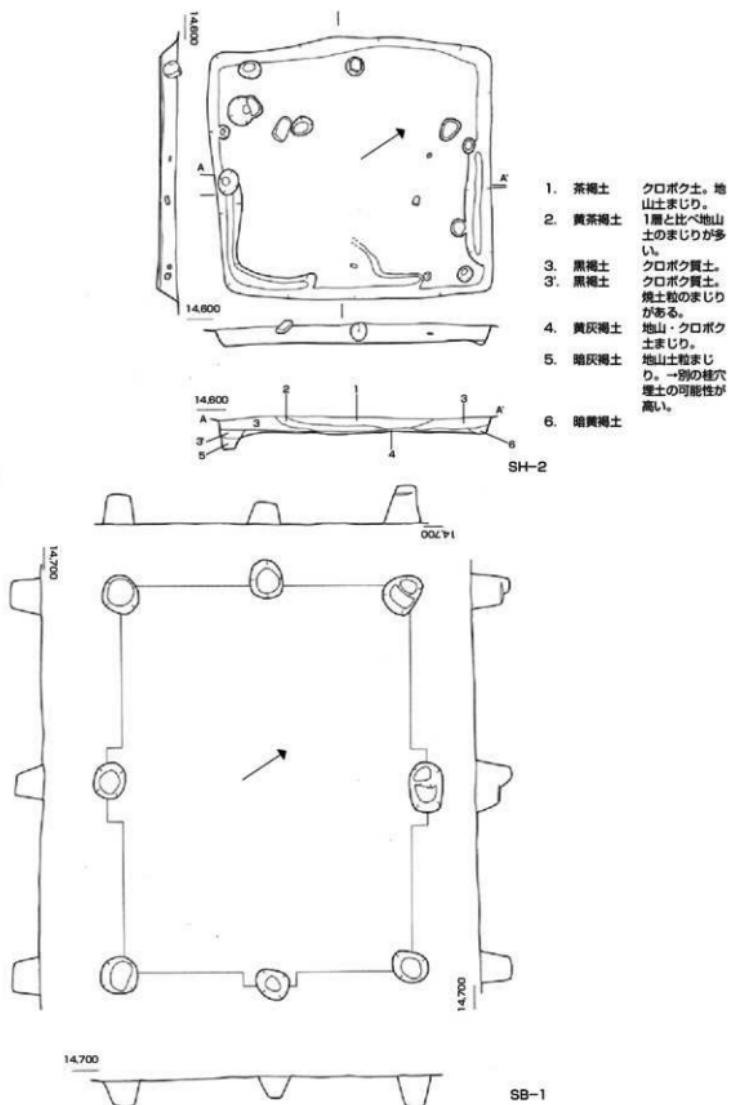
第4図 諸田南遺跡 寺野地区 SK-6, 7, 8, 9 S-1 (S=1/60)



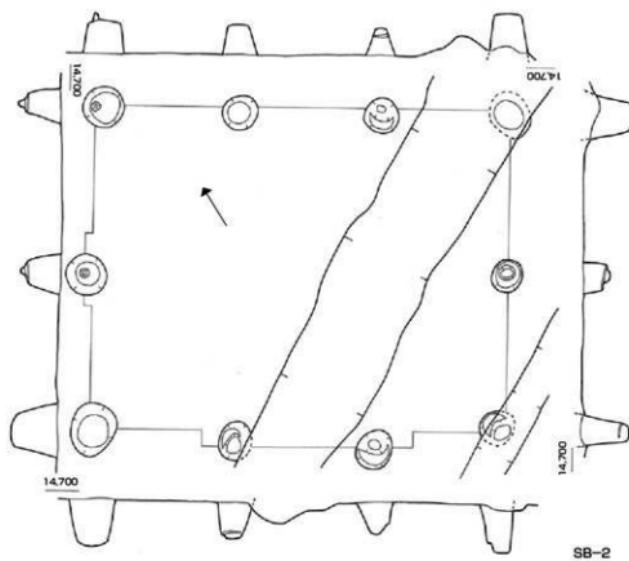
第5図 諸田南遺跡 寺野地区 SB-1, SK-2 (S = 1/60)



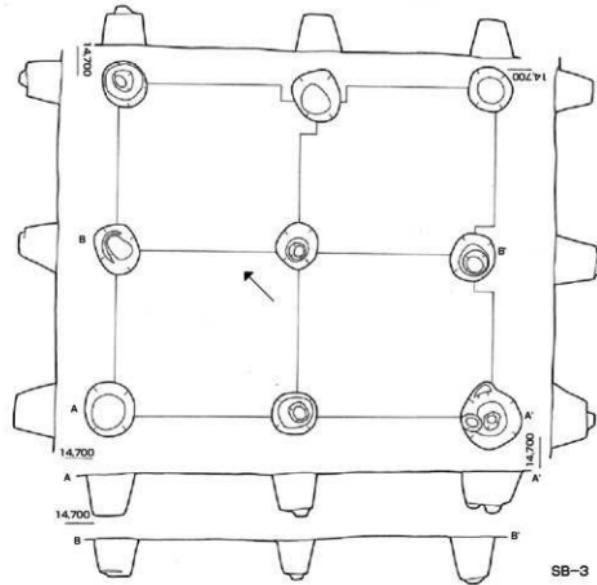
第1図 諸田南遺跡 池の上地区 A区 SH-1 (S = 1/60)



第2図 諸田南遺跡 池の上地区 A区 SH-2 SB-1 (S = 1/60)

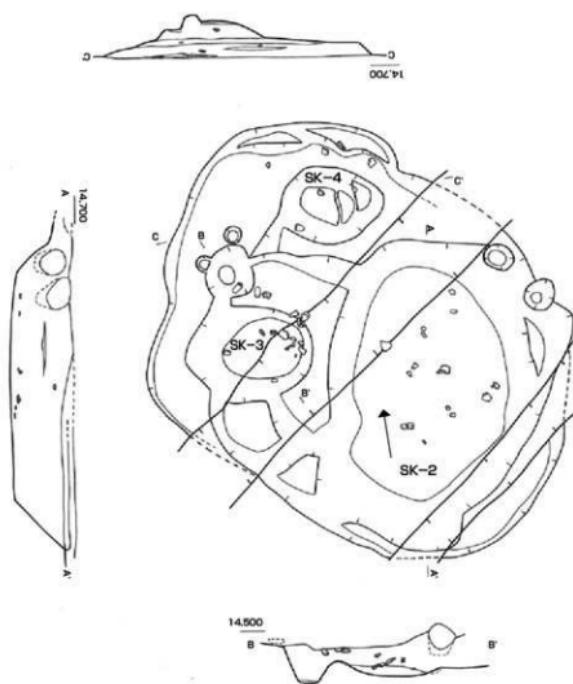


SB-2



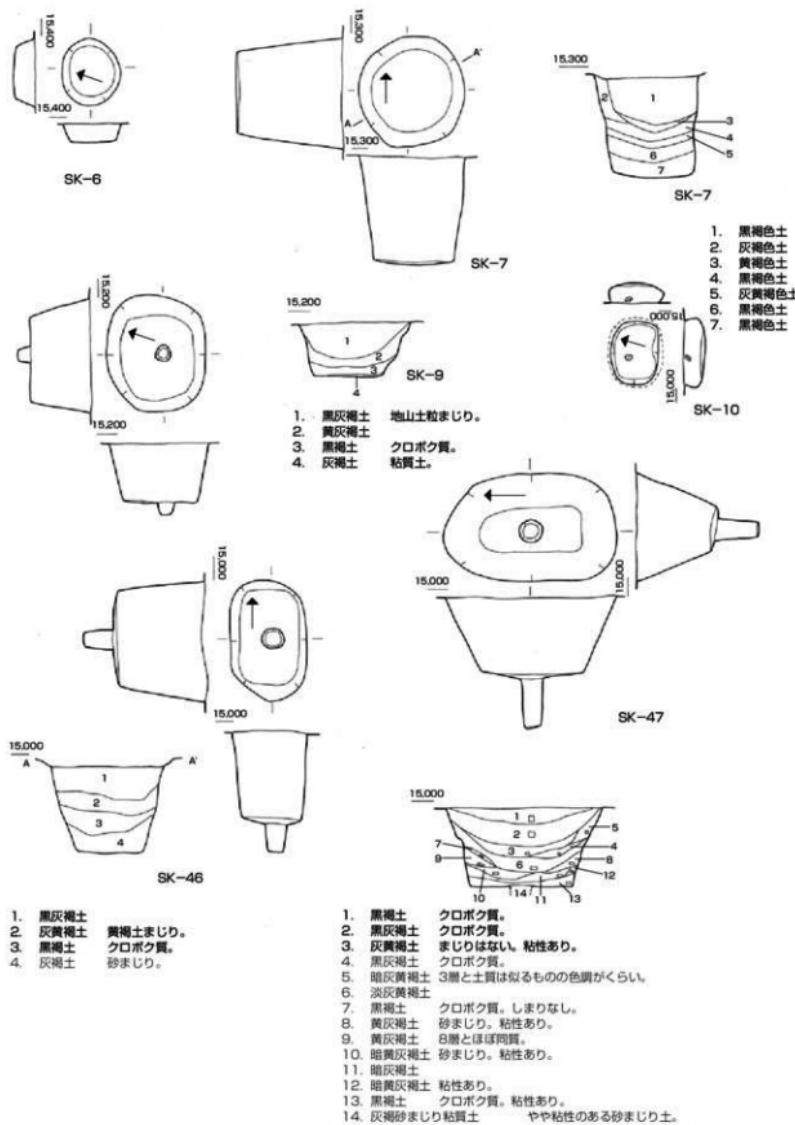
SB-3

第3図 諸田南遺跡 池の上地区 A区 SB-2,3 (S = 1/60)

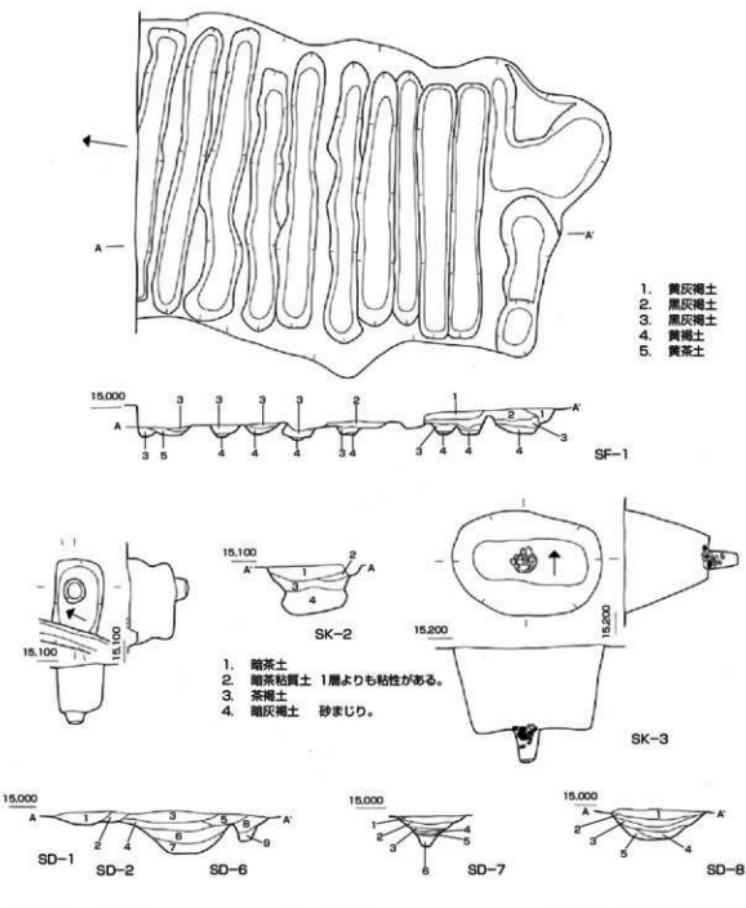


第4図 諸田南遺跡 池の上地区 A区 SK-2, 3, 4 (S = 1/60)

諸田南遺跡・池の上地区

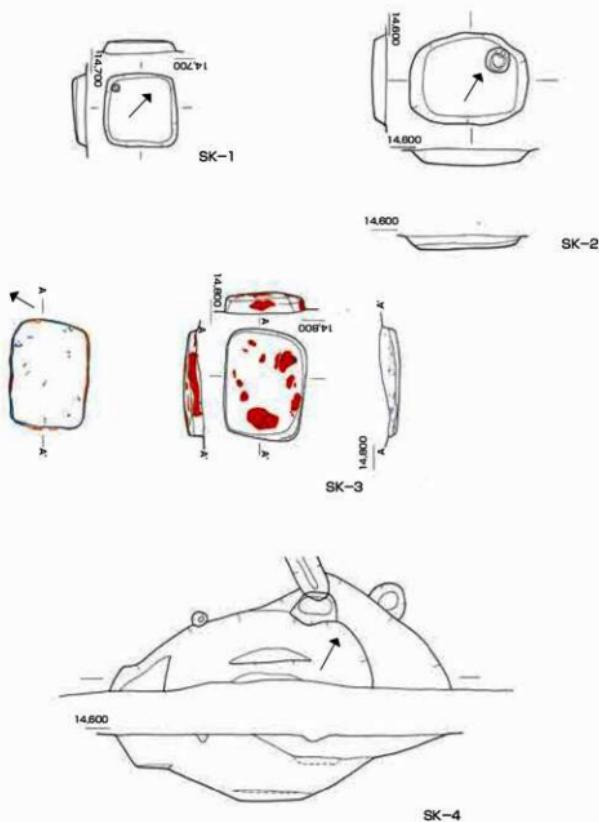


第5図 諸田南遺跡 池の上地区 B区 SK-6, 7, 9, 10, 46, 47 (S = 1/60)

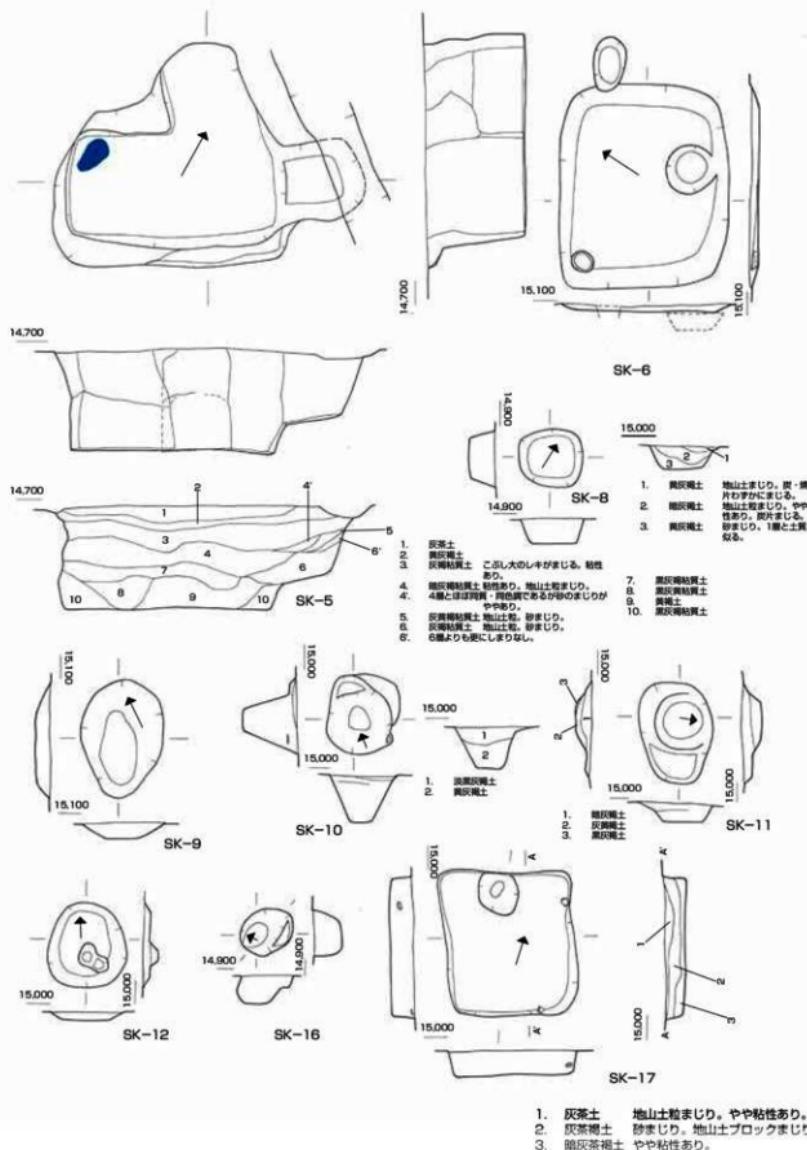


- |           |                         |           |                           |
|-----------|-------------------------|-----------|---------------------------|
| 1. 灰褐粘質土  | 砂まじり。                   | 1. 灰茶褐土   | 1. 灰褐粘質土 わずかに砂まじり。        |
| 2. 灰灰褐粘質土 | 粘性強い。                   | 2. 灰灰褐土   | 2. 灰茶粘質土                  |
| 3. 灰灰褐粘質土 | 粘性あり。                   | 3. 灰灰褐粘質土 | 3. 灰茶粘質土 粘性とてもあり。         |
| 4. 灰褐粘質土  | 砂などがまじる。                | 4. 灰褐褐土   | 4. 灰茶粘質土 2層と同質。           |
| 5. 灰褐褐土   | 粘性ややあり。                 | 5. 灰褐粘質土  | 5. 灰褐粘質土 3層と本質は似るが砂の方が多い。 |
| 6. 灰灰褐粘質土 | 粘性あり。                   | 6. 灰黄褐土   | 6. 灰黄褐土 粘性も弱い。            |
| 7. 灰褐粘質土  | 地山土ブロック粒。砂まじり。土質は4層に似る。 |           |                           |
| 8. 灰褐褐土   |                         |           |                           |
| 9. 灰灰褐土   |                         |           |                           |

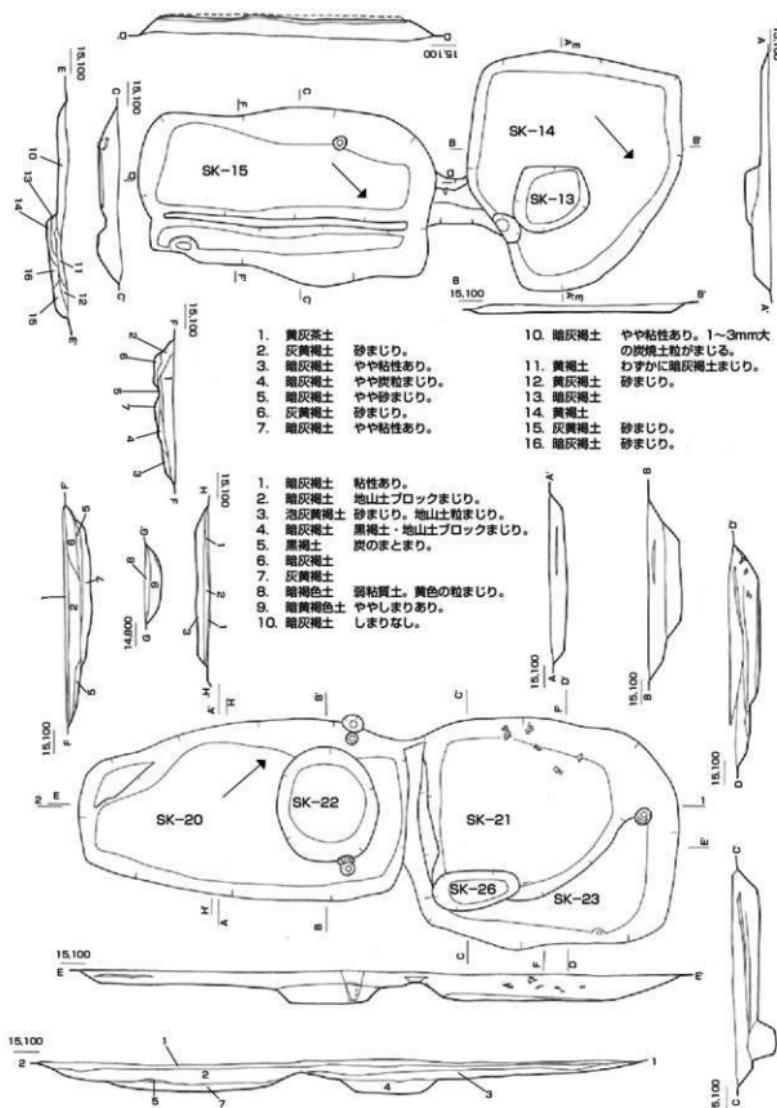
第6図 諸田南遺跡 池の上地区 B区 SF-1, C区 SK-2, 3 SD-1, 2, 6, 7, 8 (S = 1/60)



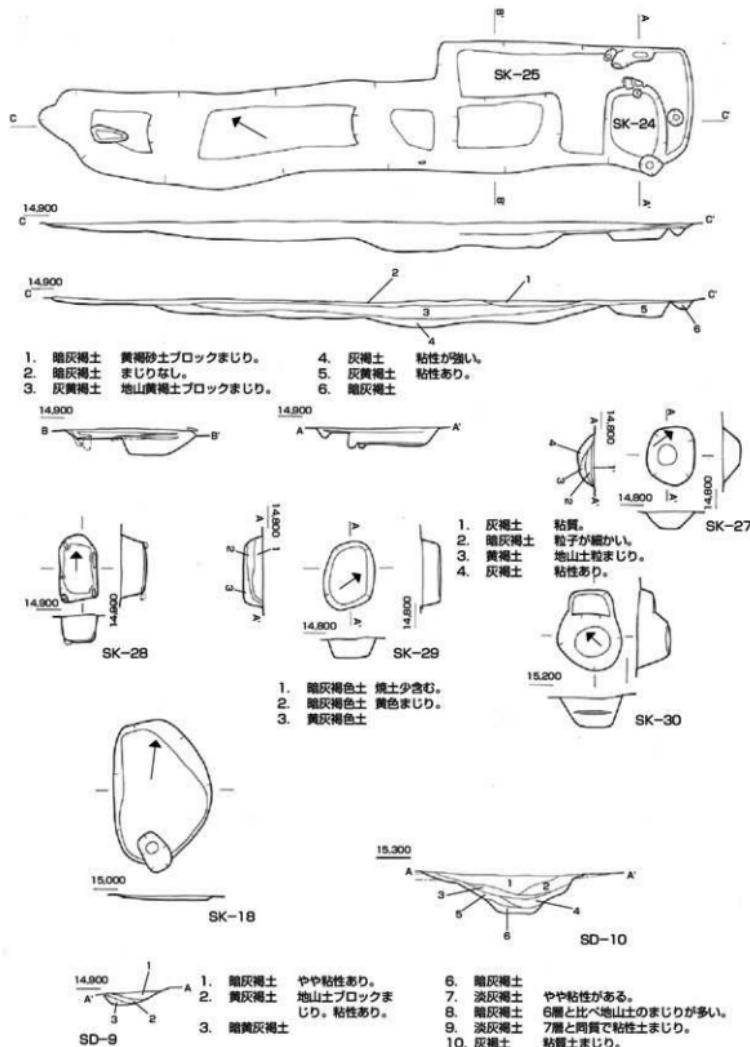
第1図 諸田南遺跡 市夜原地区 SK-1, 2, 3, 4 (S = 1/60)



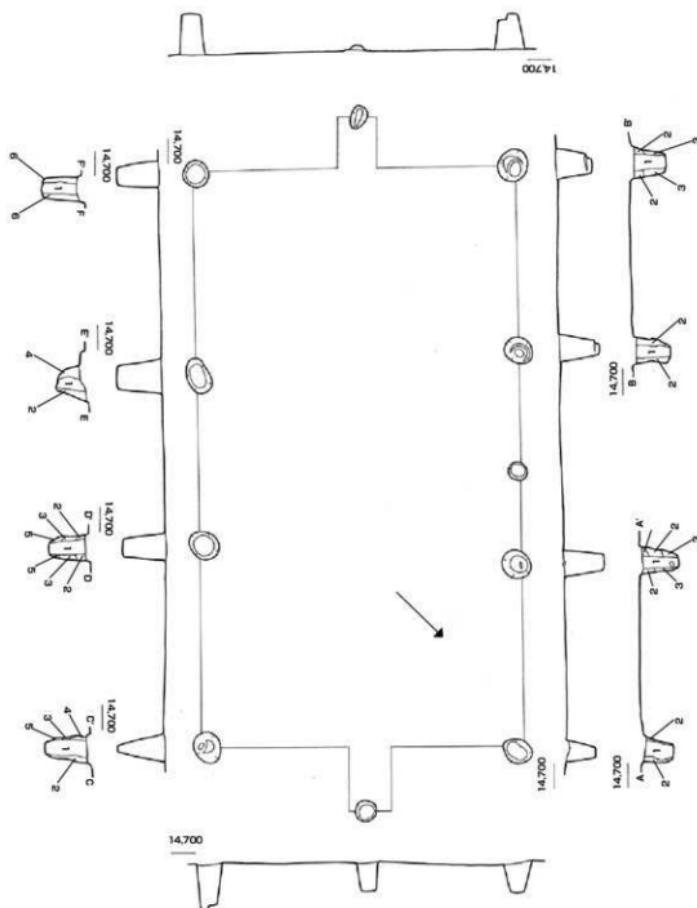
第2図 諸田南遺跡 市夜原地区 SK-5, 6, 8, 9, 10, 11, 12, 16, 17 (S = 1/60)



第3図 諸田南遺跡 市夜原地区 SK-13, 14, 15, 20, 21, 22, 23, 26 (S = 1/60)

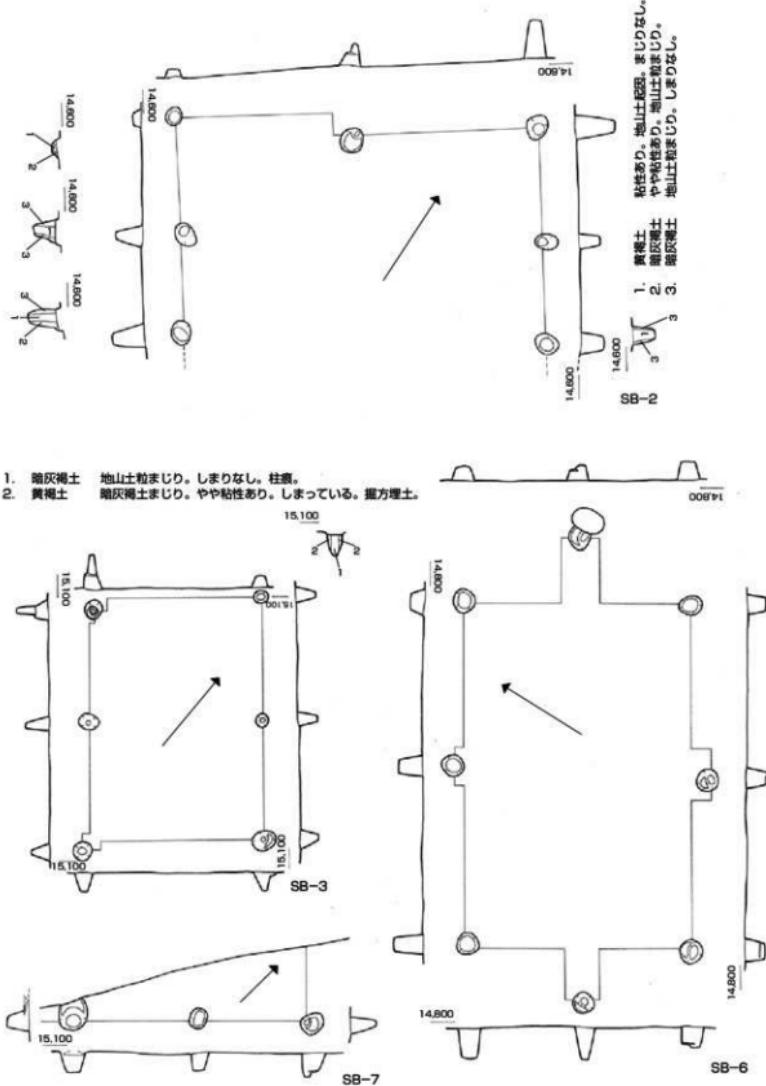


第4図 諸田南遺跡 市夜原地区 SK-18, 24, 25, 27, 28, 29, 30 SD-9, 10 (S = 1/60)

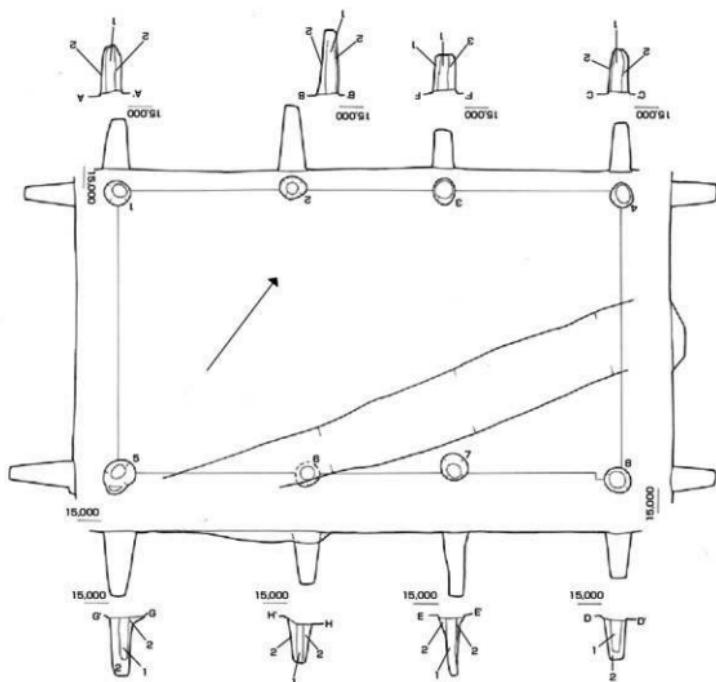


1. 隆灰褐色土 やや粘性あり。
2. 黄灰褐色土 わずかに灰褐色土まじり。
3. 灰褐色土 粘性あり。
4. 灰黄褐色土
5. 淡灰褐色土 粘性あり。
6. 淡茶褐色土

第5図 諸田南遺跡 市夜原地区 SB-1 (S = 1/60)

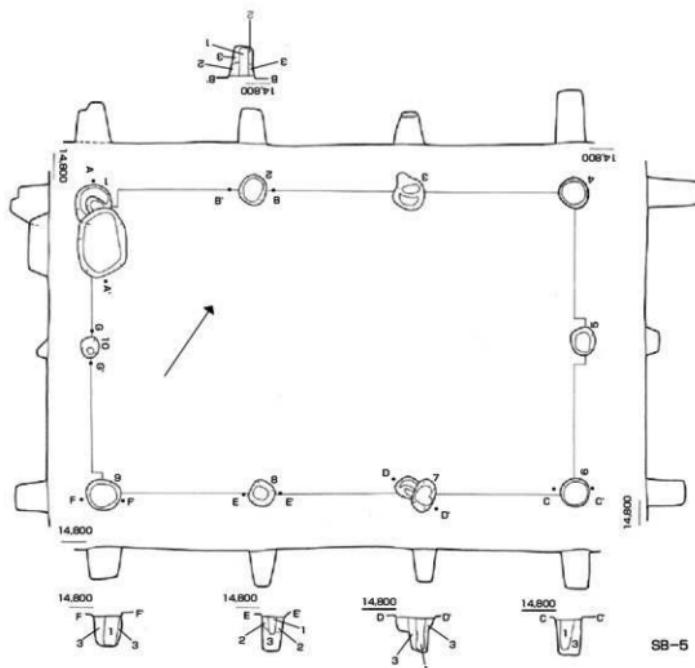


第6図 諸田南遺跡 市夜原地区 SB-2, 3, 6, 7 (S = 1 / 60)

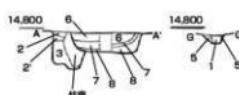


1. 踏灰褐色  
砂まじり。しまりなし。ポンポンとしている。
2. 灰黄褐色  
砂まじり。やや粘性ある。地山土まじり。
3. 灰黄褐色  
1層と比べ地山土のまじりが多い。やや粘性あり。

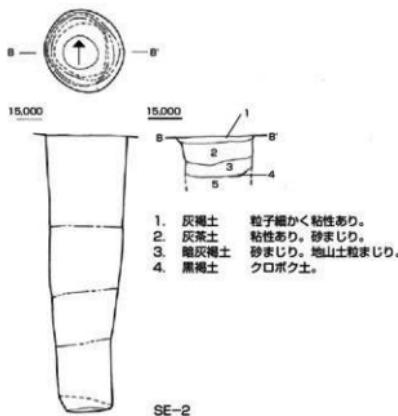
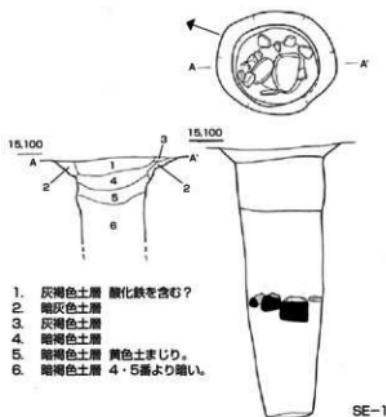
第7図 諸田南遺跡 市夜原地区 SB-4 (S = 1/60)



1. 暗灰褐色土 ボンボンとしてしまりなし。地山土粒まじり。一括痕。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまっている。} うろこめ土
3. 黄灰褐色土 粘性あり。しまっている。} うろこめ土
5. 淡灰黄褐色 地山上に似る。灰褐色土粒まじり。しまっている。
6. 暗灰褐色土 黄色土粒まじり。燃土?を少し含む。
7. 暗灰褐色土 6番より黒い。黄色粒まじり。
8. 暗灰褐色土 3番の土と同じ?
- 2'. 黄灰褐色土 黄色土を多く含む。



第8図 諸田南遺跡 市夜原地区 SB-5 (S = 1/60)



第9図 諸田南遺跡 市夜原地区 SE-1,2 (S = 1/60)

## 遺構表 諸田遺跡・女郎屋敷地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H18	女郎屋敷	-	SH	1	504	10	西壁面にカマドを有する。柱穴の掘りなおし。全壇不明。
H18	女郎屋敷	-	SH	2	302	6	カマドの痕跡なし。主柱穴不明。
H18	女郎屋敷	-	SH	3	550	22	中央部に土坑。溝状遺構に切られる。
H18	女郎屋敷	-	SH	4	410	32	西壁面にカマドを有する。SK5 に切られる。
H18	女郎屋敷	-	SH	5	510	20	北壁面にカマドを有する。中央に土坑。SD1 に切られる。
H18	女郎屋敷	-	SH	6	欠番		
H18	女郎屋敷	-	SH	7	498	32	複数に切られる。
H18	女郎屋敷	-	SH	8	欠番		
H18	女郎屋敷	-	SH	9	欠番		
H18	女郎屋敷	-	SH	10	530	45	西壁面にカマドを有する。全壇不明。SB18と切り合い不明。
H18	女郎屋敷	-	SH	11	430	20	北壁面にカマドを有する。東西に土坑。
H18	女郎屋敷	-	SH	12	570	19	北壁面にカマドを有する。東に土坑。
H18	女郎屋敷	-	SH	13	570	26	北壁面に土坑を有する。東に土坑。
H18	女郎屋敷	-	SH	14	582	19	礎集積。SB17と切り合い不明。
H18	女郎屋敷	-	SH	15	340	34	カマドの痕跡なし痕跡なし。
H18	女郎屋敷	-	SH	16	250	14	主柱穴不明。
H18	女郎屋敷	-	SH	17	520	22	西壁面にカマドを有する。
H18	女郎屋敷	-	SH	18	444	14	北壁面にカマドを有する。東に土坑
H18	女郎屋敷	-	SH	19	404	18	北壁面にカマドを有する。西に土坑
H18	女郎屋敷	-	SH	20	458		
H18	女郎屋敷	-	SH	21	欠番		
H18	女郎屋敷	-	SH	22	402	29	住居跡か。土坑か。
H18	女郎屋敷	-	SH	23	512	5	北壁面にカマドを有する。
H18	女郎屋敷	-	SH	1	184+α×840	36~60	西壁面にカマドを有する。
H18	女郎屋敷	-	SH	2	340×276+α	38~52	1間十α×4間
H18	女郎屋敷	-	SH	3	228×334	14~30	2間×1間十α
H18	女郎屋敷	-	SH	4	362×494	16~32	2間×3間
H18	女郎屋敷	-	SH	5	522×882	24~62	2間×5間 中央に柱穴
H18	女郎屋敷	-	SH	6	348×382	44~58	2間×2間
H18	女郎屋敷	-	SH	7	388×392	22~32	2間×2間 総柱
H18	女郎屋敷	-	SH	8	430×390	16~38	2間×3間 総柱
H18	女郎屋敷	-	SH	9	470×806	38~65	2間×4間 総柱
H18	女郎屋敷	-	SH	10	470×570	34~70	2間×2間 総柱

遺構表 諸田遺跡・女郎屋敷地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H18	女郎屋敷	-	SB	11	540×742	10~54	4間×5間
H18	女郎屋敷	-	SB	12	310×372	8~28	2間×2間
H18	女郎屋敷	-	SB	13	464×614	10~34	3間×4間
H18	女郎屋敷	-	SB	14	474×576	4~48	3間×4間
H18	女郎屋敷	-	SB	15	298×348	34~52	
H18	女郎屋敷	-	SB	16	810×280+α	12~48	3間×2間+α
H18	女郎屋敷	-	SB	17	362×386	26~54	2間×2間 総柱建物
H18	女郎屋敷	-	SB	18	460+α×52+α	44~68	SH10に切り合ひ不明。
H18	女郎屋敷	-	SB	19	280×296	18~52	2間×2間 総柱建物
H18	女郎屋敷	-	SK	1	228	15	
H18	女郎屋敷	-	SK	2	160	58	
H18	女郎屋敷	-	SK	3	74	13	
H18	女郎屋敷	-	SK	4	122	13	
H18	女郎屋敷	-	SK	5	194+α	20	SH4に切られる。
H18	女郎屋敷	-	SK	6	288	12	
H18	女郎屋敷	-	SK	7	252	16	
H18	女郎屋敷	-	SK	8	140	32	
H18	女郎屋敷	-	SK	9	160	14	
H18	女郎屋敷	-	SK	10	200	34	
H18	女郎屋敷	-	SK	11	200	16	8世紀代の土坑。諸田南遺跡古石地区との一群か。
H18	女郎屋敷	-	SK	12	234	16	
H18	女郎屋敷	-	SK	13	206	6	
H18	女郎屋敷	-	SK	14	202+α	45	SK15に切られる。
H18	女郎屋敷	-	SK	15	318	56	SK14を切る。鍋塗焼成坑
H18	女郎屋敷	-	SK	16	98	18	鍋塗焼成坑
H18	女郎屋敷	-	SK	17	180	12	
H18	女郎屋敷	-	SK	18	240	20	
H18	女郎屋敷	-	SK	19	100	20	
H18	女郎屋敷	-	SK	20	188	148	脇穴
H18	女郎屋敷	-	SK	21	230	44	中心にピットあり
H18	女郎屋敷	-	SK	22	108	16	
H18	女郎屋敷	-	SK	23	140	44	
H18	女郎屋敷	-	SK	24	120	44	ラスコ状 脛蓋六か。
H18	女郎屋敷	-	SK	25	欠番		

道構表 諸田遺跡・女郎屋敷地区

年	地区名	区	道構	番号	最大長	最大深	特記
H18	女郎屋敷	-	SK	26	かく瓦		
H18	女郎屋敷	-	SK	27	124	14	
H18	女郎屋敷	-	SK	28	74	14	
H18	女郎屋敷	-	SK	29	228	12	SK30と切り合ひ
H18	女郎屋敷	-	SK	30	226	24	SK29と切り合ひ
H18	女郎屋敷	-	SK	31	402	21	
H18	女郎屋敷	-	SK	32	420	36	SH10 に切られる。

## 遺構表 諸田遺跡・二反田地

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H18	二反田	A	SH	1	560	14	青銅製品出土。全景は不明。北側にカマドか。全量不明。
H18	二反田	A	SH	2	740	9	北側にカマドを有する。柱穴の掘え直しあり。全量不明。
H18	二反田	A	SH	3	480	6	西にカマドか。全量不明。
H18	二反田	A	SB	1	480×474	14~38	2間×2間。縦柱建物。
H18	二反田	A	SB	2	384×474+α	10~30	2間×2間。全量は不明。
H18	二反田	A	SB	3	374+α×95±9	16~40	全量は不明。
H18	二反田	A	SK	1	430	44	3段のテラスを有する。
H18	二反田	B	SH	4	470	25	旅館塔が55個まとまつて出土。SF1に切られる。カマドの有無は不明。白色土が生居北側の壁面に溜まる。
H18	二反田	B	SH	5	560	20	金量不明。カマドは北か。全量不明。
H18	二反田	B	SH	6	400	22	北にカマドを有する。カマド周辺に土師器類、須恵器碗が出土。
H18	二反田	B	SH	7	510	18	SD2に切られる。主柱穴は4本か。カマドは不明。
H18	二反田	B	SH	8	416	20	主柱穴は4本で、中央部に土坑を有する。北にカマドを有する。
H18	二反田	B	SH	9	444	24	北にカマドを有する。中央と西側に土坑。
H18	二反田	B	SH	10	欠番		
H18	二反田	B	SH	11	330	16	北側コーナー一部にカマドを有する。中央部に土坑。
H18	二反田	B	SH	12	442	14	主柱穴は4本で、住居壁面に斜めに掘り込まれる。カマドを西側に有する。中央部に土坑を有する。
H18	二反田	B	SH	13	欠番		
H18	二反田	B	SH	14	626	28	建て替えた痕跡が残る。主柱穴は4本で西にカマドを有する。
H18	二反田	B	SH	15	490	20	北にカマドを有する。東に土坑を有する。
H18	二反田	B	SH	16	450	28	主柱穴は4本で、北側壁面にカマドを有する。西側は擾乱に切られる。全量不明。
H18	二反田	B	SH	17	560	26	床面がフラットから住居と判断。カマドの痕跡なし。主柱穴も不明。土坑か。
H18	二反田	B	SB	4	欠番		
H18	二反田	B	SB	5	344×312+α	14~30	2間×2間。全量は不明。
H18	二反田	B	SB	6	330×364	18~40	1間×1間。SH6と切り合ひ不明。
H18	二反田	B	SB	7	538×64	6~70	3間×4間。SD3に切られる。
H18	二反田	B	SB	8	322×400	9~26	2間×3間
H18	二反田	B	SB	9	496×360	12~38	2間×3間
H18	二反田	B	SB	10	236×248	20~34	1間×1間
H18	二反田	B	SB	11	558×816	14~40	3間×5間で全量は不明。
H18	二反田	B	SB	12	408×190+α	32~56	3間×不明。全量は不明。
H18	二反田	B	SK	2	104	26	須恵器類が埋設される。
H18	二反田	B	SK	3	78	24	須恵器類が埋設される?
H18	二反田	B	SK	4	568	60	SD2に切られる。土坑の底から耳環出土。他の出土遺物は少ない。
H18	二反田	B	SK	5	212	16	

遺構表 諸田遺跡・二反田地X

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H18	二反田	B	SK	6	234	11	中央部が1段下がる。
H18	二反田	B	SK	7	170	8	楕円形。
H18	二反田	B	SK	8	297	10	中央部に焼土塊あり。白色粘土片？(カマドの脚材か)出土
H18	二反田	B	SK	9	132	7	SH14を切る。
H18	二反田	B	SK	10	326	32	床面に20数基のピットを有する。
H18	二反田	B	SK	11	378	44	中央北側に焼土。東側に1段のテラスを有する。

## 遺構表 諸田遺跡・戸入道地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H19	戸入道	-	SH	1	692	20	西壁面にカマドを有する。中央に土坑。SH21に切られる。
H19	戸入道	-	SH	2	604	20	西壁面にカマドを有する。SH1を切る。
H19	戸入道	-	SH	3	444	20	西壁面にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	4	462	42	全量不明。カマド、主柱穴は不明。SH51に切られる。
H19	戸入道	-	SH	5	560	40	壺臺が25個まとまって出土。全量不明。北にカマドを有する。カマドは壁面に接していない。
H19	戸入道	-	SH	6	554	12	西壁面にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	7	532	32	西壁面にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	8	570	12	全量不明。西壁面にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	9	欠番		
H19	戸入道	-	SH	10	480	12	SK55に切られる。
H19	戸入道	-	SH	11	462	24	北壁面にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	12	534	27	北壁面にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	13	528	26	北壁面にカマドを有する。主柱穴に白色粘土。
H19	戸入道	-	SH	14	400	20	コーナー部にカマドを有する。主柱穴不明。
H19	戸入道	-	SH	15	670	12	北壁面にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	16	欠番		
H19	戸入道	-	SH	17	欠番		
H19	戸入道	-	SH	18	626	27	北壁面にカマドを有する。東に土坑を有する。
H19	戸入道	-	SH	19	500	46	北壁面にカマドを有する。全量不明。SK58に切られる。
H19	戸入道	-	SH	20	欠番		
H19	戸入道	-	SH	21	384	16	南コーナー部にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	22	582	18	西壁面にカマドを有する。
H19	戸入道	-	SH	23	欠番		
H19	戸入道	-	SH	24	444	12	北壁面にカマドを有する。SH25に切られる。
H19	戸入道	-	SH	25	492	38	北壁面にカマドを有する。中央部に土坑。SH24を切る。
H19	戸入道	-	SH	26	450	28	焼失住居。北壁面にカマドを有し、土師器の壺が据えられた状態で出土。
H19	戸入道	-	SB	1	700×790	10~60	4間×5間。SH2、6に切られる。
H19	戸入道	-	SB	2	442×468	46~80	2間×2間。總柱建物。
H19	戸入道	-	SB	3	404×422	14~48	2間×2間。總柱建物。
H19	戸入道	-	SB	4	428×452	14~64	2間×2間。總柱建物。
H19	戸入道	-	SB	5	550×700	4~30	4間×5間。
H19	戸入道	-	SB	6	608×776	56~74	3間×4間。
H19	戸入道	-	SB	7	422×426	30~50	2間×2間。總柱建物。
H19	戸入道	-	SB	8	578×780	12~74	4間×5間。SH13との切り合い不明。

## 遺構表 諸田遺跡・戸入道地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H19	戸入道	-	SB	9	614×764	10~40	4間×5間。SK41に切られる。
H19	戸入道	-	SB	10	682×926	22~70	4間×5間。SH13に切られる。
H19	戸入道	-	SB	11	390×592	12~44	3間×4間。
H19	戸入道	-	SB	12	620×698	12~46	4間×5間。
H19	戸入道	-	SB	13	394×590	14~34	2間×2間。縦柱建物。
H19	戸入道	-	SB	14	334×348	30~50	2間×2間。縦柱建物。
H19	戸入道	-	SB	15	370×398	52~80	2間×2間。縦柱建物。
H19	戸入道	-	SB	16	520~580	52~80	4間×4間。SD31に切られる。
H19	戸入道	-	SB	17	354×366	6~46	2間×2間。縦柱建物。
H19	戸入道	-	SB	18	648×814	16~38	4間×5間。SK41に切られる。全景不明。
H19	戸入道	-	SB	19	246×414	12~44	2間×2間。縦柱建物。全景不明。
H19	戸入道	-	SB	20	470×470	14~30	2間×3間。
H19	戸入道	-	SB	21	404×466	26~30	2間×2間。全景不明。
H19	戸入道	-	SB	22	480×516	40~56	2間×2間。縦柱建物。
H19	戸入道	-	SB	23	440×670	18~46	3間×4間。
H19	戸入道	-	SB	24	736×778	8~68	4間×4間。
H19	戸入道	-	SB	25	390×440	24~50	2間×2間。縦柱建物か。全景不明。
H19	戸入道	-	SB	26	332×634	24~58	2間×3間。SK25に切られる。
H19	戸入道	-	SB	27	532×760	12~22	3間×6間。SH10に切られる。
H19	戸入道	-	SB	28	462+α×608+α	8~44	4間+α×3間+α。全景不明。SH22に切られる。
H19	戸入道	-	SB	29	198×336	20~40	1間×1間。
H19	戸入道	-	SB	30	234×318	46~68	1間×1間。S26に切られる。
H19	戸入道	-	SK	1	158	70	
H19	戸入道	-	SK	2	153	148	階上穴状遺構
H19	戸入道	-	SK	3	176	19	縄文土器出土
H19	戸入道	-	SK	4	295	15	
H19	戸入道	-	SK	5	144	13	
H19	戸入道	-	SK	6	121	5	
H19	戸入道	-	SK	7	110	20	
H19	戸入道	-	SK	8	76	30	
H19	戸入道	-	SK	9	118	98	陥没穴状遺構
H19	戸入道	-	SK	10	108	12	
H19	戸入道	-	SK	11	102	12	

## 遺構表 諸田遺跡・戸入道地区

年	地区名	区	遺構番号	最大長	最大深	特記
H19	戸入道	-	SK 12	78	45	
H19	戸入道	-	SK 13	156	36	
H19	戸入道	-	SK 14	192	18	
H19	戸入道	-	SK 15	144	12	
H19	戸入道	-	SK 16	93	13	
H19	戸入道	-	SK 17	138+α	13	全景不明。
H19	戸入道	-	SK 18	90	15	
H19	戸入道	-	SK 19	120	109	陥し穴状遺構
H19	戸入道	-	SK 20	210	21	
H19	戸入道	-	SK 21	欠番		地層横断(メモあり)
H19	戸入道	-	SK 22	249	39	
H19	戸入道	-	SK 23	134	32	SK24に切られる。
H19	戸入道	-	SK 24	430	68	
H19	戸入道	-	SK 25	370	25	SK24に切られる。
H19	戸入道	-	SK 26	132	54	陥し穴状遺構。SK26～32は一連のものと推測される。
H19	戸入道	-	SK 27	144	57	陥し穴状遺構
H19	戸入道	-	SK 28	129	48	陥し穴状遺構
H19	戸入道	-	SK 29	149	76	陥し穴状遺構。逆茂木内隈
H19	戸入道	-	SK 30	145	80	陥し穴状遺構。逆茂木内隈
H19	戸入道	-	SK 31	137	85	陥し穴状遺構。
H19	戸入道	-	SK 32	138	87	陥し穴状遺構。
H19	戸入道	-	SK 33	260	18	
H19	戸入道	-	SK 34	142	52	
H19	戸入道	-	SK 35	568	40	
H19	戸入道	-	SK 36	410	30	SK37と切り合い不明。
H19	戸入道	-	SK 37	320	42	
H19	戸入道	-	SK 38	148	87	陥し穴状遺構。
H19	戸入道	-	SK 39	146	20	
H19	戸入道	-	SK 40	200	26	
H19	戸入道	-	SK 41	137	10	蜘蛛巣成坑
H19	戸入道	-	SK 42	90	30	SFIに切られる。
H19	戸入道	-	SK 43	270	46	
H19	戸入道	-	SK 44	94	6	

## 遺構表 諸田遺跡・戸入道地区

H19	戸入道	-	SK	45	158	42	SF1、SK39に切られる。	特記
年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深		
H19	戸入道	-	SK	46	165	29		
H19	戸入道	-	SK	47	132	24		
H19	戸入道	-	SK	48	183	42		
H19	戸入道	-	SK	49	144	54		
H19	戸入道	-	SK	50	168	93	陥し穴。	
H19	戸入道	-	SK	51	147	72	陥し穴か。	
H19	戸入道	-	SK	52	180	18		
H19	戸入道	-	SK	53	98	39		
H19	戸入道	-	SK	54	474	62	SH7に切られる。	
H19	戸入道	-	SK	55	185	22	SH10を切る。	
H19	戸入道	-	SK	56	348	66		
H19	戸入道	-	SK	57	337	25	金環不明。	
H19	戸入道	-	SK	58	535	25	SH19を切る。	
H19	戸入道	-	SK	59	276	46	SF11に切られる。	
H19	戸入道	-	ST	1	29	14	骨壺出土	
H19	戸入道	-	ST	2	156	92		
H19	戸入道	-	ST	3	40	12		
H19	戸入道	-	ST	4	44	4		
H19	戸入道	-	ST	5	16+α	12		
H19	戸入道	-	ST	6	44	4		
H19	戸入道	-	ST	7	34	8		
H19	戸入道	-	ST	8	54	14		
H19	戸入道	-	ST	9	60	10	骨壺出土	
H19	戸入道	-	ST	10	38	14		
H19	戸入道	-	ST	11	92	82		
H19	戸入道	-	ST	12	60	16		
H19	戸入道	-	ST	13	35	29	骨壺出土	
H19	戸入道	-	ST	14	50	8		
H19	戸入道	-	ST	15	58	19	骨壺出土	
H19	戸入道	-	ST	16	44	22		
H19	戸入道	-	ST	17	78	14		
H19	戸入道	-	ST	18	62	62		
H19	戸入道	-	ST	19	54	10		

遺構表 諸田遺跡・戸入道地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H19	戸入道	-	ST	20	40	18	
H19	戸入道	-	ST	21	42	12	
H19	戸入道	-	ST	22	30	14	
H19	南立	-	SH	1	460	-	遺構検出のみ
H19	南立	-	ST	1	20	-	

## 遺構表 諸田南遺跡・古池地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H19	古池	-	SH	1	438	25	口径21cmの环身出土。古池地区で住居は1基のみ。SB16に切られる。
H19	古池	-	SB	1	1558×426+α	38~54	2間×3間+α 全景不明
H19	古池	-	SB	2	508×744	36~56	2間×3間
H19	古池	-	SB	3	388×420	28~42	2間×2間 総柱建物
H19	古池	-	SB	4	496×908	32~64	2間×4間
H19	古池	-	SB	5	438×736	26~80	2間×3間
H19	古池	-	SB	6	255+α×678	13~46	1間+α×3間 全景不明
H19	古池	-	SB	7	382×414	36~64	2間×2間 総柱建物
H19	古池	-	SB	8	484×684	24~80	2間×4間
H19	古池	-	SB	9	482×680	32~60	2間×4間
H19	古池	-	SB	10	696×704	20~54	2間×4間 底付
H19	古池	-	SB	11	490×710	7~44	3間×4間
H19	古池	-	SB	12	534×714	30~58	3間×4間
H19	古池	-	SB	13	740×980	32~72	3間×4間 底付 古池地区で最大
H19	古池	-	SB	14	460×664	32~80	3間×4間 SB13に切られる。SD13に切られる。
H19	古池	-	SB	15	368×368	28~35	2間×2間 総柱建物
H19	古池	-	SB	16	550×888	42~72	3間×4間
H19	古池	-	SB	17	428×646	50~76	2間×3間
H19	古池	-	SB	18	440×694	38~68	2間×3間
H19	古池	-	SB	19	458×600	12~32	2間×3間
H19	古池	-	SB	20	424×490	22~80	2間×2間
H19	古池	-	SB	21	484×692	8~36	2間×3間
H19	古池	-	SB	22	482×730	28~60	2間×3間
H19	古池	-	SB	23	510×740	30~80	2間×3間
H19	古池	-	SB	24	506×828	38~60	2間×4間 総柱建物
H19	古池	-	SB	25	464×762	16~64	2間×3間 総柱建物
H19	古池	-	SB	26	500×864	18~58	2間×4間 SB27に切られる。
H19	古池	-	SB	27	506×828	32~60	2間×5間 SB26を切る。
H19	古池	-	SB	28	464×762	34~62	2間×3間
H19	古池	-	SB	29	210×394	40~82	2間×2間? 総柱建物 全景不明
H19	古池	-	SB	30	604±δ×655	30~62	2間×2間 総柱建物
H19	古池	-	SB	31	410×468	26~58	2間×2間
H19	古池	-	SB	32	604×692	34~60	2間×3間 底付き 建替えあり
H19	古池	-	SB	33	522×852	22~58	2間×5間 建替えあり

## 遺構表 諸田南遺跡・古池地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H19	古池	-	SB	34	358×544	20~44	2間×3間
H19	古池	-	SB	35	538×688	22~50	2間×4間 建替えあり
H19	古池	-	SB	36	280.0×1000	46~60	2間+α×5間 全景不明
H19	古池	-	SB	37	532×986	20~42	
H19	古池	-	SB	38	482×706	14~54	
H19	古池	-	SK	1	161	64	礫集積
H19	古池	-	SK	2	214	36	
H19	古池	-	SK	3	200	28	耳環
H19	古池	-	SK	4	112	41	炭出土土坑
H19	古池	-	SK	5	306	12	
H19	古池	-	SK	6	202	6	
H19	古池	-	SK	7	184	11	
H19	古池	-	SK	8	126	8	端壇焼成坑
H19	古池	-	SK	9	282	16	全景不明。
H19	古池	-	SK	10	98	8	端壇焼成坑,被熱土
H19	古池	-	SK	11	320	24	全景不明。
H19	古池	-	SK	12	262	12	SK13を切る。
H19	古池	-	SK	13	472	24	SK12に切られる。
H19	古池	-	SK	14	108	8	
H19	古池	-	SK	15	130	12	
H19	古池	-	SK	16	224	26	人骨出土
H19	古池	-	SK	17	560	26	SK18に切られる。
H19	古池	-	SK	18	482	24	SK17を切る。
H19	古池	-	SK	19	120	28	
H19	古池	-	SK	20	98	36	
H19	古池	-	SK	21	108	26	
H19	古池	-	SK	22	312	18	
H19	古池	-	SK	23	125	46	5~10cmの隙
H19	古池	-	SK	24	454	34	
H19	古池	-	SK	25	380+α	14	SK26に切られる。
H19	古池	-	SK	26	280	16	S25を切る。
H19	古池	-	SK	27	354	21	
H19	古池	-	SK	28	248	16	

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H19	古池	-	SK	29	354	40	円面鋸出土。SK30を切る。
H19	古池	-	SK	30	374	26	SK29に切られる。
H19	古池	-	SK	31	矢器		
H19	古池	-	SK	32	658	30	器台・面取壺等出土。SD5、6に切られる。
H19	古池	-	SK	33	146+ $\alpha$	35	礪集精彌生壺等出土。
H19	古池	-	SK	34	500	48	SB13に切られる。
H19	古池	-	SK	35	340	24	SK43と同カット企型壺出土
H19	古池	-	SK	36	-	-	壊乱
H19	古池	-	SK	37	384	28	SK38に切られる。SB17、31に切られる。
H19	古池	-	SK	38	644	20	SB17、31に切られる。
H19	古池	-	SK	39	439	30	SD13、14に切られる。
H19	古池	-	SK	40	338	14	
H19	古池	-	SK	41	324	16	
H19	古池	-	SK	42	172+ $\alpha$	26	須恵器の环身が锯えられる。SD8に切られる。
H19	古池	-	SK	43	222+ $\alpha$	22	SK35に切られる。
H19	古池	-	SK	44	92	18	地顕祭か
H19	古池	-	SK	45	70	10	
H19	古池	-	SK	46	50	-	集石遺構？
H19	古池	-	SK	47	168	24	
H19	古池	-	SK	48	80	76	
H19	古池	-	SK	49	106	60	
H19	古池	-	SK	50	106	22	
H19	古池	-	SK	51	262+ $\alpha$	42	全量不明。
H19	古池	-	SK	52	416+ $\alpha$	18	SK55に切られる。
H19	古池	-	SK	53	70	60	
H19	古池	-	SK	54	120	18	
H19	古池	-	SK	55	162	12	SK52を切る。SD9に切られる。

年	地区名	区	遺構番号	最大長	最大深	特記
H20	南方	A	SH 1	364	32	コーナー部壁面ににカマドを有する。
H20	南方	A	SH 2	欠番		
H20	南方	A	SB 1	324×334	26~64	2間×2間。柱建物。建て替えあり。
H20	南方	A	SK 1	154	90	
H20	南方	A	SK 2	476	16	
H20	南方	A	SK 3	90	42	
H20	南方	A	SK 4	142	42	
H20	南方	A	SK 5	310	52	全景不明。
H20	南方	A	SK 6	72	46	
H20	南方	B	SK 1	140	16	
H20	南方	B	SK 2	142	92	陥し穴状遺構
H20	南方	B	SK 3	78	8	
H20	南方	B	SK 4	132	32	
H20	南方	D	SH 1	562	40	オンドル
H20	南方	D	SH 2	417	28	SK47に切られる。コーナー部にカマドを有する。
H20	南方	D	SH 3	358	40	オンドル
H20	南方	D	SH 4	欠番		SK50に変更(欠番)
H20	南方	D	SB 1	440×560	22~50	2間×4間。全量不明。
H20	南方	D	SB 2	562×700+α	26~56	2間×3間+α。全量不明。
H20	南方	D	SB 3	384×530	26~60	2間×3間。
H20	南方	D	SB 4	470×420+α	16~26	2間×2間+α。全量不明。
H20	南方	D	SB 5	414+α × 442+α	20~34	1間+α × 1間+α。
H20	南方	D	SK 1	78	5	輪壇焼成場。
H20	南方	D	SK 2	302	16~26	
H20	南方	D	SK 3	322	12	
H20	南方	D	SK 4	400	32	焼土あり。
H20	南方	D	SK 5	110	27	
H20	南方	D	SK 6	137	9	
H20	南方	D	SK 7	450	58	SK9と切り合い不明。
H20	南方	D	SK 8	266	354	
H20	南方	D	SK 9	254	20	SK7と切り合い不明。
H20	南方	D	SK 10	112	115	炭化物、焼土あり。
H20	南方	D	SK 11	141	15	焼土あり。
H20	南方	D	SK 12	120	16~26	

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H20	南方	D	SK	13	-	-	搅乱
H20	南方	D	SK	14	128	20	
H20	南方	D	SK	15	124	35	炭化物、焼土あり。
H20	南方	D	SK	16	108	13	焼土あり。
H20	南方	D	SK	17	97	16	
H20	南方	D	SK	18	143	24	SD2に切られる。
H20	南方	D	SK	19	127	24	炭化物あり。SD5に切られる。
H20	南方	D	SK	20	86	10	焼土あり。
H20	南方	D	SK	21	-	-	搅乱。
H20	南方	D	SK	22	145	39	土坑壁面が被焼する。
H20	南方	D	SK	23	129	19	土坑壁面が被焼する。
H20	南方	D	SK	24	125	21	土坑壁面が被焼する。
H20	南方	D	SK	25	142	31	土坑壁面が被焼する。炭化材出土
H20	南方	D	SK	26	118	11	炭化物、焼土あり。
H20	南方	D	SK	27	131	10	
H20	南方	D	SK	28	77	9	炭化物あり。
H20	南方	D	SK	29	80	4	
H20	南方	D	SK	30	98	13	炭化物あり。
H20	南方	D	SK	31	95+α	7	
H20	南方	D	SK	32	76	13	
H20	南方	D	SK	33	98	6	
H20	南方	D	SK	34	95	15	
H20	南方	D	SK	35	-	-	ピットに変更(欠番)
H20	南方	D	SK	36	178	30	
H20	南方	D	SK	37	-	-	SE1に変更(欠番)
H20	南方	D	SK	38	55	3	炭化物あり。
H20	南方	D	SK	39	-	-	ピットに変更(欠番)
H20	南方	D	SK	40	104	29	炭化物あり。
H20	南方	D	SK	41	146	12	
H20	南方	D	SK	42	222	18	焼土あり。
H20	南方	D	SK	43	-	-	搅乱。
H20	南方	D	SK	44	116	12	焼土あり。
H20	南方	D	SK	45	180	36	焼土あり。
H20	南方	D	SK	46	100	12	

## 遺構表 諸田南遺跡・南方地

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H20	南方	D	SK	47	364	54	SH2を切る。
H20	南方	D	SK	48	110	26	
H20	南方	D	SK	49	110	18	
H20	南方	D	SK	50	450	50	勾玉出土
H20	南方	D	SK	51	75	12	
H20	南方	D	SK	52	78	4	
H20	南方	D	SK	53	126	30	
H20	南方	D	SK	54	54+α	8	
H20	南方	D	SE	1	209	344	井戸
H20	南方	E	SH	1	562	40	住居内圓溝ごと小円孔あり。SK9を切る。
H20	南方	E	SH	2	-	-	遺構検出のみ
H20	南方	E	SH	3	-	-	遺構検出のみ
H20	南方	E	SK	1	130	30	
H20	南方	E	SK	2	104	9	
H20	南方	E	SK	3	108	6	
H20	南方	E	SK	4	63	4	
H20	南方	E	SK	5	130	30	
H20	南方	E	SK	6	91	89	
H20	南方	E	SK	7	-	-	搅乱。
H20	南方	E	SK	8	欠器		
H20	南方	E	SK	9	466	16	SK10に切られる。
H20	南方	E	SK	10	590	96	SK9を切る。
H20	南方	E	SK	11	318	62	
H20	南方	E	SK	12	240+α	34	全量不明。
H20	南方	E	SK	13	460	45	SK14を切る。
H20	南方	E	SK	14	520	44	SK15に切られる。
H20	南方	E	SK	15	180	46	SK14と切り合い不明。
H20	南方	E	SK	16	440×560	40	2基の土坑か。
H20	南方	E	SK	17	266	21	
H20	南方	G	SH	1	750	36	オンドル
H20	南方	G	SH	2	524	-	オンドル
H20	南方	G	SH	3	-	-	検出のみ
H20	南方	G	SK	1	-	-	検出のみ

## 遺構表 諸田南遺跡・寺野地×

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H20・21	寺野	-	SH	1	304	20	オンドル。北に土坑を有する。
H20・21	寺野	-	SH	2	354	18	北壁面にカマドを有する。中央部に土坑。
H20・21	寺野	-	SH	3	490	7	北壁面にカマドを有する。床面が一部硬化する。
H20・21	寺野	-	SK	1	96	7	
H20・21	寺野	-	SK	2	160	26	
H20・21	寺野	-	SK	3	184	210	陥し穴状遺構
H20・21	寺野	-	SK	4	184	166	陥し穴状遺構逆茂木内櫻
H20・21	寺野	-	SK	5	120	140	
H20・21	寺野	-	SK	6	202	168	陥し穴状遺構逆茂木内櫻。SK7に切られる。
H20・21	寺野	-	SK	7	110	24	SK6を切る。
H20・21	寺野	-	SK	8	84	138	陥し穴状遺構
H20・21	寺野	-	SK	9	360	42	
H20・21	寺野	-	SB	1	434×436	24~58	2間×2間 総柱建物。

遺構表 諸田南遺跡・池の上地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H21	池の上	A	SH	1	594	32	オンドル。カクランに切られる。
H21	池の上	A	SH	2	340	22	
H21	池の上	A	SK	1	-	-	植物痕跡
H21	池の上	A	SK	2	375	78	フイゴの羽口出土。
H21	池の上	A	SK	3	276	33	フイゴの羽口出土。
H21	池の上	A	SK	4	129	-	
H21	池の上	A	SB	1	400×506	26～46	2間×2間。
H21	池の上	A	SB	2	446×540	32～80	2間×3間。SD1に切られる。
H21	池の上	A	SB	3	466×532	46～52	2間×2間。總柱建物。
H21	池の上	B	SK	1	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	2	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	3	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	4	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	5	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	6	82	26	歯骨出土。近代の犬？の墓か。
H21	池の上	B	SK	7	134	130	陥入穴状遺構
H21	池の上	B	SK	8	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	9	138	72	陥入穴か。
H21	池の上	B	SK	10	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	11	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	12	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	13	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	14	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	15	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	16	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	17	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	18	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	19	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	20	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	21	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	22	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	23	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	24	-	-	植物痕跡

## 遺構表 諸田南遺跡・池の上地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H21	池の上	B	SK	25	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	26	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	27	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	28	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	29	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	30	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	31	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	32	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	33	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	34	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	35	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	36	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	37	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	38	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	39	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	40	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	41	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	42	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	43	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	44	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	45	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SK	46	112	144	陥し穴
H21	池の上	B	SK	47	210	150	陥し穴、埋土をテフラ分析する。
H21	池の上	B	SK	48	-	-	植物痕跡
H21	池の上	B	SF	1	579+α	33	道路状遺構
H21	池の上	C	SK	1	180	20	
H21	池の上	C	SK	2	100	60	
H21	池の上	C	SK	3	184	100	陥し穴状遺構逆茂木内標

## 遺構表 諸田南遺跡・市後原地区

年	地区名	区	遺構番号	最大長	最大深	特記
H21	市後原	-	SB 1	424×748	6~58	2間×3間。
H21	市後原	-	SB 2	468×392+α	10~50	2間×2間+α。
H21	市後原	-	SB 3	248×318	16~44	1間×2間。
H21	市後原	-	SB 4	380×644	46~80	1間×3間。SD1に切られる。
H21	市後原	-	SB 5	400×624	14~66	2間×3間。SK29に切られる。
H21	市後原	-	SB 6	304×444	18~42	2間×2間。
H21	市後原	-	SB 7	326×不明	22~31	2間×不明。
H21	市後原	-	SK 1	88	16	
H21	市後原	-	SK 2	146	20	
H21	市後原	-	SK 3	135	25	床面が炭化物と燒土に覆われる。
H21	市後原	-	SK 4	406+α	82	全量不明。
H21	市後原	-	SK 5	380	124	地下式爐。
H21	市後原	-	SK 6	248	10	
H21	市後原	-	SK 7	欠番		SE1に変更
H21	市後原	-	SK 8	78	30	
H21	市後原	-	SK 9	142	20	
H21	市後原	-	SK 10	96	66	
H21	市後原	-	SK 11	120	26	
H21	市後原	-	SK 12	106	12	
H21	市後原	-	SK 13	90	18~42	切り合い不明。
H21	市後原	-	SK 14	294	30	切り合い不明。
H21	市後原	-	SK 15	366	30	切り合い不明。
H21	市後原	-	SK 16	62	34	
H21	市後原	-	SK 17	174	28	
H21	市後原	-	SK 18	140+α	8	
H21	市後原	-	SK 19	欠番		
H21	市後原	-	SK 20	400	22	SK22を切るか
H21	市後原	-	SK 21	244+α	27	
H21	市後原	-	SK 22	140	19	SK20に切られる。
H21	市後原	-	SK 23	320+α	15	
H21	市後原	-	SK 24	110	21	SK25に切られる。
H21	市後原	-	SK 25	316+α	11	SK24を切る。
H21	市後原	-	SK 26	106	34	SK21、23との切り合い不明。
H21	市後原	-	SK 27	70	22	

遺構表 諸田南遺跡・市夜原地区

年	地区名	区	遺構	番号	最大長	最大深	特記
H21	市夜原	-	SK	28	80	26	水田に伴う水溜か。
H21	市夜原	-	SK	29	80	20	
H21	市夜原	-	SK	30	96	38	
H21	市夜原	-	SE	1	148	326	井戸。
H21	市夜原	-	SE	2	100	334	井戸。

### 第3章 自然科学分析

中津市教育委員会

### 諸田遺跡出土遺物 自然科学分析委託業務報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

年 月 日

平成 年 月 日

中津市教育委員会 殿

件名 諸田遺跡出土遺物自然科学分析委託業務

パリノ・サーヴェイ株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-10-5

tel. 03-3241-4566, fax. 03-3241-4597

管理者	辻本 崇夫
担当者	矢作 健二
分析者	矢作 健二
	坂元 秀平
	高橋 敦

ご依頼を頂きました上記件の業務が終了いたしましたので、その結果をご報告・納品いたします。

記

案件番号 A11611

報告番号

以上

## 諸田遺跡・諸田南遺跡の自然科学分析調査

### <目次>

はじめに	p. 196
I. 諸田南遺跡におけるテフラ分析	p. 196
1. 試料	p. 196
2. 分析方法	p. 196
3. 結果	p. 197
4. 考察	p. 198
II. 諸田遺跡および諸田南遺跡出土炭化材の分析	p. 199
1. 試料	p. 199
2. 分析方法	p. 199
(1) 放射性炭素年代測定	p. 199
(2) 樹種同定	p. 200
3. 結果	p. 200
(1) 放射性炭素年代測定	p. 200
(2) 樹種同定	p. 201
4. 考察	p. 201
(1) 年代	p. 201
(2) 植生および用材	p. 201
引用文献	p. 202

### <図表・図版一覧>

- 表 1. テフラ分析結果  
表 2. 放射性炭素年代測定結果  
表 3. 歴年較正結果  
表 4. 樹種同定結果

図 1. SK47 のテフラ分析試料採取位置

図 2. 火山ガラスの屈折率

図版 1 テフラ

図版 2 炭化材

## はじめに

諸田遺跡および諸田南遺跡は、中津平野の東部に位置する下毛原台地の北東部平坦面上に立地する。下毛原台地は、石塚ほか(2009)により中位段丘に分類されているが、町田ほか(2001)の記述から、後期更新世の高海面期(12~10万年前頃)に形成された河成段丘に相当する。

今回の分析調査では、諸田南遺跡で検出された縄文時代の可能性があるとされる土坑の覆土を対象として、テフラの産状を明らかにし、その状況から土坑の構築あるいは埋積に關わる年代資料を作成する。また、同遺跡で蛸壺が多く出土した古墳時代の住居跡で採取した土壤試料について、テフラの産状を調べることによりその由来を検討する。

また、諸田遺跡および諸田南遺跡では、遺構に伴う炭化材が多数出土しているが、今回はこれらを対象として放射性炭素年代測定を行う。これらの結果から、諸田遺跡および諸田南遺跡で検出された遺構に關わる年代資料を作成する。

## I. 諸田南遺跡におけるテフラ分析

## 1. 試料

試料は、SK47とされた土坑の覆土より採取された土壤 13 点と SH4 とされた竪穴住居跡内床面より採取された土壤 2 点の合計 15 点である。

SK47 は、底に杭穴が検出されていることから、陥穴と考えられている。その時代は不明とされているが、周辺の土坑からは縄文土器と考えられている土器片が出土していることから、縄文時代の可能性があるとされている。土坑内に堆積した覆土層の断面が作成され、発掘調査所見により 1 層から 13 層まで分層されている。試料は、各層より 1 点ずつ採取され、層名が試料番号となっている。土層断面図と試料の採取位置を図 1 に示す。採取された試料は、いずれも火山灰土であるが、黒~黒褐色を呈するいわゆる黒ボク土と褐色を呈するいわゆるロームとに分けられる。色調の違いは、分析結果を示した表 1 に併記する。

SH4 は、古墳時代の竪穴住居跡とされ、住居跡内からは多数の蛸壺が出土している。試料は、住居跡内隅で検出された白色土とされた土壤である。試料番号 14 とされた試料は、にぶい黄橙色を呈する砂混じりのシルト質堆積物であり、試料番号 15 は黒褐色を呈する黒ボク土である。

## 2. 分析方法

試料約 20g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は

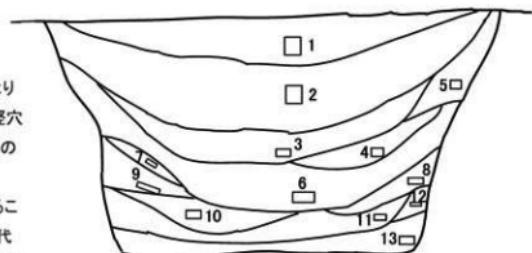


図1. SK47のテフラ分析試料採取位置

小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のもとのとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

### 3.結果

結果を表1に示す。SK47の試料では、全点から火山ガラスが検出されたが、スコリアおよび軽石はいずれの試料にも認められなかった。火山ガラスは、試料番号1では中量、試料番号9では微量、他の試料ではいずれも少量含まれる。火山ガラスの特徴は、全試料とともに無色透明のバブル型が多く、次いで無色透明の軽石型が多いが、さらに少量の褐色を呈するバブル型を含む試料と極めて微量の淡褐色を呈するバブル型を含む試料が区別された。前者の試料は、試料番号1~7、11、13であり、後者の試料は8~10、12である。この違いは、試料の色調と対応しており、すなわち、前者の試料は黒色または黒褐色を呈し、後者の試料は褐色または暗褐色を呈している。

SH4の試料2点にも少量の火山ガラスが認められたが、スコリアおよび軽石は認められなかつた。火山ガラスの特徴は、試料番号14と15で異なり、試料番号14は、上述した極めて微量の淡褐色を呈するバブル型を含む産

表1. テフラ分析結果

造構名 試料番号	土層の色	スコリア 量	火山ガラス		軽石 量
			量	色調・形態	
SK47	1 黒	-	+++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	2 黒	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	3 黒褐	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	4 黒褐	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	5 暗褐	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	6 黒褐	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	7 黒褐	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	8 褐	-	++	cl·bw>cl·pm>pbr·bw	-
	9 褐	-	+	cl·bw>cl·pm>pbr·bw	-
	10 褐	-	++	cl·bw>cl·pm>pbr·bw	-
	11 黒褐	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	12 暗褐	-	++	cl·bw>cl·pm>pbr·bw	-
	13 黒褐	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
SH4	14 にぶい黄橙	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-
	15 黒褐	-	++	cl·bw>cl·pm>br·bw	-

凡例 一:含まない (+):きわめて微量 +:微量 ++:少量 +++:中量 ++++:多量  
cl:無色透明 br:褐色 pbr:淡褐色 bw:バブル型 md:中間型 pm:軽石型

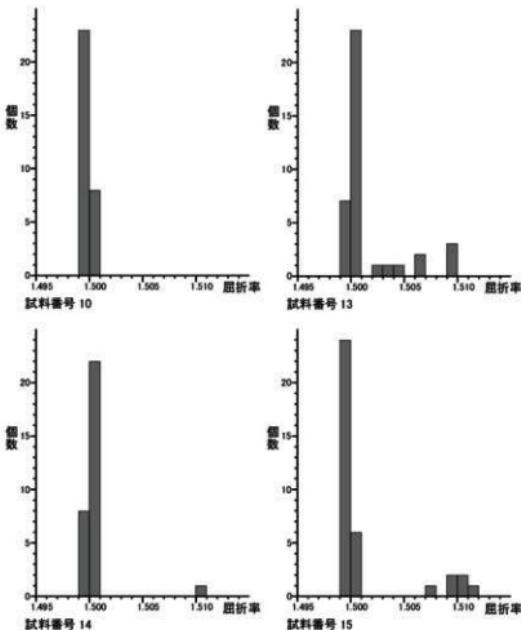


図2. 火山ガラスの屈折率

状であり、試料番号 15 は上述した少量の褐色を呈するバブル型を含む産状である。なお、試料番号 14 の色調はにぶい黄橙色を呈し、試料番号 15 は黒褐色を呈する。この色調と火山ガラスの産状との対応関係も上述した SK47 におけるそれと一致する。

火山ガラスの屈折率測定は、前述のテフラ分析結果概要が得られた時点で協議を行い、SK47 の試料からは極めて微量の淡褐色バブル型火山ガラスを含む試料番号 10 と少量の褐色バブル型火山ガラスを含む試料番号 13 を選択し、SH4 では 2 点ともに対象として選択した。測定結果を図 2 に示す。4 点の試料は、いずれも  $n_{1.499-1.500}$  の狭いレンジに集中する火山ガラスを主体とするが、試料番号 13 と試料番号 15 には、少量ながらもそれより高い屈折率を持つ火山ガラスが含まれている。そのレンジは、試料番号 13 では  $n_{1.502-1.509}$ 、試料番号 15 では  $n_{1.507-1.511}$  である。

#### 4. 考察

SK47 の覆土では、少量の褐色バブル型火山ガラスを含む試料と極めて微量の淡褐色バブル型火山ガラスを含む試料とに分けられた。試料番号 10 と 13 の火山ガラスの屈折率測定により、両者ともに主体となる火山ガラスは、 $n_{1.499-1.500}$  の狭いレンジに屈折率が集中するバブル型火山ガラスであることが確認された。このバブル型火山ガラスは、その形態と特徴的な屈折率から、始良 Tn 火山灰(AT:町田・新井, 1976)に由来すると考えられる。したがって、SK47 の覆土層全層にわたって、AT に由来する火山ガラスが含まれていると考えられる。さらに、試料番号 13 には、明らかに AT よりも高い屈折率をもつ別のテフラに由来する火山ガラスが含まれている。試料番号 13 は、少量の褐色バブル型火山ガラスを含む試料であるから、AT とは異なるテフラは、褐色バブル型火山ガラスを比較的多く含むテフラであると考えられる。これらの特徴から、試料番号 13 には、AT のほかに、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah:町田・新井, 1978)に由来する火山ガラスも混在していると考えられる。おそらく、少量の褐色バブル型火山ガラスが含まれる黒色または黒褐色を呈する各覆土層中には、AT と K-Ah が混在している可能性が高い。

ここで、各テフラの噴出年代については、以下のことがわかっている。AT の噴出年代は、80 年代後半から 90 年代にかけて行われた放射性炭素年代測定(例えば松本ほか(1987)、村山ほか(1993)、池田ほか(1995)など)や 2000 年代に行われた放射性炭素年代測定(宮入ほか(2001)、Miyairi *et al.*(2004)など)から、放射性炭素年代ではおよそ 2.5 万年前頃にまとまる傾向にある。一方、最近の海底コアにおける AT の発見から、その酸素同位体ステージ上における層準は、酸素同位体ステージ 2 と 3 との境界付近またはその直前にあるとされ、その年代観は 2.5~3.2 万年前におよぶとされている(町田・新井, 2003)。町田・新井(2003)は、AT の放射性炭素年代を暦年に換算することがまだ困難であると述べているが、上述の海底コアの年代観も考慮すれば、暦年ではおそらく 2.6~2.9 万年前頃になるであろうとしている。K-Ah の噴出年代については、町田・新井(1978)以来、放射性炭素年代である 6300 年前という年代が広く知られている。最近では、第四紀学および考古学において放射性炭素年代をそのまま使用するのではなく、それを「換算」した暦年代が使用されることが多い。また、湖底堆積物における年縞による K-Ah の年代も推定されている(福沢, 1995)。これらのことから、K-Ah の噴出年代については暦年代である 7300 年前という年代が表示されるようになってきている(例えば町田・新井(2003)など)。

以上の SK47 覆土層の土色の違いとテフラの産状との対応関係から、黒色または黒褐色を呈する覆土は、遺構周囲の K-Ah 降灰以降に形成された黒ボク土に由来し、褐色または暗褐色を呈する覆土は、遺構周辺の黒ボク土の下位に形成された更新世の火山灰土いわゆるロームに由来すると考えられる。SK47 の基底直上の試料番号 13 が採取された覆土層は、K-Ah 降灰以降に形成された黒ボク土であることから、SK47 構築時あ

るいは埋積開始時には、すでに周囲の黒ボク土層中に K-Ah が含まれていたことになる。すなわち、SK47 の構築時期は、発掘調査所見では縄文時代の可能性があるとされているが、古くとも K-Ah の噴出年代を遡ることはないと考えられる。

一方、SH4 のにぶい黄橙色を呈する試料番号 14 の土には、AT の火山ガラスが含まれていた。この産状から、SH4 から検出された白色土は、周囲のロームに由来する可能性がある。屈折率の状況から、極めて微量の K-Ah の火山ガラスも混在しているが、おそらく周囲の黒ボク土からの混入したと考えられる。その黒ボク土に相当すると考えられる SH4 の試料番号 15 では、屈折率の状況から AT と K-Ah の混在が確認できる。

## II. 諸田遺跡および諸田南遺跡出土炭化材の分析

### 1. 試料

年代測定試料は、諸田遺跡の戸入道地区 SH26 から出土した炭化材 1 点(試料番号 1)、諸田南遺跡の古池地区 SK4 と SK8 からそれぞれ出土した炭化材(試料番号 2, 3)、諸田南遺跡の南方地区 SK1, SK25, SK33 のそれぞれから出土した炭化材(試料番号 4~6)の合計 6 点の炭化材である。

樹種同定の対象試料は、諸田遺跡の戸入道地区 SH26 から出土した炭化材 2 点(試料番号 7, 8)、諸田南遺跡の古池地区 SK4 および SK8 からそれぞれ出土した炭化材(試料番号 9, 10)、諸田南遺跡の南方地区 SK1 から出土した炭化材 1 点(試料番号 11)の合計 5 点の炭化材である。

### 2. 分析方法

#### (1) 放射性炭素年代測定

土壤や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HCl により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C(30分)850°C(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにて CO<sub>2</sub> を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO<sub>2</sub> と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650°C で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、NEC 製コンパクト AMS-1.5SDH を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C の測定も行うため、この値を用いて δ<sup>13</sup>C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma; 68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。暦年較正とは、大気中の <sup>14</sup>C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の <sup>14</sup>C 濃度の変動、及び半減期の違い(<sup>14</sup>C の半減期 5,730 ± 40 年)を較正することである。暦年較正は、CALIB REV6.0.0 のマニュアルにしたがい、1 年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差  $\alpha$ ,  $2\sigma$  双方の値を計算する。 $\alpha$  は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 $2\sigma$  は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、 $\alpha$ ,  $2\sigma$  の範囲をそれぞれ 1 とした場合、

その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

## (2)樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柵目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、各樹種の木材組織については、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

## 3.結果

### (1)放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行つた測定結果を、表2に示す。諸田遺跡戸入道地区 SH26 の炭化材は、 $1,555 \pm 20$ BPである。諸田南遺跡の試料では、古池地区の SK4 の炭化材が  $1,275 \pm 25$ BP、

同地区 SK8 の炭化材が  $1,320 \pm$

$20$ BPを示し、南方地区的 SK1

の炭化材は  $1,290 \pm$

$20$ BP、同地区 SK25

の炭化材は  $1,310 \pm$

$20$ BP、同地区 SK33

の炭化材は  $1,305 \pm$

$20$ BPを示す。

各試料の較正暦

年代を、表3に示す。

測定誤差を  $\sigma$ の年代

でみると、諸田遺跡

戸入道地区 SH26 の

炭化材は5世紀中

頃～6世紀中頃、諸

田南遺跡の試料は、

いずれも7世紀後半

～8世紀後半に相当

する年代値である。

表2 放射性炭素年代測定結果

試料番号	遺跡名	地区名	遺構名	種類	同位体補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	Code No.
1	諸田	戸入道地区	SH26	炭化材	$1,555 \pm 20$	$-30.76 \pm 0.18$	11611-1
2	諸田南	古池地区	SK4	炭化材	$1,275 \pm 25$	$-28.00 \pm 0.18$	11611-2
3	諸田南	古池地区	SK8	炭化材	$1,320 \pm 20$	$-28.37 \pm 0.18$	11611-3
4	諸田南	南方地区	SK1	炭化材	$1,290 \pm 20$	$-24.87 \pm 0.17$	11611-4
5	諸田南	南方地区	SK25	炭化材	$1,310 \pm 20$	$-24.87 \pm 0.14$	11611-5
6	諸田南	南方地区	SK33	炭化材	$1,305 \pm 20$	$-25.98 \pm 0.25$	11611-6

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差  $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表3 暗年較正結果

試料番号	補正年代 (BP)	暗年較正年代 (cal)										相対比	Code No.						
		$\sigma$	cal AD 436	—	cal AD 489	cal BP 1,514	—	1,481	0.709	$\sigma$	cal AD 510	—	cal AD 516	cal BP 1,440	—	1,434	0.062		
1	$1,555 \pm 22$	$\sigma$	cal AD 529	—	cal AD 546	cal BP 1,421	—	1,404	0.229	$\sigma$	cal AD 431	—	cal AD 568	cal BP 1,519	—	1,390	1.000	11611-1	11611-2
		$2\sigma$	cal AD 721	—	cal AD 721	cal BP 1,278	—	1,229	0.548	$\sigma$	cal AD 721	—	cal AD 721	cal BP 1,209	—	1,181	0.652		
2	$1,276 \pm 24$	$\sigma$	cal AD 685	—	cal AD 721	cal BP 1,278	—	1,229	0.548	$\sigma$	cal AD 721	—	cal AD 721	cal BP 1,278	—	1,175	1.000	11611-1	11611-2
		$2\sigma$	cal AD 721	—	cal AD 721	cal BP 1,278	—	1,229	0.548	$\sigma$	cal AD 661	—	cal AD 689	cal BP 1,288	—	1,261	0.863		
3	$1,318 \pm 21$	$\sigma$	cal AD 753	—	cal AD 760	cal BP 1,197	—	1,190	0.137	$\sigma$	cal AD 753	—	cal AD 760	cal BP 1,197	—	1,190	0.137	11611-3	11611-4
		$2\sigma$	cal AD 715	—	cal AD 715	cal BP 1,284	—	1,235	0.788	$\sigma$	cal AD 744	—	cal AD 768	cal BP 1,206	—	1,182	0.202		
4	$1,288 \pm 22$	$\sigma$	cal AD 677	—	cal AD 713	cal BP 1,273	—	1,237	0.615	$\sigma$	cal AD 745	—	cal AD 767	cal BP 1,205	—	1,183	0.385	11611-4	11611-5
		$2\sigma$	cal AD 730	—	cal AD 770	cal BP 1,281	—	1,220	0.613	$\sigma$	cal AD 669	—	cal AD 720	cal BP 1,215	—	1,178	0.387		
5	$1,308 \pm 22$	$\sigma$	cal AD 664	—	cal AD 694	cal BP 1,286	—	1,256	0.683	$\sigma$	cal AD 704	—	cal AD 705	cal BP 1,246	—	1,245	0.013	11611-5	11611-6
		$2\sigma$	cal AD 748	—	cal AD 765	cal BP 1,202	—	1,185	0.305	$\sigma$	cal AD 659	—	cal AD 722	cal BP 1,291	—	1,228	0.713		
6	$1,306 \pm 22$	$\sigma$	cal AD 740	—	cal AD 770	cal BP 1,210	—	1,180	0.287	$\sigma$	cal AD 703	—	cal AD 706	cal BP 1,247	—	1,244	0.052	11611-6	11611-6
		$2\sigma$	cal AD 723	—	cal AD 770	cal BP 1,290	—	1,227	0.699	$\sigma$	cal AD 740	—	cal AD 770	cal BP 1,210	—	1,180	0.301		

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M. Stuiver and P.J. Reimer) を使用。

2)計算には表に示したためる前の値を使用している。  
3)計算に用いたのが得物だが、暗年較正曲線や暗年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、分析をえめていない。

4)統計的に真の値が入る確率は  $\sigma = 68\%$ ,  $2\sigma = 95\%$ である

5)相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

## (2)樹種同定

樹種同定結果を表4に示す。  
炭化材は、広葉樹3分類群(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ・アワブキ属)に同定された。

なお、分析番号8は、当年性

の小枝であり、散孔材の道管配列を持つ広葉樹であることは判別できたが、種類の同定には至らなかった。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

### ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織がある。

### ・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

### ・アワブキ属(*Melioma*) アワブキ科

散孔材で、管孔は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は單穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は大型の異性、1-3細胞幅、1-60細胞高。

## 4.考察

### (1)年代

諸田遺跡戸入道地区の住居跡SH26から出土した炭化材で得られた測定年代は、較正された暦年代でおよそ古墳時代中期から後期に及ぶ時期に相当する。これまでの発掘調査により、諸田遺跡では古墳時代後期とされる集落が確認されており、また下毛原台地上にも古墳時代集落が確認されている。今回得られた年代は、諸田南遺跡および周辺遺跡における古墳時代集落の年代の一端を示す資料になり得ると考えられる。

諸田南遺跡の各遺構から出土した炭化材からは、較正された暦年代で古代のはじめ頃の7世紀後半から8世紀後半に相当する年代値が得られた。これまで本地域で蓄積された発掘調査成果より、8世紀初頭には沖代平野に条里制が施行されたとされ、条里の南限には官道が、8世紀後半にはその官道に沿うて下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡が確認されている(中津市教育委員会,2010)。今回の諸田南遺跡出土炭化材が示した年代より、諸田南遺跡における古代の遺構は、これら周辺で確認されている古代の遺跡とほぼ同時期のものであることが示唆される。

### (2)植生および用材

諸田遺跡の戸入道地区SH26の炭化材は、年代測定結果から5~6世紀に相当する年代が得られている。炭化材は、広葉樹のアワブキ属と種類不明の当年枝であった。アワブキ属には、アワブキ、ミヤマハハソ等の落葉樹と、イヌビワ等の常緑樹が含まれている。落葉の種類では木材の強度は低いが、常緑となる種類は比較的強度が高いとされる。

諸田南遺跡の古池地区SK4とSK8の炭化材は、年代測定で $1275 \pm 25$ と $1320 \pm 20$ の値が得られており、比較的近い時期の遺構と考えられる。炭化材は、2点とも落葉広葉樹のクヌギ節に同定された。クヌギ節にはクヌギとアベマキの2種があり、いずれも重硬で強度が高い材質を有し、薪炭材としては国産材の中でも優良

表4. 樹種同定結果

試料番号	遺跡	地区	遺構	位置	試料名	樹種	備考
7	諸田	戸入道地区	SH26		炭No.1	アワブキ属	
8	諸田	戸入道地区	SH26		炭No.3	広葉樹(散孔材)	当年枝
9	諸田南	古池地区	SK-4	底(底)		コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
10	諸田南	古池地区	SK-8			コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
11	諸田南	南方地区	SK-1		No.5	クリ	

な部類に入る。一方、諸田南遺跡の南方地区 SK1 は、年代測定結果で  $1,290 \pm 20$ BP の値が得られており、炭化材の樹種は落葉広葉樹のクリであった。そこで、年代測定結果で SK1 と近い値が得られた SK25 と SK33 の炭化材についても樹種を確認したところ、いずれもクリであった。クリは、重硬で強度・耐朽性が高い材質を有する。古池地区的 SK4、SK8 と南方地区 SK1、SK25、SK33 は、年代測定結果から比較的近い時期の土坑と考えられるが、地区によって樹種が異なっており、目的などによって木材利用が異なっていた可能性がある。

#### 引用文献

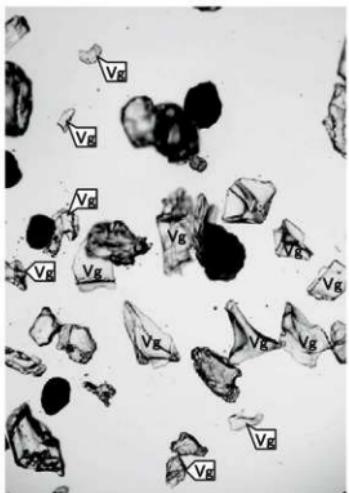
- 福沢仁之.1995.天然の「時計」・「環境変動検出計」としての湖沼の年縞堆積物.第四紀研究,34,135-149.
- 古澤 明.1995.火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101,123-133.
- 林 昭三.1991.日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫.1995.南九州・姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火碎流中の炭化樹木の加速器質量分析法による  $^{14}\text{C}$  年代.第四紀研究,34,377-379.
- 石塚吉浩・尾崎正紀・星住英夫・松浦浩久・宮崎一博・名和一成・実松健造・駒澤正夫.2009.20万分の1地質図幅「中津」地質調査所.
- 伊東隆夫.1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載 I.木材研究・資料,31.京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫.1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載 II.木材研究・資料,32.京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫.1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載 III.木材研究・資料,33.京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫.1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV.木材研究・資料,34.京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫.1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載 V.木材研究・資料,35.京都大学木質科学研究所,47-216.
- 町田 洋・新井房夫.1976.広域に分布する火山灰—姶良 Tn 火山灰の発見とその意義—I.科学,46,339-347.
- 町田 洋・新井房夫.1978.南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰.第四紀研究,17,143-163.
- 町田 洋・新井房夫.2003.新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.
- 町田 洋・太田陽子・河名俊男・森脇 広・長岡信治(編).2001.日本の地形7 九州・南西諸島.東京大学出版会,355p.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗.1987.姶良 Tn 火山灰の  $^{14}\text{C}$  年代.第四紀研究,26,79-83.
- 宮入陽介・吉田邦夫・宮崎ゆみ子・小原圭一・兼岡一郎.2001.姶良 Tn 火山灰の  $\text{C}-14$  年代のクロスチェック(演習)地球惑星科学関連学会合同大会予稿集(CD-ROM),2001,Qm-010.
- Miyairi,Y.・Yoshida,K.・Miyazaki, Y.・Matsuzaki,H.・Kaneoka,I..2004.Improved  $^{14}\text{C}$  dating of a tephra layer(AT tephra,Japan) using AMS on selected organic fractions.Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B 223-224,555-559.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦.1993.四国沖ビストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の  $^{14}\text{C}$  年代—I.地質学雑誌,99,787-798.
- 中津市教育委員会.2010.市道加来黒水線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 加来居屋敷遺跡 中津市文化財調査報告 第50集.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.(編).2006.針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡の特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修).海青社,70p.[Richter

H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].

島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

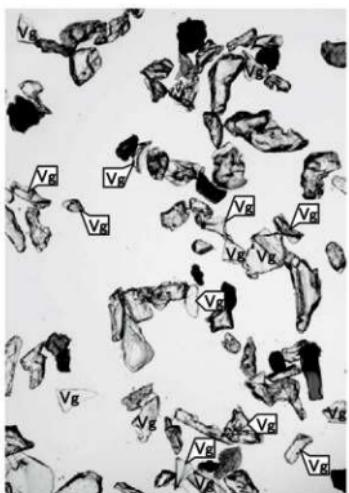
図版1 テフラ



1.火山ガラス(諸田南遺跡SK47:10)

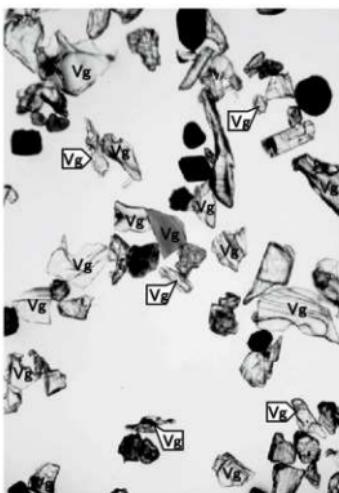


2.火山ガラス(諸田南遺跡SK47:13)



3.火山ガラス(諸田南遺跡SH4:14)

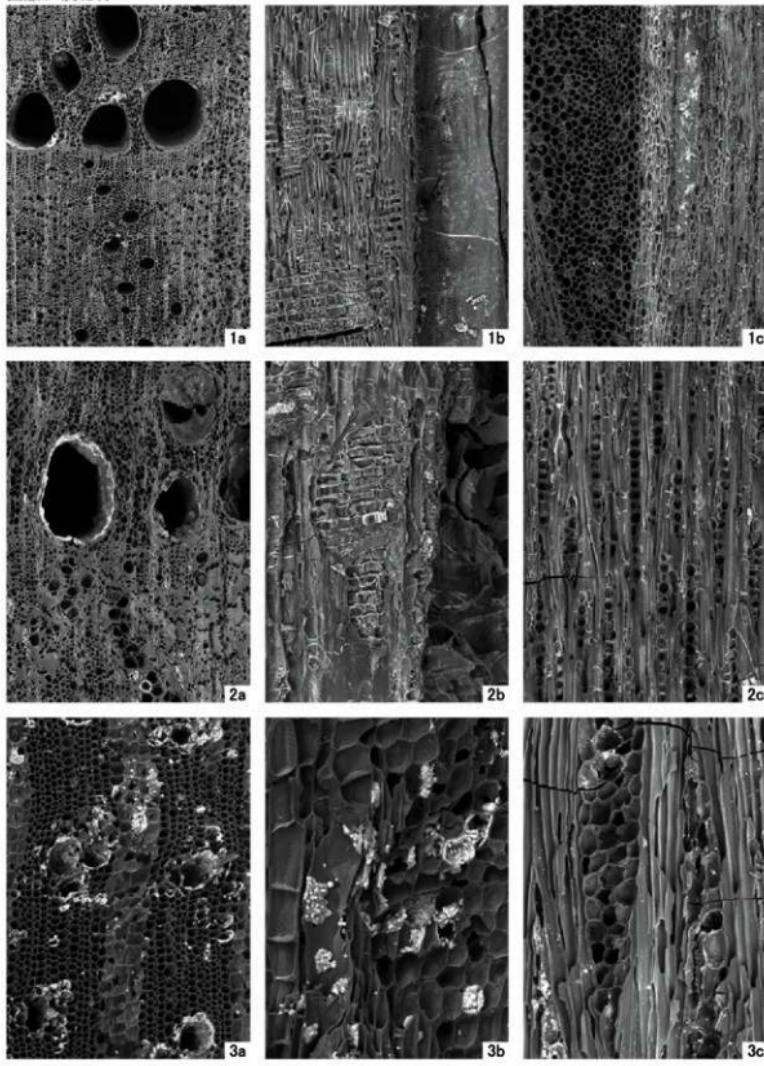
Vg:火山ガラス。



4.火山ガラス(諸田南遺跡SH4:15)

0.5mm

図版2 炭化材



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(諸田南遺跡古池地区SK4.9)

2. クリ(諸田南遺跡南方地区SK1.11)

3. アワブキ属(諸田遺跡戸入道地区SH26.7)

a:木口,b:柾目,c:板目

200 μ m:a  
200 μ m:b,c

## 第4章 小結

### 戸入道地区の陥穴

戸入道地区で陥穴が13基調査された。特筆されるのはSK26～32で直線にほぼ等間隔で台地の落ちる線に平行に配置される。底には杭が6本か9本設置され痕跡があり小石で固定されている。諸田遺跡、諸田南遺跡では縄文時代の生活痕が少ない。陥穴が縄文時代の遺構とは断定できないが、集落が形成される古墳時代以前にこの地は獵場であり、台地の端に動物を追い込んだことが推測される。

### オンドル状遺構（L字カマド）について

諸田南遺跡南方地区D区、G区、池の上地区A区でオンドル状遺構（L字カマド）が調査された。カマドはいずれも西壁面に造られる。煙道の上部は削平された状態であった。煙道は地山土に酷似した黄褐色でカマド付近は被熱し赤褐色の土が確認されるものもあった。諸田遺跡、諸田南遺跡で72基の竪穴住居跡が調査され6基がL字カマドを有するものであった。住居からの出土遺物は田辺編年TK43、TK209に比定される。諸田の水田は江戸時代に荒瀬の井戸によって急速に進んだもので、古墳時代の水掛は不便なものであったと推測される。諸田の台地上は旧石器～弥生時代の遺物や遺構は僅かなもので、古墳時代後期に集落が出現する。オンドル状遺構の存在、輪の羽口、コップ状須恵器の把手などから渡来系の存在が見える。中津市に隣接する上毛町や豊前市で同時期のオンドル状遺構を有する集落跡が調査されている。豊前市の小石原泉遺跡は諸田南遺跡と同時に存在し注目される。オンドル状遺構は福岡市周辺、飯塚、甘木、久留米周辺、行橋、豊前周辺でまとまりが確認できる。諸田の台地は舌状に海岸にのびる。舌状台地の東西は、谷状の地形が内陸に入り込みこの谷を堰き止め池を形成する。古墳時代、水利の不便なこの台地に移住して来た人々が集落を形成し始めたことが推測される。

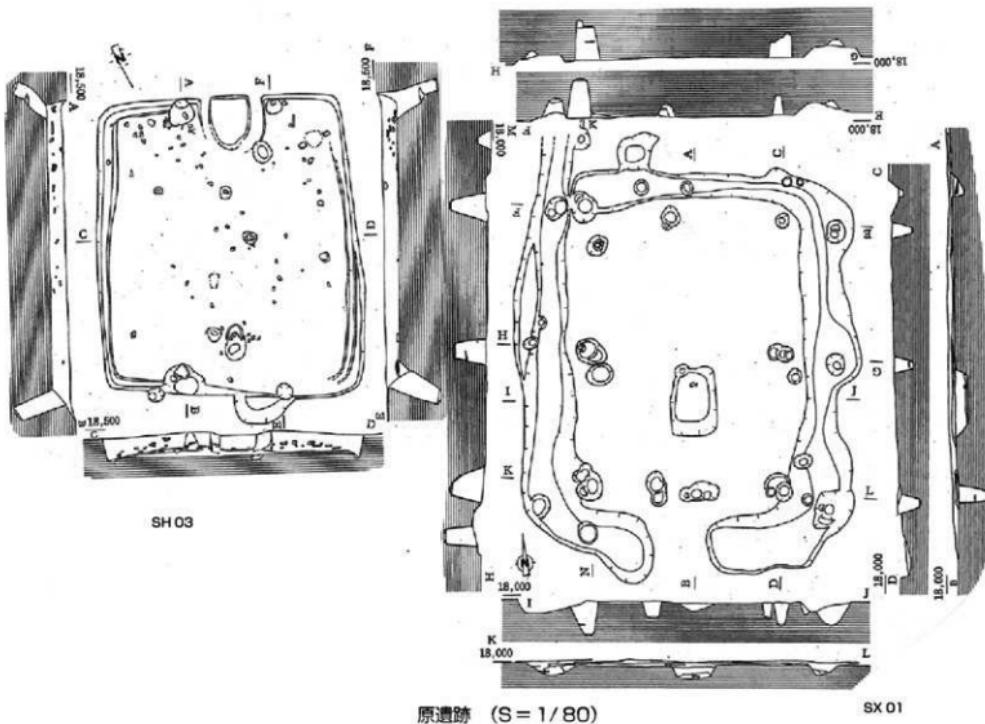
### 口縁部に圧痕のある須恵器の坏

戸入道地区、二反田地区で検出された坏蓋の口縁外面に縄と思われる圧痕が確認された。成形から乾燥時に縄状のものを口縁部に巻きつけた痕跡と思われる。中津市内には須恵器を焼成した野依伊藤田窯跡群が存在する。諸田遺跡、諸田南遺跡で多くの須恵器が出土しているが、产地は不明である。中津市内の遺跡で、口縁部に圧痕が残る蓋の類例を知らない。愛媛県埋蔵文化財センターの『紀要愛媛』第5号で「須恵器に残る痕跡」について小笠原氏・内山氏が蓋の製作工程で圧痕が残り、圧痕が残る蓋のピークは田辺編年TK43～TK209の時期と報告されている。諸田遺跡出土の蓋の時期と一致する。諸田遺跡出土の須恵器は搬入されたものであろうか。今回の調査では明らかにできず今後の課題である。

### 斜め柱住居について

諸田遺跡二反田地区のSH7は4本の主柱穴で構成される。柱穴は住居壁面に掘られ外側にむかって斜め方向に延びる。この住居の構造は諸田遺跡、諸田南遺跡では1基のみである。柱穴の掘り方は

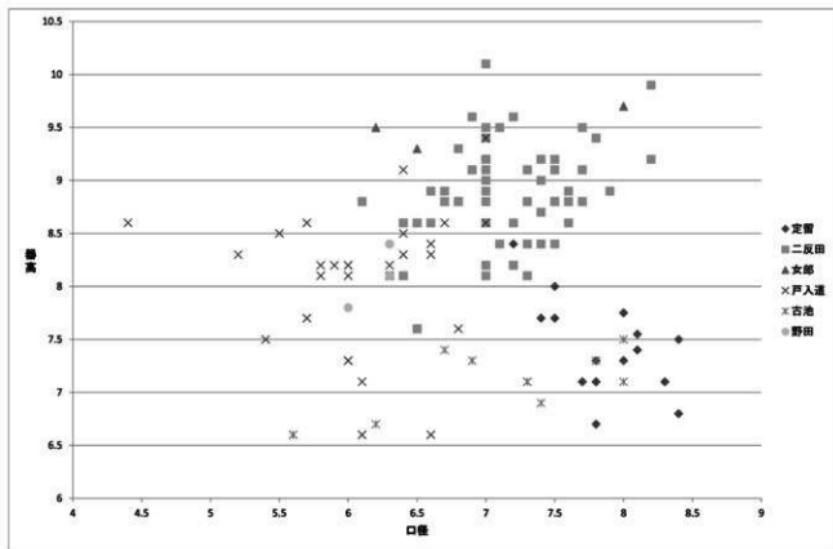
柱が住居の上で交差、もしくは接近する構造になる。類例を探すと、中津市内に原遺跡のSH03が周知される。原遺跡は平成4年度に民間工場建設に伴う発掘調査。7世紀前半の集落跡で竪穴住居4基、掘立柱建物3棟などが検出されている。壁面にカマドを有しその両サイドに柱穴を掘り込む。対面の壁にも2箇所の柱穴を掘り込む。住居の規格もほぼ同じである。また原遺跡のSX03の遺構の性格にも再検討が必要であろう。報告時は墓の可能性を示唆するが、方形に掘り込まれた溝状遺構にピットを規則的に有する。近年の調査例で大壁住居の可能性が指摘される。また原遺跡の南1,600mには薦神社が鎮座する。薦神社のご神体である御澄池の堤は渡来人の存在が指摘されている。原遺跡の周辺は河川がなく、水田を営むには溜池の存在が不可欠であったろう。周辺で未報告であるが上池永矢苦遺跡でL字形カマドを有する竪住居が発掘されている。斜め柱住居は近隣の自治体で調査例は多くを語れないが、渡来系のものであろうか。今後の発掘調査に期待したい。



原遺跡 (S = 1/80)

## 飯蛸壺について

諸田遺跡、諸田南遺跡の住居跡や土坑から多くの飯蛸壺が出土している。まずは古墳時代の住居跡や土坑から出土したものを見てみる。今回注目されたのは二反田地区 SH4 から 55 個まとまって出土したものと、戸入道地区 SH5 から 25 個まとめて出土したものである。2 基の住居内床面直上で出土している。飯蛸壺は紐状のものでつながっていた可能性が考えられるが、穿孔された胴部の穴を隣り合う蛸壺からつながることができなかつた。また二反田地区 SH4 の東側壁面で白色粘土の塊が検出された。この白色粘土が蛸壺の素材であれば SH4 は蛸壺生産工房の可能性を考えられる。SH4 の西側半分は戸入道地区 SF1 に切られカマドの存在は不明である。また飯蛸壺が使用済みか未使用なのかの判断はできなかつた。戸入道地区 SH5 も西側が削平されるがカマドは北側に持つ。ここで諸田遺跡、諸田南遺跡で出土した古墳時代の飯蛸壺の特徴をみてみる。口径は 4.4cm ~ 8.2cm、器高は 6.6cm ~ 10.1cm である。口縁部から 3cm 程下に最大胴部径をもち底部はやや尖り気味である。胴部最大径付近に外面から 1 箇所の穿孔が施される。器壁は厚く外面や口縁部に生産時にいた繊維状の圧痕が残る。諸田遺跡の東側に中須遺跡が立地する。中須遺跡は平成 2 年に中学校建設にともない発掘調査が実施され、現在未報告である。中須遺跡は 6 世紀末 ~ 7 世紀前半の集落跡で諸田遺跡、諸田南遺跡で調査された集落と概ね同時期に存続したものと考えられる。中須遺跡出土の飯蛸壺の特徴は底部が平底である。3 個で数は少ないが口径 6.4cm ~ 6.5cm、器高 7.5cm ~ 9.6cm である。器形は「U」字で胴部は張出さない。器壁は諸田出土のものと同じで厚い。古墳時代の飯蛸壺の特徴であろう。器形の違いは、工人の特徴がでているものと推測される。また女郎屋敷地区 SK15 は飯蛸壺の焼成坑か。土坑内に飯蛸壺しか出土しないこと、炭化物と焼土が土坑底部で確認されること、土坑壁面が被熱で赤く硬化していることから焼成土坑の可能性が指摘される。次に奈良時代の飯蛸壺をみてみる。古池地区で出土した飯蛸壺は口径 5.6cm ~ 8cm、器高 6.6cm ~ 7.5cm、口縁部から 2cm ~ 3cm に最大胴部径をもつ。また焼成坑が諸田南遺跡の古池地区で調査された。焼成坑は浅く掘り込まれ検出面から約 10cm しか残っていなかつた。また覆い焼きの部材と考えられる焼土塊が出土した。焼土塊は焼成時に燃料の植物繊維状の圧痕がみられる。中津市内の奈良時代の蛸壺の出土例は野田遺跡、定留遺跡八反ガソウが挙げられる。野田遺跡は中津日田道路建設に伴い大分県教育委員会が調査し、奈良時代の蛸壺焼成坑が確認されている。定留遺跡八反ガソウ地区は中津市教育委員会が平成 13 年に圃場整備に伴う発掘調査で、蛸壺の焼成坑が調査されている。4 遺跡で出土した飯蛸壺の法量をグラフに示してみた。古墳時代の二反田、女郎、戸入道は上方で、古池、野田、定留は下方でまとまりが確認される。飯蛸の寿命は 1 年とされている。(注) 夏から秋にかけての飯蛸は成育途中の小振りなもの。産卵期の冬から春は成長したものが主体となる。冬から初春にかけて産卵前のメスの腹部には長円形の卵が一杯につまる。飯蛸は狭い場所を好む性質があり瀬戸内海歴史民俗資料館の松岡宏一氏は季節によって蛸壺の法量を変えた可能性を指摘している。今後、今回のグラフの結果にデータが追加され時代による法量の差を明確にしたい。また焼成土坑から検出された炭化物の自然科学分析を行つた。炭化材は焼成時の燃料である。樹種同定からクヌギ節、クリが使用されたことが確認されたことは大きな成果であった。



## 耳環について

諸田遺跡では3点の耳環が出土している。この内、二反田地区のSK4から出土した耳環は土坑の底から検出された。土坑は直径約568cmの円形の土坑である。出土遺物は少なく性格は不明であった。平成25年度、県営圃場整備にともなう発掘調査が古田遺跡で実施された。調査区は3つに分けられ、この内、1区の溝状遺構の底から耳環が1点出土した。古田遺跡の1区で検出された遺構は、溝状遺構と土坑のみである。古田遺跡は五十石川の左岸に位置する。川から引き込んだ水を土坑に溜め、水を温めてから水田に水を入れたことが推測される。古田遺跡の土坑は二反田地区のSK4に酷似する。耳環は水田祭祀に利用された可能性が指摘される。

## 古池地区について

諸田南遺跡古池地区では建て替えを含め38棟の掘立柱建物が検出された。建物は地形を意識して建てられたものと推測される。大型の建物は底をもち面積は72.5m<sup>2</sup>、同じ場所に建て直しのある建物も確認された。掘立柱建物の傍らには、土坑が掘られ製塙土器や須恵器、土師器などの生活品が多く出土した。また円面鏡が1点出土している。文字資料、威信財はこの1点のみである。中津市内では下毛郡の正倉、長者屋敷官衙遺跡が存在する。出土した大量の土器は建物群が生活の場であった証しだ。古池地区は舌状台地の落ち際に立地し、南方約2.5°には野依・伊藤田窯跡群の存在がある。生産された須恵器や須恵質瓦を積み荷する津の存在が推測されるが、根拠に欠ける。出土遺物も特異なものがある。437、434、484、500、765等である。765は器台であろうか。胴部に透かしがある。類似品が香川県の下川津遺跡で出土している。下川津遺跡ではタコ壺の焼成坑や掘立柱建物群が調査されている。海に面した立地、出遺物、遺構など古池地区で調査されたものと同じ性格の遺跡である。

うか。長者屋敷官衙遺跡の柱穴と比較すれば古池地区の柱穴は半分以下であるが、庇を有する建物や、同じ場所に立て直しをおこない、直線に配置された建物群は海部を意識した権力のある集団の拠点と考えられる。

(注) 香川漁連だより第516号 平成15年3月1日

## 参考文献

- 「行橋市史 資料編原始・古代」「四 豊前の須恵器生産」 2006
- 『紀要愛媛』「須恵器に残る痕跡」 第5号
- 『定留遺跡八反ガソウ地区』中津市文化財調査報告 第38集 2006
- 『北小枇杷遺跡・野田遺跡』大分県教育庁埋蔵文化財センター 2007
- 『犬丸川流域遺跡群』中津市文化財調査報告 第19集 1997
- 『原遺跡』中津市文化財調査報告第14集 1993
- 『下川津遺跡』香川県教育委員会 1990
- 『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要』第17号 2005
- 『箱崎7』 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第591集 1999
- 『椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告』8 上巻 1992
- 『久末京德遺跡』大分県文化財調査報告第162輯 2004
- 『堅粕』福岡市埋蔵文化財調査報告書第590集 1999

## 報 告 書 抄 錄

**諸田遺跡・諸田南遺跡  
発掘調査報告書（遺構編）**

発行日 2018年3月12日

発 行 中津市教育委員会

印 刷 高橋印刷所